

Annual Report 2014



Center for Integrated Area Studies,
Kyoto University

学 大 京
研 都
情 地
夕 統
一 セ
年 報



目次

はしがき	2
I 組織の概要	5
1. 沿革	6
2. 組織概要	8
1 運営組織	8
2 研究部門	9
3 図書室	10
4 運営委員会	11
5 協議員会	11
6 スタッフ一覧	12
3. 運営経費	13
II 研究活動の概要	15
1. 共同利用・共同研究拠点としての活動	16
1 共同利用・共同研究拠点	16
2 地域研究コンソーシアムの運営体制と活動	67
3 英国議会資料（BPP）	70
2. 情報資源共有化に向けた活動	71
1 地域情報学の構築に向けた活動	71
2 データベースや情報解析ツール等一覧	73
3. スタッフの研究活動	88
1 個人研究	88
2 外部資金による研究活動	123
3 受賞	129
4. シンポジウム・ワークショップ・研究会等	130
III 国際交流	143
1. 国外客員教員招へいプログラム	144
2. 学術交流協定	144
3. 国際ハブ形成	145
IV 広報・出版	147
1. 出版	148
1 CIAS叢書《地域研究のフロンティア》	148
2 CIAS叢書サブシリーズ	148
3 雑誌『地域研究』	149
4 CIAS Discussion Paper Series	149
5 JCAS Collaboration Series	150
6 地域研究資料集	151
7 スタッフの刊行物	156
2. 情報発信	157
2013年度の記録	159

はしがき

この年報は、発足後8年を経過した京都大学地域研究統合情報センター（以下、地域研）の2013年度における活動をまとめたものです。

地域研は、全国の地域研究者コミュニティの要請に基づいて、2006年度に「全国共同利用施設（試行）」として発足しました。その後、2008年度に（試行）がとれて正式に全国共同利用施設、2009年度からは「共同利用・共同研究拠点」（以下、拠点）として活動を継続しています。

21世紀を迎え、世界が複雑化かつ多様化するにともない、国境や文化圏を越えるヒト・カネ・モノの量・速度が増大し、一地域における災害やテロなどの変動は直ちに周辺地域あるいは全世界に波及するようになってきました。このような地域を超えた課題に対処するため、対象地域名を冠さない研究組織としての地域研は、グローバルとローカルをリンクしながら地域をデザインする新しい地域研究を推進する中核的な役割を果たすことが期待されています。そのために、特定地域を対象とする地域研究組織との地域横断的および関連学問分野の研究組織との分野横断的な研究活動（相関型地域研究）、さらに情報学を駆使した地域研究情報の共有と分析により地域を多角的に捉える手法の確立（地域情報学）をミッションに掲げた研究活動を展開しています。この意味で地域研はユニークであると同時に、京都大学の地域研究の伝統である文理融合と学際型共同研究を通じて、地域研究者を有機的に束ねる研究組織となっています。

相関型地域研究を推進するためには、地域横断的かつ分野横断的な共同研究が不可欠です。地域研では、（試行）の段階から共同研究を活動の中心に据えてまいりました。共同研究は完全公募制とし、学外の有識者を交えた専門委員会による課題の設定と選考を行い、毎年春に開催される合同発表会において、全研究課題の成果公表と検証を実施しています。2013年度は、「〈地域〉を測量（はか）る——21世紀の『地域』像」、「地域情報学の展開」、「災害対応の地域研究」、「地域研究方法論」の4プロジェクトのもとで、計40件の共同研究を実施し、のべ300名以上の共同研究員が参加しました。

さらに地域研は、地域研究関連組織が加盟する「地域研究コンソーシアム（以下、JCAS）」の事務局を担っており、その加盟数は2004年度JCAS発足時の46組織から97組織へと拡大しました。JCASのプロジェクトや公募の情報を発信する「地域研究メールマガジン」は発刊以来週刊頻度で配信し続け、シンポジウムや研究会の案内、JCAS関連組織プロジェクトや公募情報など、地域研究コミュニティの発展に貢献しています。2013年度に地域研が共催・支援した研究活動や集会の数は70件以上にのぼります。研究対象地域や研究者の世代が多様化するなかで、さまざまな組織やプログラムに所属する若手研究者を共同研究員として数多く迎えている点が、大きな特徴となっています。また大学附置研究センターであることを活かし、ポスドクや若手研究者に対して研究活動への参加や運営経験の機会

を提供し、地域研究の専門家としての実践的な育成にも貢献しています。

地域情報学は、地域研究者・研究組織などが収集・所蔵している文字・画像・動画・音声などの多様な地域研究資源のデータベース化と共有の実現およびデータ分析や知識発見の支援を目的としています。地域情報学の初期の段階において、地域研では、所蔵資料を中心に公開・非公開を含めて40ほどのデータベースを構築しました。また、その過程で蓄積したデジタル化やメタデータ作成に関する技術や経験を研究コミュニティと共有するために、講習を開催しています。さらに、ネットワーク上に分散している他の研究組織のデータベースとの共有を目指した「地域研究資源共有化データベース」の運用も開始しています。地域研、京都大学東南アジア研究所、国立民族学博物館、総合地球環境学研究所、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターの計37データベースの共有化を実現しており、地域研究においては最大規模のデータベース連携と言えます。

このような地域情報学の成果と2009年に実施した外部評価で得た助言をもとに、2010年度より「地域情報学プロジェクト」を立ち上げ、相関型地域研究と情報学を両輪とする独自の研究を積極的に展開しております。本プロジェクトの情報基盤として、個人や小規模研究室などが収集した貴重な地域研究資源のデータベース化と公開を支援するMyデータベース、そこに蓄積されたデータの高度利用を支援するREST型API、さらにデータを空間的・時系列的に可視化・分析する時空間情報処理ツールなどを開発・公開しています。森林写真・儀礼の映像・雑誌記事テキスト・僧侶の移動などの地域研究に関する多様なデータベースが、Myデータベースにより構築されています。またREST型APIを利用して、学術書に付与したQRコードからMyデータベースに蓄積された画像・動画データを表示するマルチメディア刊行物や、イスラム系総合月刊誌『カラム』の画像画面とテキスト画面を連動させた新しいユーザインタフェースなどの開発も進んでいます。さらに、テキストマイニングの技術を応用したフィールドノートの内容分析や地名オントロジー辞書の構築など、地域情報学プロジェクトは深化・開花する時期を迎えております。

地域情報学の成果を世界に発信する場として、地域研、中央研究院（台湾）、Electronic Cultural Atlas Initiative（カリフォルニア大学バークレイ校）などとの共催により、PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013を京都大学で開催しました。PNCは情報技術を駆使した人文科学の新しい研究パラダイムの創成を目的とした国際年次会議です。グローバル化と多様化が同時進行している現代社会の諸課題へ対応しつつ豊かな社会・環境・文化を育むためには、細分化された「知」を地域や人々の活動と結びつけた「知識」として再構築することが喫緊の課題であるとして、地域情報学的な「New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities」をテーマとしました。14カ国、約350名の出席者による活発な発表・討論が繰り広げられました。

地域研は、拠点としてのミッションと京都大学が掲げる「先端的、独創的、横断的研究」

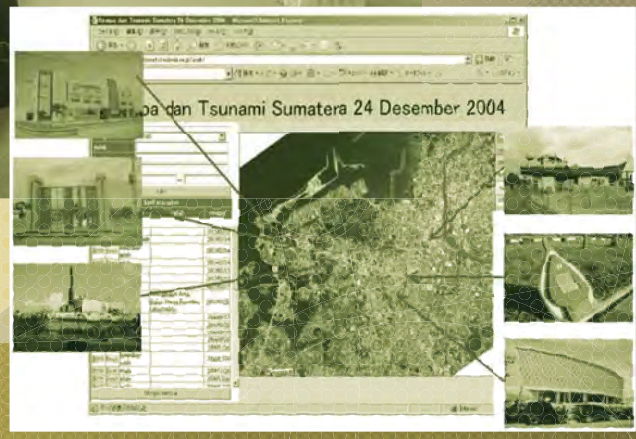
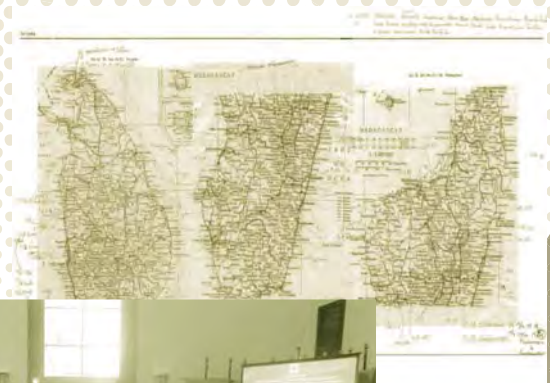
を着実に推進してきたと自負しております。しかし、2013年度に実施された共同利用・共同研究拠点の中間評価は、「拠点の規模等と比較して低調」という思いがけない結果でした。さらに、運営交付金や人員の削減、大学ミッションの再定義を受けた本学教育研究組織改革などにより、12名の定員と1名の戦略定員が全力で運営してきた地域研の今後は極めて厳しいものとなりつつあります。この難局を乗り切るために、地域研の拠点としての強み・特徴・達成目標を明確化し、これまでに開発した情報システムを駆使した地域研究資源の積極的な発信・活用および研究成果の創出に全力を注ぎ、拠点として、学術への貢献と社会的責務をスタッフ一丸となって果たす所存です。そのためにも、大型予算などの獲得は喫緊の課題であり、東南アジア研究所やアジア・アフリカ地域研究研究科などの学内地域研究関連教育研究組織およびJCAS加盟地域研究関連組織との緊密な協力関係のもとに、地域を越えた課題を軸にした独創的な研究活動の展開が一層重要となります。引き続き学内外からの暖かいご理解とご支援を仰ぎつつ、地域研にたいする皆さまのご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

2014年9月

センター長 原 正一郎

I. 組織の概要

- 1. 沿革
- 2. 組織概要
 - 1 運営組織
 - 2 研究部門
 - 3 図書室
 - 4 運営委員会
 - 5 協議員会
 - 6 スタッフ一覧
- 3. 運営経費



1 沿革

京都大学地域研究統合情報センター（以下、地域研）は、地域研究に関わる全国の研究組織や研究者のさまざまな共同と協力、地域研究の推進と国内外の研究組織とのネットワーク化を強く求める多くの研究諸組織による尽力を背景として生まれた。設置に至る経緯の詳細は『年報』第1号（2006年度）および第2号（2007年度）に記したため、以下ではその概略を述べるにとどめ、設置されてから2013年度までの経過を中心に沿革を紹介する。

1994年、地域研究企画交流センターが世界諸地域の地域研究に関する共同研究の推進、研究成果の発信を目的に国立民族学博物館に設置された。この民博地域研が現在の地域研の前身である。

国立大学法人化にともない、国立民族学博物館が人間文化研究機構に統合されたため、地域研究の全国的な再編に関わる問題は同機構内に設けられた「地域研究推進懇談会」で検討されることになり、①政策的・社会的ニーズをふまえた地域研究の推進、②人間文化研究機構への「地域研究推進センター」の設置、③京都大学への「地域研究統合情報センター」の設置からなるわが国の地域研究推進体制の整備方針がまとめられた。

この方針に沿って、京都大学から「地域研究統合情報センターの新設」が2006年度特別教育研究経費の要求事項として提出され、科学技術学術審議会学術分科会の研究環境基盤部会および総合科学技術会議でのヒアリングを経て、2006年4月、京都大学に全国共同利用施設（試行）として設置されたのが地域研である。前身である国立民族学博物館が大学共同利用機関として設置されていたため、地域研は当初から全国共同利用機能を備えた研究組織として制度設計が図られていた。その後、2007年8月に開催された科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会国立大学法人運営費交付金の特別教育研究経費に関する作業部会のヒアリングを経て「正式に全国共同利用の組織とすることが適切である」との結論が得られ、2008年度から（試行）を外して正式の全国共同利用施設として認められた。

この2008年度は、全国の国立大学附置研究所や学内研究施設としての研究センターのあり方をめぐって、科学技術・学術審議会でも検討が始められた年でもあった。その検討結果にもとづいて、2008年7月には

学校教育法施行規則が改正され、国公立大学の研究施設を文部科学大臣が共同利用・共同研究拠点として認定するという新たな制度が導入されることとなった。大学に附置された研究所と大学が設置する研究センターというこれまでの枠組みに対して、文科大臣が認定する共同利用・共同研究拠点としての研究所・研究センターおよび大学が設置する研究所・研究センターとに区分するという制度の導入である。地域研は、この制度変更に対応せざるをえなくなり、申請の準備に着手した。申請にあたっては、研究者コミュニティからの支援ないしは要望が必要となり、関連研究組織への依頼を行うとともに、申請に至るには学内でのさまざまなステップを経る必要があった。新たな制度のもとでの拠点認定は2009年度になってからであったが、地域研は全国共同利用施設として認められたばかりであったため、新たにヒアリングをうけて、2009年6月、正式に共同利用・共同研究拠点として認定されることとなった。2006年度の地域研発足に向けた関係諸組織の支援、2008年度の全国共同利用施設認定への支援、2009年度の拠点認定への支援というように、ほぼ2年ごとに組織編成のための申請・審査が繰り返された。そのたびに、関連する諸組織の支援に支えられたことで地域研の今日があるいえよう。

上記のように、何度かの制度面での変遷があったものの、地域研の研究組織は当初から全国共同利用施設として設計されていたため、発足当時から現在に至るまで組織面での大きな変更はない。研究組織としての活動は、「地域相関」「地域情報資源」「高次情報処理（地域情報学）」の3つの研究部門によって設立当初から推進されている。国内客員研究部門は2007年度から客員教員の配置が始まった。国外客員研究部門への教員配置は2008年度から開始し、国際交流委員会を通じて公募されている。また、さまざまな外部資金によって若手研究者を研究員として採用し、その育成を図っている。

地域研発足前後の大きな課題は、地域研究企画交流センターが所蔵していた「京セラ文庫『英国議会資料』」の移転であった。京都大学は、その所蔵施設を附属図書館の地下書庫に新たに設置して、地域研がその管理と利用を担うことになった。施設の整備や図書の整理が終了し、京セラ文庫『英国議会資料』の開設式が挙

行されたのは2006年11月21日である。その後、学内資金によって同年度内に同資料の19世紀分のウェブ版を、2007年度には20世紀分のウェブ版を導入して、全国の研究者・学生に開かれた共同利用型の資源としてこの資料を活用できる体制を整えることができた。さらに、人間文化研究機構との共同研究や学内資金により、原本の地図・図版などのデータベース化も進められた。

地域研究企画交流センターから継承したもう一つの課題は、地域研究体制の再編・整備の検討の過程で生まれ、全国の地域研究関連組織の連携・共同を目的として2004年に発足していた「地域研究コンソーシアム(JCAS)」の運営であった。地域研は、同センターが担っていたコンソーシアムの事務局機能を継承し、設立以来その事務局を務めて現在に至っている。事務局の運営は地域研の全国共同利用機能の一つとして位置づけられており、地域研究コンソーシアムが実施する研究会、シンポジウム、若手研究者育成などさまざまな事業を全国の地域研究関連組織と共同して実施している。ほぼ週刊頻度で「地域研究メールマガジン」を配信し、地域研究コンソーシアムの学術誌『地域研究』を2007年度から再刊し、その発行にも尽力している。また、2011年度に発足した「地域研究コンソーシアム賞」の設置にも貢献した。

稲盛財団が京都大学に寄贈した「稲盛財団記念館」の2階に、吉田キャンパスの仮住まいから全研究スタッフと支援スタッフが移転し、事務担当者が東南アジア研究所等事務室(同記念館1階)に移転したのは2008年12月である。ここは、東南アジア研究所やアフリカ地域研究資料センター、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科が所在するところともなり、地域研の移転にともなって地域研究に関連する学内の主要な組織が一カ所に集まることとなった。全国の地域研究の推進を担う地域研としては、この移転を機会に一層の学内協力体制を整え、同記念館を共同利用・共同研究の拠点施設として活用できるようになった。

共同利用・共同研究拠点化に対応し、共同利用研究における公募審査法や成果評価法の透明性を高めるとともに、より適正な外部評価を受けるべく、2009年度には内規を含めて委員会の位置づけなどを明確化した。これにより、2010年度より開始された共同利用研究が、地域研の拠点ミッションに沿い、より実り多いものとなることを企図した。さらに、2009年度末に実施した外部評価の結果を受け、2010年度から相関型情報学と情報学を両輪とする「地域情報学プロジェクト」

」を5年計画のセンター内プロジェクトとして発足させた。設立から5年を経て、地域研ならではの研究活動成果を発信する体制をようやく整えるに至った。

2013年度の特筆すべき成果としては、地域研、中央研究院(台湾)、Electronic Cultural Atlas Initiative(カリフォルニア大学バークレイ校)などとの共催により、情報技術を駆使した人文科学の新しい研究パラダイムの創成を目的とした国際年次会議であるPNC Annual Conference and Joint Meetings 2013を京都大学で開催したことが挙げられる。グローバル化と多様化が同時進行している現代社会の諸課題へ対応しつつ豊かな社会・環境・文化を育むためには、細分化された「知」を地域や人々の活動と結びつけた「知識」として再構築することが喫緊の課題であるとして、地域情報学的な「New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities」をテーマとし、14カ国、約350名の出席者による活発な発表・討論が繰り広げられた。また、地域研究資源のデータベース化と公開を支援するMyデータベース、そこに蓄積されたデータの高度利用を支援するREST型APIなどの情報システムの改良を進め、さらに「災害関連データベース」や「仏教徒社会の時空間マッピング・データベース」などについても一層の発展をみた。地域研は、京都大学が全学的に掲げる「先端的、独創的、横断的研究」の推進に寄与しつつ、共同利用・共同研究拠点として着実な歩みを重ねているといえよう。

2 組織概要

1 運営組織

地域研究統合情報センター（地域研）は、「地域研究における情報資源を統合し、相関型地域研究を行うとともに、全国の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供すること」（京都大学地域研究統合情報センター規程第2条）を目的に設置された。この設置目的を遂行するために、京都大学は、発足前の地域研設置準備委員会において以下のような設置理念を掲げている。

1. 京都大学の基本理念ならびに近年における地域研究の発展を踏まえ、国内外の地域研究への学術的社会的要請に応えるために、世界の多様な地域を対象とした地域研究の研究推進・情報拠点として地域研究統合情報センターを設置する。
2. 京都大学は、「全国共同利用研究を使命とする附置研究所や研究センターの活動を通じて、全国の研究者に開かれた研究拠点としての機能をさらに発展させる」という中期目標に沿って、地域研究統合情報センターを全国共同利用施設として設置し、国内外の地域研究コミュニティに開かれた研究拠点とする。
3. 京都大学がアジア・アフリカ地域等を対象にこれまで築いてきた地域研究の蓄積と伝統に、あらたに地域研究統合情報センターの研究活力を加えて地域研究の一層の推進を図る。

これらの理念に沿って、地域研は後述する3つの研究部門、2つの客員研究部門および図書室からなる研究組織で発足した。また、組織運営の全般にわたる議決機関・協議機関として、協議員会、運営委員会、教員会議、拡大教員会議が設けられている。

独立部局としての意思決定を担う教員会議（教授・准教授・助教により構成）のみならず、組織運営にとっての重要事項を審議決定する、学内関連部局から選出された協議員と地域研教員からなる協議員会、および2010年4月より共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」に認定されたことに伴う、共同利用・共同研究拠点の企画・運営を担う学内外の地域研究者と地域研教員で構成される運営委員会が、地域研の活動全般にわたる審議機関として組織されている。

また、地域研は、京都大学における他の地域研究専門部局である東南アジア研究所や大学院アジア・アフリカ地域研究研究科との共同・協力のもとに運営されており、これら両部局から選出された兼任教員7名を加えた拡大教員会議を組織し、共同利用・共同研究拠点やその他の研究活動あるいは部局間の連携に関する審議・検討を行っている。

独立した事務部はなく、東南アジア研究所、大学院

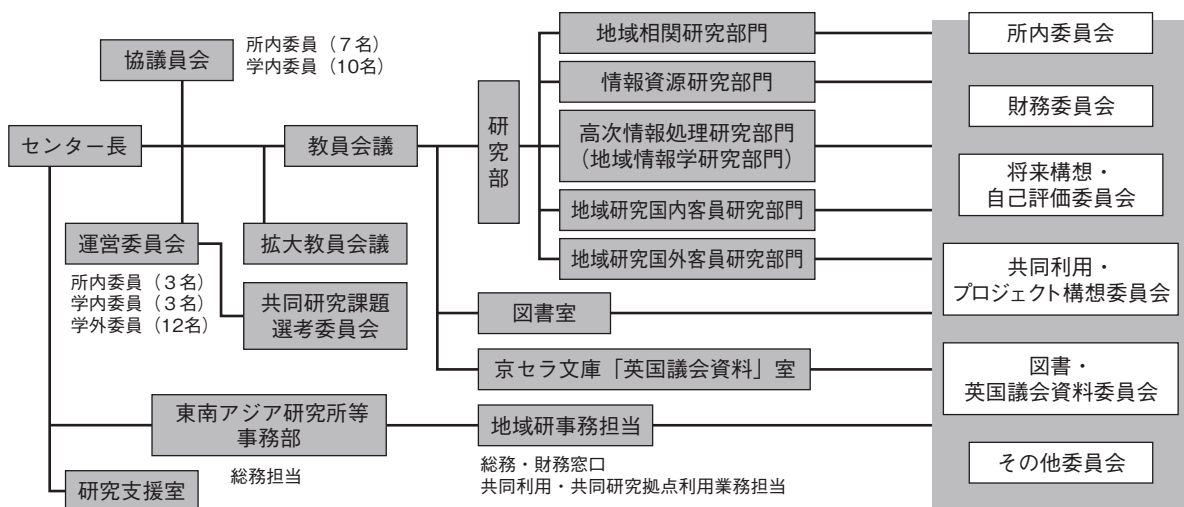


図 I - 1 京都大学地域研究統合情報センター組織図

アジア・アフリカ地域研究研究科およびアフリカ地域研究資料センターとともに4つの部局合同の事務局として東南アジア研究所等事務部が設置されており、地域研を担当する再雇用職員が配置されている。

なお、全国の地域研究関連組織の連携・協力を推進するために、地域研は、2004年に発足した地域研究

コンソーシアムの事務局を務めており、その事務局を担う教員・事務補佐員を措置している。この他、研究活動や運営に関わるセンター内委員会を設けて業務の分担体制をとっている

2 研究部門

地域研は、設置目的に沿って3つの研究部門と2つの客員研究部門を設置している。各研究部門には、特定の地域を対象に研究する地域研究者と情報学の手法を応用して地域研究に迫ろうとする研究者が配置され、各スタッフが対象としてきたそれぞれの地域に関する研究を深化するとともに、共同研究を通じて、相関型地域研究の推進や地域情報資源の共有化、地域情報学の構築に向けたさまざまなコラボレーションを推進している。

1. 地域相関研究部門

グローバル化の進展のもと、地域間の比較や地域横断的な課題設定による地域研究（相関型地域研究）の必要性が高まっている。この部門では、国内外の地域研究機関との連携を強化し、地域間の比較研究を軸にした共同研究を推進するとともに、多様な媒体を利用した研究成果の公開を行う。教授2名、准教授2名、助教1名が配置されている。

教授 貴志 俊彦	日中関係史、東アジア情報・通信・メディア史研究、移民研究
教授 Wilhelmus Adrianus de Jong	熱帯林管理、自然資源管理
准教授 帯谷 知可	中央アジア研究、中央アジア近現代史
准教授 村上 勇介	ラテンアメリカ地域研究、政治学
助教 谷川 竜一	アジア近現代都市・地域空間論、建築史・都市史

2. 情報資源研究部門

多様な形態を含む地域研究関連情報を活用する地域研究では、情報資源の概念を深化させ、地域研究コミュニティと研究対象社会の双方がともに情報資源を共有できるシステムの構築が求められている。この部門では、各地域の情報資源の体系的な収集、その蓄積・加工・発信方策の検討、地域研究情報資源の横断的活用

に関する研究を行い、地域情報資源の分散型共有化システムを開発する。教授2名、准教授2名、助教1名が配置されている。

教授 押川 文子	南アジア現代社会研究
教授 林 行夫	東南アジア民族誌学、宗教と社会の地域研究
准教授 西 芳実	東南アジア地域研究、多言語・多宗教地域の紛争・災害対応過程
准教授 山本 博之	マレーシア地域研究、イスラム教圏東南アジアの現代政治
助教 福田 宏	中央ヨーロッパ地域研究、近現代政治史

3. 高次情報処理研究部門

地域研究に関する多岐・多様な情報資源を対象に、情報処理の高度化や高精度化に関する研究を行うとともに、情報学的手法を導入して、情報学と地域研究のコラボレーションによる新しい研究パラダイムの確立をはかり、学際領域としての地域情報学の構築を推進することを目的としている。教授1名、准教授1名、助教1名が配置されている。

教授 原 正一郎	情報学
准教授 柳澤 雅之	農業生態学、ベトナム地域研究
助教 星川 圭介	東南アジア地域研究、水文学

4. 国内客員研究部門および国外客員研究部門

相関型地域研究の推進、地域情報資源の共有化、地域情報学の構築のためには、国内外の研究機関との協力・共同が不可欠となる。国内客員研究部門では、以下の教授2名、准教授2名が就任している。

教授 有川 正俊	地理空間情報技術、(東京大学空間情報科学研究センター教授) 地図学、データベース
教授 幡谷 則子	社会学、市民社会、(上智大学外国語学部教授) 資源開発

准教授 末近 浩太
(立命館大学国際関係学部准教授) 中東地域研究、国際政治学、比較政治学

准教授 渡邊 英徳
(首都大学東京システムデザイン研究科准教授) デザイン 情報学、芸術工学、デザイン

国外客員部門では、2013年度、以下の2名を招へいした。

准教授 Andrijana Cvetkovik
(マケドニア・ヨーロッパ演劇アカデミー)

教授 Melba Eugenia Maritza Falck Reyes de Ponce
(メキシコ・グアダハラハラ大学太平洋地域研究学部)

3 図書室

地域研図書室は、京都大学図書館機構に属する部局図書室として、2007年3月に、工学部4号館（現総合研究2号館）地下1階に開設され、地域研の稲盛財団記念館への移転に伴って2008年12月に同記念館1階に移転した。所蔵資料は書庫およびマイクロ資料室（東南アジア研究所と共用）に保管され、受付カウンターは共通資料室（東南アジア研究所と共用）内に置かれている。

地域研図書室は、共同利用・共同研究拠点としての機能を高めるべく、またセンター内部で進めるプロジェクト（相関地域研究プロジェクト、地域情報学プロジェクト、災害対応の地域研究プロジェクト、地域研究方法論プロジェクト）を支援するために、京都大学における地域研究関連部局、特に東南アジア研究所および大学院アジア・アフリカ地域研究研究科と連携しつつ、所蔵資料の拡充に努めている。

図書室の運営は図書BPP委員会が担当している。また、地図資料の共同管理や共通資料室・マイクロ資料室の運用について検討するため、東南アジア研究所と共同で共通資料室運営委員会が設置されている。

図書室のホームページ：

<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/index.php/library>

1. 所蔵資料

所蔵資料は、旧国立民族学博物館地域研究企画交流センター（民博地域研）が所蔵していた図書、雑誌、マイクロ・フォーム、地図、映像資料などを基盤に、中東、中央アジア、ラテンアメリカなどについて比較的まとまった貴重なコレクションを形成している。また、アメリカ、イギリス、旧ソ連などの外交・政治文書や国際関係分析資料、植民地等関係資料など、系統的な収集にも努めている。雑誌については、政治学、国際関係論などの領域を中心に、基本的な欧文雑誌が大半を占めている。この他に、中央アジアや中東地域の国別地図、エジプト映画・インド（タミル語）映画・タイ映画、マレーシア映画などの映像資料、世界の諸

地域の希少資料のデジタル複製版など、多様な情報資源が含まれる。

また、2008年度には、日本における地域研究のパイオニアのおひとりである故石井米雄京都大学名誉教授の約1万4千冊におよぶ蔵書の一括寄贈を受けた。東南アジア研究のみならず、宗教研究や地域研究の発展に関する貴重な蔵書であり、現在、整理を進めている。

所蔵資料の概要は以下の通りである（2014年3月末、登録済のみ）。

- ・ 図書：総冊数（所蔵ID数）52,034点（うち和書：4,509点、洋書：46,748点）（マイクロフィルム約5,200リール、マイクロフィッシュ約20,000枚を含む）
- ・ 雑誌：総タイトル数449点（うち和雑誌132点、洋雑誌317点）
- ・ 映像資料：約2,000点
- ・ 光・磁気媒体資料：約600点
- ・ 地図：3,234枚

地域研の所蔵資料のうち最大のコレクションである英国議会資料約1万3千冊（下院文書1801～1986年、上院文書1801～1922年）については、「京セラ文庫『英国議会資料』」として附属図書館地階で公開している。また、英国議会資料下院文書のウェブ版House of Commons Parliamentary Papers（18世紀～現在）も導入されており、図書室での利用が可能である。同文庫については、II.1.3を参照。

2. 2013年度の主な活動

(1) **資料収集**：2013年度は、『中国占領地の社会調査』を始め近代中国史関係の資料購入と地域研スタッフの著作物を重点的に揃えたことが特記される。

(2) **資料整理**：故石井米雄京都大学名誉教授の個人蔵書については、書庫への配架および請求記号の付与に加えて、登録作業を継続した。

(3) **ホームページの改良**：図書室の広報充実の観点から、図書室HPの大幅なりニューアルの第一歩として、主な所蔵資料コレクションについて地域研教員による

解説を掲載した。

(4) 未登録資料の登録：民博地域研から移管された資料のうち未登録のものについての登録作業を継続している。

(5) データベース化：2010年度より、情報資源の共有化の観点から「マレーシア映画データベース」「トルキスタン集成データベース」「タイ映像資料データベース」を公開している。

4 運営委員会

全国共同利用施設（試行）として出発した地域研究統合情報センター（地域研）は、全国の地域研究コミュニティの意見を反映し、かつ広くコミュニティに開かれた運営が可能となる体制を当初から整えてきた。また、2008年4月から全国共同利用施設となり、更に、2010年4月には共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」に認定された。地域研究統合情報センター規程に基づき、学内外の地域研究の識者によって組織される運営委員会がその機能を担っている。運営委員会は、センター長の諮問による実質的な審議機関として、共同利用・共同研究拠点としての研究の企画や実施、出版、地域研究コンソーシアム（JCAS）などのネットワーク構築、および人事を含む地域研の運営にかかわる重要事項について検討を行っている。

2013年度の運営委員会は、学外の有識者12名、学内の地域研究者3名、地域研教員2名の17名で構成された。学外委員には、北海道大学スラブ研究センター、東北大学東北アジア研究センター、東京大学東洋文化研究所、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、大阪大学大学院人間科学研究科、長崎大学熱帯医学研究所、早稲田大学政治経済学術院、上智大学外国語学部、日本貿易振興機構アジア経済研究所、国立

5 協議委員会

協議委員会は、「地域研究統合情報センター規程」に基づき、地域研究統合情報センター（地域研）の運営の重要事項にかかわる審議機関として設置されている。2013年度の協議委員会は、文学研究科附属ユーラシア文化研究センター、人文科学研究科、地球環境学術、アジア・アフリカ地域研究研究科、東南アジア研

3. 月別利用者数

図書室の月別利用者数は次の表の通り。

2013年度月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学内	56	36	19	36	18	27	46	48	19	31	10	35	381
学外	14	7	14	11	9	22	58	4	1	15	1	30	186
計	70	43	33	47	27	49	104	52	20	46	11	65	567

民族学博物館、総合地球環境学研究所、総合研究大学院大学など、国内の主要な地域研究関連研究教育機関の教員に、また学内からは学術情報メディアセンター、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科および東南アジア研究所の教員に委員を委嘱している。

2013年度は、第1回（2013年7月8日）、第2回（同年12月2日）、第3回（2014年2月17日）の3回の運営委員会が開催され、稟議による運営委員会が3回行われた。委員の多くが東京在住のため、2回の委員会が東京で開催された。

各委員会会合での主要議題は、第1回が共同利用・共同研究拠点の中間評価調書、2012年度の共同利用・共同研究拠点の実施報告、2013年度の共同利用・共同研究拠点の実施計画、第2回が共同利用・共同研究拠点の中間評価結果並びに人事、第3回が2013年度共同利用・共同研究報告会ならびに人事などである。委員会では、地域研の年度予算の執行計画や決算、概算要求事項などの報告が行われ、地域研から提出した共同利用・共同研究拠点としての研究活動、出版、情報資源共有化、さらに地域研究コンソーシアムにおける役割などについて、忌憚のない、かつ建設的な議論が交わされている。

研究所、学術情報メディアセンター、図書館機構、防災研究所、農学研究科、法学研究科など、学内他部局から10名、地域研からセンター長、教授全員、および互選による准教授2名の計17名の委員によって構成された。

協議委員会は、「協議委員会から教員会議に付託又は委

任する事項に関する申し合わせ」に基づいて日々の運営にかかわる事項は教員会議に付託または委任しているものの、その他の運営にかかわる重要事項について審議・決定し、地域研という小規模なセンターの研究活動と運営を支えるという重要な機能を持っている。

2013年度には、第1回（2013年7月22日）、第2回（同年12月16日）、第3回（2014年3月17日）、の3回の協議委員会が開催された。各回の主要議題は、いずれも教員人事の基本方針や選考、あるいは予算・決算、概算要求事項などである。

6 スタッフ一覧

地域相関 研究部門	教授	貴志 俊彦
	教授	Wilhelmus Adrianus de Jong
	准教授	帯谷 知可
	准教授	村上 勇介
	助教	谷川 竜一
情報資源 研究部門	教授	押川 文子
	教授	林 行夫
	准教授	西 芳実
	准教授	山本 博之
	助教	福田 宏
高次情報処理 研究部門	教授	原 正一郎
	准教授	柳澤 雅之
	助教	星川 圭介
地域研究 国内客員 研究部門	客員教授	有川 正俊 (東京大学空間情報科学研究センター教授)
	客員教授	幡谷 則子 (上智大学外国語学部教授)
	客員准教授	末近 浩太 (立命館大学国際関係学部准教授)
	客員准教授	渡邊 英徳 (首都大学東京システムデザイン研究科准教授)
	客員准教授	Andrijana Cvetkovic (2013.7.1～2013.10.31) (マケドニア・ヨーロッパ演劇アカデミー)
地域研究 国外客員 研究部門	客員教授	Melba Eugenia Martza Falck Reyes de Ponce (2013.4.1～2013.6.30) (メキシコ・グアダハラ大学太平洋地域研究学部)
	客員准教授	Andrijana Cvetkovic (2013.7.1～2013.10.31) (マケドニア・ヨーロッパ演劇アカデミー)
兼務教員		
東南アジア研究所	准教授	岡本 正明／甲山 治／ 小林 知
アジア・アフリカ 地域研究研究科	教授	東長 靖
アフリカ地域研究 資料センター	准教授	大山 修一／古澤 拓郎／ 平野 美佐

研究員等		
特任教授／研究員 (特別教育研究 (一般))	柴山 守	
白眉准教授	王 柳蘭	
日本学術振興会特別研究員	岡田 勇	
研究員 (特別教育研究 (一般))	BOURDON, Julien Robert Gerard	
研究員 (科学研究)	山口 哲由	
	和崎 聖日	
	FLORES URUSHIMA, Andrea Yuri	
研究員 (研究機関)	小島 敬裕	
教務補佐員	須和 新二	
	山本 伸子	
研究支援推進員	大石 聖華	
事務補佐員	片岡 稔子	
	川島 淳子	
	幸田 友紀	
	小寺 淳子	
	辛 直美	
	中村 佳代	
	西 賀奈子	
	二宮 さち子	
	引地 尚子	
	松田 浩子	
	山口 敏朗	

【東南アジア研究所等事務部】(2014年3月31日現在)

事務長	大當 徳則
専門員	上田 隆

総務掛	掛長	豊田 和彦
	主任	芝田 優子
	主任	中村 美由紀
	教務補佐員	坂本 真樹
	事務補佐員	日高 未来

教務掛 掛長 福村 輝美
主任 川野 裕介
事務職員 山崎 景

※2013年度からの京都大学事務組織改革による共通事務化に伴い、2014年1月に東南アジア研究所等事務部財務掛は廃止され、担当業務は南西地区共通事務部に移行された。

3 運営経費

地域研究統合情報センター（地域研）の主要な運営経費は2006年度概算要求に基づいて措置された特別教育研究費であったが、2011年度からは特別経費の扱いとなり、2013年度には27,155千円が措置された。

2013年度は、共同利用・共同研究拠点として共同研究の実施、共同利用に供する京セラ文庫『英国議会資料』室の維持・管理と同資料の整備、地域研究コンソーシアムを通じた全国の地域研究関連組織の連携・共同の推進など、共同利用・共同研究拠点に関する予算の確保を運営の基本として経費管理を行った。

図I-2および表I-1に示したように、2013年度の地域研予算額は、総額186,474千円、その内、科学研究費補助金や受託研究費などの直接経費を除く運営経費は計124,276千円で、2012年度にくらべて約6,788千円の減額となった。

科学研究費補助金は、2012年度の61,400千円に対して、2013年度は69,197千円となった。

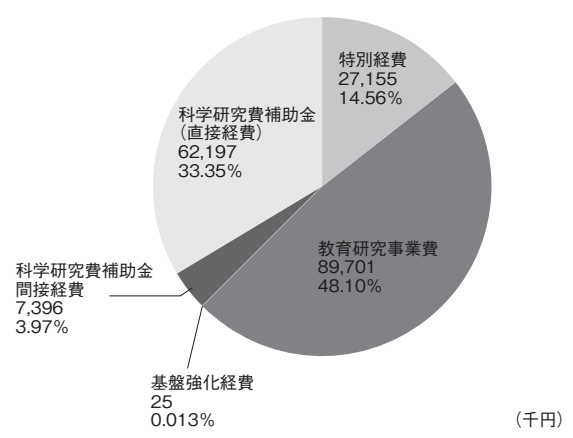
以上の収入のうち、直接経費を除く財源について一般管理費および研究経費として支出された経費別支出

額を示したのが図I-3および表I-2である。

2013年度の研究経費の支出総額は図I-3および表I-2に示したとおり約123,664千円となり、2012年度にくらべて約6,698千円の減額となった。全国共同利用経費として支出されたものには、共同利用・共同研究拠点推進のための経費の他に地域研究コンソーシアム事務局運営に関連する経費などが含まれており、英国議会資料関連経費、国際シンポジウム開催経費および資源共有化のための情報基盤整備なども含めて総計すると、約24,105千円が共同利用・共同研究拠点に関する経費として支出された。

図I-2や図I-3に示した研究経費以外に、科学研究費や受託研究費などの直接経費や寄付金等も地域研の研究推進に大きな役割を果たしている。

科学研究費による研究課題のなかには、情報資源共有化や地域間の比較研究を課題として掲げているものがあり、これらの課題の実施が地域研のミッション遂行にあたって大きな貢献を果たしている。



図I-2 2013年度地域研予算

表I-1 2013年度地域研予算 (円)

特別経費	27,155,000
教育研究事業費	89,701,000
総長裁量経費	0
基盤強化経費	25,000
研究支援人材経費	0
科学研究費補助金間接経費	7,395,894
受託研究間接経費	0
小計	124,276,894
科学研究費補助金 (直接経費)	62,197,188
受託研究費等 (直接経費)	0
その他 (寄付金)	0
直接経費の小計	62,197,188
総計	186,474,082

表 I-2 2013年度一般管理費・研究経費の費目別支出額 (円)

一般管理費	小計	7,310,829
	共通経費	7,299,170
	共通国内旅費	11,659
研究経費	小計	116,966,065
	共通経費	84,834,022
	研究部門研究費	4,742,816
	図書室経費	1,998,000
	情報基盤整備経費	3,214,270
	全国共同利用経費	20,402,887
	英国議会資料経費	488,250
	国際シンポ開催経費	0
	共通国内旅費	1,285,820
	総計	

(直接経費を除く)

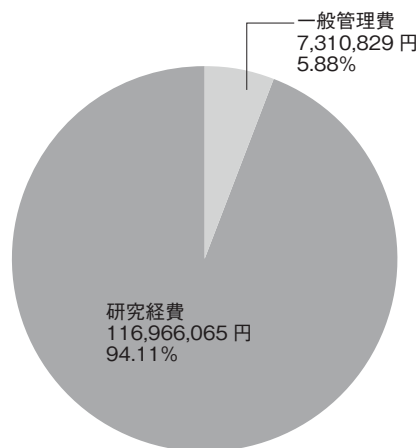


図 I-3 2013年度経費別支出額 (直接経費を除く)

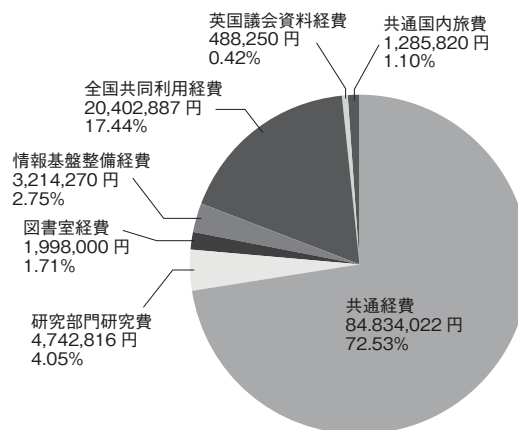


図 I-4 2013年度研究経費の費目別支出額 (直接経費を除く)

II. 研究活動の概要

1. 共同利用・共同研究拠点としての活動
 - 1 共同利用・共同研究拠点
 - 2 地域研究コンソーシアムの運営体制と活動
 - 3 英国議会資料（BPP）
2. 情報資源共有化に向けた活動
 - 1 地域情報学の構築に向けた活動
 - 2 データベースや情報解析ツール等一覧
3. スタッフの研究活動
 - 1 個人研究
 - 2 外部資金による研究活動
 - 3 受賞
4. シンポジウム・ワークショップ・研究会等



1 共同利用・共同研究拠点としての活動

関連型地域研究、情報資源共有化の推進および地域情報学の構築をセンターのミッションとする地域研は、共同利用・共同研究拠点として、次の4つの柱を中心に研究活動を展開してきた。

1. 共同研究による研究推進
2. 地域研究情報資源の共有化
3. 英文叢書シリーズなど地域研究の国際発信の強化
4. 地域研究コンソーシアムなど地域研究ネットワーク化の促進

また、公募研究や公募原稿出版の導入、国内外の地域研究者が参加しうる双方向的な情報プラットフォームの構築など、活動の企画、実施、成果刊行と評価のすべての段階において開かれた運営を図るという基本的方針に沿って活動を行っている。

共同研究は、研究代表者の所属にかかわらず完全に公募制度により採用されるプロジェクトである。

1 共同利用・共同研究拠点

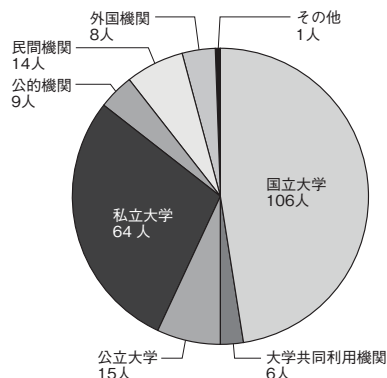
地域研は、共同利用・共同研究拠点として、関連地域研究プロジェクト「〈地域〉を測量(はか)る — 21世紀の『地域』像」、地域情報学プロジェクト「地域情報学の展開」、災害対応の地域研究プロジェクト「強くしなやかな社会をめざして — 地域研究の可能性」地域研究方法論の4つのプロジェクトのもとで、国内外の地域研究機関と連携して共同利用・共同研究を推進してきた。それぞれのプロジェクトのもとに、複数の複合同共同研究ユニットと個別共同研究ユニットをツリー状に配置し、研究対象となる地域や分野を超えた共同研究を実施している。複合同共同研究ユニットの研究テーマは地域研究コミュニティの助言および要請を受けてセンターが設定し、個別共同研究ユニットはい

ずれかの複合同研究ユニットの研究テーマのもとに位置づけられる。なお、複合同共同研究ユニットは関連する個別共同研究ユニットに基盤を置きながら運営される。

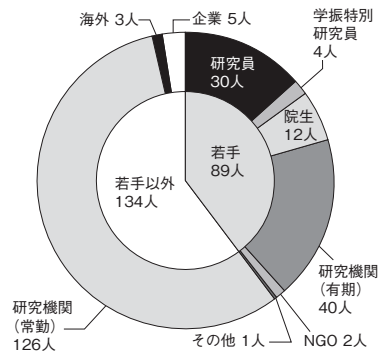
上記4つのプロジェクトは、いずれも基本的に6年間の研究期間により研究が進められている。共同研究員の所属については、図Ⅱ-1、図Ⅱ-2に示したとおりである。

地域研の特色のひとつとして、地域・分野横断型の関連型地域研究の実施があげられる。共同研究員の研究対象地域については、図Ⅱ-3に示した。

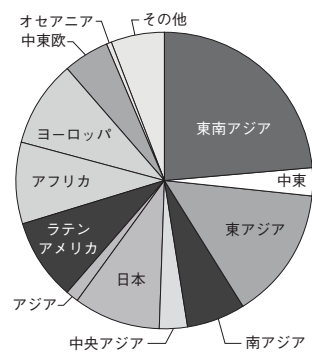
なお、2014年4月27日には、稲盛財団記念館にて、全ユニットによる共同利用・共同研究の2013年度成果報告会が行われた。



図Ⅱ-1 共同研究員所属分布①



図Ⅱ-2 共同研究員所属分布②



図Ⅱ-3 共同研究員の研究対象地域

1. 関連地域研究プロジェクト：〈地域〉を測量（はか）る—21世紀の「地域」像（統括班）

1. ポストグローバル化期における国家社会関係

1. ポスト・グローバル化期の教育に関する国際比較：新自由主義、子どもの権利、国家の役割の再編
2. 地域内多様性と地域間共通性の比較政治経済分析：ポスト社会主義国を軸として
3. 中東とラテンアメリカにおける体制転換の比較研究
4. ユーロ危機下における南欧諸国のガバナンス変容：東欧諸国との地域間比較の視点から

2. 地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦

1. 熱帯森林利用のローカル・ガバナンスの可能性に関する地域間比較研究
2. アフリカにおける地域植生と植物利用の持続可能性

3. 宗教実践の時空間と地域

1. 移動と宗教実践：地域社会の動態に関する比較研究
2. 「功德」をめぐる宗教実践と社会文化動態に関する比較研究：東アジア・大陸東南アジア地域を対象として
3. 南欧カトリシズムの変容と福祉ビジネスの展開に関する地域間比較
4. 宗教実践における声と文字：東南アジア地域からの展望

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

1. 「地域の知」の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開

1. 地域に関する時空間基盤情報の収集・蓄積
2. 地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究
3. 学術論文のマッピング・システムを通じた地域情報の統合と共有化

2. 非文字資料の共有化と研究利用

1. 写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析
2. 20世紀前半のサハリン島に関する歴史的記憶
3. 集合的記憶と中東欧地域の音楽：比較研究に向けてのデータベース構築

3. CIAS所蔵資料の活用

1. 書誌情報データベースの地域情報学的新展開を探る
2. 『乾隆京城全図』と空間画像史料を用いた「華北・北京歴史データベース」の構築
3. 映画に見る現代アジア社会の課題
4. 脱植民地化期の東南アジア・ムスリムの自画像と他者像

3. 災害対応の地域研究プロジェクト：強くしなやかな社会をめざして—地域研究の可能性（統括班）

1. 災害・紛争と復興

1. 「小さな災害」アプローチによる紛争・災害に強い社会づくり：災害地域情報マッピングシステムを活用した社会問題の早期発見・早期対応
2. 社会紛争の総合分析に基づく解決・予防の研究：ラテンアメリカの事例から

2. 記録・記憶と社会の再生

1. 災厄からの再生のための記録と記憶の〈場〉：災害・紛争後の記憶をつなぐ実践・支援とその可能性
2. 建築を通じたポピュラー文化の記憶の場の構築力の解明

4. 地域研究方法論プロジェクト

1. 地域研究方法論

1. アジアと日本を結び実践型地域研究
2. 物語を基にしたコミュニティづくりを目指す地域研究
3. 官公庁や民間企業やマスコミと接合される地域研究の方法論の検討

図Ⅱ-4 共同利用・共同研究による4つのプロジェクトと複合および個別共同研究ユニットの構成

1. 関連地域研究プロジェクト： 〈地域〉を測量（はか）る ——21世紀の『地域』像（統括班）

◆研究期間

2010～2015年度

◆代表

林 行夫（地域研）

◆メンバー

村上 勇介（地域研）

柳澤 雅之（地域研）

国家をはじめ、人びとはなんらかのシステムのなかに暮らしている。近代は、国民国家を頂点とするピラミッド型の構造をとり、それまでに形成されていた地域世界を国家に回収するように再編してきた。だが、国家や地域の境界を越える人びとの活動が顕著となった今日、既存の統治システムの境界を跨ぐように、あるいは相互に重なるようにしてネットワーク型の社会圏や実践的な共同体を生んでいる。さらに、そのような関係や活動を基盤とする〈地域〉世界も生まれている。こうした現象は、従来の国家統治システムからすれば周縁的な現象であるが、制度の隙間に生じた世界や境域における現象を理解するには新たな「ものさし」が必要になる。地域社会を「包摂と排除」の関係から捉え、〈宗教〉からみた時空間マッピングを作成することや新自由主義の浸透と社会への影響に関して地域間比較研究を行うことは、新たな「ものさし」を探る試みとなる。また、こうした社会政治文化的行為の地盤をなす地球規模の生態システムを個々の生活世界を基礎づける「単位」として再検討し変動する自然資源と地域社会を再考することは、そのような「ものさし」をより包括的なものにする作業を導く。すなわち、複数の個別事例の相関と相対化を通じて、互いに異なる構えをもつ自然科学のアプローチと人文社会科学の思考を交差させて統合する試み、これが本統括班の目的である。国家を超え、あるいは国家間を架橋するような現象の一方で、地球上の国家の数は減っていない。新たな国家は新たな内実を創成しているかもしれない、従来の国家もその仕組みを変えているかもしれない。いずれの場合でも、既存のシステムの周縁に視座を据えることで、制度の中心部分を新たな諸相のもとに照らすことになる。

1. 関連地域研究プロジェクト： 〈地域〉を測量（はか）る——21世紀の『地域』像（統括班）

1. ポスト・グローバル化期における国家社会関係

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

村上 勇介（地域研）

◆メンバー

末近 浩太（立命館大学国際関係学部）

仙石 学（西南学院大学法学部）

目的

1980年代以降、世界各地に波及し、各々の社会のあり方を変動させたグローバル化は、今日、踊り場にさしかかっている。一方では、中東革命を筆頭に体制移行・民主化が現在進行形で進んでいる地域・国があり、新自由主義経済路線は基調として様々な地域に影響を与え続けている。情報化も引き続き世界各地での変容を加速させている。だが他方では、「勝者」と「敗者」が明瞭となり新自由主義路線の見直しや反対が広まっているほか、中央アジアなどの旧ソ連圏での権威主義体制の存続や、中東民主化にともなう国家のイスラーム化、ラテンアメリカにおける民主主義体制の後退例などが観察される。本研究は、グローバル化の潮流が前世紀末のような支配的、一方的な傾向ではなくなっている今世紀初頭の位相について、社会変動の中心的力学を生み出す国家社会関係の観点から分析し、今後を展望することを目的とする。実施にあたっては、体制移行・民主化、福祉、教育など、地域横断的な課題設定を行う。

2013年度の 研究実施状況

個別共同研究ユニット毎に研究活動を行うとともに、個別共同研究ユニットを基盤とした研究活動として、「中東欧とラテンアメリカのいまを比較する」研究会を9月と3月の2回にわたり実施した。

●第1回研究会

2013年9月15日15:00～18:00

（京都大学稲盛財団記念館）

テーマ：『ネオリベリズムの実践現場』合評会

討論者：出岡直也（慶應義塾大学）、谷洋之（上智大学）、平田武（東北大学）

●第2回研究会
2014年3月22日15:00～18:00
(早稲田大学早稲田キャンパス9号館)

テーマ：新興民主主義国における政策と政党政治
報告：磯崎典世（学習院大学）「韓国：グローバル化への対応をめぐる国内政治」
岡田勇（地域研）「1990～2012年のラテンアメリカにおける炭化水素部門の政策比較」
藤嶋亮（同志社大学）「2000年代ルーマニア政党政治における『左』と『右』」

成果

本研究の本年度の活動は、昨年度まで行ってきた研究計画（複合同研究ユニット）「新自由主義の浸透と社会への影響に関する地域間比較研究」の成果を、新たな事例について検証することであった。中東欧とラテンアメリカの比較を主軸に実施してきた同計画の成果の概要は、次のとおりである。

同じような歴史的経緯におかれてきて、かつ国際環境も共通している、さらには、ネオリベラル的な考え方が流入してきた経緯も非常に近いはずの中東欧とラテンアメリカ、それぞれの地域において、ネオリベラリズム的な政策を積極的に実施した国と、ネオリベラリズムからは距離を置いている国とが存在する。これまでの議論では、中東欧やラテンアメリカ諸国におけるネオリベラル的な政策は、結局のところIMFや世界銀行を中心とする国際金融機関によって「押しつけられたもの」で、その内実に相違はないとみるか、もしくは、中東欧とラテンアメリカというおかれた環境の地域差が各国の状況の相違に結びついているとする見方が、一般的であった。だが実際には、それぞれの国でネオリベラル的な政策が実施されるか否かに関しては、国ごとの固有の要因の作用の方が大きく、そのためにネオリベラル的な政策の現れ方の違いは国ごとに明確に異なっていること、およびその相違は地域間の相違とは異なり、中東欧およびラテンアメリカそれぞれの地域の中で相違がみられる。そうした各地域内での相違に重要な影響を与えた要因としては、各国の政党政治、およびその形の違いがあり、それが各国のネオリベラリズムをめぐる政治経済社会過程を既定し、あるいはそれから影響をうけ、異なった経路を作りだした。

検証のテーマは、教育制度改革の地域間比較、中東欧ならびに南欧の政治経済体制比較、中東とラテンアメリカの体制転換比較であった。いずれも、本年度は、検証途上であるが、ポスト・グローバル化の段階の諸

状況を分析するうえで、構造的な要因や背景が重要である点で共通性があることがうかがえる。また、その過程での主たる関心・課題は、国家の新たな役割であり、それをめぐる方向性で理解ないし合意できるかが、今後の動向に大きく影響する可能性が浮かびあがってきた。

1. 関連地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はか)る——21世紀の「地域」像(統括班)

1. ポスト・グローバル化期における国家社会関係

1. ポスト・グローバル化期の
教育に関する国際比較：新
自由主義、子どもの権利、
国家の役割の再編

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

押川 文子 (地域研)

◆メンバー

植村 広美 (県立広島大学人間文化学部)

牛尾 直行 (順天堂大学スポーツ健康科学部)

小原 (伊藤) 優貴 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科)

日下部 達哉 (広島大学教育開発国際協力研究センター)

佐々木 宏 (広島大学大学院総合科学研究科)

篠原 清昭 (岐阜大学大学院教育学研究科)

杉村 美紀 (上智大学総合人間科学部)

南部 広孝 (京都大学大学院教育学研究科)

針塚 瑞樹 (九州大学人間環境学研究院)

南出 和余 (桃山学院大学国際教養学部)

山本 晃輔 (大阪大学大学院人間科学研究科)

福田 宏 (地域研)

目的

グローバル化の進行のなかで、多くの社会において、教育の市場化と競争原理の導入、達成度評価への「国際水準」適用などいわゆる新自由主義的な教育制度が導入されてきた。また、国際社会が提唱する「子どもの権利」概念やそれに基づく基礎教育と知識社会に適応した能力育成の重視も世界各地に拡大している。その一方で、それぞれの社会に根ざしたオルタナティブな教育の試みや、国際競争力強化と固有の文化的価値を掲げるナショナルな教育イデオロギーの台頭現象も、地域的なヴァリエーションをもちつつ展開されている。これまで教育から排除されてきた人々を含めて幅広い層の教育への関心が高まるなかで、ポスト・グローバル化期の教育は、新自由主義的傾向や国際社会の影響力拡大など国家の枠を超える動きと、当該社会の構造的諸要因、権力構造さらに思想状況とがせめぎ合う「場」としての様相をますます強めている。

本研究は上記の認識のもとに、東アジア、東南アジア、南アジア、ラテンアメリカ、中東欧を対象に、今日の教育における重要課題を取り上げながら地域の実

態を踏まえて比較検討し、多様な実態に通底するグローバルな共通性と地域的固有の展開の要因を分析することを通じて、教育の地域的発展の型を考察することを目的とする。

2013年度の
研究実施状況

当初計画に基づきワークショップ形式の研究会を中心に実施した。

●第1回打ち合わせおよびワークショップ「新自由主義
教育改革の国際比較」

2013年7月13日13:00～18:00

(京都大学稲盛財団記念館)

研究会の趣旨と実施予定提案：押川文子

報告1：工藤瞳 (京都大学大学院教育学研究科)「ペルーにおける新自由主義的教育政策導入の試みと限界」

報告2：杉村美紀「マレーシアにおける高等教育戦略と新ナショナリズム：ポスト・グローバル化期の『教育ハブ』の機能」

●第2回ワークショップ「ポスト・グローバル化期の教
育：高等教育の再編と教育の新しい役割」

2013年10月26～27日

(京都大学稲盛財団記念館)

共催：トヨタ財団研究助成プログラム (D11-R-0466「平和構築と人材育成の高等教育」研究代表者：杉村美紀)

10月26日〈第1部〉高等教育のグローバル化と市場化

報告1：小原優貴「グローバル化の中のインドの高等教育」

報告2：南部広孝「中国における高等教育のグローバル化」

報告3：田中哲也 (福岡県立大学人間社会学研究科)「エジプト高等教育の拡大と市場化について」

10月27日〈第2部〉Education and Human Resource Development for Peace and Development: A Comparative Study of Sri Lanka and Malaysia

報告4：Tham Siew Yean (Universiti Kebangsaan Malaysia) Development and Multiethnic Society: Case of Malaysia

報告5：Miki Sugimura Nation-building and Human Resource Development in a Post Conflict Society: Case of Sri Lanka

報告6：James Williams and Nora Shetty (George Washington University) Educational Development in Sri Lanka and Malaysia: A Comparative Examination

報告7：Toshiya Hoshino (Osaka University) Comparative Analysis from Peace Building Perspective

Comment：Juneja Nalini (National University of Educational Planning and Administration)

成果

今年度は2回のワークショップを通じて、各インド、バングラデシュ、中国、エジプト、マレーシア、スリランカ等を対象に、まず各国の教育史を踏まえたうえ

で現在の変化の方向を位置付け、比較を試みた。主要な論点は以下の通りである。

①取り上げた諸地域では、程度の差はあれ、民間資本の導入、グローバル化対応、認証評価システムの導入など類似した教育改革、いわゆる新自由主義的な教育改革の導入がはかられている。こうしたいわゆる「新自由主義的」な教育改革は、教育への市場原理の導入と国家管理の後退と捉えられることが多いが、規制緩和の時期・程度・方法の設定、認証評価や生徒・学生の能力の測定方法の設定や管理などを通じて、むしろ新しい形態の国家管理への移行とみなすべきであることが確認された。②その結果、教育の国家管理の徹底していた国家（例：中国、マレーシア等）においてむしろ新形態への移行が急速に進み、従来から事実上市場原理が作用していた国家（例：インド、エジプト等）では改革が進まないという逆説的な状況が生まれている。新自由主義政策がこうした傾向をもつことは教育以外の分野でも見られるが、教育は国家単位の学制や資格授与のシステムを必須とするため、とくにその傾向が強い。③新しい形態の国家管理（市場を組み入れたシステム形成）では、競争原理の導入と質保証、グローバル化対応などとともに、格差是正（従来からの質・量両面での格差是正に加えて競争・市場原理導入にともなう格差のコントロール）という課題が、とくに初等教育において、子どもの教育権や社会的公正の議論とも関連しながらあらためて認識され、むしろ前面に出る傾向も認められる。この点については、市場原理（学校選択権の拡大、教育バウチャー等の導入）による教育水準格差是正など市場原理を前提として取り組む国家と、初等～中等教育における国家管理の徹底を図る国家など、改革の実態にはそれぞれの教育形成の経緯に規定されたヴァリエーションがある。ただしいずれの場合も競争・市場原理には事実上様々な歯止めがかけられており、各国の教育を比較すると、ある種の「合流」状況を認めることができる。

1. 関連地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の「地域」像(統括班)

1. ポスト・グローバル化期における国家社会関係

2. 地域内多様性と地域間共通性の比較政治経済分析：ポスト社会主義国を軸として

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

仙石 学 (西南学院大学法学部)

◆メンバー

磯崎 典世 (学習院大学法学部)

上垣 彰 (西南学院大学経済学部)

小森 宏美 (早稲田大学教育・総合科学学術院)

月村 太郎 (同志社大学政策学部)

林 忠行 (京都女子大学現代社会学部)

村上 勇介 (地域研)

目的

本研究は、社会主義体制が解体した後の中東欧諸国の政治経済の枠組に現れている多様性について、これを他の地域のポスト社会主義国、および社会主義国ではないが、1970年代以降に民主化したラテンアメリカや東アジアの諸国の事例との比較の中で位置づけていくことを、主たる目的としている。体制転換後の中東欧諸国においては、民主主義と市場経済という大きな枠組こそ共通しているものの、具体的な政治経済にかかわる制度面では国ごとに大きな違いが存在している。だがこのような「地域内における多様性」は中東欧に限られるものではなく、例えば民主化後のラテンアメリカにおいても、政治や経済のあり方には多様な形が見られることが確認されている。さらに加えて、それぞれの地域の中で多様な政治経済の形が見られる一方で、その多様性の中には、中東欧とラテンアメリカそれぞれの地域の相違を越えて同じような状況が現れている場合もあるという、「地域を越えた共通側面」も存在することが確認されている。この「地域内における多様性」と「地域を越えた共通性」との関係、政治経済に関する制度および政策（これはひいては、「国家・社会関係」という抽象的な視点に関して、事実に基づいた具体的な視点から解明する重要な側面となるはずである）に焦点を当て、実証的および理論的に明らかにしていくことが、本研究の主要な課題となる。

2013年度の 研究実施状況

今年度は本研究課題と、村上勇介が研究代表者となっている研究課題「中東とラテンアメリカにおける体制転換の比較研究」との共催により、従前より実施している「中東欧とラテンアメリカのいまを比較する」研究会を2回実施した。概要は以下の通りである。

- 2013年度第1回（「中東欧とラテンアメリカのいまを比較する」第11回）研究会
2013年9月15日15:00～18:00
（京都大学稲盛財団記念館）

テーマ：『ネオリベラリズムの実践現場』合評会
討論者：出岡直也（慶應義塾大学）、谷洋之（上智大学）、平田武（東北大学）

- 2013年度第2回（「中東欧とラテンアメリカのいまを比較する」第12回）研究会
2014年3月22日15:00～18:00
（早稲田大学早稲田キャンパス9号館）

テーマ：新興民主主義国における政策と政党政治
報告：磯崎典世「韓国：グローバル化への対応をめぐる国内政治」
岡田勇（地域研）「1990～2012年のラテンアメリカにおける炭化水素部門の政策比較」
藤嶋亮（同志社大学）「2000年代ルーマニア政党政治における『左』と『右』」

成果

今年度は上記の通り、これまでの研究を総括し今後の研究の方向性を検討するための、前プロジェクトの研究成果である『ネオリベラリズムの実践現場』の合評会、および中東欧とラテンアメリカに、同様の環境にある韓国を加えた政党政治と政策との連関の比較分析の研究会を実施した。前者の合評会においては、外部コメンテーターのコメントと執筆者のリプライを通して、ネオリベラリズム的な政策の受容を分析するためには国内要因と国外要因の両方を検討する必要があること、特に国内政治要因を十分に検討する必要があること、他方でネオリベラリズム的な政策の受容の時期はその後の国内政治、特に政党の政策位置や有権者の指向性に影響を与えていて、それが国ごとの政党政治の形の違いと密接に関連しているというように、「ネオリベラリズム後」の政治についても十分に検討する必要があることなどが提起された。第2回目の研究会においては、それぞれの国および地域の事例から政策に政党政治がどのような影響を与えているかについての検討が行われたが、そこではグローバル化した経済

においては各国が独自に実施できる経済政策の選択肢は限定されていることや、有権者の均質化に伴いどの政党も固定的な支持層を確保できなくなり「包括政党」的な指向性を強めていることから、政党の指向性と政策との連関が弱くなっている（「右派」が市場経済、「左派」が国家介入といった形の類型化はできなくなっている）こと、ただしそのプロセスには各国ごとの歴史および政治・制度も影響を与えているため、全体的な動きと地域固有の要因との連関を見ていく必要があることが明らかにされた。

1. 関連地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の「地域」像(統括班)

1. ポスト・グローバル化期における国家社会関係

3. 中東とラテンアメリカにお
ける体制転換の比較研究

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

末近 浩太 (立命館大学国際関係学部)

村上 勇介 (地域研)

◆メンバー

内田 みどり (和歌山大学教育学部)

浦部 浩之 (獨協大学国際教養学部)

遅野井 茂雄 (筑波大学大学院人文社会科学研究所)

吉川 卓郎 (立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部)

住田 育法 (京都外国語大学外国語学部)

仙石 学 (西南学院大学法学部)

高橋 百合子 (神戸大学大学院国際協力研究科)

田中 高 (中部大学国際関係学部)

浜中 新吾 (山形大学地域教育文化学部)

林 忠行 (京都女子大学現代社会学部)

松尾 昌樹 (宇都宮大学国際学部)

目的

本研究は、2010年末からの「アラブの春」と呼ばれる政治変動を経た中東と、発展途上地域においてもっとも早く体制転換を経験したラテンアメリカとのあいだで比較研究を実施し、体制転換の過程とその分析枠組みを系統的に探究することを目的とする。具体的には、まず、移行前までの社会経済構造や政治制度・構造を含め、体制転換過程のメカニズムを明らかにする。この作業は、政党、軍、市民社会の3つのテーマにそって実施し、政党や軍などのアクターの戦略、政治制度の特徴、歴史的背景、市民社会の状況を分析する。続いて、体制転換の背景と過程、今後の展望について、地域間の共通性と相違点を究明する。そうした成果は、中東欧・ロシアの事例からも検証される。そして、中東とラテンアメリカの各地域における共通性と相違点をふまえたうえで、地域を超えた共通性や相違の有無を探究し、生じている場合は、その背景や条件、過程を究明する。そのような作業を通じ、両地域の地域性について改めて考察する。

2013年度の
研究実施状況

本年度は、次の通り、3回の研究会および研究打ち

合わせ・意見交換を実施した。

●第1回

2013年5月23日 (京都大学稲森財団記念館)

研究打ち合わせ・意見交換：2年間の研究計画における役割分担、研究視座、アプローチの確認

●第2回

2013年7月13日 (京都大学稲森財団記念館)

末近浩太「体制転換における軍の役割：中東の事例と研究動向」

村上勇介「体制転換における軍の役割：ラテンアメリカ諸国に関する研究動向」

●第3回

2013年12月12日 (京都大学稲森財団記念館)

研究打ち合わせ・意見交換：中東とラテンアメリカの政治研究における比較可能な研究視座とアプローチにかんする議論

成果

3回の研究会・研究打ち合わせ・意見交換を通して、中東諸国とラテンアメリカ諸国における体制転換の歴史的経緯と先行研究および理論的広がりについての議論を重ねた。特に初年度の作業として、研究対象地域やアプローチの異なるメンバーのあいだでの知見の共有に重きを置いた。

第1回研究会では、各メンバーの研究対象地域・諸国について、政治体制とその歴史的変容にかんする基本情報を確認・共有した。中東諸国とラテンアメリカ諸国のいずれの研究においても、各国間の問題の所在が大きく異なる。そのため、政党、軍、市民社会の3つの共通視座を設定することで、地域間の比較研究を目指すことが再確認された。

第2回研究会では、体制転換における軍の役割に着目し、中東諸国とラテンアメリカ諸国のそれぞれの歴史的経緯と研究史についての概観を行った。中東諸国については、2011年の「アラブの春」で崩壊したのは、すべて20世紀中葉に革命・クーデタによって成立した軍事政権(ないしは軍人大統領による統治)であった。他方、ラテンアメリカ諸国については、軍による政治への干渉・介入の原因の探求を共通の問題意識とした上で、軍が体制転換の各段階(権威主義・民主化・民主主義への移行/定着)に対していかなる影響を及ぼすのかについて、各国の事例および先行研究を参照しながら概観した。このように、中東・ラテンアメリカの両地域において、軍が体制転換それ自体はもちろんのこと、その後の民主化の帰趨を大きく左右するアクターであることが確認された。

第3回研究会では、中東・ラテンアメリカにおける軍の影響力の強さを確認した上で、その動静を含めた体制転換のダイナミズムの解明のためにはいかなるアプローチが有効なのかについて、それぞれの地域にかんする先行研究および比較政治学の理論を敷衍しながら意見の交換を行った。そこでは、合理的、制度的、主観的アプローチの有効性を踏まえながらも、両地域（および地域内）の比較研究において、「差異のなかの共通性」を浮き彫りにすべく、社会階級、経済体制、政治システム、安全保障環境などマクロの視点から分析を進める構造的アプローチの可能性を追求することが確認された。

1. 相関地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の『地域』像(統括班)

1. ポスト・グローバル化期における国家社会関係

4. ユーロ危機下における南欧諸国のガヴァナンス変容：東欧諸国との地域間比較の視点から

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

横田 正顕（東北大学大学院法学研究科）

◆メンバー

伊藤 武（専修大学法学部）

小森 宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院）

泰泉寺 友紀（和洋女子大学人間・社会学系）

竹中 克行（愛知県立大学外国語学部）

西脇 靖洋（上智大学グローバル教育センター）

野上 和裕（首都大学東京大学院社会科学研究科）

平田 武（東北大学大学院法学研究科）

深澤 安博（茨城大学人文学部）

細田 晴子（日本大学商学部）

松森 奈津子（静岡県立大学国際関係学部）

八十田 博人（共立女子大学国際学部）

目的

2009年のギリシア財政問題を発端とする「ユーロ危機」は、ポスト・グローバル化時代の象徴としても重要であるが、この問題への取り組みにおいては、独仏のような欧州中核諸国の視点からのユーロ圏全域的分析がなお支配的であり、危機の中心舞台である南欧諸国の実態に注目した研究は希少である。

こうした現状を踏まえ、本共同研究では、南欧諸国における社会・経済的利益の表出、媒介、調整の構造が、ユーロ危機の複雑な展開の中で被りつつある変化について、政治学、歴史学、社会学などの研究分野の学際知に基づき、同じく欧州の非中核地域を構成する東欧との地域間比較の視点を取り入れつつ分析を行う。

すなわち本共同研究の目的は、(1) 対象諸国固有の条件と欧州通貨制度に内在する構造的脆弱性との共振作用の発現過程を明らかにし、(2) ユーロ危機下における「恒常的緊縮」という不可避の「外圧」がもたらす（であろう）ガヴァナンス構造の変容を、中長期的射程から比較考察することである。

2013年度においては4回の研究会の開催とともに、2013年8～9月、2014年3月には、横田、西脇、野上、八十田、細田、伊藤らの、各専門地域に対する出張調査が行われた。研究会の概要は以下の通りである。

● 第1回

2013年7月6日（参加者12名）

報告：村田奈々子（一橋大学）「現代ギリシアの政治状況とその歴史的背景」

● 第2回

2013年9月21日（参加者11名+α）

報告：楠貞義（関西大学）「クロスボーダーで『ゼロ和ゲーム』が跳梁する世界」

野上和裕「スペイン金融スキャンダルの政治的ディスコース」

● 第3回

2014年1月25日（参加者10名+α）

報告：伊藤武「現代イタリア福祉改革における政治力学」
中田瑞穂（明治学院大学）「欧州債務危機とチェコ共和国における既存政党政治の限界」
コメント：中井遼（早稲田大学）

● 第4回

2014年3月21日（参加者7名+一般参加者多数）

公開ミニシンポジウム：ジョアン・マリア・トマス（ルビライ・イ・ビルジーリ大学）、石田憲（千葉大学）、武藤祥（東海大学）「体制のイデオロギーと現実政治」

成果

共同研究初年度の研究活動の特徴は、共同研究正規メンバーによる学会報告と並んで、ゲスト講師と一般参加者を交えた個別の研究会が盛んに行われたことである。特に重要な収穫として、南欧・東欧諸国に今なお影響を与え続ける「ユーロ危機」の多様な側面についての理解が深まり、次年度研究の指針となり得る論点がいくつか提示されたことが挙げられる。

第一に、一口に「ユーロ危機」といっても、各国の危機発生経路、危機の深度、危機の直接的結果について、重大な差異があるという点が再確認された。例えば、スペインは不動産バブルの崩壊とともに政治経済的局面状況が暗転し、金融危機が引き金となって財政危機が発生し、劇的な政策転換や政権交代が生じたが、景気低迷の状態に突入したイタリアとポルトガルでは状況が異なる。また、イタリアとギリシアでは政治的不安定が生じて反システム政党が躍進したのに対し、スペインとポルトガルでの政局の推移自体は予測可能なものであった。

第二に、第一点に関連して、地域間比較の対象とし

て取り上げた南欧と東欧の間には、ユーロ圏に制度的に属しているかどうかとは別に、ユーロ危機の影響の差に大きな違いがあるという点が確認されたことである。学会報告と研究会において対象事例として取り上げられたハンガリーとチェコについては、近年における政党政治の限界や憲法危機といった事態が、必ずしも直近の経済危機の影響に起因しないことを示唆する結果が示された。

したがって第三に、それぞれの国における「ユーロ危機」自体の背景にある構造的問題の特定が、分析の上で極めて重要なポイントとなるということである。

1. 相関地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はか)る——21世紀の「地域」像(統括班)

2. 地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

Wil De Jong (地域研)

柳澤 雅之 (地域研)

◆メンバー

赤嶺 淳 (名古屋市立大学人文社会系研究科)

Youn Yeo-Chang (Seoul National University, Department of Forest Science)

Liu Jinlong (Renmin University of China, School of Agricultural Economics and Rural Development)

目的

気候変動とそれによる影響、食の安全、安全な水の確保、健康問題や生物多様性の保全など、自然環境資源をいかに確保するかという大きな課題は国内的にも国際的にも大きな関心事となっている。本複合共同研究「地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦」は、ローカルなひとびとの自然環境との実践的なかわりに焦点を絞った地域研究のアプローチにより、これらの世界的課題の解決に貢献することを目指す。これまでは地域研究の分野で行われてきたローカルな自然環境資源関連の研究課題をサポートし、ローカルな自然環境資源とのかかわりや実践をグローバルなプロセスと関連づける課題も含め、現在進行中の研究課題や萌芽的なアイデアを持つ研究課題とリンクし、さらに、より大きな枠組みでの研究ともリンクすることで、議論のためのより大きなプラットフォームを形成し、新たな価値を見出すことを目的とする。

2013年度の 研究実施状況

- ・2013年12月13日に、東南アジアの自然と農業研究会と共催し、「日本先史時代の栽培植物とその起源：最近の古民族植物学の研究成果から」と題する研究会を開催した。発表者小畑弘己（熊本大学文学部）
- ・2014年2月25～26日に、京都大学稲盛財団記念館にて、国際ワークショップ“Transition to Sustainable Forest Management and Forest Rehabilitation in Asian Countries: Case Studies and Comparative Analyses”を開催した。韓国、中国、フィリピン等からの外国人

成果

招待参加者12名とともに、初日は、森林変容の事例を各国別に報告し、地域横断的に比較検討した。二日目は、初日の議論を総括し、成果刊行物に向けた議論を行った。

研究会「日本先史時代の栽培植物とその起源：最近の古民族植物学の研究成果から」では、2000年代以降の古民族植物学的研究、とくに縄文時代の栽培植物に関する研究は、圧痕法やAMSによる炭素年代測定法の開発、種子や花粉の同定法の発展などに伴い大きな進歩を遂げ、その結果、特筆すべき成果として、これまで弥生時代に中国大陸から伝播したと考えられていたアズキやダイズが縄文人たちによって栽培が開始されたことが明らかになったことが、発見者によって報告され、関連する活発な議論を行った。

国際ワークショップ“Transition to Sustainable Forest Management and Forest Rehabilitation in Asian Countries: Case Studies and Comparative Analyses”では、森林変容の経済との関係（国民経済の状態や外国直接投資の影響）、政策との関係（国内の森林および環境政策、国際的な環境政策の影響）が議論され、各国の社会経済的条件を考慮した実証的研究の不足を埋める重要な成果につながる事が明らかになった。

1. 相関地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の「地域」像(統括班)

2. 地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦

1. 熱帯森林利用のローカル・ガバナンスの可能性に関する地域間比較研究

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

阿部 健一 (総合地球環境学研究所)

◆メンバー

石丸 香苗 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

大石 高典 (京都大学アフリカ地域研究資料センター)

大橋 麻里子 (東京大学大学院農学生命科学研究科)

小泉 都 (京都大学大学院農学研究科)

笹岡 正俊 (北海道大学大学院文学研究科)

竹内 潔 (富山大学人文学部)

竹ノ下 祐二 (中部学院大学子ども学部)

服部 志帆 (天理大学国際学部)

松浦 直毅 (静岡県立大学国際関係学部)

山越 言 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

Wil De Jong (地域研)

目的

本研究では、アフリカ、東南アジア、南米の熱帯森林帯における地域住民の社会文化と森林保護管理の間に生じている諸問題の比較考察を通じて、グローバルな自然保護理念が国家レベルの政策過程を介して作動している森林管理と地域社会における森林利用との間の懸隔を繋ぐ可能性を探求する。具体的には、森林に関わる地域住民の在来の生業活動・文化や住民の利害と森林保護に関わる省庁・自然保護NGOや先住権運動を進める人権NGOなどの外来のアクターとの諸関係を比較考察し、地域住民の森林管理への自律的参画を可能にする外部アクターとの「戦略的」交渉の環境条件を考究する。また、森林と結びついた住民の生活実践の論理や感性を本質論的に措定することを避けて、外部社会との交渉による変容や地域社会内部の認識的多様性の双方を視野におさめて動態的かつ多層的に捉える視座から、地域研究者のアドボカシーの理論的枠組みの構築を試みる。

2013年度の
研究実施状況

計3回5日間の研究会を開催し、アフリカ、東南アジア、南米の諸地域における熱帯森林と地域住民の関

係の事例の検討と住民による森林利用を内在的に捉えるための理論的枠組みについての討議をおこなった。事例報告では、対象地域の熱帯森林の生態学的特徴や地域住民が置かれている政治経済的環境を把握したうえで、森林保護施策と地域住民による森林利用の現況を検討し、他地域の状況との比較考察をおこなった。事例報告の内訳は、アフリカ2回(カメルーン・東部州)、東南アジア2回(インドネシア・セラム島、スマトラ島)、南米3回(ペルー・アマゾン流域、ブラジル・パラ州)である。理論的枠組みの構築については、各事例報告の討論で検討するとともに、問題提起のディスカッションを2回おこなった。研究会の詳細については、ホームページで公開している。

成果

(1) 事例報告から、以下のように、地域住民の森林利用の自律性やコミュニティ形成が、生態学的な環境条件や政治経済的条件に応じて多様な様相を示すことが明らかとなった。

(a) カメルーン東部では、狩猟採集民の生活文化に対する十分な配慮が伴わないゾーニングが政府やNGOによって施行されて、生業維持の困難や農耕民との民族間格差の増大を招いている。最近では狩猟規制の適用が過剰に厳格化されている。インドネシア・セラム島では、制度上は住民の慣習的利用が考慮されるゾーニングがおこなわれる仕組みになっているが、実際の森林管理は住民の狩猟活動や有用樹種の利用(arboriculture)の実態とは乖離しており、地域住民はこれらの生業活動をいわば「違法」におこなわなければならない状況にある。

以上から、どちらの地域においても、住民は森林管理の主要アクターになりえていない。

(b) ブラジル・パラ州では、所有地を持たない小農が放棄された二次林に流入して、コミュニティごとに多様なアグロフォレストリーを展開しているが、適応的な生業形態を確立したコミュニティは社会的にも安定した生活を営んでいる。また、ペルーのアマゾン流域では政府の施策による先住民コミュニティが設立されているが、コミュニティ内部で外部者に対する森林資源の利用と配分の範囲を調節している。一方、インドネシア・スマトラ島の泥炭湿地林では19世紀末から入植が始まって耕作地が拓かれてきたが、持続的なコミュニティを形成するよりも、住民は一定の現金を獲得すると他地域に転出する傾向が強い。

以上の南米とインドネシアの事例において、住民は

自律的な森林利用をおこなっているが、住民と森林環境の関係は前者と後者の間で対照的である。

(2) 事例報告及び理論的枠組みの討議を通じて、住民の自律性を評価考察するためには、地域住民と森林との関係を捉える「価値」概念（たとえば、「関係価値」）を明確にする作業が必須であることが明らかとなった。

1. 相関地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の『地域』像(統括班)

2. 地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦

2. アフリカにおける地域植生
と植物利用の持続可能性

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

山本佳奈(京都大学学際融合教育研究推進センター総合地域研究ユニット
臨地教育支援センター)

◆メンバー

伊谷 樹一(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

伊藤 義将(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

大石 高典(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

大山 修一(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

木村 大治(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

近藤 史(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

佐藤 宏樹(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

手代木 功基(総合地球環境学研究所)

友松 夕香(東京大学大学院農学生命科学研究科)

原子 壮太(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

平井 将公(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

藤岡 悠一郎(近畿大学農学部)

藤田 知弘(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

村尾 るみこ(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)

八塚 春名(国立民族学博物館)

山越 言(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

山科 千里(京都大学アフリカ地域研究資料センター)

目的

政治経済のグローバル化や社会の流動化が進む現代のアフリカにおいて、地域の植生や植物などの自然環境資源は、昔と形を変えつつも、多くの人々の生活基盤となっている。グローバルな変動のなかで、人々の植物利用は画一化する方向に向かうのではなく、ローカルな固有性に根差した動きが多様化する傾向が見いだされる。そうしたなかで自然環境資源の持続可能性を検討するためには、グローバルな変動のなかで発現するローカリティに目を向けていく必要がある。本研究では、アフリカの地域社会でフィールドワークを行う複数の研究者の参加のもと、アフリカにおける植生や植物利用の持続可能性の検討に向け、ローカル・スケールにおける植生の形成プロセスや管理の実践、植物利用の知恵や技術の継承などの実態を明らかにする。そして、データベースの活用や研究発表を通じたアフリカ内外の地域間比較により、ローカルな事象を

グローバル・スケールでの変動プロセスに位置付け、自然環境資源の持続可能性を検討することを目的とする。

2013年度の
研究実施状況

2年計画の1年目である本年度は、研究会の開催とデータベース構築をベースに進めた。研究会は全4回(うち1回は公開ワークショップ)開催した。

6月11日の第1回研究会では今年度の活動方針について協議した。第2回研究会は7月30日に開催し、「宗教と植物」をテーマに3名が発表し地域間比較を行った。11月12日には第3回研究会を開催し、「アフリカにおける油脂植物とその利用」をテーマに3名がワールドの事例を発表し、油脂源となる植物種やその利用について比較検討した。第4回研究会は2月1日に公開国際ワークショップを兼ねて開催した。“Honeybees, Flora and Subsistence: Sustainable Use of Insects for Human Consumption in Asia and Africa”というタイトルで、国内外で研究を行う4名がハチミツ採集やハチ-人関係に関して民族植物学や昆虫生態学など多角的な視点から討論した。

一方、データベースにかんしては、データ数の増加が重要な課題であることを改めて認識し、入力用データの学名のスペルチェック、フォーマット整備などの作業を進めた。

成果

研究成果の第一点目としてあげられるのは、データベースの活用に向けた可能性と課題を明らかにしたことである。第3回研究会では、データベースのキーワード検索を活用して油脂植物の学名や属名、その利用にかんするデータを抽出し、他の文献と比較検討した。その結果、(1) 油脂植物利用に関わる文化の地理的分布、(2) 油脂源植物およびその利用の多様性を検討するために、データベースの活用が有効であることが示された。一方で、今後の課題として、データおよび地点数の増加、科名・学名の精査などが必要であることが明らかになった。

第二点目の成果は、上記で明らかになった課題に対する取り組みとして、過去に収集して未整理のままになっている大量のデータについて科名・学名のスペルチェックおよび入力形式の整備をすすめ、744件のデータを入力可能にしたことである。

第三点目の成果は、テーマに沿った地域横断的な比較を行う研究会を通じて、植物利用の地域性と多様性、

またグローバルな変動による影響について多くの知見を得たことである。第2回の研究会では、「宗教と植物」という視点からチュニジア、ガーナ、ニジェールの各地における植物と人との関係について事例報告が行われたが、発表者と参加者を含めた議論のなかで、植物に対する人々の価値観の多様性や共通する事象が明らかになった。

1. 関連地域研究プロジェクト：
(地域)を測量(はか)る——21世紀の「地域」像(統括班)

3. 宗教実践の時空間と地域

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

林 行夫 (地域研)

小林 知 (京都大学東南アジア研究所)

◆メンバー

今中 博之 (アトリエ インカープ)

桶谷 猪久夫 (大阪国際大学国際コミュニケーション学部)

片岡 樹 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

川田 牧人 (中京大学現代社会学部)

熊谷 誠慈 (京都大学こころの未来研究センター)

藏本 龍介 (国立民族学博物館)

小嶋 博巳 (ノートルダム清心女子大学文学部)

志賀 市子 (茨城キリスト教大学文学部)

菅根 幸裕 (千葉経済大学経済学部)

村上 忠良 (大阪大学大学院言語文化研究科)

守川 知子 (北海道大学大学院文学研究科)

山田 協太 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

山田 仁史 (東北大学大学院文学研究科)

小島 敬裕 (地域研)

柴山 守 (地域研)

原 正一郎 (地域研)

目的

人々の暮らしのなかで繰り返される宗教実践が生む時空間と、その実践が創出する共同性や絆の様態と動態を、相関型地域研究の視点から比較検討することにより、宗教および地域の概念を再構築するとともに、研究資源を調査対象地や当該の人々を含めて共有する仕組みを考案する。前複合ユニットでは、国境を越えて広がった宗教的関心にもとづく人の移動、経典や聖具の伝播に焦点をあててそこに生きる人々の視点から地域空間の様態を解明した。その成果を踏まえつつ、概念としての宗教の超越性を前提とせず、宗教に関連した様々なモノやコト(聖地や施設、経典・図像、神話・伝承、宗派・儀礼行為)のマッピングと情報の共有化を推進させることにより、宗教実践の時空間が構築される歴史的な過程とその動態を明らかにする。

2013年度の
研究実施状況

本年度は、研究会3回と、データベース検討会1回を実施した。まず、2013年7月13日に地域研へ共同研究者を招へいし、各メンバーの研究紹介に加え、宗教

実践に関する諸資料の情報学的な処理とマッピングの最前線の成果を、柴山守と桶谷猪久夫による発表をもとに、検討した。

次いで、第2回研究会を、2013年12月14～15日に地域研で、個別ユニット「宗教実践における声と文字」(代表:村上忠良)と共催の形でおこなった。本複合ユニットからは、川田牧人、熊谷誠慈の2名の分担者が講演者として、フィリピンとブータンでおこなっている宗教実践の調査に関する発表をおこなった。ほか、個別ユニットからは、村上忠良、津村文彦(福井県立大学)、北田信(大阪大学)が発表をおこない、複合ユニットと個別ユニットの共同研究者のあいだの相互理解と意見交換を進めた。第3回研究会は、2014年2月23日に地域研でおこない、藏本龍介、山田協太がミャンマー、スリランカの都市の宗教施設に関する発表をおこなった。

また2014年2月17日に、分担者の守川知子を京都に招へいし、中東地域のイスラーム巡礼に関する歴史資料の可視化とマッピング構築の検討会を、柴山守ほか若干名の参加によりおこなった。さらに、個別ユニット「『功德』をめぐる宗教実践と社会文化動態に関する比較研究:東アジア・大陸東南アジア地域を対象として」(代表:長谷川清)との共催で、「日本仏教寺院におけるテラワダ仏教実践の一例:スリランカ長老を迎えての瞑想」(於:山口県下松市誓教寺)において班員の若干名が参加して研修と参与観察を実施した。

成果

初年度となる本年度は、分担者による個別事例の報告と課題をめぐる総合討論を主とした活動をおこなった。個別報告では、地域研究・地域情報学から文化人類学、宗教学、建築史などを専門とする研究者に話題提供を依頼し、学際的立場から新しい宗教研究の視角と方法に関する討論を重ねた。個別ユニットとの合同集会や研修活動は、研究対象とする課題の成り立ちを複合的に捉える意味でも意義あるものとなった。そしてその過程で、宗教現象に関わるヒトの移動や施設のマッピングについて、前複合ユニットで進められてきた経験的データの統合と共有化の方法を、東南アジア、日本、中東の諸地域へ展開するための地平を築きつつある。宗教というラベルを使わないで宗教の現実をモノ、場所と動きから捉える試みは、参加者間での意見の相互共有とともに、すこしずつ深められたように思われる。

1. 相関地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の「地域」像(統括班)

3. 宗教実践の時空間と地域

1. 移動と宗教実践：地域社会の動態に関する比較研究

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

小島 敬裕 (地域研)

◆メンバー

片岡 樹 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

兼重 努 (滋賀医科大学医学部)

島村 一平 (滋賀県立大学人間文化学部)

藤本 透子 (国立民族学博物館民族文化研究部)

王 柳蘭 (地域研)

林 行夫 (地域研)

和崎 聖日 (地域研)

目的

近年のグローバル化の進展により、地域や国境を越えた移動の活性化は普遍的な現象となっている。それにとともに、宗教の実践者たちも移動を繰り返し、より広範な地域における人々とネットワークを築くとともに、地域の宗教実践に従来にないダイナミズムをもたらしている。本研究の目的は、こうした流動化が進む現代の地域像を、宗教の視点から読み解くことである。そのためにまず、多様な地域、宗教を研究対象とする研究者が事例を報告し、宗教的職能者を始めとする人や、聖典・図像といったモノの特定地域を越える移動の実態とともに、特定地域を越えるネットワークを明らかにする。次に、こうした移動が生み出す地域の宗教実践の動態や、移動の背景にある動機や社会変動について分析する。最終的には、従来の研究において前提としてきたことがらを異なる角度から再検討するとともに、現代における宗教や地域社会の動態に関する新たなパースペクティブの構築を目指す。

2013年度の
研究実施状況

今年度は、3回の研究会を実施した。第1回研究会(2013年7月7日)では、小島敬裕が趣旨説明を行った後、「ミャンマーにおけるパラウン族の移動と宗教実践」について発表した。第2回研究会(11月30日)では、島村一平「鉱山を渡り歩くシャーマン：モンゴルにおける地下資源開発と『依存的抵抗』としての宗教実践」、

矢野秀武(駒澤大学)「タイの宗教関連行政プロジェクトにおける人・情報の移動とその水路付」の2本の発表を行った。第3回研究会(2014年2月1日)では、王柳蘭が「在神戸中国系キリスト教会の現状と課題にむけて」、長縄宣博(北海道大学)が「ロシアのヴォルガ・ウラル地域におけるイスラーム教育ネットワークの形成と変容」について発表した。

発表で扱われた宗教は上座仏教、キリスト教、イスラーム教、シャーマニズム、地域的にも東南アジア、モンゴル、ロシア、日本と多岐にわたり、個別事例に関する議論を行うとともに、比較研究のための論点を整理した。

成果

研究会で行われた議論は多岐にわたるが、個別事例の比較から得られたおもな知見は以下の諸点である。

第一に、人やモノの移動が地域の宗教実践に動態をもたらす現象は、特にポスト社会主義国において顕著に見られる点である。本研究会では、ポスト社会主義時代に経済が活性化したモンゴルにおいて、特に鉱山都市で次々にシャーマンが誕生し、宗教実践の動態をもたらしている現象が報告された。またソ連崩壊後のロシアにおいては、特に1990年代以降、中東への留学者が増加して新たなイスラーム教育ネットワークが形成された結果、彼らが帰国後に外来の宗教的知識をもたらす一方で、従来の宗教実践との間に軋轢も生じたことが明らかになった。

第二に、以上のような体制変動や社会変化のみならず、国家の主導する宗教行政も人の移動を促進する一つのファクターとなっている点である。具体的には、現代タイの仏教式学校プロジェクトによって出家者が道徳教育に従事するようになった結果、僧侶の地方への移動が促進されつつある事例が紹介された。

第三に、移動の活発化によって他地域の文化や宗教との接触が生じると、外来の宗教実践の影響が強くなる一方で、特に言語に関しては、独自の実践が維持されるばかりでなく、構築される場合さえ見られる点である。神戸における中国系キリスト教会では、中国語による礼拝や説教が在日華人たちを惹きつけており、またミャンマーの少数民族パラウンは、異なる文化や宗教実践と接触したエリートたちが民族語を用いた実践を創出している事例が示された。

1. 関連地域研究プロジェクト：
〈地域〉を測量(はか)る——21世紀の「地域」像(統括班)

3. 宗教実践の時空間と地域

2. 「功德」をめぐる宗教実践
と社会文化動態に関する比較研究：東アジア・大陸東南アジア地域を対象として

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

長谷川 清 (文教大学文学部)

◆メンバー

飯國 有佳子 (大東文化大学国際関係学部)

片岡 樹 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

加藤 真理子 (一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン)

兼重 努 (滋賀医科大学医学部)

黄 蘊 (関西学院大学言語教育研究センター)

小西 賢吾 (大谷大学真宗総合研究所)

小林 知 (京都大学東南アジア研究所)

志賀 市子 (茨城キリスト教大学文学部)

藤本 晃 (浄土真宗誓教寺)

丸山 宏 (筑波大学大学院人文社会科学研究科)

村上 忠良 (大阪大学大学院言語文化研究科)

吉野 晃 (東京学芸大学教育学部)

小島 敬裕 (地域研)

林 行夫 (地域研)

目的

本研究は、東アジア・大陸東南アジアの仏教文化圏において「善行の結果として得られる果報」という意味合いで用いられる「功德」を対象とし、それに関わる観念の地域的な広がりや社会的意義、実践形態の多様性について比較を試みた「功德の観念と積徳行に関する地域間比較研究」(2010～2012年度)の問題領域を引き継ぎ、そこで得られた成果と知見をもとに、宗教実践と地域空間との相関性や社会的位相をめぐる諸問題の解明に向けて地域間比較を行うものである。特に、社会文化動態という視角から、以下の検討課題——①「功德」をめぐる宗教実践やそれについての人びとの「語り」(例えば、救済観や災因論との関係など)、②家族・親族・村落・地域社会などの多様な社会空間において宗教実践を通じて生み出される社会的つながりや共同性のかたち、③関連する宗教施設や儀礼的装置・用具などのヴァリエーション、④宗教的伝統を異にするコスモロジーや死生観、諸神霊の混

淆・融合・併存の状況等——について比較検討し、「功德」をめぐる宗教実践が地域空間や人びとの日常生活世界の構成にいかに関わっているかについて、その動態やメカニズムを明らかにする。

2013年度の
研究実施状況

2013年度は3回の共同研究会を開催し、11本の口頭発表(趣旨説明、前プロジェクトの総括を含む)と議論を行った(於：京都大学稲盛財団記念館他)。

●第1回共同研究会

2013年6月29日

趣旨説明：長谷川清

兼重努「第一期プロジェクトの成果と今後の課題」

西本陽一(ゲストスピーカー)「雲南ラフ族における『佛』信仰と村落祭祀空間」

●第2回共同研究会

2013年9月28～29日

林行夫「功德を食べる人びと：食施からみる上座仏教徒社会の身体と功德」

吉野晃「ユーミエンの〈架功德橋〉儀礼テキストに見られる〈功德〉観念」

長谷川清「ビルマ仏の流通と功德のネットワーク」

藤本晃「積徳行・功德回向の二つの系統とその混淆」

●第3回共同研究会

2014年1月25～26日

小西賢吾「倫理と行為のあいだ：チベット、ボン教徒における『ゲワ』概念と供養塔建設」

黄蘊「マレーシアという地域空間における仏教徒の移動と多様化する『功德』観念」

志賀市子「清末の救劫経にみる功德観とその拡大過程：19世紀の嶺南地域を中心に」

兼重努「積徳行としての橋づくり：西南中国・トン族の事例から」

成果

それぞれの「功德」観とそれに基づく宗教実践は、宗教伝統の違いを背景とする個別的な社会文化的文脈のなかでどのように意味づけられているか、宗教空間や実践の「磁場」形成にいかなるヴァリエーションを与えているか、人びとの社会的絆の創出や共同性の構築とどのような関係にあるかについて議論を進め、以下の論点や比較研究の視角が浮かび上がった点が成果である。

(1)「功德」観念の多様性と宗教実践の重層／補完性：コミュニティ・レベルの「功德」とそれをめぐる諸実践は民俗的な世界観や象徴性を背景にして多様なかたちで展開しており、要素間の併存、対立・競合、混淆の様態が認められ、輪廻的な世界観を前提としない現

世利益への志向性も指摘できるが、祖先崇拜、死者供養、精霊祭祀との関係性の検討も重要である。

(2) 社会的絆の創出メカニズムと身体性:「功德」のシェアと「周流」は社会的絆の創出を促す役目を帯びており、コミュニティ・レベルの社会関係に活性化をもたらす要因である。食事の布施には「功德」を分け合って食べるという身体性を媒介としたメカニズムが働き、宗教空間における社会的凝集に物質的な基盤を提供している。

(3) 在地的な「公共性」の表出と積徳行:宗教施設、モニュメント、公共建築物などの建設や修復の行為を通じて、「功德」の獲得を可能にする在地社会の「公共性」が創出され、世俗的な権威や社会秩序の維持に関わっている。

(4) 宗教実践の「磁場」形成と社会・文化動態:特定の宗教空間や宗教実践の「磁場」において人びとが受容する宗教的テキスト、聖物、仏像などのフローや、聖職者・在家者のネットワーク形成は、脱地域的/越境的な宗教運動や社会文化現象が生成する動因として「救済」に関する言説の流通・拡散や人びとの宗教的ニーズなどに根拠を与え、「功德」観の多様性や混濁化に結びついている。

1. 関連地域研究プロジェクト:
(地域)を測量(はか)る——21世紀の「地域」像(統括班)

3. 宗教実践の時空間と地域

3. 南欧カトリシズムの変容と
福祉ビジネスの展開に関する
地域間比較

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013~2014年度

◆代表

藤原 久仁子 (大阪大学大学院言語文化研究科)

◆メンバー

久野 聖子 (同志社大学グローバル地域文化部)

Joe Inguanez (マルタ大司教区)

Jon Mitchell (サセックス大学文化研究センター)

Fiorella Giacalone (ヘルージャ大学人文学部)

松嶋 健 (京都大学人文科学研究所)

安田 慎 (帝京大学経済学部)

目的

2013年7月にクロアチアが加盟したことでEU加盟国は28カ国となり、ユーロ圏も人口3億人を超える規模となった。欧州の平和と民主主義の向上に貢献したとして、EUは2012年にノーベル平和賞を受賞している。

一方、中東・北アフリカ地域で本格化した民主化運動の結果、ヨーロッパのなかでも船で到着しやすい南欧に難民が集中し、欧州経済危機が深刻さを深める状況と相まって、南欧地域に様々な社会問題をもたらしている。本研究の目的は、援助や庇護を求める国内外からの人びとの割合が増大する南欧地域の福祉を、カトリックの慈善事業、民間福祉、フィランソロピー、CSR (企業の社会的責任)、行政、有償・無償のボランティア、投資、サービスなど様々な文脈を相互参照しながら一体的に検討することを通じて、現代南欧地域の福祉の複合体を明らかにすることである。

2013年度の
研究実施状況

2013年度は研究会を2回実施した。

●第1回研究会

2014年1月13日13:30~18:00

(京都大学稲盛財団記念館)

藤原久仁子「趣旨説明・福祉ビジネスの人類学と地域研究」
全員「長期的テーマと2年間(本共同研究)のテーマ」
藤原久仁子「マルタの難民政策とイエズス会: Hospitality in Actionのローカルな展開をめぐって」

●第2回研究会

2014年2月16日13:00~18:00

(京都大学稲盛財団記念館)

成田真樹子 (長崎大学)「スペインの直接投資と労働市場」
 吉川卓郎 (立命館アジア太平洋大学)「ヨルダンの難民政策:
 承認をめぐる議論の整理と考察」
 安田慎「国際観光市場におけるイスラミック・ホスピタリ
 ティ:承認と包摂をめぐる議論の展開」

成果

近年、国家以外の様々な福祉の担い手 (actors) に対する関心の高まりから、福祉国家に代わる概念をめぐる議論が進められている。とはいえ、実際にどのような協働や対抗の図式を取りながら福祉が全体として地域社会で実践されているかについては未だ明らかとなっていない部分も多い。特に、南欧社会に関してはエスピン＝アンデルセンによる地域別福祉類型論を補完するかたちで、家族主義的福祉レジーム (南欧モデル) が議論されてきたが、南欧モデルを下支えする家族やコミュニティのあり様それ自体が変わりつつあるなか、また、難民の大量流入や経済危機という時事的な問題を抱えるなか、南欧福祉が現在どのような変動や展開を経験しているかは明確となっていない。

そこで本共同研究 (初年度) では、新たな展開を見せつつある現代南欧福祉に関し、マルタ、イタリア、スペイン、シリア、ヨルダン、エジプトをそれぞれフィールドとし、文化人類学、経済学、国際政治学、歴史学、社会学、福祉学など専門領域を異とする研究者で研究会を行い、(1) 本共同研究で共通して追求できるテーマの設定、(2) 分析対象の明確化、(3) 地域研究から各学問領域への貢献という視点の共有化を図った。以上から見えてきたのは、難民とEUという本研究のテーマ設定において、ヨーロッパへの「帰着点なき進出」を可能とするシェンゲン協定、そして欧州対外国境管理協力機関 (FRONTEX)、人工衛星やドローンを駆使した欧州国境監視システム (EUROSUR) など最新の管理システムの構築に注視しながら、「監視 (サーベイランス)」の持つ遠隔性と自動化と、特定の人のびとではなく流動的な人びとを対象にした福祉をめぐる複数の担い手 (actors) の交流や調整の様相を捉えることの重要性かつ困難さである。人権論、非日常の常態化論、シチズンシップ論、コミュニティの再編論で描かれるような国家に包摂される難民像ではなく、帰着点なき進出を繰り返す「通過中」の難民が会う actors や直面する問題から見えてくるヨーロッパ地域像を描くという視点を共有できたことが、研究を進める上での今年度の成果として挙げられる。

1. 関連地域研究プロジェクト:

〈地域〉を測量(はかる)——21世紀の『地域』像(統括班)

3. 宗教実践の時空間と地域

4. 宗教実践における声と文字:
東南アジア地域からの展望

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013~2014年度

◆代表

村上 忠良 (大阪大学大学院言語文化研究科)

◆メンバー

池田 一人 (大阪大学大学院言語文化研究科)

伊藤 悟 (国立民族学博物館)

片岡 樹 (京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)

川田 牧人 (中京大学現代社会学部)

北田 信 (大阪大学大学院言語文化研究科)

小林 知 (京都大学東南アジア研究所)

津村 文彦 (福井県立大学学術教養センター)

Nathan Badenoch (京都大学東南アジア研究所)

船山 徹 (京都大学人文科学研究所)

山根 聡 (大阪大学大学院言語文化研究科)

吉本 康子 (国立民族学博物館)

小島 敬裕 (地域研)

林 行夫 (地域研)

目的

東南アジア地域には、仏教、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教がそれぞれの時代背景のなかで受容され、土着の宗教世界を大きく変容させてきた。これらの聖典(経典)を有する宗教と共にもたらされた文字は単に音声言語を表記する技術にとどまらず、土着の宗教世界の実践の影響を受けつつ、「書かれたもの」の聖性(正統性)を生み出し、さらに宗教的な領域を超えて、人々の歴史意識や民族意識にも大きな変革をもたらしてきた。本研究の目的は、東南アジアとその隣接地域(東アジア、南アジア)における宗教実践における口承と書承の関わりについて、①東南アジア地域内の比較研究と、②東南アジアと隣接地域(東アジア、南アジア)との比較研究を行うことである。特に本研究では、声から文字へ、紙から電子メディアへ、秘匿されたものから公共のものへ、あるいは呪術から合理的精神へとといった一方向の過程ではない、声と文字の輻輳的な関係に着目する。

2013年度の
研究実施状況

2013年度は3回の研究会を開催し、研究報告と議論を行った。

●第1回研究会
2013年7月28日

村上忠良「趣旨説明・宗教実践における声と文字についての論点整理」
参加共同研究員全員「研究テーマの紹介」

●第2回研究会
2013年12月14～15日（複合ユニット「宗教実践の時空間と地域」との共同開催）

熊谷誠慈「ブータンにおける宗教実践：経典と教義の伝承」
川田牧人「フィリピン・ビサヤ地方におけるモノ／コト／コトバ：民衆キリスト教世界を横断する聖像師と呪術師」
村上忠良「シヤンの仏教文書文化における声と文字：タイの他の仏教文書文化との比較より」
津村文彦「タイにおけるタトゥーの現在：文字、図像、身体」
北田信「音楽と絵画：北インド古典音楽と南アジアの美意識」（実演をまじえて）
※北田信（解説・サロード演奏）、上坂朋也（タブラー演奏）

●第3回研究会
2014年3月4日

山根聡「パキスタンにおける邪視をめぐる習俗：ことばの力」
片岡樹「タイ大乘仏教徒の経典リテラシーとその特徴」

成果

今年度の研究会での口頭発表と議論から明確になった点は以下の通り。

①身体行為の重要性

宗教実践における口承や書承においては、身体的行為の社会文化的な意味の重要性が共通点として認められた。研究会では、仏教書の朗読・拝聴（村上報告）、大乘経典の唱和（片岡報告）、呪文・呪図を身体や所有物の上に刻み描くこと（津村・山根報告）、描かれた呪文・呪図・絵画を見ること（津村・山根・北田報告）、聖像にまつわる奇跡譚の語り（川田報告）についての報告がなされた。これらの身体的行為は、単純に情報伝達の効能を超えて、その対象となる声や文字の力を生成させる働きを持つことが共通している。

②媒体（メディア）間の相互性

オーラリティとリテラシーの二項対立的な把握への批判的議論を踏まえた上座仏教・大乘仏教における声と文字の関係性への関心（村上・片岡報告）に加え、絵画と音楽（北田報告）、図像と文字（津村・山根報告）、聖像《モノ》と語り《コトバ》（川田報告）という媒体間の相互関係に注目する報告がなされた。単に二つの媒体の間に協同（collaboration）があることを指摘するだけではなく、協同関係の内実の解明の必要性が議論された。

③リテラシーの多様性

宗教実践における文字知識の運用は、聖典語や俗語の文字的知識の有無という単純な指標では測れず、「朗読に特化した専門家」「他者の朗読を拝聴することでテキストを共有する在家信徒」（村上報告）、「文字知識だけでは唱えられない大乘経典の唱和」（片岡報告）、「何が書いてあるか知っているが文字自体は読めない呪文や呪図使用」（津村・山根報告）、「書かれたものをもとに新たな語りを生み出す聖像崇拜者」（川田報告）など多様な実態が報告された。（文字）知識の社会的配分の分析に加え、その運用形態への着目が共通点として明らかとなった。

2. 地域情報学プロジェクト： 地域情報学の展開（統括班）

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

原 正一郎（地域研）

◆メンバー

貴志 俊彦（地域研）

柳澤 雅之（地域研）

目的

地域研究の課題の一つは、変化・連動し影響しあう地域の理解である。そのためには「比較」を通じて各地域の個性をより明確に把握するとともに、地域と地域がどのように相互に「関係」しながら世界の一部を構成しているかという視点が不可欠である。この「比較」と「関係」というキーワードは情報学的手法の展開が期待される場所である。

しかし、情報学は明確なノルムと手続きによりデータを計量的に処理することを目指しているのに対して、地域研究を構成する人文学研究領域では定性的あるいは非数値的な内容を解釈的に処理することが多く、統計処理などに代表されるコンピュータ処理には馴染みにくい。これが相関型地域研究への地域情報学の展開が遅々として進まない原因の一つであると考えられる。

一方で、人文学史資料であっても時空間属性や主題（人物、事件、事象等）に注目した計量化はある程度可能であり、地域情報学ではその研究を継続している。同時に地域研究においても基本史資料のデジタル化が進んでおり、情報学的分析の素地が整いつつある。

そこで本統括班では、地域情報学および地域情報資源共有に関わる複合研究プロジェクトとの協働により、これまでの成果を駆使しつつ、相関型地域研究への地域情報学からの展開の可能性を試みる。

2013年度の 研究実施状況

本統括班のもとに、「『地域の知』の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開」（代表：原正一郎）、「非文字資料の共有化と研究利用」（代表：貴志俊彦）、「CIAS所蔵資料の活用」（代表：柳澤雅之）の3つの複合班を配置した。ただし2013年度は本統括班への予算配分を行わず、独自の研究活動は実施しなかった。

成果

詳細は各複合班の報告書を参照。

- ①「『地域の知』の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開」複合班
 - ・資源共有化システムおよびMyデータベースに関する研究開発と運用。
 - ・時空間情報処理ツールに関する研究と応用。
 - ・テキストマイニングによるトピック検出と時空間変化に関する研究。
 - ・カリフォルニア大学バークレイ校東アジア図書館のOPACおよび歴史地図を、資源共有化システムを利用して、本センターデータベースと共有化するための技術的検討。
 - ・「ライフとグリーン」（東南研）研究成果国際共有化班とのコラボレーションによる、旧ソ連、外邦図、アジア一般地図データベースの改修と統合検索システムの構築。
 - ・「リポジトリ事業」（地球研）とのコラボレーションによる、semantic web技術を利用した地名辞書（日本歴史地名およびタイ地名）の構築に関する研究。
- ②「非文字資料の共有化と研究利用」複合班
 - ・個別研究ユニットとの学術討論会を合同開催。
 - ・公益財団法人東洋文庫等との連携により、戦前の写真、写真帳、画報類のウェブ・アーカイブを公開。
 - ・非文字資料データベースの連携（統合）を進めるため、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、米国ラファイエット大学等との協議を開始。手始めに、人文研所蔵の華北交通写真2レーン分のデジタル化と共有方法について共同討議を実施。
- ③「CIAS所蔵資料の活用」複合班
 - ・インドネシア・スマトラ島でのフィールドノートの記録を用い、共起する語句間の関係にもとづいたテキストマイニング手法の分析と検討を行った。
 - ・首都大学東京の渡邊英徳研究室に依頼して、グーグルアースを利用した可視化システムを構築し、タイムスライダーや検索機能を付加したデータベースを作成した。
 - ・森林の写真データベースでは、写真とそのキャプション等に加えて、Myデータベースに必要な位置情報を付加し、可視化のプロトタイプを作成した。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

1. 「地域の知」の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

原 正一郎（地域研）

◆メンバー

飯島 渉（青山学院大学文学部）

石川 正敏（東京成徳大学経営学部）

桶谷 猪久夫（大阪国際大学国際コミュニケーション学部）

川口 洋（帝塚山大学経営情報学部）

五島 敏芳（京都大学総合博物館）

後藤 真（花園大学文学部）

関野 樹（総合地球環境学研究所）

内藤 求（株式会社ナレッジ・シナジー）

山田 太造（東京大学史料編纂所前近代日本史情報国際センター）

貴志 俊彦（地域研）

柴山 守（地域研）

ジュリアン・ブルドン（地域研）

林 行夫（地域研）

柳澤 雅之（地域研）

山本 博之（地域研）

目的

「地域の知」に関する情報学的な手法の開発を試みる。そのため、これまでの時空間属性に加えて、語彙の構造に注目した地域情報学の構築を目指す。複合研究ユニットとして、以下の2点に主眼を置く。

①地域情報学の地域研究への展開

複合および個別研究ユニットから幾つかのテーマ（例えばフィールドノートや記述疫学）を選び、地域研究情報基盤を構成するMyデータベース・REST形式API・共有化メカズム・時空間情報処理ツール等を駆使したデータ収集・組織化・計量化・可視化・分析等を主体とした、情報学パラダイムに基づく地域研究を推進する。

②研究プロジェクト等とのコラボレーション

これまでの地域情報学では未着手であったテキストデータの処理と曖昧な時空間表現に関する研究に着手する。テキストデータには5W1Hに関する多様な記述が含まれているが、これらを識別するマークアップ（あるいは準ずる記述）と構造化（意味的な関連づけ）を施さなければ、コンピュータによる処理は困難である。また識別できたとしても「頃」や「辺り」など曖昧な

表現のままでは利用できない。これらをどのように処理したら良いか、語彙および時空間の視点から実証的に研究を進める。

2013年度の
研究実施状況

個別ユニット「地域に関する時空間基盤情報の収集・蓄積」（代表：関野樹）、「地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究」（代表：山田太造）および科研費・基盤研究（A）「地域保健活動を指標とした『地域の知』の計量的分析手法の開発：東北タイを事例に」（代表：原正一郎）と共同で4回の研究会と、各研究テーマを自由に討論するための研究懇談会を6回開催した。また、FIT2013（情報処理学会）、PNC2013および人文科学とコンピュータシンポジウムにおいてセッションを企画し、研究成果の発信や様々な分野の研究者を交えた討論を行った。

①研究会

●第1回研究会

2013年6月1日

京都大学稲盛財団記念館

テーマ：地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究、HGISにおける時間情報の「これまで」と「これから」等

●第2回研究会

2013年9月28日

京都大学稲盛財団記念館

テーマ：遺跡情報のオントロジー体系化
高谷好一『地域研究アーカイブズフィールドノート集2 スマトラ』のシステムフォローアップ等

●第3回研究会

2014年1月18日

京都大学稲盛財団記念館

テーマ：地域の「時空間の知」

●第4回研究会

2014年2月8日～9日

東京大学史料編纂所大会議室

テーマ：資源共有化システムとは
人間文化研究機構の資源共有化事業について等

②研究懇談会

2013年4月5日、7月5日、8月9日、11月22日、12月20日、2014年3月22日

成果

①地域情報学の地域研究への展開

・研究者あるいは小規模プロジェクト等が収集した地域研究資料の蓄積・公開・利活用を支援する「Myデータベース」について、(a) 可用性の向上を目指した

機能拡張、(b) 利用者講習会の開催、(c) API (ユーザサイドの検索プログラミング機能サービス) を利用したデータベース構築事例と経験の蓄積を進めた。具体的な成果として、(a)書籍内の記述とMyデータベースに蓄積された動画をQRコードで共有したマルチメディア単行本『国境と仏教実践』(CIAS叢書「地域研究のフロンティア」、小島敬裕著)、(b) MyデータベースのAPI機能を駆使して、雑誌記事画像データと翻刻テキストデータの連携を実現したマルチメディアデータベース(『カラム』雑誌記事データベース)等をあげることができる。

- ・空間情報処理ツール(HuMap)の機能拡張(基礎地図の座標系の多様化)を継続した。
- ②研究プロジェクト等とのコラボレーション：
 - ・「地域に関する時空間基盤情報の収集・蓄積」(代表：関野樹)および「地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究」(代表：山田太造)については各報告書を参照。
 - ・カリフォルニア大学バークレイ校東アジア図書館のOPACおよび歴史地図を、資源共有化システムを利用して、本センターデータベースと共有化するための技術的検討を開始した。
 - ・「ライフとグリーン」(東南研)研究成果国際共有化班とのコラボレーションにより、旧ソ連、外邦図、アジア一般地図データベースの改修と統合検索システムを構築した。
 - ・「リポジトリ事業」(地球研)とのコラボレーションにより、資源共有化システムおよびMyデータベースに蓄積された「地域の知」の高度利用を目指して、semantic web技術を利用した地名辞書(日本歴史地名およびタイ地名)に関する研究を継続した。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開(統括班)

1. 「地域の知」の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開

1. 地域に関する時空間基盤情報の収集・蓄積

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

関野 樹 (総合地球環境学研究所)

◆メンバー

奥村 英史 (ヒューマンオーク)

加藤 常員 (大阪電気通信大学工学部)

久保 正敏 (国立民族学博物館)

山田 太造 (東京大学史料編纂所前近代日本史情報国際センター)

米澤 剛 (大阪市立大学大学院創造都市研究科)

貴志 俊彦 (地域研)

柴山 守 (地域研)

原 正一郎 (地域研)

星川 圭介 (地域研)

目的

地域情報学については、これまで時空間情報解析ツールHuTime/HuMapを中心にツールの開発が進められ、地域研究をはじめとする様々な分野でこれらのツールを使った研究が展開されている。その一方で、時空間情報の解析に必要な基盤的な情報の不足が明らかになってきた。つまり、HuTime/HuMapで用いるデータを生成するには暦や地名に関する情報が必要であり、また、データを表示するにはその背景となる時代区分や行政界などの情報が必要になる。さらに、特定の研究課題や材料について論じるためには、それぞれのテーマに沿った年表や地図などのデータが用いられる。

本研究は、地域研究者が持つ「知」を結集し、これらの基盤情報を様々な地域や時代およびテーマについて収集・提供することにより、「地域の知」を時間軸や空間軸に沿って比較・検証するための共通の足場を構築しようとするものである。これにより、地域情報学の学問的、社会的な新たな役割を見出すことを目指す。

2013年度の 研究実施状況

複合ユニット「『地域の知』の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開」および個別ユニット「地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究」と共同で4回の研究会を開催する

とともに、研究上のアイデアや課題を自由に討論する場としての研究懇談会を6回開催した。また、PNC2013や人文科学とコンピュータシンポジウムでセッションを企画し、研究成果の発信や様々な分野の研究者を交えた討論を行った。

①研究会

●第1回
2013年6月1日

HGISにおける時間情報の「これまで」と「これから」、ほか（全3件）

●第2回
2013年9月28日

遺跡情報のオントロジー体系化、次世代時間情報システム、ほか（全5件）

●第3回
2014年1月18日

特集：地域の「時空間の知」（全4件）

●第4回
2014年2月8～9日

人間文化研究機構の資源共有化事業について、ほか（全3件）

②研究懇談会

2013年4月5日、7月5日、8月9日、11月22日、12月20日、2014年3月22日



①データフォーマットとデータ構築方法の確立

第1回の研究会では、時間に関する基盤情報のデータ構築に関連して、暦の識別子や暦カタログの構造、暦の変遷や日付の表記の揺れへの対応といった技術的な提案がなされ、それぞれの地域から集めるべき情報の内容についての検討が進められた。また、時間基盤情報へのsemantic web技術の応用について試験的なシステムが構築された。

空間に関する基盤情報については、semantic web技術に基づいたフォーマット（RDF）でデータ設計・構築が進められるとともに、国内を対象とした既存の地名辞書とタイの地名を扱った地名辞書を比較しながら、データ構造の違いなどに対応する方法が検討された。

②データ収集

第3回の研究会で、「地域の『時空間の知』」と題した特集を組み、本ユニットの研究目的や計画について説明するとともに、地域研の研究者3名から各々の対象地域について空間・時間の基盤情報について歴史的な経緯や現状、利用可能な研究資源などについて報告があった。それぞれの発表タイトルは下記のとおり。

・地域の「時空間の知」

- ・ベトナムの「時空間の知」
 - ・マレーシア・インドネシアにおける「時空間の知」
 - ・タイにおける歴史・地名資料と暦について
- 討論では、地域の特徴に応じたデータ収集の進め方や、それぞれの研究・調査活動と基盤情報の収集との連携などについて意見交換が行われた。なお、この研究会の内容は、報告書としてまとめ、関係者等に配布している。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

1. 「地域の知」の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開

2. 地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

山田 太造（東京大学史料編纂所近代日本史情報国際センター）

◆メンバー

大向 一輝（国立情報学研究所）

小野原 彩香（同志社大学大学院文化情報学研究所）

清野 陽一（京都大学大学院人間・環境学研究所）

関野 樹（総合地球環境学研究所）

永崎 研宣（一般財団法人人文情報学研究所）

深川 大路（同志社大学文化情報学部）

帯谷 知可（地域研）

柴山 守（地域研）

原 正一郎（地域研）

柳澤 雅之（地域研）

目的

本研究では、地域研究に関するテキスト資料を対象として、そこからトピック（ここでは共起する語彙により特徴付けられるカテゴリーを指す）を検出し、トピックの時空間的变化を追跡することで、事象の時空間的構造を明らかにするデータ工学的な手法の確立を目指す。特に以下の2点に着目する。

①地域研究史資料テキストからのトピック検出および時空間変化追跡手法の確立

テキストから特徴語（テキストを特徴付ける語）を抽出し、同質な特徴語をクラスタリングすることでトピックを検出する。特に、時空間語彙に着目した特徴語のクラスタリングを行うことで、トピックの時間的・空間的遷移を追跡する。

②トピック追跡をもとにした地域に関するデータの構造化

上記の成果をもとに、データ間において潜在的に形成されるリンクを構造化する。このとき、semantic web（Webページに記述された内容をコンピュータ分析できるように記述する方法および分析法）の表現方法を利用することにより、トピックとその時空間変化、さらには地域研究史資料を、再利用や他の目的で使用可能かつ意味構造を表現しうる形式で表現する。

2013年度の
研究実施状況

複合共同研究ユニット「『地域の知』の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開」および個別共同研究ユニット「地域に関する時空間基盤情報の収集・蓄積」との共同で研究会を4回開催し、人文科学領域における時空間情報処理の可能性について、多様な研究領域の研究者が考え方や問題点を共有し、研究の方向性を見出すことを目的とした研究懇談会を6回開催した。テキスト利用・分析に関する打ち合わせを2回開催した。さらに、人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2013」（2013年12月9日～14日、場所：京都大学百周年時計台記念館）において、企画セッション「『地域の知』の情報技術」を開催した。

①研究会

●第1回研究会

2013年6月1日

京都大学稲盛財団記念館

テーマ：地域研究データにおけるトピックの検出と時空間変化に関する研究、他3件

●第2回研究会

2013年9月28日

京都大学稲盛財団記念館

テーマ：高谷好一『地域研究アーカイブズ フィールドノート集2 スマトラ』のシステムフォローアップ、他5件

●第3回研究会

2014年1月18日

京都大学稲盛財団記念館

テーマ：地域の「時空間の知」

●第4回研究会

2014年2月8日、9日

東京大学史料編纂所大会議室

テーマ：資源共有化システムとは、他4件

②研究懇談会

2013年4月5日、7月5日、8月9日、11月22日、12月20日、2014年3月22日

③打ち合わせ

2014年2月17日、3月10日

成果

本年度は研究目的で掲げた「地域研究史資料テキストからのトピック検出および時空間変化追跡手法の確立」を達成すべく、以下の4点について重点的に取り組んだ。

(a) 地域研究史資料からのテキスト作成

高谷好一著『地域研究アーカイブズフィールドノート集2 スマトラ 1984.10.19-1985.1.18 スマトラほぼ全域』を対象に、柔軟なテキスト検索・分析等の実施のため、検索・分析を行う上で必須となるテキストの基本単位（ここではテキストユニットと呼ぶ）を決定し、テキスト構造の洗い出しを行い、テキスト化を行った。

(b) テキストからの特徴語抽出

(a) で作成したXMLデータからテキストユニットにおける特徴を示す用語（特徴語）の抽出を行った。

(c) トピックの検出

(b) で抽出した特徴語を、その共起性に注目することで分類を行った。LDAにより分類した特徴語の集合は、テキスト内に潜在するトピック（潜在的トピック）として検出される。検出した潜在的トピックにより、各テキストユニットの特徴を定量的に示すことができた。

(d) トピックの時間的・空間的遷移の追跡

(c) で検出した潜在的トピックを (a) で作成したテキストデータに反映することで、テキスト内における時間的・空間的变化に伴う潜在的トピックの遷移を確認しうるシステムのプロトタイプ化を行った。さらに、このプロトタイプシステムに対し、(c) により求めた潜在的トピックによるテキストユニット特徴を用いて、類似するテキストユニットを探索する機能を実装した。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

1. 「地域の知」の情報学：時間・空間・語彙に注目した地域情報学の展開

3. 学術論文のマッピング・システムを通じた地域情報の統合と共有化

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

山本 博之（地域研）

◆メンバー

市川 哲（立教大学観光学部）

及川 茜（神田外語大学外国語学部）

黄 蘊（関西学院大学言語教育研究センター）

横田 祥子（滋賀県立大学人間文化学部）

目的

地域誌（地域研究の論文）を研究対象の地名により地図上にマッピングして表示することで、地名から学術研究の動向（どのような研究が行われているか）や研究者情報（誰がどのような研究を行っているか）を検索できるようにし、特定地域に関する地域研究の知見の蓄積（＝「地域の知」）を統合的に可視化するシステムを開発する。細分化された分野ごとになされる学術研究の蓄積を、地理情報を活用して研究対象地域ごとに分類することで、特定地域に関する情報の全体像を把握する助けとなる。これにより、研究者による研究成果の相互参照を助けるだけでなく、研究者以外で特定地域の情報を必要とする人々（たとえば報道、外交、行政、企業などの各分野の実務者）が地域研究の知見を活用しやすくなることが期待される。

2013年度の
研究実施状況

マレーシアに関する日本語、英語、マレー語の学術誌、エッセイ、研究大会口頭発表について主要なものを選定して情報を収集し、発表者、発表タイトル、発表時期、概要、研究対象などの項目を入れた記事リストを作成した。学術誌の記事は一部をPDFファイルとした。これらの情報をもとに、地域研で作成・公開しているMyデータベースによりデータベース化し、どの項目をどのように記述すると利用しやすいデータベースになるかを検討した。また、情報技術に長けていない人でも初歩的な情報処理を行う方法として、(1) マレー語のテキストを機械処理するには接頭語・接尾

語を除いた語幹の形を得る必要があるため、エクセルを用いて登録済みの語幹と対照させながら接頭語・接尾語を取り除く仕組みを試みた。(2) 複数の記事の概要をもとにキーワードを抽出する仕組みを試みた。

成果

今年度は、主に基礎的なデータを収集し、簡単なデータベースを作成して、データの収集・整理の簡便さとデータベース利用の際の都合の噛み合わせを検討した。

以下の記事リストを作成し、Myデータベースによりデータベース化した。

- ・『アカデミカ』（マレーシア国民大学、英語・マレー語、第1巻（1972年）より第82巻第1号（2012年）まで575件分）
- ・『マレーシア研究』（マレーシア理科大学、英語・マレー語、第1巻第1号（1983年）より第30巻第1号（2012年）まで524件分）
- ・『ボルネオ研究報』（ボルネオ研究協議会、英語、第1巻第1号（1969年）より第41巻（2010年）まで944件）
- ・『知識探訪』（日本マレーシア学会、日本語、第1期第1回（2009年）より第2期第37回（2013年）まで63件）

これらのデータベースを利用することで、(1) 記事名や概要が日本語、英語、マレー語の3言語で書かれていることについては、オリジナルのデータが複数言語で提供されている場合はそれを利用し、そうでない場合はさしあたり機械翻訳の結果を与える。(2) マレーシアに関する記事の分類項目は、利用状況とデータ作成の簡便さを天秤にかけて地名、分野、民族の3つとする。(3) マレー語の接頭語・接尾語については、-lah、-kah、-nya、-mu、-kuは落とすが、それ以外のものは落とすべきか残すべきか（たとえばsatuとbersatuを同じ単語として処理するか別の単語として処理するか）については結論が出なかった。テキストの性格によるかもしれないため、アチェ津波モバイル博物館（災害情報）、『カラム』雑誌記事データベース（宗教と社会）、マレーシア映画データベース（映画）のデータと比較して検討を続けることとなった。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

2. 非文字資料の共有化と研究利用

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

貴志 俊彦（地域研）

◆メンバー

石川 禎浩（京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター）

小野寺 史郎（京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター）

川島 真（東京大学大学院総合文化研究科）

呉 孟晋（京都国立博物館学芸部）

小林 聡明（慶熙大学哲学科・韓国）

白山 眞理（日本カメラ博物館）

孫 安石（神奈川大学外国語学部）

瀧下 彩子（東洋文庫）

武田 雅哉（北海道大学大学院文学研究科）

田島 奈都子（青梅市立美術館）

陳 來幸（兵庫県立大学経済学部）

丸田 孝志（広島大学大学院総合科学研究科）

谷川 竜一（地域研）

目的

テキスト資料とともに、図画像資料、映像資料、音声資料などの、いわゆる非文字資料は、個人、機関を問わず、国内外に少なからず所蔵されており、近年その利用価値が再認識されている。本プロジェクトは、ディシプリンを超えて、それら非文字資料の共有化を進める方法を検証するとともに、それらを他のメディアと比較参照させることで、非文字資料の特徴や、その問題点をとらえ、学術利用の可能性を拡げることが目的としている。その際、留意している点は、非文字資料の表現手段やその効果が、特定の政策や機構、メディアやテクノロジーによって規定されるだけでなく、その底流には、人びとのアイデンティティや集合的記憶、国家観や時代認識など、さまざまなファクターが深くかかわっていることにある。こうした観点から、非文字資料がもつ資料としての特徴、解釈や分析の方法をも共有化することを重視している。

2013年度の
研究実施状況

①非文字資料の研究利用方法を共同討議

各個別研究ユニット「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」、「20世紀前半のサハリン島に関する歴史的記憶」、「集

合的記憶と中東欧地域の音楽：比較研究に向けてのデータベース構築」との連携を強化し、合同で学術カンファレンスを主催した。

②非文字資料の共有化の試みを公開

公益財団法人東洋文庫等との連携により、戦前の写真、写真帳、画報類のウェブ・アーカイブを公開した。

③諸機関とデジタル・アーカイブの研究連携を協議

非文字資料データベースの連携（統合）を進めるため、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター、米国ラファイエット大学等との協議を開始した。手始めに、人文研所蔵の華北交通写真2レーン分をデジタル化し、これらを共有する方法について共同討議をおこなった。

成果

①非文字資料の研究利用の試み

各個別研究ユニット等との共同討議により、第二次世界大戦、つづく冷戦の時代に用いられたビジュアル・メディアの共通点に留意することが必要であることが確認されるとともに、報道、広報、宣伝、プロパガンダの各機能の選別の方法を明らかにすること、ピラ、画報、写真、イラスト、漫画などのメディア媒体のメソッドの相互影響について分析する必要があることで共通認識が得られた。とりわけ、こうした非文字資料分析にはジェンダー的視点が不可欠であること、戦争の時代に顕在化するジェンダー問題は現代にも引き継がれていることに留意すべきことが確認された。

②非文字資料のデジタル・アーカイブ化および公開

公開が滞っていた非文字資料を公開するためには、資料の内容を実見し、所蔵先と利用者がデジタル化作業の意義についての共同認識をもつ必要がある。幸いにもプロジェクト初年度は、公益財団法人東洋文庫との連携が実現し、共同で非文字資料のデジタル・アーカイブを構築することができた。ただ、横断検索、地理上へのプロット方法、類似画像の検索方法、画像分析の方法など、非文字資料のタグ付けや分類など、残された課題も少なくない。これらの課題は、次年度以降に持ち越された。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）
2. 非文字資料の共有化と研究利用
1. 写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析
個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

杉村 使乃（敬和学園大学人文学部）

◆メンバー

池川 玲子（実践女子大学）

加納 実紀代（敬和学園大学人文学研究所）

神田 より子（敬和学園大学人文学部）

桑原 ヒサ子（敬和学園大学人文学部）

平塚 博子（日本大学生産工学部）

松本 ますみ（敬和学園大学人文学部）

貴志 俊彦（地域研）

目的

戦時下において、雑誌やポスターに見られる写真やイラストなどの非文字メディアは、各国の戦争の大義を国民に確信させ、戦争へと動員するうえで大きな役割を果たした。またこれらは、各国の民族政策やジェンダー秩序、また「国民」形成を正当化するうえで大きな役割を果たしてきた。本研究グループは、主に第二次世界大戦下、イギリス・アメリカ・中国・ドイツ・日本において刊行された女性雑誌・一般大衆誌に掲載された表紙・グラビア写真や諷刺画などを一次資料とし、そのジェンダー・エスニシティ表象を分析し、国際比較を行う。第二次世界大戦は各国が国民総動員の下に戦った総力戦であった。ここでは特にこの時期を対象とし、連合国・枢軸国、双方のメディア戦略を調査した上で、大衆メディアにおける非文字資料の表象分析を行い、ジェンダーとエスニシティの交錯を考察する。また、収集した非文字資料の分析方法と共有化に向けての方法論を模索する。

2013年度の
研究実施状況

関連プロジェクトの科研費・基盤研究（C）「大衆メディアに見る第二次世界大戦期と戦後秩序の中のジェンダー・エスニシティ」と連携し、資料の収集、分析を進める一方、研究会・ワークショップ（テーマ「非文字資料に見るジェンダー・エスニシティの表象分析：資料の共有化と研究利用に向けて」）を2回実施した。

● 第1回研究会

2013年8月3日13:00～17:00 (敬和学園大学尋心館)、4日13:00～17:00 (新潟市万代市民会館研修室)

報告者および報告タイトル:

貴志俊彦「非文字資料をめぐる国際共同研究の試みとその課題」

金恵信 (青山学院大学)「モガと遊女を語り、描くということ: 植民地期朝鮮における文化表象を中心に」

● 第2回研究会

2014年2月24日13:00～17:30、25日10:00～17:30 (京都大学稲盛財団記念館)

報告者および報告タイトル:

林田敏子 (摂南大学外国語学部)「軍隊のなかの女性たち: 二つの大戦に見るジェンダーとセクシュアリティ」

杉村使乃「写真週刊誌『ピクチャー・ポスト』に見る第二次大戦下の女性のジェンダー・セクシュアリティ」

佐藤守弘 (京都精華大学デザイン学部)「写真は透明なメディアか?: ヴィジュアル・カルチャーと歴史」

池川玲子「1970年代のパルコポスターに見るジェンダーとエスニシティ」

成果

本共同研究で検討中のポイントは以下の二点である。一つめは、第二次世界大戦下の大衆メディアにおけるエスニシティ・ジェンダー表象に関する日本、ドイツ、アメリカ、イギリス、中国各国の大衆メディアの表象の個々の分析と国際比較である。もう一点は、この研究でこれまで収集してきた画像などの非文字資料の共有と研究利用の方法の模索である。前者に関しては、研究会での報告、議論を通して、特に女性の戦時活動については既成のジェンダー秩序を揺るがすものであったことが明らかになった。しかし一般大衆向け雑誌と、女性を読者対象とした雑誌では、「女らしさ」と女性の活動の表象に差異が見られることが明らかになった。戦時下のメディアでは総力戦にふさわしい「国民」の再生産のために言説と画像が意識的に操作され、戦況によって女性やエスニックグループを国家にとって都合良く包摂・排除するため、表象には揺らぎが見られることが明らかになった。

後者のポイントに関しては、一次資料として扱った雑誌の表紙や写真のアーカイブ化、また共有の現状を明らかにした。アメリカの『ライフ』やイギリスの『ピクチャー・ポスト』、そして日本の『アサヒグラフ』などウェブ上で公開されているもの、またすでに復刻版が出版されているものもあるが、一方で現地の図書館でも閲覧が難しいものも多くある。また大量の画像分析を可能にする類似画像検索システムの導入が可能

かどうか、関連研究開発を行っている企業を訪問し、検討した。この研究においては、各地域における同時代の共通事項（政治、娯楽、ファッションなど）の比較検討を可能にする精度が必要であるが、現時点では希望する精度と導入可能な条件を満たすものは見つからない。

2. 20世紀前半のサハリン島
に関する歴史的記憶

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

兔内 勇津流（北海道大学スラブ研究センター）

◆メンバー

石渡 明（東北大学東北アジア研究センター）

井澗 裕（北海道大学スラブ研究センター）

丹菊 逸治（北海道大学アイヌ・先住民研究センター）

土屋 範芳（東北大学大学院環境科学研究科）

三木 理史（奈良大学文学部）

目的

20世紀前半はサハリンにとって、激動の時代であった。すなわち二度にわたって日露・日ソ間の戦場となり、その都度国境線が大きく変わったのである。それと同時に、住民構成も大きく変わった。そのため、サハリン島には、日本によって建立された記念碑と、ロシア・ソ連によって建立された記念碑の両方がある。また、日本国内にも、サハリン・樺太史にまつわるさまざまな記念碑が建立され、現存するものもあれば、すでに現存しないものも存在する。これらは、それぞれの社会の中に歴史的な記憶をとどめるために機能した。本研究は、そうした20世紀前半のサハリン島史にまつわる島内、および日本国内の記念碑等のありかた、およびそこから読み取れる日本およびロシアにおける歴史伝承のされ方を読み解くことを目的とする。また、併せて、スラブ研究センターが最近入手した、北サハリンの油田開発に関する写真帖を学際的に分析し、その忘れられた記憶の読み解きを試みる。

2013年度の
研究実施状況

本年度は、親ユニット「非文字資料の共有化と研究利用」などと合同ワークショップ「非文字資料研究の理論構築に向けての事例検討I」を、2013年6月30日に北海道大学で開催した。

その後、7月20日に、北海道大学において、メンバー全員の参加による打ち合わせを行い、2014年1月11日には、仙台市で、日本による北サハリンの石油開発史を扱った研究会を、本ユニットの第1回研究会として開催した。

成果

また、関係資料を広く公開し、今後の学際的な利用を推進するため、植村氏旧蔵アルバム3冊を含む5冊の写真帖をデジタル化し、併せてキャプションの翻刻を行い、2014年2月末に、これをウェブサイト上に公開した。

北海道大学スラブ研究センター所蔵の北樺太写真帖については、その内容を関係文献と照合した結果、農商務省地質調査所が1919年と1921年に、海軍の委託と支援を受けて行った北樺太産油地（一部産炭地）調査に技師として参加した、植村癸巳男氏（1893年～？）のアルバムであることが判明し、海軍の輸送艦の利用、平取アイヌの協力など、当時の調査の実情の一端を明らかにすることができた。この調査の資料の多くは、関東大震災で地質調査所が被災し焼失したと考えられ、その意味でも有意義な発見である。

日本による北樺太の石油開発は、その後、北辰会（1921年設立）を経て、北樺太石油株（1925年設立）に引き継がれ、ソ連とのコンセッション契約によって採掘が行われたが、1944年に終了を余儀なくされた。北樺太石油株の資料の一部は、帝国石油を経て、現在は国際石油開発帝石株に引き継がれていることが判った。また、スラブ研究センターが所蔵する、牛島信義氏旧蔵の北樺太石油調査関連資料の素性についても、明らかにすることができた。

戦前期日本が樺太において行った調査は、朝鮮、台湾など、他の植民地と並ぶものであるように思われるが、日本の地質学の歩みを回顧して1953年に刊行された『日本地質学会史：日本地質学会60周年記念』において、樺太についてはその道の専門家が執筆せず、叙述が南樺太に限られて、北樺太については触れないなど、主だった関係者は存命だった中で、一種の空白がある模様である。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

2. 非文字資料の共有化と研究利用

3. 集合的記憶と中東欧地域の音楽：比較研究に向けてのデータベース構築

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

福田 宏（地域研）

◆メンバー

池田 あいの（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

岡本 佳子（東京大学大学院総合文化研究科）

神竹 喜重子（一橋大学大学院言語社会研究科）

中村 真（大阪大学大学院文学研究科）

半澤 朝彦（明治学院大学国際学部）

松本 彰（新潟大学人文学部）

棟朝 雅晴（北海道大学情報基盤センター）

吉村 貴之（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

目的

本研究の目的は、中東欧地域における国民音楽（特に民謡）を比較検討しつつ、集合的記憶における音楽の機能を明らかにしようとするものである。フランス革命の際、シャンソン（歌）が情報伝達手段として機能し、大衆を動員する上で重要な役割を果たした点は既に指摘されている（ブラス『革命下のパリに音楽は流れる』2002）。識字率が低かった当時の社会においては、新聞の朗読や演説会といった手段も活用されていた。だが、集団での歌唱によって感情を高揚させる機能を持ち、人から人への伝播が比較的容易な歌は、集合的記憶の形成という点において最も重要なメディアであったと言えるだろう。そこで本研究では、国民形成に影響を与えた歌を網羅的に収集し、そのデータベースを構築すると共に、地域・国民単位での歌の記憶形成機能をパターン化して把握することを目的としたい。

2013年度の
研究実施状況

初年度となる2013年度においては、比較の前提となる議論の枠組を設定することに重点を置いた。国民音楽については、個々の事例については研究が進んでいるものの、比較する試みについては意外にも少ない。また、歴史学・音楽学・民俗学といった人文諸科学の中でも研究成果が十分に共有されておらず、かなりの程度の認識のギャップが存在する。例えば、歴史学・

政治学の分野ではナショナリズムに対する構築主義的な理解が定着しており、国民史を批判的に再検討する作業が行われてきたが、音楽学の世界では国民を原初主義的に理解する傾向が強い。そのため、初年度においては、ワークショップおよびパネル・ディスカッション等により、主として歴史学と音楽学の立場から知見を持ち寄り、データベース構築を行うに当たって、何が課題となり、何が必要となるかについて検討した。

成果

9月に地域研にてワークショップ、10月に政治経済学・経済史学会にてパネル・ディスカッションを開催した。これらの会合では様々な分野から参加者を得ることができ、議論を行うための共通の土台を一定程度形成することができた。だが、ここで改めて浮き彫りとなったのは、人文社会科学と情報学とのギャップの大きさである。音楽情報科学研究会（SIGMUS）の活発な活動に見られるように、ここ数年の研究の進展はめざましいものがある。だが、そうした成果は人文社会科学において共有されていない。例えば、エッセン音楽データベースには、世界各国の民謡が約1万曲収集されており、音楽情報学の分野で積極的に活用されているが、歴史学や音楽学の研究者には知られていない。たとえ知っていたとしても疑いの眼で見ていることが多いのが実情である。その根底には、情報学で音楽を分析することに対する不信感が存在する。

そのため、次年度において課題となるのは、人文社会科学の研究者にとって有用と思われるデータベースの構築である。既述のように、音楽情報学の分野では相当の研究蓄積があり、活用されているデータベースも既に存在する。このユニットにおいて課題とすべきは、既存の実績に屋上屋を架すことではなく、文系と理系の共同研究を進展させるようなデータベースのあり方を提示することである。

3. CIAS所蔵資料の活用

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

柳澤 雅之（地域研）

◆メンバー

帯谷 知可（地域研）

貴志 俊彦（地域研）

柴山 守（地域研）

ジュリアン・ブルドン（地域研）

原 正一郎（地域研）

目的

地域研（CIAS）が所蔵する、映像・画像・フィールドノート・古文書・公文書・新聞情報・統計資料等を組み合わせた、地域研究関連のさまざまなデータベースを利用して、情報学の技術を援用した新しい地域研究（地域情報学）の展開を目的とする。そのために、CIAS所蔵資料のみに依拠するのではなく、他の資料と組み合わせた新しい研究の展開や、地域研究のなんらかの特定課題の解決に寄与するような、データベースを活用した新しい研究アプローチの検討も目的として含まれる。これらを通じ、地域研究の促進に必要な、データの収集、共有、分析、発信の方法を検討し、地域情報学の展開を促進することが本複合共同研究ユニットの目的である。

2013年度の
研究実施状況

複合共同研究では、とくにフィールド・データベースと森林の写真データベースに焦点を当てた研究活動を進めた。フィールド・データベースでは、高谷好一（京都大学名誉教授）による現地の観察記録であるフィールドノートの記述をデータベース化し、それと同時にテキスト分析を行った。データベースとしては、ウェブデザインの第一人者である首都大学東京の渡邊英徳研究室と協力し、グーグルアースを用いた可視化を行った。また、CIASのMyデータベースに登録すべき、メタデータの整理を進めた。森林の写真データベースでは、山田勇（京都大学名誉教授）による森林景観の写真データを用いて、Myデータベースに登録するためのメタデータの整理と、可視化作業を進めた。

成果

フィールド・データベースでは、インドネシア・スマトラ島でのフィールドノートの記録を用い、東京大学史料編纂所の山田太造氏の協力を仰ぎながら、共起する語句間の関係にもとづいたテキストマイニングの手法を用いて分析を行った。異なる語句数5千以上の中から30のグループを抽出し、地域研究の視点からテキストマイニングの妥当性を検討した。不要語の抽出や形容詞の扱い方の検討、グループ間のクラスター分析等を行い、グループの意味づけを検討した。その結果、歴史的な情報と、現代的な景観観察とが分類されることがわかった。また、明確な意味づけが可能なグループが存在し、研究目的に応用可能であることが明らかになった一方、意味づけが不明瞭なグループも存在し、さらなる文書の検討が必要であることがわかった。また、首都大学東京の渡邊研究室に依頼して、グーグルアースを利用した可視化システムを構築し、タイムスライダーや検索機能を付加したデータベースを作成した。

森林の写真データベースでは、写真とそのキャプション等に加えて、Myデータベースに必要な維持情報を付加し、可視化のプロトタイプを作成した。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

3. CIAS所蔵資料の活用

1. 書誌情報データベースの地域情報学的新展開を探る

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

帯谷 知可（地域研）

◆メンバー

坪井 祐司（公益財団法人東洋文庫）

兔内 勇津流（北海道大学スラブ研究センター）

藤本 透子（国立民族学博物館）

柴山 守（地域研）

原 正一郎（地域研）

目的

本研究は、地域研（CIAS）においてデータベース整備が進められている同センターの所蔵資料「石井米雄京都大学名誉教授蔵書コレクション」（以下、「石井コレクション」）および「トルキスタン集成」を主たる素材として、基本的には書誌情報に基づいて構築されるようなコレクション・データベースを、図書館的な書誌情報検索にとどまらない、より地域研究にとって意味のある形へと新たに展開させていく方向性を探ることを目的とする。具体的には、情報学的手法としてオントロジーを活用し、書誌情報やキーワードの連関・連想を導く形のデータベースを想定する。これら二つのコレクション個々のデータベース化の成果を取りこみつつ、書誌情報データベースの今後の展開のひとつの方向性としてオントロジーを活用した手法の一般化を目指す。

2013年度の 研究実施状況

2013年度は、「石井コレクション」データベース構築および「トルキスタン集成」データベースリニューアル版構築の進捗状況や手法を共有・確認しつつ、双方のデータベース構築担当者が話題提供し、ブレイクストーミング的なディスカッションを行う研究会を2回開催した。また、研究会での議論を受けて、「トルキスタン集成」データベースにおける全文検索機能付与の可能性を探るため、既存の多言語対応OCRソフトによって、旧正書法で書かれ、場合によっては活字の極めて見にくいロシア語がどの程度読み取り可能かの実験を行った。

研究会の詳細は以下の通り。

●第1回研究会

2013年11月28日（京都大学稲盛財団記念館）

報告：帯谷知可「『トルキスタン集成』DB構築の進捗状況について」

柴山守「『トルキスタン集成』目録の語彙分析」

●第2回研究会

2014年3月14日（京都大学稲盛財団記念館）

報告：帯谷知可「『トルキスタン集成』の全体像の提示に向けて：書誌情報整備の完了にあたって」

成果

研究会においては、先行する「石井コレクション」データベース構築の事例をもとに、書誌情報とキーワードで構成される語彙体系で意味空間を考えるためのしくみ、そのための語彙分析の重要性、時空間データの可視化事例などについて議論が行われ、「トルキスタン集成」の事例ではそれらは意味を持つか、持つとすればそれらをどのような形で適用すべきかを検討した。特に問題となるのは、「石井コレクション」の例ではこのコレクションに地域研究の観点からもフィットするキーワード群として既存のある図書分類カテゴリーをそのまま利用することが可能であったが、「トルキスタン集成」の場合にはいくつかのキーワード群が錯綜しているという点であり、その整理が重要課題であるとの認識に至った。

各々のデータベース構築の成果としては、「石井コレクション」データベースは「血の通った」検索が可能なバーチャル図書館として2013年度中に公開された。「トルキスタン集成」については、CIAS地域情報学プロジェクトとの協力のもと、懸案であった書誌情報整理を終了し、これまで存在しなかった同集成全594巻すべてをカバーする別冊の巻別目次『「トルキスタン集成」全594巻巻別インデクス』（CD）を作成した。これによって「石井コレクション」データベースを参照しつつ、書誌情報をベースとした地域情報学データベースの2例目として次のステップを検討するための準備ができた。

2. 『乾隆京城全図』と空間画像史料を用いた「華北・北京歴史データベース」の構築

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

北本 朝展（国立情報学研究所）

◆メンバー

西村 陽子（東洋文庫）

貴志 俊彦（地域研）

目的

本研究の目的は、CIASと国立情報学研究所（NII）との共同研究を通して、

- (1) CIAS所蔵データである「戦前期絵はがきデータベース」
- (2) NIIのデジタル・シルクロード・プロジェクト（以下DSR）がデータベース化した公益財団法人東洋文庫所蔵の北京および華北地方の古写真
- (3) 京都大学人文科学研究所が所蔵する「華北交通株式会社」撮影写真資料

という三種の資料群を対象とし、

- (ア) 華北地域の古写真の活用・読み解き方法に関する検討
- (イ) 特に北京に関する古写真の詳細な読み解きとデータベース化

に関する研究を進めることにある。特にNIIがすでにデジタル化と幾何補正を行って「古都北京デジタルマップ」として公開した1750年の北京古地図である『乾隆京城全図』（以下、古地図）を用い、古地図と古写真を相互参照して読み解く手法を開拓する。また、その結果をデータベース化することで、絵はがき・古写真・古地図という空間情報を含む画像史料（空間画像史料）から北京の景観や都市機能を抽出し、歴史データベースとして蓄積・利用できるようにする。

2013年度の
研究実施状況

本年度は2つのテーマについて研究を進めた。第一に、古写真の読み解きに関する研究として、CIAS所蔵資料「華北交通株式会社写真」（以下、華北交通写真）のデジタル化済み資料（全36,534点のうち14,158点）

を整理し、古写真の撮影場所などを台紙から拾って基本的なメタデータを抽出するとともに、データベース化に向けた準備作業を進めた。この調査により、華北交通写真の記録対象の約7割について、撮影場所を特定できた。第二に、古写真の読み解きを支援するツールの開発として、モバイルアプリ「メモリーハンティング」（メモハン）の初期バージョンを完成させた。これは、古写真の撮影場所を正確に特定する作業を支援するものであり、モバイル端末のカメラ上に古写真を半透明で表示して撮影することで、古写真の撮影場所に関するメタデータと撮影場所の現在景観とを同時に取得できるという機能を備える。このアプリにより、古写真の撮影場所を現地で探して記録する作業を簡単化できた。

成果

(1) 古写真の読み解き

華北交通写真に関する基本的なメタデータの抽出として、特に撮影場所の推定を目指し、以下の手順で複数の史料間の照合を進めた。

- ①固有名抽出：写真台紙上に記された地名や鉄道路線名の抽出。
- ②華北交通関係史料の整備：鉄道駅、自動車事業部・蒙疆汽車公司自動車の長距離バス停、内河水運事業の中継地のリスト化。
- ③同一性の判定：写真史料上の固有名と華北交通関係の固有名との同一性の判定。判定の確度を高めるため、アルバムでの出現順も活用。

この結果、写真台紙に出現する地名は華北交通株式会社所管の鉄道駅・長距離バス路線・運河中継地に限定されており、鉄道駅640余のうち写真が存在する駅は151駅、そして全14,158点のうち10,284点（内訳：鉄道駅関連写真6,568枚、北京市内写真3,716枚）の地名が確認・推定できるなど、史料の現状を把握できた。

(2) モバイルアプリの開発

Android版モバイルアプリ「メモリーハンティング」（メモハン）の開発を進め、初期バージョンを完成させた。基本となるアイデアは、半透明に表示した古写真の背景に現在の景観を重ね合わせることで、両者の重なりをカメラ画面上で直接的に確認した上でシャッターを押し、古写真の撮影場所を示すメタデータを記録するというものである。今年度は、カメラ・地図・写真管理の基本機能に加えて、サーバにデータをアップロードする機能を実装した。このアプリをさらに改良すれば、様々なプロジェクトの古写真を対象

に、撮影場所を特定するワークショップやクラウドソーシング等の方式でメタデータを付与できるようになると期待できる。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

3. CIAS所蔵資料の活用

3. 映画に見る現代アジア社会の課題

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

篠崎 香織（北九州市立大学外国語学部）

◆メンバー

及川 茜（神田外語大学外国語学部）

小野 光輔（株式会社和エンタテインメント）

野沢 喜美子（株式会社プレノンアッシュ）

深尾 淳一（映画専門大学院大学）

西 芳実（地域研）

山本 博之（地域研）

目的

本研究は、地域研所蔵のマレーシア地域映画コレクションを利用してマレーシアおよびその近隣諸国の地域社会に関する研究を行うとともに、映像資料（とくに劇映画）を用いた地域研究の方法の提示を試みる。研究代表者はこれまでに地域研の公募共同研究を通じてこの映画コレクションを用いた地域研究の方法を模索してきた。その過程で、マレーシアでの文献調査やフィールド調査によって得られた知見とマレーシア映画を照らし合わせ、マレーシア社会の課題が映画にどのように現れるかについて、外部からもたらされる脅威（テロ、災害、病い）、「父」の不在と血筋や文明の継承、移住者と多言語状況などのいくつかのテーマを得た。マレーシア映画は、登場人物や物語の舞台設定、作り手が国境を超えていることが多く、他の地域への広がりを持つ。そのため本研究では、これまでの研究成果を踏まえ、マレーシア映画を中心に関連するアジア諸国・地域の映画にも対象を広げ、映画を通じた地域社会の課題の現れ方を検討する。また、その検討作業を通じて、地域研究の専門性を活かした映画データベースのあり方を検討する。

2013年度の 研究実施状況

研究会1回、公開シンポジウム6回（うち2回は日本国内の国際映画祭と連携）を行い、ブックレットや論文などの出版物を刊行した。

①研究会（2013年6月16日、学士会館）

本年度の研究計画および活動について打ち合わせを

行った。またマレーシア映画および関連地域（シンガポールおよびインドネシアなどの東南アジア周辺国、中華圏、インド、日本など）の映画についての情報共有・意見交換を行った。

②公開シンポジウム

公開シンポジウムを実施し、地域研究者が映画を切り口に現代アジアの課題を読み解く場を設け、地域研究の資料として映画を扱う方法論を検討した。シンポジウムで取り上げた作品はいずれも、複数の国や地域（マレーシア、シンガポール、日本、韓国、香港など）を跨いで物語が進展する作品となった。またアジアフォーカス福岡国際映画祭、大阪アジア映画祭などと連携して公開シンポジウムを行い、映画研究者、映画制作者、映画に携わる実務家とも国内外で連携を図った。

③出版

シネ・マレーシア（2013年5月24～31日、オーディトリウム渋谷）と連携したブックレット『マレーシア映画の現在2013』を刊行した。編集および掲載論文25本中21本の執筆を本プロジェクトの共同研究員が担当した。共同研究員による論文も個別に公表された。

成果

シンポジウムで取り上げた作品や、それらの作品と内容や作り手の系譜などの点で関連する作品において、人の移動という要素がほぼ例外なく物語を展開する一つの背景となっていた。現実の社会では、自己実現の手段として移動する人たちが増えつつあり、そうした状況が映画の中にも日常の風景として映し込まれている。こうしたなかで映画は、家族や地縁・血縁などの結びつき、民族、国家などこれまで個人が自身を世界に意味づけてきた枠組みがすでに自明なものではないことを映し出している。都市への移動を、自らを世界に意味付けていた枠組みを希薄化させるものとして描き、それに対比して古き良き共同体の伝統が生きているとされる郊外を描き、郊外への移動を通じて失われた枠組みを取り戻そうとする作品がある。他方で、自身を世界に意味づける新たな物語を構築しようとする試みとして読み解くことができる作品もある。これまでに取り上げた作品から読み取れる試みを大まかに類型化すると、①今いる場で、地縁や血縁などの結びつきがなく、場を偶然共有するという点においてのみ結びつく人たちとの関係構築を描く、②ある民族に固有のものとされる文化が、発祥地を離れて独自に発展する過程や、本来の継承者とされる民族以外を担い手

として発展する過程に着目する、③共同体の外からやってきた外部者を介在させて共同体の姿を描き、外部者の関与が共同体のあり方を変えていく様子を描く、④家族をはじめとする社会の長であり、制度を管理する者としての「父親」の喪失を積極的に描く、というように整理できる。

2. 地域情報学プロジェクト：地域情報学の展開（統括班）

3. CIAS所蔵資料の活用

4. 脱植民地化期の東南アジア・ムスリムの自画像と他者像

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

坪井 祐司（東洋文庫）

◆メンバー

金子 奈央（東京外国語大学大学院総合国際学研究所）

國谷 徹（上智大学）

篠崎 香織（北九州市立大学外国語学部）

ファリダ・モハメド（東京外国語大学外国語学部）

深見 奈緒子（早稲田大学イスラーム地域研究機構）

光成 歩（東京大学大学院総合文化研究科）

モハメド・ファリド（Institute of Islamic Understanding, Malaysia）

ジュリアン・ブルドン（地域研）

目的

地域研が所蔵・公開しているジャウイ（マレー語のアラビア文字表記）の雑誌『カラム』の記事データベースを利用した研究を行う。1950～69年にシンガポールにて出版された月刊の総合誌『カラム』は、欠号率が極めて低い状態でCIASに所蔵されており、その記事はマレー語雑誌データベースの一部として公開されている。本研究はこのデータベースを活用するもので、以下の二点の目的をもって進められる。第一は、『カラム』の総合的な研究に向けた基盤の整備である。具体的には、現在のデータベースを改良することで技術面から研究の利便性を向上させる。それとともに、一般公開形式のジャウイの講習会を開催してジャウイに関心を持つ研究者のネットワークを深化させる。第二は、『カラム』を利用した国際共同研究の推進である。これまで進めてきた『カラム』に関する共同研究の成果を踏まえて、特にマレーシア・シンガポールとの国際共同研究を重点的に進める。『カラム』の資料的価値は地元の研究者からも評価されている。このため、両国の研究機関・研究者との提携により資料としての『カラム』の総合的・多角的な利用を図る。

2013年度の 研究実施状況

国内における研究会を3回、国際シンポジウム／セミナーを2回行った。

●第1回研究会「ジャウイ文献の活用に関するワークショップ」

2013年6月27日（京都大学稲盛財団記念館）

報告者：Mohamed Syukri Rosli（Klasika Media/ Akademi Jawi Malaysia）、Mohamed Farid Shahran（Institute of Islamic Understanding, Malaysia）、Julien Bourdon-Miyamoto（CIAS）

●公開セミナー「遺産から展望へ」および電子版『カラム』出版発表

2013年9月11日（Hotel Putra, Kuala Lumpur, Malaysia）

報告者：Hara Shoichiro（CIAS）、Yanagisawa Masayuki（CIAS）、Tsuboi Yuji（Toyo Bunko）、Mohd Farid Mohd Shahran, Julien Bourdon-Miyamoto

●第2回研究会

2013年10月15～16日（東京外国語大学）

内容：ジャウイ文献講読講習会（一般公募により11名の受講者が参加）

●第3回研究会

2013年12月15日（京都大学稲盛財団記念館）

内容：ディスカッションペーパーに関する検討会

●国際ワークショップ「イスラームと多元文化主義：共存と共生」

2013年12月20～21日（早稲田大学）

Session 6: From Tradition to Vision: Construction of Digital Archives of Jawi Periodicals for Contemporary Usage (Convener: Yamamoto Hiroyuki)

報告者：Mohamed Syukri Rosli, Julien Bourdon-Miyamoto, Tsuboi Yuji, Mitsunari Ayumi (Tokyo University)

成果

本共同研究は資料『カラム』のデジタル化とそれを活用した研究の二つの柱からなっているが、今年度はその両面において国際的な協力関係の構築を通じた事業の進展が見られた。

『カラム』のデジタル化については、同誌記事のジャウイからローマ字への翻字を進め、ローマ字版をウェブサイトを通じて公開するとともに、記事本文が検索可能なデータベースの構築を開始した。それとともに、マレーシアのクラシカ・メディア（Klasika Media）社との提携により、同国におけるデジタル版『カラム』の公開を進めた。ローマ字翻字された『カラム』記事のなかから計51タイトルが電子出版により復刻された。2013年9月に行われた電子出版事業の発足にともなう国際セミナーでは、現在マレーシアで関心が高まっているジャウイの研究や教育において日本側の情報技術や研究蓄積が貢献できることが確認された。

研究面でも国際的な成果の発信を行った。マレーシアで設立されたマレーシアジャウイ学会（Akademi

Jawi Malaysia) が発刊した論文集『遺産から展望へ』シリーズでは、共同研究員が論文を発表した。2013年12月のマレーシア人研究者が多数参加した国際シンポジウムでは、デジタル・アーカイブの構築とその利用について報告するセッションを組織し、出席したマレーシア人を含めて『カラム』の現在の意義について議論した。国内においては、一般公開のジャウィ文献講読講習会を実施してジャウィの教育・普及活動を行うとともに、ディスカッションペーパーを発行した。そこでは、『カラム』の大衆雑誌としての側面に焦点をあて、読者からの投稿や掲載された写真や広告などから、マレー・ムスリムが西洋近代と宗教的正しさの両立を模索するあり方を明らかにした。これは、現在のマレーシア社会にも通じる課題といえる。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト: 強くしなやかな社会をめざして ——地域研究の可能性(統括班)

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

山本 博之 (地域研)

◆メンバー

大矢根 淳 (専修大学人間科学部)

峯 陽一 (同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科)

渡邊 英徳 (首都大学東京システムデザイン学部)

谷川 竜一 (地域研)

西 芳実 (地域研)

目的

災害とは日常生活の延長上にあり、それぞれの社会が抱える潜在的な課題が外力によって露呈した状態である。そのため、災害対応においては、被災前の状態に戻すことではなく、被災を契機に明らかになった社会の潜在的課題に働きかけ、よりよい社会を作ることが期待される。そのためには被災前を含む社会の状況を把握することが不可欠であり、この点において災害対応と地域研究が結びつく意義がある。本プロジェクトでは、(1) 制度面を中心にした災害・紛争への早期対応や復興過程における社会の再編、(2) 記録・記憶を通じた社会の再生・再編の二つの側面から、強くしなやかな社会づくりに資する学術研究としての「災害対応の地域研究」の提示をめざす。

2013年度の
研究実施状況

今年度は統括班に対する予算措置がなかったため、統括班として研究会合を開催することはしなかった。他の会合で共同研究員が顔を合わせる機会を利用して情報共有や意見交換を行ったりする方法で、主に2つの複合ユニットの研究代表者を通じて本統括班にかかわる複合・個別ユニットの研究進捗状況を共同研究員が共有した。

成果

「強くしなやかな社会」とは社会のレジリエンスを考えることである。どれだけ建物を強くしても想定外の外力によって被害が起りうるという認識により、災害を技術力によって押さえ込んで被害を完全に防ぐ「防災」から、災害自体は完全に防ぐことができないことを受け入れた上で、被害を最小限にとどめる「減

災」の考えへ、さらに、被害を小さくすることに加えて回復力も高めるという「レジリエンス」の考え方へと変わりつつある。東日本大震災後、日本国内でもレジリエンスについて議論の機会が増えているが、それが実際に政策に移される場合にはレジリエンスが技術的な側面で表現されることが多い。しかし、レジリエンスは対象や時間の範囲を検討することなしに考えることができない。社会のレジリエンスを考える上では、どの範囲を対象とし、どの程度の期間について考えるのかといった観点が必要である。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト： 強しなやかな社会をめざして——地域研究の可能性（統括班）

1. 災害・紛争と復興

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

西 芳実（地域研）

◆メンバー

村上 勇介（地域研）

山本 博之（地域研）

目的

災害や紛争は、個人や社会が直面する目前の差し迫った人道上の危機であり、直接被害を受けていない地域を含む外部社会から解決のための働きかけが行われる。また、災害や紛争の被害はしばしば複合的な形であられるため、要因の究明や対応にあたっては、多様な専門性が求められる。このような意味で、災害や紛争に対応する現場は文化的背景や専門の異なる人々が協業する場となっている。

本プロジェクトでは、以上のことを念頭に置きながら、紛争・災害への早期対応や復興過程における社会の再編について、実務者や現地社会との連携を視野に入れながら研究を行う。とりわけ、災害や紛争の現場となっている地域社会に関する地域研究の知見を踏まえることで、業種や専門性、地域を越えて理解される情報や技術を提供する方法を検討する。

2013年度の 研究実施状況

地域研の地域情報学プロジェクトとの共同により、インドネシアの事例を中心とする「災害と社会 地域情報マッピング・システム」ならびにラテンアメリカの事例を中心とする社会紛争データベースとそれに基づく社会紛争マッピング・システムの開発を順次進めた。

また、地域研の「災害対応の地域研究」プロジェクトとの共同により、地域研究と地域情報学の知見を活用して、突発的に発生する自然災害や紛争への対応を通じて社会が平時から潜在的に抱える社会問題に対応することをめざす新しい地域研究のあり方を示すための商業出版の企画を検討した。

成果

上記のデータベース等の開発を進める過程で、防災・

人道支援・国際協力等の実務家が地域研究者により収集・分析された地域情報を活用する上での課題が整理された。地域研究者が収集する情報は多様な関心にもとづいており、また、情報の形態も、地図、写真、証言、新聞記事、論文、フィールドノート、映像等多岐にわたる。これらの情報を整理する上では、目的に応じて①特定のテーマや関心に基づき研究者が作成する個別のデータベース、②複数のデータベースを互いに繋ぎ合わせ、データを重ねて分析するための地域研究基礎データベース、③専門知識がなくても一目で全体の様子が捉えられ、個別の情報にアクセスできるデザインを持った一般向けデータベースの三つの層に分けてそれぞれ検討・開発する必要がある。

この知見を踏まえて、今年度は出版2点、ウェブ公開3点の成果が得られた。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト：
強しなやかな社会をめざして——地域研究の可能性(統括班)

1. 災害・紛争と復興

1. 「小さな災害」アプローチによる紛争・災害に強い社会づくり：災害地域情報マッピング・システムを活用した社会問題の早期発見・早期対応

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

西 芳実 (地域研)

◆メンバー

服部 美奈 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

牧 紀男 (京大防災研究所)

Muhammad Dirhamsyah (シアクアラ大学津波防災研究センター)

山田 直子 (佐賀大学国際交流推進センター)

山本 理夏 (特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン)

渡邊 英徳 (首都大学東京システムデザイン学部)

山本 博之 (地域研)

目的

地震や津波といった広範囲に影響を及ぼし、被害が甚大な災害への対応は、予防や事後の対応を含めて研究や制度設計が集中的に行われてきた。これに対して、人々が日々直面し、死者はなくても地域社会の生活基盤に致命的なダメージを与える大水や地崩れといった「小さな災害」に対応するための研究や制度設計は、もっぱら工学的な見地から行われてきた。他方で、大きな災害の被害は災害が起こる前に社会が抱える潜在的な課題に集中的にもたらされている。日常的に発生する「小さな災害」とそれへの対応を観察することを通じて社会の潜在的な課題を事前に発掘し、早期に対応することは、大きな災害への対応を十全に行う上で重要である。

本プロジェクトでは、2004年スマトラ島沖地震津波を契機に開発された「災害と社会 情報マッピング・システム」を応用して、日常的に発生する「小さな災害」をモニタリングし、「小さな災害」への早期対応を促すシステムを開発することで、大規模な災害への準備を促すとともに、地域社会の問題への対応の遅れが紛争に発展することを予防することをめざす。

2013年度の 研究実施状況

地域研と学術交流協定を締結しているインドネシアのシアクアラ大学津波防災研究センターのプロジェクトとの共同で公開ワークショップ等を開催することを通じて、2004年スマトラ島沖地震津波被災から9年を迎えるアチェ州において、①「大きな災害」であった2004年スマトラ沖地震津波の記録や記憶がどのようなメディアを活用して継承されようとしているか、②人々が現在関心を向けている「小さな災害」にはどのようなものがあるかについて検討した。また、「災害と社会情報マッピング・システム」について、①「小さな災害」の発生状況をモニターするために必要なオンラインメディアの選定、②一般の利用者が利用しやすいよう基盤地図へのバージョンアップを行った。

成果

2004年スマトラ島沖地震津波の最大の被災地となったインドネシア・アチェ州では、被災から9年目を迎えて物理的な復興が進み、「災害からの復興」が社会全体の共通の課題でなくなりつつあるという危機感のなかで、教育、恋愛、家族づくりといった災害と直接結びつかないテーマによるフィクションを活用して災害に強い社会づくりが取り組まれている。メディアとしてはオンラインによる情報提供サービス、小説、マンガ、ドキュメンタリー映画の活用に関心が向けられている。こうした動きの中で、大規模災害以外の社会の課題の発掘が進められており、公開シンポジウムでは、そうした課題の一つとして太平洋戦争時の不発弾処理問題や漁村の社会開発に関心が向けられていることが示された。

2013年11月に発生したフィリピン台風災害について人道支援の専門家、地域研究者、在外フィリピン人コミュニティ等が参集して開催した公開シンポジウムでは、大規模自然災害の救援復興の課題を検討するにあたっては、被災による損害への対応だけでなく、地域社会が抱える課題を平時から共有することの重要性が確認された。また、災害発生時には直接被災していない外部社会の役割が重要であり、災害発生時の情報共有にあたってはオンラインメディアやソーシャルネットワークサービスが重要な役割を果たすことが確認された。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト： 強しなやかな社会をめざして——地域研究の可能性（統括班）

1. 災害・紛争と復興

2. 社会紛争の総合分析に基づく 解決・予防の研究：ラテン アメリカの事例から

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

村上 勇介（地域研）

◆メンバー

幡谷 則子（上智大学外国語学部）

浜口 伸明（神戸大学経済経営研究所）

宮地 隆廣（同志社大学グローバル地域文化学部）

和田 毅（東京大学大学院総合文化研究科）

目的

本研究の目的は、地域研究統合情報センターが進めている、ペルーを中心としたラテンアメリカの社会紛争データベースとそれに基づいた社会紛争マッピング・システムをもちいて、社会紛争にかんする総合的な分析を実施するとともに、社会紛争の克服に向けての提言、将来における発生の予測や予防のためのシステムや社会制度について考察することを目的とする。ラテンアメリカ各国の社会においては、歴史的に抱えてきた格差と貧困の問題が、1980年代から90年代のネオリベリズムの時代をへて増幅される現象が例外なく観察されてきた。それを背景として、社会紛争がいずれの国でも増加する現象が発生し、ガバナビリティにかかわる焦眉の課題となっている。本研究は、ラテンアメリカの主要な事例を比較研究する作業を行うじ、社会紛争の原因と過程について総合的に分析し、その知見を、前出の社会紛争のデータベースとマッピング・システムをもちいて検証する。そして、その結果をもとに、社会紛争の克服のための提言や、社会紛争の予測・予防のためのシステムや社会制度への手がかりを探究する。

2013年度の 研究実施状況

本年度は、3回の研究会を実施した。

●第1回

2013年11月18日13:00～16:00

（上智大学2号館）

テーマ：1. 研究会の全体計画について

2.「ペルーの社会紛争研究：先行研究とデータの概要」岡田勇（地域研）

●第2回
2014年1月18日13:30～16:30
(同志社大学東京オフィス)

テーマ：「マルチ・エージェントシミュレーションを用いたボリビア社会運動の比較研究」牧田裕美（東京大学大学院）

●第3回
2014年1月20日14:00～17:00
(京都大学稲盛財団記念館)

テーマ：「ボリビアの社会紛争データ」宮地隆廣

成果

3回にわたる研究会では、テーマとして取りあげたトピックにくわえ、ラテンアメリカに存在する、社会紛争のデータについての検証を継続的におこなった。

ラテンアメリカの多くの国には、イベントデータが集積されている。これは、新聞やテレビ、ラジオといった、マスメディアで報じられる社会紛争を記録したもので、大学・研究機関やNGOが収集している。イベントデータは、調査研究の基礎データとして、ひろく用いられている。しかし、その欠点も指摘できる。最大の問題は、ほとんどの場合、紛争の開始やある程度までの展開については、データが存在するものの、紛争の終結についてのデータがないことである。これは、マスメディアや社会一般の関心として、社会紛争が勃発した事実や、その直後の展開については注視されるものの、その収束過程については、時間がかかる場合が多いこともあり、特定の紛争に対する関心が持続しないことが背景にある。

これに対し、ペルーの人権擁護局（Defensoria del Pueblo）の社会紛争データは、紛争の開始にくわえ、紛争が終息した場合は、そのデータも収集されている点で特異である。ラテンアメリカで唯一といってよく、紛争の原因のみならず、その終結の過程、条件、状況を調査研究することができる興味ぶかいデータを含んでいる。そこで、ペルーの人権擁護局の社会紛争データを整備し、容易に参照、利用できるようにすることは重要であることが確認できた。

また、イベントデータについては、ボリビアのものがより整理された形で存在していることが判明した。そこで、ペルーとボリビアについての比較分析を来年度に試みることになった。

他方、ペルーの人権擁護局の社会紛争データを使って、その発生過程についての分析を行なった。ペルーの社会紛争については、多くはないものの一定の数の、

質的、量的、両面での先行研究が存在し、そのうちの幾つかは、人権擁護局の社会紛争データを用いている。その分析結果は、天然資源の開発収益から得られる地方交付金が多い地域ほど、社会紛争が発生する傾向を指摘している。ただし、先行研究の分析は、2007年までのデータを使って分析したもので、最近のデータを分析した研究はまだなされていないのが現状である。

データを整備しつつ、分析を行なったので、分析は、まだ途上段階であるが、少なくとも、先行研究が考慮していない最近のデータ（2008年以降のもの）に基づく、先行研究が主要な原因と指摘する、天然資源の開発収益による地方交付金は、説明要因として、一定の有効性を持っていることが確認できる。ただ、これは、先行研究と同じく、データ全体・全期間を対象とした、いわば、粗い分析である。先行研究では、時間軸や地域差（紛争が多発する地域と少ない地域）が考慮されておらず、これらの視点からも分析をすすめる必要がある。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト：
強くしなやかな社会をめざして——地域研究の可能性（統括班）

2. 記録・記憶と社会の再生

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

谷川 竜一（地域研）

山本 博之（地域研）

目的

社会の記録としての文化や集合的記憶は、グローバル化などの変化を乗り切るための各社会内における紐帯として重要な役割を担うと同時に、新しい世代にとっては自己の社会を硬直させる足かせともなりうる。本プロジェクトではそうした矛盾を意識しながらも、文化や記憶は各社会が自立性を維持しながら、危機やめまぐるしい変化を乗り切るために不可欠なものとして捉える。具体的には、紛争、災害、社会間の対立や格差などに見舞われた社会において、有形無形の記録・記憶の収蔵庫が編み出され、活用される事例を、個別研究と協働して考察する。記録や記憶の確立（時に忘却）の手法を、レジリエンスとしての社会再生・再編に結びつける実践的な手立てとして提案する。

2013年度の
研究実施状況

紛争、災害、社会間の対立や格差などは、露骨な暴力や具体的な被害として、先鋭化して現れるだけではなく、長期的な社会変動や地域経済の浮沈などとしても現れる。こうした問題意識に則り、本複合プロジェクトでは、個別研究ユニットである「『小さな災害』アプローチによる紛争・災害に強い社会づくり」（代表：西芳実）及び「建築を通じたポピュラー文化の記憶の場の構築力の解明」（代表：山中知恵）、「災厄からの再生のための記録と記憶の〈場〉」（代表：寺田匡宏）などを中心に連携を行い、9月18日、第5回京都＝アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム」、11月30日、シンポジウム「東北のマンガミュージアム」のようなイベントを開催した。これらを通じ、災害と社会に関する知見を長期的な視野から深めるとともに、記憶の収蔵庫としてのミュージアムが地域に果たす役割を、整理・検討した。

成果

社会の再生に対して、記憶は必要不可欠な要素だが、どのレベルで、どの人々が、どのように必要としているのかという点に関して、包括的な議論はむずかしい。そうした中で、具体的な場所を深く調査する個別研究との協働により、その地域のコンテクストに応じた危機を乗り越えるための記録・記憶の積極的な扱い方を検討し、ワークショップやシンポジウムなどを通じて学術的な発信を行うことができた。特に、計画通り年2回程度の共同ワークショップを行うことができたと同時に、「ミュージアム」というキーワードを通じて、複合・個別研究の問題意識を共有・再整理できた点は大変大きな成果であった。またそれらは、実際に現地の実務レベルの実践者たちと議論・交流を深める機会ともなった。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト：
強くしなやかな社会をめざして——地域研究の可能性(統括班)

2. 記録・記憶と社会の再生

1. 災厄からの再生のための記録と記憶の〈場〉：災害・紛争後の記憶をつなぐ実践・支援とその可能性

個別共同研究ユニット

- ◆研究期間
2013～2014年度
- ◆代表
寺田 匡宏 (総合地球環境学研究所)
- ◆メンバー
亀山 恵理子 (奈良県立大学地域創造学部)
川喜田 敦子 (中央大学文学部)
清水 チナツ (せんだいメディアテーク)
山本 博之 (地域研)

目的

災厄からの再生を目指して記録と記憶を行う活動に関しては、近年新しい動きが進んでいる。それらはミュージアムやアーカイブのような具体的な場所の中で営まれる場合もあるが、ネット上で行われたり、語り継ぎや聞き取り・聞き書きのように人々のつながりの中で実践されたりしている場合もある。それらの実態を広く〈場〉にとらえ、その実践のありかたを、組織の形態や支援者も含めたそれを取り巻く人々のネットワークの様態からとらえることで、自然災害やその他の災厄からの再生と強靱でしなやかな社会の構築の方法と可能性を探る。

2013年度の
研究実施状況

本年度は研究会においてふたつのことを行った。一つは、共同研究のテーマともなっている〈場〉についての理論的考察で、もう一つは、参加メンバーによる問題意識の共有のために行ったメンバーがこれまで研究してきた具体的な場に即した事例の収集である。開催実績は下記のとおりである。

●第1回研究会
2013年8月10日

テーマ：東日本大震災の記録と記憶をめぐる現状と課題
寺田匡宏「災害2年5か月後の三陸を見て考えたこと：記憶・記録・展示・被災物の視点から」

●第2回研究会
2013年9月18日

テーマ：災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニ

ティを結び育てる場としてのミュージアム
寺田匡宏「〈場〉の中の記憶：記憶のネットワークにむけての試論」

●第3回研究会
2013年10月20日

テーマ：映像による東日本大震災の記録の方法とその支援の可能性をめぐって：映画「なみのおと」上映と研究会

●第4回研究会
2014年3月18日

亀山恵理子「東ティモールにおける紛争の記録と記憶の〈場〉」
また、9月には岩手県大船渡市において、現地調査と研究成果の公開に関する打ち合わせを地元機関と行った。

成果

上記の研究実施を通じて、①〈場〉についての理論的整理の成果として、フランスの地理学者オーギュスタン・ベルクの所論や、アナール派第3世代のピエール・ノラの『記憶の場*Les Lieux de mémoire*』を参照し、記憶を個人的な営為ではなく社会的実践としてとらえること、認識の“地”としてとらえること、身体と環境の相互作用としてとらえること、個人の身体と集合的(社会的)身体の二元論の脱却の契機としてとらえることを確認した。また、②具体的な〈場〉の事例として、東日本大震災の被災地における展示と遺構の保存、映像による記録、インドネシア・アチェにおける博物館展示とアニメーション、小説による記録と記憶活動、モバイル博物館の試み、神戸における民間によるモニュメントの建設、東ティモールにおける博物館、モニュメント、真実究明運動について情報を集積した。その中から、記録と記憶の〈場〉を通じたしなやかな社会構築のための課題として、記憶を〈場〉で残すことの意味、聞くことと聞かれることの関係性の再考、自己の記憶と他者の記憶の記憶のされ方の相違を解明する必要性が明らかになった。

3. 災害対応の地域研究プロジェクト： 強くしなやかな社会をめざして——地域研究の可能性（統括班）

2. 記録・記憶と社会の再生

2. 建築を通じたポピュラー文化 の記憶の場の構築力の解明

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

山中 千恵（仁愛大学人間学部）

◆メンバー

伊藤 遊（京都精華大学国際マンガ研究センター）

表 智之（北九州市漫画ミュージアム）

村田 麻里子（関西大学社会学部）

脇田 貴文（関西大学社会学部）

谷川 竜一（地域研）

目的

本研究は、戦争や災害等「負の記憶」を留める場所（「記憶の場」）や、開発によって失われた風景や文化がドラマ・映画・マンガなどのメディアにより表象され、観光化されることで生じる記憶の政治学を分析するものである。特に、ミュージアムという場に注目しつつ、これを進める。分析を通して、グローバル化時代における集合的記憶の重層的な構築過程を明らかにし、また、現代社会において、空間や場所がいかに再配置されようとしているのかを検討する。

2013年度の 研究実施状況

本年度は、非-場所的で、歴史的記憶とは切り離されたかのように見える施設である、国内の「ポピュラー文化ミュージアム」の調査を行った。石巻市、新潟市におけるマンガミュージアム関係者にインタビューを行い、各ミュージアムの設立の経緯や現在直面している課題などの情報を収集した。特に石巻市石ノ森萬画館においては東北のマンガミュージアム関係者を集め、シンポジウムを開催した。

成果

石巻市石ノ森萬画館において開催したシンポジウムは大盛況に終わり、地域とポピュラーカルチャーミュージアムの関係における課題と可能性を、実務レベルで整理することができた。各館が抱える建築的な課題なども提示され、今後の研究に有効な知見を得ることができた。

最大の成果として、国内外のマンガミュージアム約30館の調査結果をまとめながら、ポピュラーカルチャーとメディア、地域とミュージアムなどの分析視点を提示した書籍『マンガミュージアムへ行こう』（岩波ジュニア新書、2014年3月）に出版することができた。同書は本個別研究の成果を盛り込んだものであり、中高生向けの新書という形態をとっているため、将来的かつ一般社会へのインパクトが大変高いと予想される。特にメンバーの谷川による北九州市マンガミュージアムや水木しげるロード、赤塚不二夫会館やベルギーのマンガミュージアムに関する分析は、本研究課題で得た空間分析の視点や手法を用いて、建築的な分析を一般に分かりやすい形で行っており、本課題の重要な成果となっている。

1. 地域研究方法論

複合共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2015年度

◆代表

山本 博之 (地域研)

◆メンバー

西 芳実 (地域研)

村上 勇介 (地域研)

柳澤 雅之 (地域研)

目的

さまざまな研究者によって行われている地域研究の手法を個々の研究者の「名人芸」として済ませるのではなく、対象地域や分野の違いを超えて共有・利用が可能になるような形に洗練させるための基礎的な調査を行う。昨年度までの3年間に行われた地域研究方法論の共同研究では、主に大学院教育における地域研究の方法について検討し、その結果を雑誌『地域研究』(12巻2号)の「総特集 地域研究方法論」で発表した。本共同研究では、引き続き大学院教育における地域研究のあり方について具体的な事例に即して検討を続けるとともに、(1) 多様な専門性を持つ研究者が協働する仕組みとしての地域研究の歩みを踏まえた地域研究の意義と方法、(2) 研究者以外の専門家・実務者による成果の活用を意識した地域研究の方法、(3) 自身が社会生活する存在としての地域研究者の生活と研究の両立などの諸課題についての検討を通じて、学術研究と社会のそれぞれにおける地域研究(者)の位置づけを考える。

2013年度の
研究実施状況

本テーマに参加する個別ユニットの代表者と個別に研究打ち合わせを行うことを通じて、地域研究が置かれている課題とそれへの対応について検討した。

成果

政府・マスコミ・学術研究などの従来の情報の発信源の権威が低下し、他方でインターネットに代表される情報発信の経路の多様化を迎え、「正しさ」を決められないという状況を迎えている。他方で、こんなところに日本人がいるのかと思うような世界の隅々にテレビカメラが入り、インターネットを通じて世界各地から情報が発信され、今日の世界について過剰な情報

が溢れる中で、情報は「わかりやすさ」によって淘汰されていくことになる。しかし、わかりやすい情報だけでは、複雑な世界の現実を捉えることはできない。多種多様な情報を収集・整理し、それをもとに世界のあり方を捉えるには、媒体ごとにどのように情報が発信されているかを理解するとともに、それらの情報をもとにどのようにして現実世界の様子を捉えるかという工夫が必要になる。本複合ユニットでは、メディアによる情報の発信と受信、現場での協働を通じた実践知の把握、情報をもとにした物語の読み解きの3つの角度から、「地域研究的想像力」のあり方について検討した。

4. 地域研究方法論プロジェクト

1. 地域研究方法論

1. アジアと日本を結ぶ実践型地域研究

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

安藤 和雄 (京都大学東南アジア研究所)

◆メンバー

市川 昌広 (高知大学農学部)

辰巳 佳寿子 (福岡大学経済学部)

中村 均司 (京都大学東南アジア研究所)

南出 和余 (桃山学院大学国際教養学部)

目的

離農、離村の問題は、日本に固有の問題ではなく、今やアジアの開発途上国でも共通する問題となりつつある。アジアに先駆け日本農村がこの問題に取り組んできた。過疎地、若者の離農、離村、限界集落と呼ばれる「在地」で暮らすこの問題に直面している当事者たちによるインフラ整備や経済問題という従来の農村開発アプローチとは一線を画した文化的なアプローチによる「在地の自覚」に依拠した地域再生の取り組みが日本の各地で起きている。

本研究では、ミャンマー、ラオス、ブータン、バンラデシュ、インドなどのアジア諸国の大学関係者、NGOなどの農村開発関係者を招聘し、日本のNPO、地方自治体、大学などの各団体と草の根の農村開発に関する国際会議とPLA（参加型学習と実践）調査を共同実施することで、アジアから学び、アジアには日本の問題を発信するという、相互啓発による新しい農村開発の可能性を模索する実践型地域研究を実施する。

2013年度の 研究実施状況

本プロジェクトは、東南アジア研究所実践型地域研究推進室が実施している研究プロジェクト（科研、東南アジア研究所共同研究など）との共同により、以下の研究活動を行った。2013年度の8月、12月を除く毎月末に東南アジア研究所実践型地域研究推進室が主催する京滋フィールドステーション月例研究会にて、実践型地域研究について議論をすすめる。また、7月の約1カ月間に、ブータンの王立ブントラン大学シェラブツェ大学の若手研究員4名を招聘し京都府南丹市美山町知井振興会傘下の佐々里地区にて知井振興会、佐々

成果

里自治会との協働により、アクション・リサーチとして、様々な地元住民、学生ボランティアらとの交流事業、集落住民の参加による話し合い形式のワークショップ、問題発見型のPLAを実施した。11月8～10日に高知県大豊町怒田地区で第5回「文化と歴史そして生態を重視したもうひとつの草の根農村開発に関する国際会議in大豊町」を開催した。この事業にはミャンマー（3名）、ネパール（1名）、ブータン（1名）が参加した。8日は参加者による集落のPRA、9日の公開の地元住民参加型シンポジウム「アジアと日本の山村で心ゆたかに生きる」、10日は怒田集落における地元住民、学生ボランティア、会議発表参加者らと、怒田集落の住民である氏原氏の問題提起発表にもとづき、オープンな意見交換会をもった。

アジア諸国における過疎化、離農、離村、高齢化による限界集落等々の問題へのアプローチは、現象の科学的説明とともに、解決策を実践的に進めていくことが強くもとめられている。地域の現場での直観的な問題の理解から、克服への道筋を、問題解決の実践に具体的に参加する人々がたてて、実践を通じて解決策を具体的に模索しつつ、現象を科学的に分析して、第三者に説明するという、問題群を中心にした実践から分析へという、従来の地域研究や既存学問がとってきた方法論を逆さまにする方法論が有効となろう。このことによって問題解決に具体的に参加したいと願っている一般の人々の「善意の力」をも巻き込む参加型地域研究が具体的に模索される。本研究では、特に、アジアの若い人々、日本の若い人々の「善意の力」を実践に生かせるアクション・リサーチを地域研究として成果として提示したいと願っている。

2014年7月に実施したアクション・リサーチでは佐々里集落の人々とブータンの若手研究員のボランティア的交流活動やミニ・ワークショップ、訪問聞き取りのPLAによって、ブータンの若手研究者には、日本の過疎、高齢化の実態を知ってもらうことができ、佐々里集落の人たちには、ブータンの人々の開発や暮らしに関する考え方に直接接してもらうことで、過疎、離農の問題がブータン、日本のそれぞれの固有問題でないという自覚を生むことができた。

また、11月に実施した高知県大豊町での国際会議では、ネパール、ミャンマー、ブータンの農村開発の諸問題、亀岡市、南丹市美山町知井地区、山口県阿武町、高知県大豊町での地域振興の事例が発表され、過疎化、

離農の問題がもはやアジアにおいてはグローバルな問題となっていることと、日本の各地での取り組みから地域連携の重要性が認識された。そして、怒田集落での意見交換から、学生の力が本研究のようなワークショップの場でも発揮される工夫が必要であると指摘された。

美山町佐々里集落、大豊町怒田集落のいずれの活動も地元新聞（京都新聞、高知新聞）に大きくとりあげられ、佐々里集落の活動については、10分前後の特集が、夕方の関西テレビのニュースで生まれ、社会的な反響があった。

4. 地域研究方法論プロジェクト

1. 地域研究方法論

2. 物語を基にしたコミュニティづくりを目指す地域研究

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

笠井 賢紀（龍谷大学社会学部）

◆メンバー

岩佐 奈々子（北海道大学大学院教育学院）

内尾 太一（特定非営利活動法人「人間の安全保障」フォーラム）

打越 正行（特定非営利活動法人社会理論・動態研究所）

栗田 健一（新宿区新宿自治創造研究所）

鳴原 敦子（仙台高等専門学校）

原 めぐみ（大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程）

目的

本研究の目的は、地域コミュニティ構成員の物語収集を通じてそのコミュニティの展望を見出すための地域研究の方法論を探求することである。

物語を研究の中心に据えるナラティブ・アプローチは盛んであり、個々人の心理学的分析に留まらず、人生史等の物語に埋め込まれている社会や文化を浮き彫りにするために活用されてきた。本研究はさらに一歩進み、物語の形成過程自体をコミュニティとしての今後の展望を考える素材とすることを試みるものである。

語りは語り手と聞き手が同一であっても様々な要素（語りの場、語り手と聞き手との関係性、語り手の置かれている状況等）によって異なる。こうした諸要素による語りの変化はエラーとして研究素材から排除される傾向が強いが、本研究ではそうした矛盾をはらむ変化も重要な素材と捉える。物語形成過程で生じる矛盾のあり方から、構成員の過去から現在における価値判断基準の変化を追い、将来の展望を見出す。

2013年度の 研究実施状況

本年度は、「地域コミュニティ」や「物語」が多様でありうることを鑑みて、共同研究であることを活かして目的を達成するために共同研究員の増員を行った。これにより、対象とする地域コミュニティとテーマが、次のようになった。

岩佐奈々子：アイヌの人々の語りと主体的教育

内尾太一：被災地における復興民話づくり

- 打越正行：沖縄の下層若者
笠井賢紀：栗東市における語り拠点の運用
栗田健一：戸田市における地域通貨流通の背景となる文脈
鳴原敦子：被災当事者の語りによる被害の可視化と関係性の編み直し
原めぐみ：日本在住の新日系フィリピン人若者の望郷・越境観念

地域・テーマはそれぞれに異なるが、すべての研究に共通することは、語りや語られたもの（物語）を中心とした〈ナラティブ・アプローチ〉を取ることと、コミュニティづくりに資する実践へと調査研究を架橋する〈アクション・リサーチ〉とするための方法論を探求する点である。

本年度は2回4日間にわたる研究会を開催して、各研究の事例報告を行った後、方法論探求のための共通点・相違点の洗い出しを行った。

成果

各人の研究概要は次のとおりである。

岩佐は「アイヌ」関連教育が政府機関等によって行われていることに対し、アイヌが語り継いできた物語を基にしたアイヌによる主体的な教育への関わりを模索している。

内尾は自身に関わるNPOによる民話創作プロジェクトの実践と他団体が取り組む椿にまつわるエピソードによる「物語復興」の調査研究を行った。

打越は風俗や建築業に関わる沖縄の「下層」若者を対象として生活史を収集した。

笠井は本研究会のテーマに即した講義・実習科目の大学における展開と合わせて、滋賀県栗東市で語りにおける拠点形成・運用して、同拠点での活動とまちづくりとの関係をまとめている。

栗田は埼玉県戸田市で老若男女問わず一定の期間・規模において普及している地域通貨について、その普及の背景となっている物語を同地区の子どもたちへのインタビューを通じて仮説構築している。

鳴原は東日本大震災の被災当事者であり、他方で環境社会学や平和学の研究を行ってきたものとして、被害構造論における被害非認識概念に着目しながら語りを収集する準備を進めている。

原は日本・フィリピンの双方において新日系フィリピン人およびその支援を行う団体等への聞き取りを行い、その若年層の者たちの「自己物語」を望郷の念や越境願望などを軸に分析している。

研究会では、これらの事例から語りと実践を繋ぐうえで共通する着目点として「語れないこと」、「語りの媒体」、「語られるという経験」、「語りの作用」などを抽出した。

4. 地域研究方法論プロジェクト

1. 地域研究方法論

3. 官公庁や民間企業やマスコミと接合される地域研究の方法論の検討

個別共同研究ユニット

◆研究期間

2013～2014年度

◆代表

立岩 礼子 (京都ラテンアメリカ研究所)

◆メンバー

伊藤 未帆 (東京大学教養学部)

狐崎 知己 (専修大学経済学部)

鈴木 茂 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院)

幡谷 則子 (上智大学外国語学部)

宮原 暁 (大阪大学グローバルコラボレーションセンター)

西 芳実 (地域研)

山本 博之 (地域研)

目的

本研究は、日本の官公庁・民間企業・マスコミ等の現場において、いかなる地域研究の成果が必要されているかという実社会における地域研究のニーズを分析した上で、当該分野の実務者に対して地域研究者による研究成果をいかなる形で発信すべきかを検討する。

今日、地域研究の重要性はますます高まっており、外交を担う外務省などの官公庁をはじめ、海外に進出する民間企業、海外事情を報道するマスコミにとっては、諸外国の地域事情は重要な情報であることは明白である。さらに言えば、そうした情報は単なる統計あるいはデータとして提示されるだけでは不十分で、交渉相手あるいは関心地域の歴史や文化への理解を深め、日本との相互理解のもとに共存する世界を構築するために援用されるべきである。その意味で、地域研究者による研究成果が果たすべき役割は大きいはずである。しかしながら、現状では、こうした研究成果が十分に実務者に活用されているとは言い難く、ましてや交渉や取引あるいは取材の現場を通して社会に還元されているとは考えにくい。

従って、本研究では、官公庁・民間企業・マスコミ等の実務者が必要としている地域研究による成果を分析し、その発信方法の改善の可能性を検討する。

2013年度の 研究実施状況

本年度は初年度であるため、まず、4月から5月にかけて、日本の官公庁・民間企業・マスコミ等の現場におけるインフォーマントとして協力可能な方々のリストアップを行うことからプロジェクトを始動させた。最終的に、外務省3名、企業2名、マスコミ関係者4名に絞り、NPO法人1名も含めることにした。5月末に、リストアップされた人たちにインフォーマントの依頼とスケジュールの調整伺いを研究責任者である立岩が行うことを確認した。調整作業を行って行く過程で、当初の予定を変更し、初年度にマスコミ関係者との意見交換を行うことにした。12月2日(月)13:30～15:30(於: 京都大学稲盛財団記念館)にて、ジャーナリスト石丸次郎氏(アジアプレス代表、NPO法人iAsia関西支部代表)及び立岩陽一郎氏(NHK衛星放送記者、iAsia関東支部代表)とのセミクローズドの研究会を開催した。

成果

初年度はマスコミ関係者との情報及び意見交換を行うべく、研究会を実施した。そこで、まず、地域研究者とジャーナリストの間では、基本的に海外の地域事情に向ける眼差しは共有可能なものであり、発信媒体や発信する相手も共通するものがあることを確認することができた。

本研究の最大の関心の1つは、地域研究者による研究成果をジャーナリストがどのように利用しているかという点である。この点については、多くのジャーナリストがネット上で検索することで情報を得ているということであった。従って、地域研究者が主たる発信の場としている紙媒体に掲載されている研究成果をジャーナリストが利用する率はかなり低く、紙媒体から情報を得ようとするジャーナリストはほぼ皆無であることも明らかになった。

一方、人々の新聞離れや、テレビにおけるニュース番組の縮小などにより、既存のニュース報道のあり方が問われる中、インターネット配信ニュースの重要性は増すばかりであり、既存のマスメディアの体制が崩壊する現状にあって、日本のジャーナリズムも変革を余儀なくされているとのことであった。併せて、ジャーナリストから今後は地域研究者もインターネットを通じて発信する必要性が唱えられ、その1つの場としてアジアプレスのHPへの投稿が提案された(地域研究者にとって研究成果の発表の場としての紙媒体の位置

づけについては、本研究で議論するテーマとしない)。

現在は、アジアプレスのHPへ研究成果や現地報告を投稿する際の投稿規定について検討を始めている。また、地域研究者とジャーナリストによる会合を引き続き行うことを確認した。

2 地域研究コンソーシアムの運営体制と活動

地域研究統合情報センター（地域研）には2006年より地域研究コンソーシアム（JCAS）事務局が設置されている。JCAS発足当時46だった加盟組織数は、2014年3月末現在で96に達した。

JCASの運営は、11の幹事組織を中心とする運営委員会、理事会、および事務局が協力して行っている。地域研は、運営を担う幹事組織の一つとして、事務局機能に加えて、ホームページの維持・管理、ニューズレターと和文雑誌『地域研究』の刊行を担うとともに、2013年度は情報資源部会、広報部会、年次集会部会、社会連携部会、地域研究方法論部会の幹事役も務めた。

発足以来、試行錯誤を経ながら運営の基本的な枠組みができあがったことを受けて、JCASは、2010年度には、幹事組織以外の加盟組織を広く巻き込み、ネットワークを活用して共同や連携を進めていく新しい段階に入った。従来の「次世代支援」に加え、「共同企画研究」「共同企画講義」「学会連携」「オンデマンド・セミナー」「特定課題研究」の各種公募プログラムの拡充や、一層の発信力の強化に努めることとなった。2011度には地域研究コンソーシアム賞（JCAS賞）が設置された。

事務局は、地域研究の設計、共同研究の推進、学会との連携、社会への還元、活動内容の発信というJCASの5つの重点分野の活動を日々支えている。2013年度は、メールマガジン「JCAS News」を48回配信し、ほぼ週刊の頻度で地域研究関連のシンポジウム・研究集会の案内、地域研究コンソーシアムと関連組織による多様な研究プロジェクトや研究員の公募情報を掲載した。また、2013年度には研究集会やプログラム10件を主催・共催し、広報協力は65件に達した。

2013年度のJCASの主な活動は以下の通りである。

1. 年次集会およびコンソーシアム・ウィーク

年次集会は2013年11月9日、愛知大学国際中国学研究センターにおいて開催された。午前中の総会では、年間の活動紹介、次世代ワークショップ報告に加えて、第3回地域研究コンソーシアム賞の授与式ならびに受賞者によるスピーチが行われた。午後には一般公開シンポジウム「日中関係の質的変容をどう理解するか：他地域の視点から捉えなおす」が行われた。このシンポジウムは、日中二国間の関係にあえて焦点を当てつつ、日中以外の他地域の視点から日中関係がどう見えているかを問うことによって、その質的変容に迫る試

みとして企画された。ハワイ大学E.ハーウィット氏の基調講演に続き、フィリピン、ミャンマー、タイ、シンガポールの事例が報告された。研究者と開催地企業関係者双方がコメントし、さらに活発な議論が行われた。

コンソーシアム・ウィークのプログラムとして、上記の総会・一般公開シンポジウムのほか、次世代ワークショップ「日中関係の変化：その背景にあるものをさぐる」（2013年11月10日、愛知大学国際中国学研究センター。次世代支援プログラムによる）が開催された。

2. 地域研究コンソーシアム賞

第3回（2013年度）の受賞作品・受賞者は次の通り。

- *研究作品賞授賞作品：島村一平著『増殖するシャーマン：モンゴル・ブリヤートのシャーマニズムとエスニシティ』（春風社）／中溝和弥著『インド 暴力と民主主義 一党優位支配の崩壊とアイデンティティの政治』（東京大学出版会）
- *登竜賞授賞作品：山本達也著『舞台の上の難民：チベット難民芸能集団の民族誌』（法蔵館）
- *社会連携賞授賞活動：該当なし
- *研究企画賞授賞活動：田畑伸一郎（企画代表者）『ユーラシア地域大国の比較研究』（2008～2012年度）

3. 公募プログラム

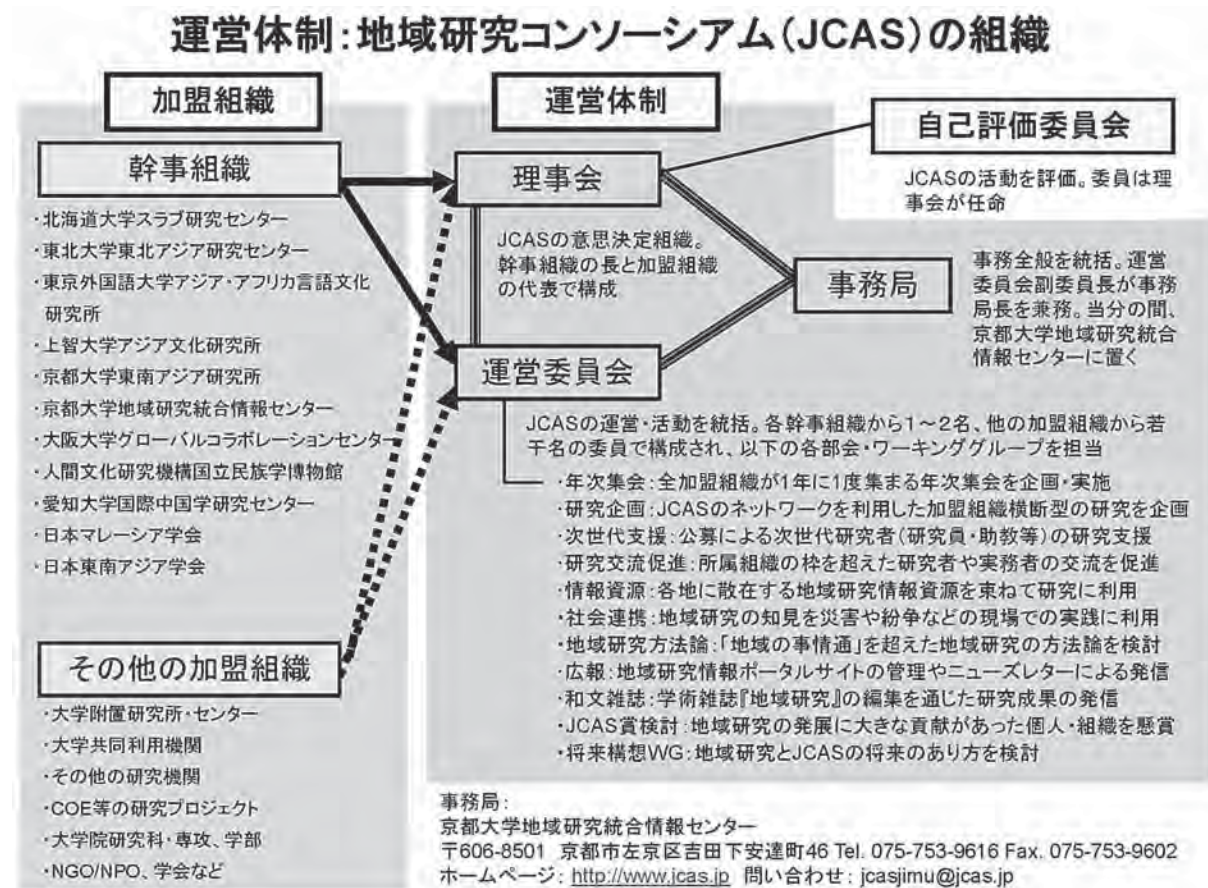
- (1) 次世代支援：毎年募集している次世代地域研究ワークショップについては、2013年度は「自由課題・自由開催」、「東南アジア地域研究枠」、「境界研究」、「愛知大学中国研究枠（年次集会開催枠）」、「異文化・教育枠」の5つの枠が設定・募集され、採択となった次の3件が開催された（参照：<http://www.jcas.jp/about/jisedaiws.html>）。
 - ①境界研究、自由課題・自由開催：「多民族社会におけるアイデンティティの形成・分断・再統合：ヴォイヴォディナ地域研究確立に向けて」（2014年2月2日、北海道大学東京オフィス）
 - ②異文化・環境教育：「文化多様性に学ぶ環境教育」（2013年11月30日、12月7日、12月14日、京都大学稲盛財団記念館）
 - ③愛知大学中国研究（年次集会開催）：「日中関係の変化：その背景にあるものをさぐる」（2013年11月10日、愛知大学国際中国学研究センター）

(2) オンデマンド・セミナー：JCASのネットワークを活用して社会からの要望に応じてセミナー等に地域研究の専門家を派遣するもの。2013年度は次の2件が実施された。

①シンポジウム「混成アジア映画がつなぐ東アジア世界」にリム・カーワイ監督を派遣（2013年12月13日、

大阪大学中之島センター講義室）

②「マレーシア修学旅行に向けた社会・歴史・文化に関する映画上映と講演」に山本博之准教授（地域研）を派遣（2014年1月22日、茨木市クリエイトセンター）



図Ⅱ-5 地域研究コンソーシアムの運営体制（2014年3月現在）

表Ⅱ-1 2013年度地域研究コンソーシアム公募プロジェクト（地域研の共催分）

次世代ワークショップ	多民族社会におけるアイデンティティの形成・分断・再統合：ヴォイヴォディナ地域研究確立に向けて
	文化多様性に学ぶ環境教育：地域に根ざす教育の実践研究
オンデマンド・セミナー	マレーシア修学旅行に向けて
	マレーシア修学旅行に向けた社会・歴史・文化に関する映画上映と講演
	東アジアの混成性をテーマとする映画を題材としたシンポジウム
共催企画	ジャウィ文献講読講習会
	シンポジウム「地域研究の『粋』を味わう：現地から中央アジア、オセアニア、EU、東南アジアを読む」
	日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と地球環境の将来：人文・社会科学からのメッセージ」
	国際シンポジウム「大洋が結ぶ世界（16～17世紀）：ラテンアメリカから東アジアへ」
社会連携	「災害対応の地域研究」プロジェクト
	「アジアと日本を結ぶ実践型地域研究」プロジェクト
	「女性地域研究者のライフ・キャリアネットワーク」プロジェクト
	「地域研究と外交実践の連携プロジェクト」
	「地域研究のキャリアデザイン・プロジェクト」
地域研究方法論	「地域研究の過去と将来」プロジェクト
	「災厄と記憶の地域研究」プロジェクト
	「日本発・地域研究」プロジェクト
	「アジアと日本を結ぶ実践型地域研究」プロジェクト
	「物語を基にしたコミュニティづくりを目指す地域研究」

- (3) 特定課題研究:JCAS加盟組織からの要請に基づき、加盟組織が公募する共同研究の募集・選考・実施にJCASが協力するもの。2013年度は、地域研の共同研究「災害対応の地域研究」ならびに「地域研究方法論」の2つの共同研究プロジェクトの公募に協力した(下記参照)。
- (4) 共催企画:JCAS加盟組織等からの要請に基づき、JCASが共催の形で協力するもの。2013年度は次の2件が実施された。
- ①「ジャウイ文献講読講習会」(主催:「ジャウイ文献と社会」研究会)(2013年10月13-14日、東京外国語大学)
 - ②シンポジウム「地域研究の『粹』を味わう:現地から中央アジア、オセアニア、EU、東南アジアを読む」(主催:日本学術会議地域委員会地域基盤整備分科会)(2013年11月17日、青山学院大学総研ビル)
 - ③日本学術会議主催学術フォーラム「アジアの経済発展と地球環境の将来:人文・社会科学からのメッセージ」(2014年1月11日、日本学術講義堂)

4. 社会連携

JCASは、災害・紛争への対応、地域研究の成果の社会での活用、地域研究者のライフとキャリアの3つを柱として、社会連携を推進している。

- (1) JCAS社会連携プロジェクト:地域研究による社会連携の担い手や分野を拡大する目的でJCAS加盟組織から社会連携活動を募集し、JCAS社会連携プロジェクトとして登録するもの。2013年度は以下の5件が登録された(継続分含む)。
- ①「災害対応の地域研究」プロジェクト
 - ②地域研究と外交実践の連携プロジェクト
 - ③アジアと日本を結ぶ実践型地域研究プロジェクト
 - ④地域研究のキャリアデザイン・プロジェクト
 - ⑤女性地域研究者のライフ・キャリアネットワーク・プロジェクト
- (2) 共同研究プロジェクト公募:地域研との共催により地域研究の社会連携に関する共同プロジェクトを募集し、採択されたプロジェクトをJCAS社会連携プロジェクトとしても登録するもの。2013年度は「災害対応の地域研究」プロジェクト(テーマ1:災害・紛争と復興、テーマ2:記録・記憶と社会の再生)を実施課題として募集を行い、1

件が採択された(実施は2014年度)。

5. 地域研究方法論

2012年度、従来の地域研究方法論研究会が地域研究方法論部会となり、「地域研究の過去と将来」、「日本発・地域研究」、「災厄と記憶の地域研究」、「通史を書かない地域研究」の4つのプロジェクトを立てて、あらたな活動段階に入った。

- (1) 共同研究プロジェクト公募:地域研との共催により地域研究の方法論に関する共同プロジェクトを募集するもの。2013年度は「地域研究方法論」プロジェクト(テーマ:地域研究方法論)を実施課題として募集を行い、1件が採択された(実施は2014年度)。

6. 出版物

- (1) 和文雑誌『地域研究』:地域研究から社会への発信を目標に編集・刊行されているJCAS学術誌『地域研究』の14巻1号および2号が発行された(2014年3月)。第1号では「総特集 グローバル・スタディーズ」ならびに前年度の総特集「ASEAN諸国における健康と環境」に対するコメントが掲載された。第2号は「特集1 紅い戦争の記憶:旧ソ連・中国・ベトナムを比較する」、「特集2 『三つの祖国』に生きる越境者」、ならびに第3回地域研究コンソーシアム賞受賞者発表、研究作品賞・登竜賞受賞作品に対する書評、前年度の総特集「混成アジア映画の海」に対するコメント、ならびにコメントを掲載した。
- (2) ワーキング・ペーパー(JCAS Collaboration Series):以下の1点が刊行された。
- ①JCAS Collaboration Series No. 8:塩谷昌史・高橋五郎・貴志俊彦編『日中関係の質的変容をどう理解するか 他地域の視点から捉え直す(JCAS年次集会シンポジウム報告書)』
- (3) ニュースレター:No. 15およびNo. 16を発行した。

地域研究コンソーシアム・ホームページ <http://www.jcas.jp/>

3 英国議会資料 (BPP)

英国議会資料 (British Parliamentary Papers, BPP) として知られている資料集成は、英国議会下院・上院に提出された文書を会期ごとにまとめた資料集成であり、19世紀初頭から本格的に編纂され今日にいたっている。法案、省庁報告書、各種の委員会等報告書、領事報告や関連資料、通商統計、人口センサスなど内容は多岐にわたり、この時代のイギリスの位置を反映して、連合王国内のみならず、アジア、アフリカ等の世界各地についての記述が多数含まれている。19世紀以来、英国議会資料は多くの研究において基本資料の一つとして利用されてきたが、関連する多様な資料が発掘され利用可能になるにしたがって、議会提出を前提として集積され編纂された近代イギリスの「情報群」のあり様を問う資料としても、近年あらためてその資料の価値が見直されてきた。また、通商統計やセンサスなど長い期間にわたって時系列分析が可能な統計などが多く含まれているのも特色である。

現在、地域研究統合情報センター (地域研) が所蔵している英国議会資料約12,000冊は、英国商務省が保存していた下院文書1801年～1986年、上院文書1801年～1922年のほぼ完全な集成である。1998年に京セラ株式会社から国立民族学博物館地域研究企画交流センター (当時) に寄贈され、同センターにおいて公開に必要な修復・保全措置を施したのち、2000年度から「京セラ文庫『英国議会資料』」として公開されてきた。2006年4月、地域研の設置とともに同資料は京都大学に移管され、地域研が所蔵・管理運営を担当する体制のもとに京都大学附属図書館に恒温恒湿設備をもつ文庫室を設置し、引き続き「京セラ文庫『英国議

会資料』」として公開している。地域研は、その設置直後から、全国共同利用施設として、資料原本の保全管理と一般公開とともに、近年開発されたウェブ版の導入やデータベース化を通じたあらたな利用方法の提供、共同研究やワークショップを通じた研究活動の推進に重点をおいた活動を行っている。

1. 資料の公開：「京セラ文庫『英国議会資料』」開設とウェブ版の導入

膨大な資料の活用にはウェブ版House of Commons Parliamentary Papers (HCPP) が威力を発揮する。地域研では、19世紀から現在にいたるウェブ版を導入し、ウェブ版と原本閲覧を同時に可能とする体制を整えている。ウェブ版は、学内LANで公開しているほか、地域研図書室および附属図書館に設置されているコンピュータを通じて学外にも公開している。

2. 地図・図版のデータベース化とウェブ上での公開

英国議会資料には、多数の貴重な地図や図版が含まれている。地域研では地図データベース (第一期) を作成し公開している。今後、これを継続するかは検討中。

3. 共同研究による研究利用の促進

内外の研究者に地域研所蔵の原本集成の利用を促進することを目的として、共同利用・共同研究拠点の公募型共同研究の一環として「CIAS所蔵資料の活用」枠を設置し、本資料を活用した研究の促進を図っている。



英国議会資料検索ページ



所蔵されている英国議会資料

2 情報資源共有化に向けた活動

1 地域情報学の構築に向けた活動

世界の諸地域の様子や動向をどのようにすれば捉えることができるのか。これは、人類が自分たちと異なる人々への関心に向けたときから取り組んできた課題であり、グローバル化が進む現代世界でますます重要性を増している課題である。この課題に対して、学術研究の分野では、統計資料や公文書・手記などの文献資料を使ったり、重要人物から聞き取り調査したりする方法を工夫し、各国の公文書や統計資料・主要新聞、そして研究書や研究論文を収集してきた。これらの資料や分析方法の重要性は今後もなくなることはないが、今日では、世界の新しい状況に対応して、従来の資料収集や分析方法・公開方法に加えて次の4つの工夫が必要になると考えられる。

第一は、国境を越えた動きを捉えて提示する工夫である。今日では、国境を越えた人や物や情報の動きが容易になり、大量の動きが見られる。従来の国別の情報も依然として重要だが、国別とは別の枠組みで情報を収集・整理して提示する仕組みも必要である。公文書や統計資料は国別に様式や詳しさが異なっており、そのまま繋げることができないこともあるため、様式や詳しさが互いに異なる情報をどのように繋げるかという工夫も必要となる。また、国境を越えて移動し、繋がる人や物や情報をどのように捉え、どのように提示するかという工夫も必要である。

第二は、図画・映像・建築物・音楽などの情報を利用する工夫である。統計資料や文献資料は依然として基本的な情報だが、社会が多様化し、情報技術の発達により様々なメディアが登場したこともあり、図画・映像・建築物・音楽のように従来は各専門分野でのみ使われてきた情報も取り入れて人々の暮らしや考え方を捉える必要がある。これらの資料をどのように処理すれば機械的に検索できるようになるのか、そしてそのような検索により人々の動きや考え方がどのように明らかになるのかは、現代世界を捉える上で重要な課題である。

第三は、多種多様かつ大量の情報の中から人々の暮らしや考え方を浮かび上がらせる工夫である。情報通信とりわけインターネットの発達に伴い、大量のデータが容易に利用可能となった。ただし、その多くは構

造化されていないため、情報量が増えることが対象への理解の促進とは直接結びつかない。また、一時的な情報が多いため、長い時間をかけて解析しても状況が変化してしまって解析結果が意味を持たなくなることもある。このような構造化されていない巨大なデータ（ビッグデータ）を短時間に処理し、対象の傾向を大掴みで読み解くことも、今日の社会では多くの分野で必要とされている。

第四は、研究対象である現地社会の人々が利用できる形でデータベースを作成し、公開するという点である。研究（観察）する側とされる側が明確に区別される時代は幕を閉じ、今日では研究する側とされる側が「地続き」になっている。外部の観察者から向けられた関心や視線がその社会の自画像に影響を及ぼすこともあり、どのようなデータベースを構築するかは、純粋に学術的な関心の問題では済まず、自分と相手を含む社会的な関心とも密接に関わる問題である。データベースの使用言語を英語や現地語にするだけでなく、データベースの設計段階から現地社会と共同で取り組むことも必要となるだろう。

これらの4つの課題に対して必ずしも十分に納得のいく答えが得られているわけではないが、地域研究統合情報センターは、地域情報学プロジェクトのもと、各スタッフがそれぞれの研究関心に即して具体的な資料をもとにデータベースを作成しながらこれらの課題に取り組んでいる。地域研究者が試行錯誤を重ねながらデータベースを構築しているために手間はかかるが、上記の4つの課題を技術的に解決することだけを目標にするのではなく、現地社会や研究者を含む利用者にとって意味がある形で利用されるデータベースを目指して模索を続けている。

実験的なものを含め、地域研究統合情報センターで作成・公開しているデータベースには以下のものが挙げられる。

- 研究上の利用とともに、現実社会で専門家や一般利用者にも使えるものとして設計されているもの。スマトラの災害（①～⑥）、旧社会主義諸国の選挙・政党（⑦）、ペルーの反政府武装闘争

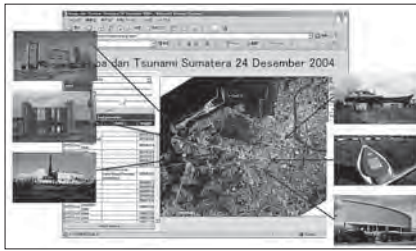
(⑧)、大陸部東南アジアの寺院・出家行動 (⑨～⑩) に関するデータベースやシステムがあり、災害に関するデータベースやシステムの一部はすでにインドネシアの防災教育や災害ツーリズムの分野で実際に活用されている。また、寺院・出家行動のデータベースはタイの研究者や仏教団体と共同で研究が進められている。

- 世界的に貴重な資料をデジタル化により共有化するもの。『トルキスタン集成』(⑪)、マレー・イスラム雑誌『カラム』(⑫)、タイ語三印法典 (⑬～⑭)、貝葉文書 (⑮～⑯) など、当時の時代と社会を知る貴重な現地語資料でありながら、体系的に収集・整理されていなかった資料を収集・デジタル化したデータベースや、地域研究統合情報センターが原本を所蔵している英国議会資料の利用を助けるデータベース (⑰) がある。『カラム』データベースは、マレーシアの国立図書館や言語出版局との共同によりマレーシアの教育で活用されている。
- 個人研究者が収集・蓄積した研究資料を整理し、個人研究者の経験や思索の体系化と可視化を試みるとともに、個人研究者の研究情報を共有可能にするもの。フィールドノートデータベース (⑱) や、故石井米雄名誉教授の蔵書を中心とする研究資料を整理した石井米雄コレクション (⑲) がある。布野修司氏の世界建築データベース (⑳) は、書籍とデータベースを統合した先駆的なフィールド・データベースである。
- 映画、ポスター、建築、音楽など、人々が日常生活の中で見聞きしたり利用したりすることで人々の行動や考え方に影響を与えているものの、従来の研究では十分に利用されてこなかった形態の情報のデータベース。インド、タイ、マレーシアの映画 (㉑～㉓)、満州国ポスター (㉔)、戦前期東アジア絵はがき (㉕)、アジア建築 (都市環境文化資源㉖) がある。画像を視覚的に検索したり分析したりする方法や、映画を「物語」として提示したり検索したりする方法が模索されている。
- 中国をはじめとする東アジアの現代史に関するデータベース。20世紀年表 (㉗)、中国外国人人口統計 (㉘)、北京特別市市政公報 (㉙)、上海租界工部局文書 (㉚)、中国関係アーカイブ (㉛)、モンゴル人文社会系定期刊行物 (㉜) のデータベースがある。

また、地域情報学プロジェクトでは、データベース作成支援、データベースの統合検索、データの可視化・分析のため、以下のようなシステムやツールを作成・公開している。

- データベース構築支援：データベースに関する専門的な知識や技術を必要とせず、データベースの構築と公開を実現できるMyデータベース (㉝)。
- データベース統合：インターネット上に分散しているデータベースの統合検索を目指した地域研究資源共有化データベース (㉞～㉟)。
- 時空間情報処理ツール：時間処理も可能な地理情報の可視化・分析ツール用HuMap (㊱) および時間情報の可視化・分析用ツールHuTime (㊲)。
- 地域情報学基礎データベース：地域情報学を支える歴史地名辞書データベース (㊳)、暦間の日付変換ツール (㊴)、および地図データベース (㊵)。
- オントロジーツール：語彙の意味・構造に注目してデータを関連付けることにより、資料群を可視化したり検索したりするツールであるトピックマップの研究。その具体例としての、日本図書館協会 (㊶) および国立国会図書館 (㊷) の件名標目表、農林水産関連分野の語彙集 (AGROVOC) (㊸)、世界各地の民族・社会・文化に関する文献語彙集 (HRAF) (㊹)、漫画『花より男子』各言語版のトピックマップ (㊺)。

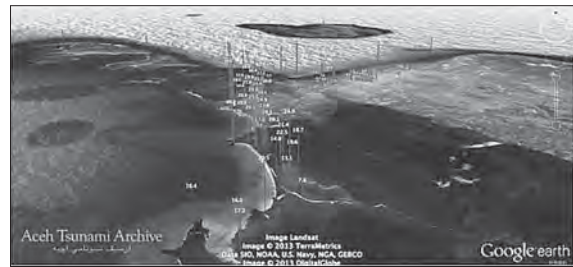
2 データベースや情報解析ツール等一覧



① アチェ津波モバイル博物館システム

2004年12月に発生したインド洋津波（スマトラ島沖地震・津波）の被災と復興過程について、現地語メディアでの報道記事や写真を地図上で表現し、それらをスマートフォンなどの携帯端末で参照可能にすることで、バンドアチェの街並みに重ねて被災と復興過程を記録・参照することができるようにしたシステム。

<http://disaster.net.cias.kyoto-u.ac.jp/Aceh/>
 短縮URL : <http://goo.gl/8NBhm>



② アチェ津波アーカイブ（可視化型データベース）

【首都大学東京大学院システムデザイン研究科渡邊英徳研究室との共同開発】

津波災害を生き延びた被災者の証言や被災直後から収集された写真をGoogle Earthの立体地形に重ねて閲覧することができる。画面左上のタイムスライダーを操作することによって、時系列に沿った絞り込み表示も可能。また、Google Earthにも過去の衛星画像が収録されているので、津波前後の変化、そして街が復興していくようすを、時空を越えて体感することができる。その他、津波遡上高、世界から現地に届いた支援の手をあらわす光の線などの多角的な資料が掲載されている。

<http://aceh.mapping.jp/>



③ 災害と社会 情報マッピング・システム

新聞社などによってオンライン上で発信される報道記事を自動で収集し、記事中の地名をもとにテーマ別に地図上で表現するシステム。災害発生直後に被害の広がりや救援活動の概要を把握することなどに役立つ。現在はインドネシアの全国紙の記事をもとに、アチェ州と西スマトラ州について、自然災害、紛争・事件、選挙などのテーマで記事を収集し、提示している。

<http://disaster.net.cias.kyoto-u.ac.jp/Indonesia/>
 短縮URL : <http://goo.gl/6MByS>



④2004年スマトラ沖地震・津波関連記事データベース

2004年12月に発生したインド洋津波（スマトラ島沖地震・津波）に関するインドネシアおよび近隣地域の現地語メディアでの報道記事を、記事中の地名をもとに地図上に表現したデータベース。

<http://disaster.net.cias.kyoto-u.ac.jp/Aceh/>

短縮URL： <http://goo.gl/8NBhm>



⑤2004年スマトラ沖地震・津波画像データベース

2004年12月に発生したインド洋津波（スマトラ島沖地震・津波）の最大の被災地となったインドネシア共和国アチェ州の被災と復興の過程を撮影した写真を、地理情報により地図上で表現したデータベース。

<http://disaster.net.cias.kyoto-u.ac.jp/Aceh/>

短縮URL： <http://goo.gl/8NBhm>



⑥2009年西スマトラ地震関連記事データベース

2009年9月に発生した西スマトラ地震（パダン地震）に関するインドネシアの現地語メディアでの報道記事を、記事中の地名をもとに地図上で表現したデータベース。

<http://disaster.net.cias.kyoto-u.ac.jp/Indonesia/>

短縮URL： <http://goo.gl/6MByS>



⑦ポスト社会主義諸国選挙・政党データベース

ヨーロッパの旧社会主義国を対象に、選挙制度、主要政党の綱領と変遷、最近20年間の選挙結果を数値等で表現して比較可能にしたデータベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003Post
 短縮URL : <http://goo.gl/yTeHT>

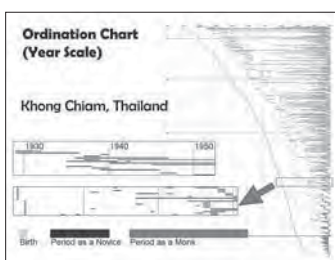


⑧センデロ・ルミノソ・マッピング

【首都大学東京大学院システムデザイン研究科渡邊英徳研究室との共同開発】

ペルーで1980年に武装闘争を開始した反政府武装集団センデロ・ルミノソに関するデータベース。この可視化コンテンツでは、活動のカテゴリ別に色分けしたアイコンをGoogle Earthに時空間マッピングし、ズームイン・アウトやタイムスライダー操作によって、センデロ・ルミノソの活動の推移を俯瞰できるようにしている。

<http://peru.mapping.jp/>



⑨大陸部東南アジア仏教徒社会の時空間マッピング・データベース

上座仏教徒が集住する西南中国を含む東南アジア大陸部の上座仏教寺院と出家者に関するデータを現地調査によって収集し、マッピング・データベースとして統合したもの。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000209SEthertemple
 短縮URL : <http://goo.gl/8ZRZK>



⑩寺院マッピング

【首都大学東京大学院システムデザイン研究科渡邊英徳研究室との共同開発】

ミャンマーにおける寺院と僧侶の社会距離を視覚的に提示したデータベース。本コンテンツでは、寺院名、緯度、経度、写真のファイル名といった文字情報をGoogle Earth上にマッピングし、地理的関係や僧侶の移動軌跡等をインタラクティブに表示している。

<http://temple.mapping.jp/>

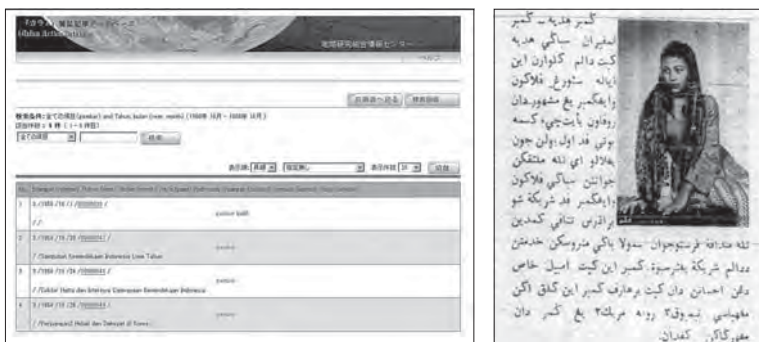


⑪「トルキスタン集成」データベース

帝政ロシアの初代トルキスタン総督カウフマンの発案によって19世紀後半からロシア革命前夜まで収集された、当時の中央アジアに関する文献コレクション「トルキスタン集成」の書誌およびPDF画像データベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003Turkestan

短縮URL : <http://goo.gl/dKKuk>



⑫『カラム』雑誌記事データベース

シンガポール（後にマレーシア）で刊行されていたイスラム系総合月刊誌『カラム』（Qalam, 1950～1969年、シンガポール発行、マレー語、ジャヴィ文字）の全記事の書誌およびPDF画像データベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003QALAM

短縮URL : <http://goo.gl/mvu72>



⑬タイ語三印法典（王立研究所版）

1805年に現ラタナコーシン（バンコク）王朝ラーマ I 世（1782-1809）の勅命によってアユタヤ滅亡時に残された諸法典の写本に基づいて編纂された14世紀中葉から19世紀初頭までの法令・布告集成の全文データベース。本データベースは、2007年タイ国王立研究所刊行の写本から作成した用例索引 *The Computer Concordance of the Law of the Three Seals: Revised Version* (Amarin Printing and Publishing, 2008) にもとづくもので、36,242用例、見出し語19,579語が含まれる。

<http://area.net.cias.kyoto-u.ac.jp/ksd/>

短縮URL： <http://goo.gl/H62JQ>

ลำดับที่	ปี	ฉบับ	เรื่อง	ฉบับที่	วันที่	ฉบับที่	วันที่
1	1805	1	พระราชบัญญัติ	1	1805	1	1805
2	1805	2	พระราชบัญญัติ	2	1805	2	1805
3	1805	3	พระราชบัญญัติ	3	1805	3	1805
4	1805	4	พระราชบัญญัติ	4	1805	4	1805
5	1805	5	พระราชบัญญัติ	5	1805	5	1805
6	1805	6	พระราชบัญญัติ	6	1805	6	1805
7	1805	7	พระราชบัญญัติ	7	1805	7	1805
8	1805	8	พระราชบัญญัติ	8	1805	8	1805
9	1805	9	พระราชบัญญัติ	9	1805	9	1805
10	1805	10	พระราชบัญญัติ	10	1805	10	1805



⑭タイ語三印法典（タマサート大学版）

1805年に現ラタナコーシン（バンコク）王朝ラーマ I 世（1782-1809）の勅命によってアユタヤ滅亡時に残された諸法典の写本に基づいて編纂された14世紀中葉から19世紀初頭までの法令・布告集成の全文データベース。本データベースは、タマサート大学写本廉価版から作成された *The Computer Concordance of the Law of the Three Seals* (Amarin Publications, 1990), 5 vols. にもとづくもので、239,576用例を含む。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003gissv

短縮URL： <http://goo.gl/WrvdH>



⑮貝葉文書

「タム文字写本文化圏」（タイ東北部、ラオス、ミャンマー、中国雲南省南部）に分布する地域史料である貝葉文書のデータベース（公開準備中）。

ฐานข้อมูลใบลานในอีสานใต้

View leaf documents in the Southern Isan

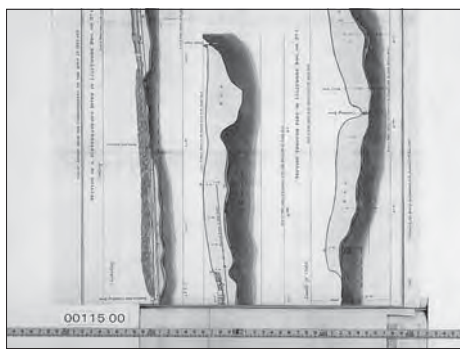
ค้นหา (ค้น) ฟิล์ม ฟิล์ม

ID	ชื่อเรื่อง	หมายเลขใบ	จำนวน	จังหวัด	ปีจัดทำ
1.4.6.1.1.1.1.1.1.1	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.2	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.3	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.4	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.5	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.6	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.7	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.8	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.9	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑
1.4.6.1.1.1.1.1.1.10	หนังสือพระบรมราชโองการ	ใบลานกรุงเทพฯ	แผ่น ๑	กรุงเทพฯ	๒๕๕๑



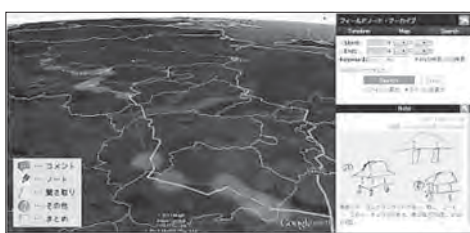
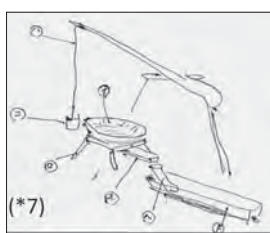
⑩東北タイ南部貝葉データベース

東北タイ南部の貝葉文書のデータベース。標準タイ語の浸透により急速に失われつつある地方の言語と文化の保護を目的として、地方言語により記された古文書・写本の画像形式での保存と公開を行っている。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvDefault.exe?DEF_XSL=default&GRP_ID=G0000208&DB_ID=G0000208bailanit&IS_TYPE=csv&IS_STYLE=default&EXTEND_DEFINE=&EXTEND_STYLE=default
 短縮URL : <http://goo.gl/RCE0S>



⑪「英国議会資料」図版データベース

地域研所蔵の英国議会資料のうち地図・図版をデータベース化したもの。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003BPP
 短縮URL : <http://goo.gl/6fgTp>



⑫フィールドノート・データベース

【首都大学東京大学院システムデザイン研究科渡邊英徳研究室との共同開発】
 東南アジアを中心に、主に自然科学系の研究者の現地調査によって得られたフィールドノートの記録をデータベース化し、さまざまな他の情報と組み合わせることで新たな地域研究資料として利用することを目的としたもの。
<http://fieldnote.mapping.jp/>



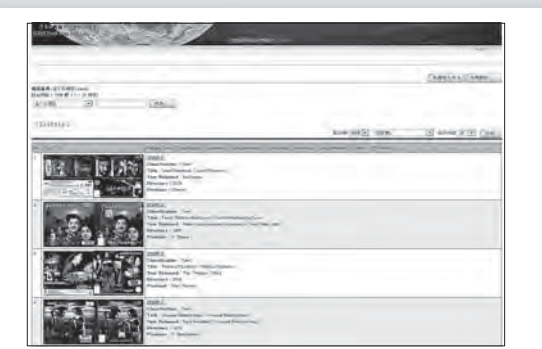
①9道は、ひらける — 石井米雄と東南アジア研究 (石井米雄コレクション)

故石井米雄・京都大学名誉教授（1929-2010）により、1957～2010年までに収集された図書・研究資料や調査地で撮影された写真などの集成である石井米雄コレクション、映像「道は、ひらける：石井米雄と東南アジア研究」、「石井米雄の歩んだ道」、「石井米雄がうみだした著作」から構成されるデータベースである。図書・冊子体では約10,000点のうち、2,567点、抜刷・研究資料等6,906点、写真資料約5,000点が検索でき、東南アジア地域研究やタイ史・法制度研究、言語研究に重要な資料群を含む。また本データベースは、仮想書架やPC上で動作する書誌情報から抽出されたキーワードにもとづくオントロジー向き検索が可能である。
<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/collection/>



②0布野修司・世界建築データベース

滋賀県立大学の布野修司教授による世界の建築に関するデータベース。現在、『グリッド都市』（布野修司、ヒメネス・ベルデホ著、京都大学学術出版会、2013年）に掲載された図版のみ閲覧可能となっている。これは、京都大学が所蔵するフィールドでの調査記録を広く社会に還元するために京都大学学術出版会と共同して進めているプロジェクトの一環である。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003gridcity
 短縮URL： <http://goo.gl/x6Nkn>



②1インド (タミル) 映画データベース

地域研が所蔵するタミル語映画コレクション（1960年代～1990年代）の目録およびジャケット写真のデータベース。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003TAMIL
 短縮URL： <http://goo.gl/nZplm>



②2タイ映画データベース

地域研が所蔵するタイで作成された劇場映画コレクションの目録およびジャケット写真のデータベース。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003THAI
 短縮URL： <http://goo.gl/8mgfB>



㊸マレーシア映画データベース

地域研が所蔵するマレーシアで作成された劇場映画およびテレムービー（CDで販売される劇映画）のコレクションの目録およびジャケット写真のデータベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000003Malaysia

短縮URL：<http://goo.gl/SLWuB>



㊸満洲国ポスターデータベース

1925年9月26日から1941年12月8日までの満洲に関するポスターおよび宣伝ビラの画像データベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000021MAN

短縮URL：<http://goo.gl/EzIVB>



㊸戦前期東アジア絵はがきデータベース

第二次世界大戦終了以前に発行された日本内地、朝鮮半島、台湾、満洲、樺太、南洋等における絵葉書の画像データベース。継続更新中。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000022PPC

短縮URL：<http://goo.gl/snc73>



②⑥ アジア都市環境文化資源データベース

アジア近代建築研究者のネットワークであるmAAN、東京大学生産技術研究所・村松伸研究室、地域研が共同し、アジアの都市部に存在する近代建築を中心に、都市環境文化資源を登録したデータベースである。データ登録・管理は、地域研のMyデータベースシステムを通じて行っている。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta/G0000204UECR

短縮URL：http://goo.gl/AHkjf



②⑦ 20世紀年表データベース (1918~1952年)

北東アジアの20世紀前半の情勢を「政治」「経済」「社会」「文化」等に区分した年表にもとづくデータベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000020NPY

短縮URL：http://goo.gl/KUNWU



②⑧ 中国における「外国人」人口統計データベース(戦前編)

戦前の中国における外国人人口統計データの蓄積・利用に關するデータベース。

http://area.net.cias.kyoto-u.ac.jp/statistics/

短縮URL：http://goo.gl/m6cm7



②⑨ 『北京特別市公署市政公報』 目次検索データベース (1938~1944年)

戦時期における北京特別市公署 (のち市政府) が発行した『市政公報』(1938年1月~1944年9月)の記事名データベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000020BJG

短縮URL：http://goo.gl/7TQH0



③⑩ 上海租界工部局警務処文書件名索引データベース (1894~1949年)

上海共同租界でイギリスが中心となって運営した「租界工部局」に関する文書を中心とした書誌データベース。

http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000020SGH

短縮URL：http://goo.gl/hYnYG



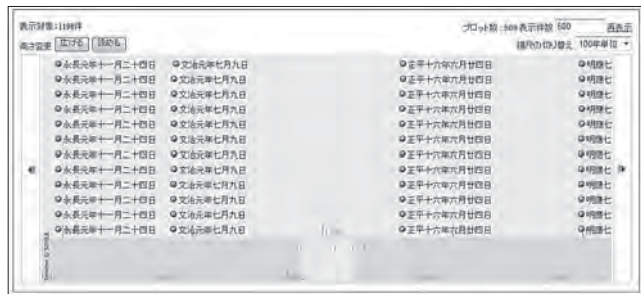
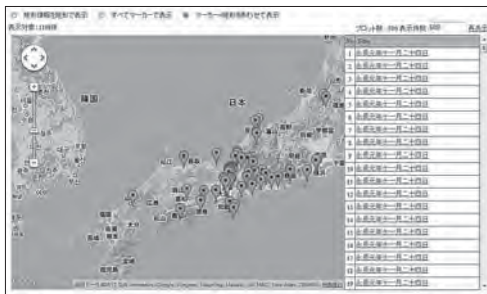
③①スタンフォード大学フーヴァー研究所中国関係アーカイブ件名索引データベース

スタンフォード大学フーヴァー研究所が所蔵する約4500点の中国関係のアーカイブの件名データベース。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000020HOV
 短縮URL : <http://goo.gl/Hqo4j>



③②モンゴル（人民共和）国科学アカデミー刊行人文社会系学術定期刊行物記事索引データベース

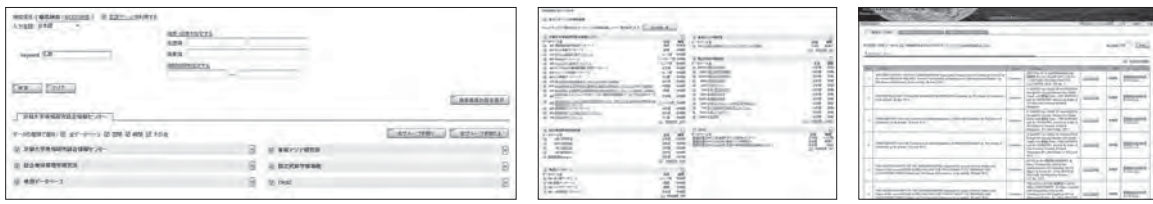
モンゴル国科学アカデミーの人文科学系の諸研究所が刊行している定期刊行物・逐次刊行物のうち1980年代末までの書誌データベース。
http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000020MGL
 短縮URL : <http://goo.gl/n0rAD>



ID	地名	国名	変種名	レコード番号	レコードID	船名	西暦	経緯地名	現在地名	LAT	LONG	J-Code
1	ID	NAME	PRIME	BASIC	BASIC	BASIC	BASIC	BASIC	BASIC	BASIC	BASIC	BASIC
1	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
2	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
3	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
4	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
5	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
6	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
7	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
8	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
9	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0
10	190722	日本紀略	22	1181	190722	山崎闇斎	190722	京都府/京都府/上野区/小山西	35.015	136.7482778	千本丸寺交差点 区に隣接する八 丁目跡のプレート 読み	0

③③データベース作成ツール：Myデータベース・サービスおよびREST型API

データベースシステムの管理・運用法を見直し、研究者個人によるメタデータの定義・修正、検索機能の設定、検索画面の作成などを簡単に行えるようにしたもの。地域研究情報基盤のデータベースは機関レポジトリとして設計されており、管理が複雑なうえに利用者ごとの要求への柔軟な対応が困難で、研究用情報ツールとしては使いにくいことに対応した。なお、Myデータベースは個人によるデータベース構築を容易としている反面、画面構成や検索機能は制限されている。この短所を補うためにREST型のAPIを提供している（試験公開）。



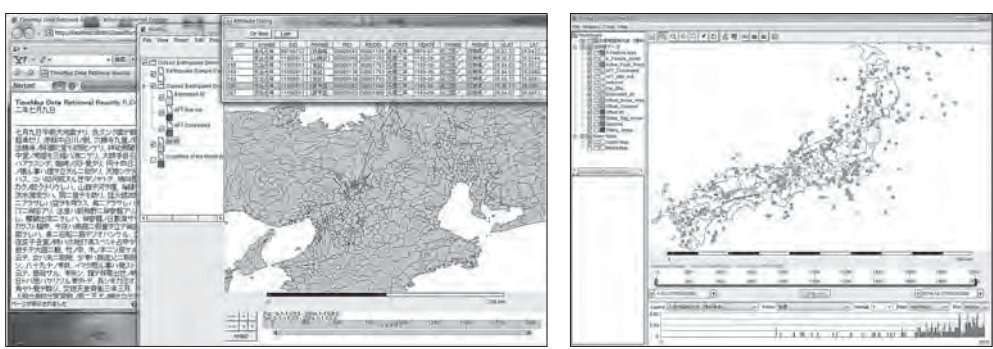
㊤地域研究資源共有化データベース

地域研が公開しているカタログデータベースの統合検索を目指した新しいタイプのデータベースシステム。
<http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/GlobalFinder/cgi/Start.exe>
 短縮URL： <http://goo.gl/akc6C>



㊦地域研究資源共有化データベース（多言語対応版）

「地域研究資源共有化データベース」に共有化されているデータは、英語・タイ語・ロシア語などさまざまな言語で記述されている。そのため、検索語が日本語であれば英語データベースにはヒットしないという問題がある。この多言語対応版は、言語グリッド (<http://langrid.org/jp/>) のサービスを利用して「地域研究資源共有化データベース」に翻訳機能を加えた実験システムである。日本語で英語やタイ語のデータベースを検索し、検索結果を日本語や英語に翻訳して表示することができる（アクセス制限）。



㊧GISシステムをベースとした多機能連携型データベース作成ツール：HuMap（Humanities Map）

GISシステムの一つ。地図情報の可視化機能に加え、コロプスマップやバッファリング等のGIS演算機能、レイヤ間の論理演算機能、SQL検索機能、アニメーション表示機能、データクリアリングハウス連携機能などを有している。
<http://www.h-gis.org>

■各項目を設定して「検索」ボタンをクリックしてください。

天皇(Emperor) 指定なし

元号(Japanese Era) 指定なし

和暦年 指定なし

和暦月 指定なし 閏月

和暦日 指定なし

元号・年を直接入力 延暦 001 年

表示件数 20

和暦年指定検索 (Emperor, Japanese Era)

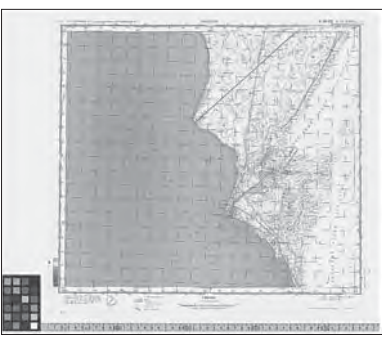
天皇 (Emperor) 元号 (Japanese Era) 和暦年 (Japanese Era) 和暦月 (Japanese Era) 和暦日 (Japanese Era) 西暦 (Gregorian Calendar) 中国暦 (Chinese Calendar) 天保 (Tenpo) 天保 11 年 11 月 11 日 1840 年 11 月 11 日

天保 11 年 11 月 11 日

天保 (Tenpo)	元号 (Japanese Era)	和暦年 (Japanese Era)	和暦月 (Japanese Era)	和暦日 (Japanese Era)	西暦 (Gregorian Calendar)	中国暦 (Chinese Calendar)
1	天保 11 年	天保 11 年	11 月	11 日	1840 年 11 月 11 日	庚辰年 10 月 21 日
2	天保 11 年	天保 11 年	11 月	12 日	1840 年 11 月 12 日	庚辰年 10 月 22 日
3	天保 11 年	天保 11 年	11 月	13 日	1840 年 11 月 13 日	庚辰年 10 月 23 日
4	天保 11 年	天保 11 年	11 月	14 日	1840 年 11 月 14 日	庚辰年 10 月 24 日
5	天保 11 年	天保 11 年	11 月	15 日	1840 年 11 月 15 日	庚辰年 10 月 25 日
6	天保 11 年	天保 11 年	11 月	16 日	1840 年 11 月 16 日	庚辰年 10 月 26 日
7	天保 11 年	天保 11 年	11 月	17 日	1840 年 11 月 17 日	庚辰年 10 月 27 日
8	天保 11 年	天保 11 年	11 月	18 日	1840 年 11 月 18 日	庚辰年 10 月 28 日
9	天保 11 年	天保 11 年	11 月	19 日	1840 年 11 月 19 日	庚辰年 10 月 29 日
10	天保 11 年	天保 11 年	11 月	20 日	1840 年 11 月 20 日	庚辰年 10 月 30 日
11	天保 11 年	天保 11 年	11 月	21 日	1840 年 11 月 21 日	庚辰年 10 月 31 日
12	天保 11 年	天保 11 年	11 月	22 日	1840 年 11 月 22 日	辛巳年 11 月 1 日
13	天保 11 年	天保 11 年	11 月	23 日	1840 年 11 月 23 日	辛巳年 11 月 2 日
14	天保 11 年	天保 11 年	11 月	24 日	1840 年 11 月 24 日	辛巳年 11 月 3 日
15	天保 11 年	天保 11 年	11 月	25 日	1840 年 11 月 25 日	辛巳年 11 月 4 日
16	天保 11 年	天保 11 年	11 月	26 日	1840 年 11 月 26 日	辛巳年 11 月 5 日
17	天保 11 年	天保 11 年	11 月	27 日	1840 年 11 月 27 日	辛巳年 11 月 6 日
18	天保 11 年	天保 11 年	11 月	28 日	1840 年 11 月 28 日	辛巳年 11 月 7 日
19	天保 11 年	天保 11 年	11 月	29 日	1840 年 11 月 29 日	辛巳年 11 月 8 日
20	天保 11 年	天保 11 年	11 月	30 日	1840 年 11 月 30 日	辛巳年 11 月 9 日

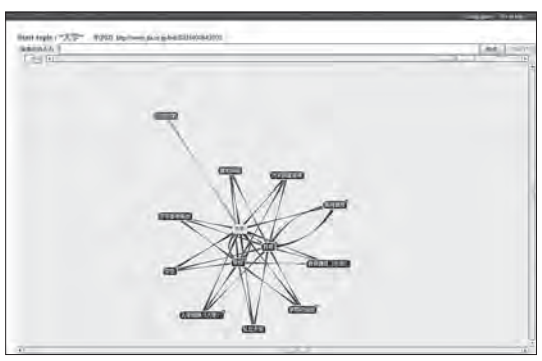
③⑨ 暦日テーブル

多様な暦の参照表。現在は和暦、グレゴリオ歴、中国歴に対応しており、主として暦間の日付変換に利用する。
http://area.net.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000017warekiconv
 短縮URL : <http://goo.gl/rL7so>



④⑩ 地図データベース (試行版)

地域研が所蔵する旧ソ連邦作成地図を中心とする地図コレクションおよび東南アジア研究所が所蔵する外邦国を中心とした地図コレクションのデータベース (現時点では旧ソ連邦部分を公開)。共同研究の成果である汎用地図メタデータの利用、Google Mapを利用した視覚的な検索システム、他機関地図データベースシステムとの共有化機能などの特徴を持つ。
http://infos.net.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000004soviet
 短縮URL : <http://goo.gl/QCOIX>



基本件名標目表 (BSH: Basic Subject Headings) トピックマップ

検索条件: 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

検索結果: 1件

1. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

2. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

3. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

4. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

5. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

6. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

7. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

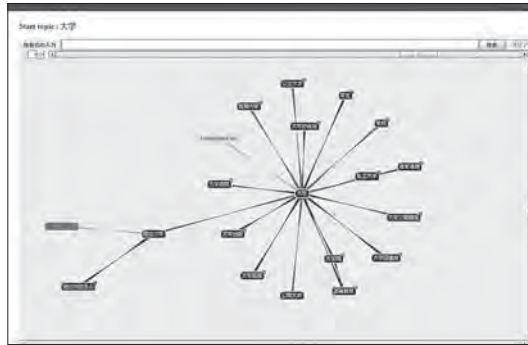
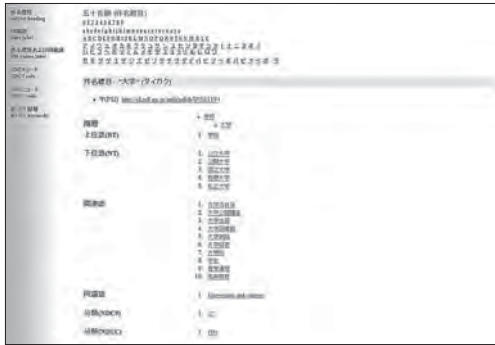
8. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

9. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

10. 基本件名標目表 (BSH) トピックマップ

④⑪ 日本図書館協会基本件名標目表トピックマップ

日本図書館協会の基本件名標目表に基づくトピックマップWebアプリケーション。
<http://infos.net.cias.kyoto-u.ac.jp:8083/bsh1/>
 短縮URL : <http://goo.gl/EbpDT>

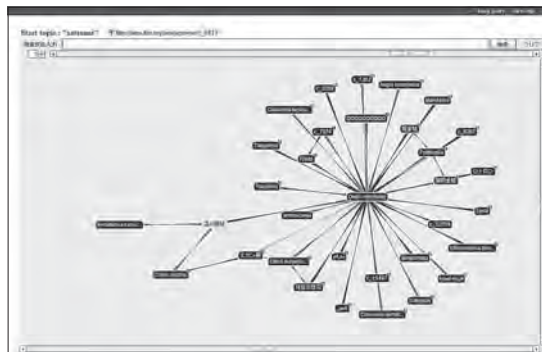


④②国立国会図書館件名標目表トピックマップ

国立国会図書館件名標目表に基づくトピックマップWebアプリケーション。

<http://infos.net.cias.kyoto-u.ac.jp:8083/ndlsh1/>

短縮URL : <http://goo.gl/2aYjC>

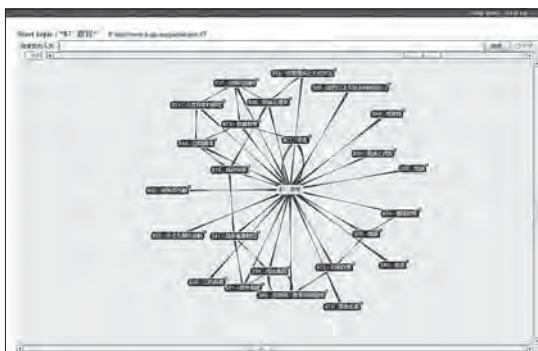


④③AGROVOC トピックマップ

農林水産、食糧安全保障およびそれらの関連分野を網羅した多言語対応の構造的シソーラス (AGROVOC) に基づくピックマップWebアプリケーション。

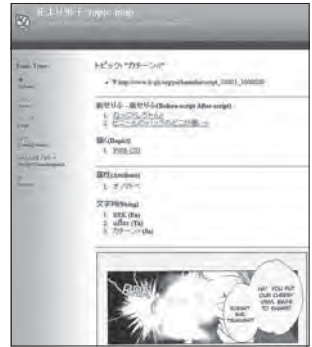
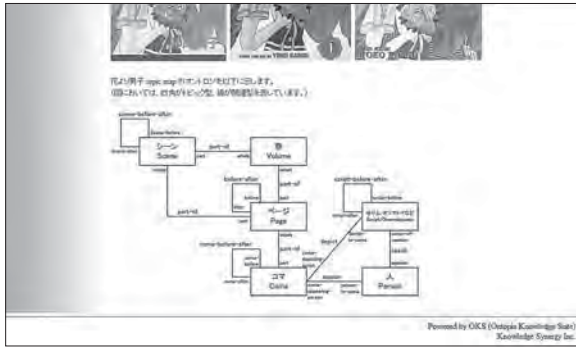
<http://infos.net.cias.kyoto-u.ac.jp:8083/agrovoc/>

短縮URL : <http://goo.gl/FPPHs>



④④HRAF トピックマップ

世界中の民族の社会や文化について書かれた文献を地域・民族別に集めてページの内容を分析したファイル資料HRAF (Human Relations Area Files) のトピックマップWebアプリケーション (アクセス制限)。



④ 「花より男子」トピックマップ

トピックマップにより試作したマンガの書誌・コンテンツに関する多言語データベース（アクセス制限）。

3 スタッフの研究活動

1 個人研究

地域関連研究部門 教授

貴志 俊彦 (きしとしひこ)

①専門分野

東アジア地域史

②経歴

1993年 島根県立国際短期大学専任講師

2000年 島根県立大学総合政策学部
(専任講師→助教授→教授)

2007年 神奈川大学経営学部教授

2010年 京都大学地域研究統合情報センター教授

③研究課題

- (1) 東アジア通信・メディア史研究
- (2) 東アジア・東南アジアにおける太平洋戦争と戦後の記憶と記録に関する研究
- (3) 近現代東アジア文化交流史研究

④主要業績

- 2013 『東アジア流行歌アワー：越境する音 交錯する音楽人』(岩波現代全書15) 岩波書店。
- 2012 『二〇世紀満洲歴史事典』吉川弘文館(松重充浩ほかと編著)。
- 2011 『アジアの自画像と他者：地域社会と「外国人」問題』京都大学学術出版会(編著)。
- 2010 『満洲国のビジュアル・メディア：ポスター・絵はがき・切手』吉川弘文館。
- 2009 『模索する近代日中関係：対話と競存の時代』東京大学出版会(谷垣真理子ほかと編著)。

⑤出版業績

[単著]

- 2013 『東アジア流行歌アワー：越境する音 交錯する音楽人』(岩波現代全書15) 岩波書店。

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2014 『日中関係の質的変容をどう理解するか：他地域の視点から捉え直す』(JCAS Collaboration

Series, No.8)、地域研究コンソーシアム(塩谷昌史・高橋五郎と編著)。

[短文・記事]

- 2013 「2013年下半期読書アンケート」『図書新聞』3139号、p.3。
- 2013 「巻頭言 東アジア域内問題と海底ケーブル建設事業」『SEEDer (シーダー)』(総合地球環境学研究所)9号、p.1。

[監修]

- 2014 『中国占領地の社会調査Ⅱ [政治・経済編]』第4回配本の第28～36巻「都市インフラ調査」近現代資料刊行会。

⑥情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013 「柏原英一(1914～2009)写真帳」(東洋文庫現代中国研究資料室との共同設計)、柏原英一氏の遺族から東洋文庫現代中国研究資料室が寄贈を受けたもの(<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib2/>)。
- 2014 『亜東印画輯』データベース(東洋文庫現代中国研究資料室との共同設計)、亜東印画協会が1924～44年頃まで発行していた月刊の写真帳(<http://www.tbcas.jp/ja/lib/lib3/>)。

⑦研究集会

[企画・実施]

- 2013.6.17 ポール・バークレイ教授(米国ラファイエット大学)講演会、主催：学習院大学・文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代アジアへの眼差しと教育：学習院コレクションの総合的活用」、CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」、科研費・基盤(A)「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、学習院大学中央教育研究棟国際会議場(主催)。
- 2013.6.30 合同ワークショップ「非文字資料研究の理論構築に向けての事例検討1」主催：CIAS共同研究・共同利用プロジェクト「非文字資料の共有化と

- 研究利用」「20世紀前半のサハリン島に関する歴史的記憶」、NIHU現代中国地域研究・東洋文庫拠点・図画像資料班、科研費・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、北海道大学人文社会科学総合教育研究棟W308室（主催・司会）。
- 2013.8.3-4 合同ワークショップ「戦争とジェンダー表象」主催：敬和学園大学戦争とジェンダー表象研究会、科研費・基盤（C）「大衆メディアに見る第二次世界大戦期と戦後秩序の中のジェンダー・エスニシティ」、CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」、NIHU現代中国地域研究・東洋文庫拠点・図画像資料班、敬和学園大学尋真館、万代市民会館研修室（主催・報告）。
 - 2013.9.23 合同ワークショップ「中央ヨーロッパ音楽の比較研究に向けて：集会的記憶としての国民音楽」主催：CIAS共同研究・共同利用プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」「集会的記憶と中東欧地域の音楽：比較研究に向けてのデータベース構築」、共催：音楽と社会フォーラム、京都大学稲盛財団記念館（主催）。
 - 2013.11.8 米国国立公文書館所蔵「琉球列島米国民政府広報局制作フィルム」第1回鑑賞・検討会、主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」、科研費・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、稲盛財団記念館（主催・司会・報告）。
 - 2013.12.15 シンポジウム「ビジュアル・メディアとジェンダー」、主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」、NIHU現代中国地域研究・東洋文庫拠点・ジェンダー資料班&図画像資料班、公益財団法人東洋文庫（主催・司会・総括報告）。
 - 2014.1.18 『東アジア流行歌アワー：越境する音交錯する音楽人』刊行記念トーク・イベント「流行歌から考える東アジア：1920s～70s」、主催：MEDIA SHOP、MEDIA SHOP（主催・報告）。
 - 2014.2.7 米国国立公文書館所蔵「琉球列島米国民政府広報局制作フィルム」第2回鑑賞・検討会、主催：東洋文庫超域研究部門現代中国研究班、科研費・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、科研費・基盤（B）「実

データ(史資料)に基づく海域アジア交流ネットワークの時空間分析」、公益財団法人東洋文庫（主催・司会）。

- 2014.2.24-25 ワークショップ「戦争とジェンダー表象研究」主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」、敬和学園大学戦争とジェンダー表象研究会、科研費・基盤（C）「大衆メディアに見る第二次世界大戦期と戦後秩序の中のジェンダー・エスニシティ」、京都大学稲盛財団記念館（主催・総合討論の司会）。
- 2014.2.27 合同研究会「東アジアにおける近現代音楽文化の諸相」主催：東洋文庫超域アジア研究部門現代中国研究班・国際関係・文化グループ、科研費・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、科研費・萌芽研究「戦前の沖縄本島・八重山諸島・台湾のラジオ音楽番組における洋楽受容と郷土意識の形成」、沖縄県立芸術大学附属研究所（主催・報告）。
- 2014.3.14 『『二〇世紀満洲歴史事典』韓日合同書評国際会議』主催：東亞大學校石堂學術院、韓国満洲学会、科研費・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、韓国・東亜大学石堂博物館（主催・第1部報告、統括報告）。

[招待報告]

- 2013.4.12 「20世紀における日本の対アジア通信転換：『入亜』から『聯亜』への軌跡」シンポジウム「近代化における東アジアの伝統と新潮流への転換」主催：国立台湾大学人文社会高等研究院「日本と韓国研究統合プラットフォーム」、国立台湾大学。
- 2013.11.23 「東アジアの地域と文化の相関関係の構築に向けて：音楽史の視点から」国立民族学博物館共同研究・研究会、主催：国立民族学博物館共同研究「音盤を通してみる声の近代：台湾・上海・日本で発売されたレコードの比較研究を中心に」、国立民族学博物館。

[参加報告]

- 2013.7.16 「戦後日中間通信の復興に関する一考察」第3回地域研究談話会、主催：CIAS談話会、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.8.3-4 「非文字資料をめぐる国際共同研究の試みとその課題」合同ワークショップ「戦争とジェンダー表象」、敬和学園大学尋真館、万代市民会館研修室。

- 2013.11.8 「USCAR広報局映像資料について」 米国立公文書館所蔵「琉球列島米国民政府広報局制作フィルム」第1回鑑賞・検討会、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.12.19 「戦時下の流行歌とジャズ・ソング：拙著『東アジア流行歌アワー：越境する音交錯する音楽人』をもとに」 The Kyoto University and National Taiwan University Joint Symposium 2013、主催：京都大学、国立台湾大学、国立台湾大学。
- 2014.1.18 「音楽空間の共鳴：『華語圏』と『帝国圏』のはざままで」『東アジア流行歌アワー：越境する音交錯する音楽人』刊行記念トーク・イベント「流行歌から考える東アジア：1920s～70s」、MEDIA SHOP（京都市）。
- 2014.2.27 「東アジア・ポピュラー音楽史の捉え方」合同研究会「東アジアにおける近現代音楽文化の諸相」、沖縄県立芸術大学附属研究所。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」（2013年度～2017年度）。

⑨受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013.7.1 「『満洲』の多様性に目を開かせてくれる事典『東方』389号、pp.26-30（『二〇世紀満洲歴史事典』書評、評者：田中剛）。
- 2013.11.24 「本と話題」『しんぶん赤旗』p.8（『東アジア流行歌アワー：越境する音交錯する音楽人』書評、評者：小村公次）。
- 2013.12.1 『史学研究』282号、pp.73-79（『二〇世紀満洲歴史事典』書評、評者：湯川真樹江）。
- 2013.12.8 「半世紀にわたる歌の往来」『日本経済新聞』朝刊p.23（『東アジア流行歌アワー』書評、評者：細川周平）。
- 2013.12.20 「謎に包まれていた華語歌謡の世界が明らかに。しかしそこには別の謎が…」『ミュージック・マガジン』2014年1月号、p.112（『東アジア流行歌アワー』書評、評者：塚原立志）。
- 2014.1.3 「野心的な組み合わせ：果てしない沃野に単身飛び込む」『週刊読書人』3021号、p.3（『東アジア流行歌アワー』書評、評者：諏訪淳一郎）。
- 2014.3.5 「流行歌が映し出す時代の影」『東方』397号、pp.24-28（『東アジア流行歌アワー』書評、評者：榎本泰子）。

⑩海外調査活動

- 2013.4.12-17 台湾・台北市において日台関係文書の調査、科研費。
- 2013.5.5-15 台湾・台北市において非文字資料および日台間海底ケーブルに関する文書の調査を実施、科研費。
- 2013.9.9-13 中国・江西省景德鎮市等において陶磁器彩画の調査、三清山の三清宮にて道観美術の調査、科研費。

⑪教育

- 2013.10.1-2014.3.31 京都大学文学部「中国語学中国文学」「東洋史学」「現代史学」（特殊講義）、「二十世紀学」（演習Ⅱ）、同文学研究科「中国語学中国文学」「東洋史学」（特殊講義）。
- 2014.1.24 京都大学教育学研究科博士論文審査（副査）担当。

⑫社会活動・センター外活動

- 2011.10.1-2014.9.30 第22期日本学術会議連携会員（地域研究委員会地域情報分科会、史学研究委員会歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会）。
- 2013年度 日本学術振興会審査会専門委員。
- 2013年度 日本歴史学協会国立公文書館特別委員会委員。
- 2013年度 公益財団法人東洋文庫現代中国研究班研究員。
- 2013年度 人間文化研究機構現代中国地域研究東洋文庫拠点構成員。
- 2013年度 広島史学研究会県外評議員。
- 2013年度 総合地球環境学研究所『Seeder（シーダー）』編集委員。

地域相関研究部門 教授

Wil de Jong (ウィル・デ・ヨン)

①専門分野

Natural resource governance and policy, Community resource management, Forest transition

②経歴

1984-1985 Research Associate, National Institute for Agricultural Research, Peru

1985-1995 International Fellow and Research Associate,

Institute of Economic Botany, New York Botanical Garden, USA
 1995-2004 Scientist and Senior Scientist, Center for International Forestry Research, Bogor Indonesia
 2004-2006 Professor, Center for Area Studies, National Museum of Ethnology, Japan
 2006- Professor, Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Japan

③ 研究課題

- (1) Area Environments and Global Sustainability Challenges
 The world society faces dramatic natural resources and environmental global sustainability challenges that an area studies focus on environmental issues may help to overcome. An area environments studies approach can yield important knowledge that can contribute to the solution of global challenges.
- (2) Community Resource Management
 Communities are worldwide the de facto stewards of natural resources use and preservation. They are progressively engaged in wider sustainable resource use initiatives, but this engagement is often not well recognized because of inadequate understanding of local practices and economic, social and cultural realities.

④ 主要業績

- 2012 "Political Theory in Forest Policy Sciences," *Forest Policy and Economics* 16, pp. 1-6 (doi: 10.1016/j.forpol.2011.07.001), (coauthors: B. Arts, M. Krott).
- 2012 "Strangers Among Trees: Territorialisation and Forest Policies in the Northern Bolivian Amazon," *Forest Policy and Economics* 16, pp. 65-70 (doi: 10.1016/j.forpol.2011.02.004), (coauthor: Sergio Ruiz).
- 2010 "Forest Rehabilitation and its Implication for Forestry Transition Theory," *Biotropica* 42:1, pp. 3-9.
- 2010 "Challenges of Community Forestry in Tropical America," *Bois et Forêts des Tropiques* 303:1, pp. 53-66 (coauthors: B. Pokorny, C. Sabogal, P. Pacheco, N. Porro, B. Loumann, D. Stoian).
- 2007 "A Review of Tools for Incorporating Community

Knowledge, Preferences, and Values into Decision Making in Natural Resources Management," *Ecology and Society* 12:1, p. 5 (<http://www.ecologyandsociety.org/vol12/iss1/art5/>), (coauthors: T. Lynam, D. Sheil, T. Kusumanto, K. Evans).

⑤ 出版業績

[分担執筆]

- 2013 "How can REDD+ Foster Local Rights and Livelihoods? Lessons and Insights from Peru," in: B. Cashore, ed., *Forest Governance Scholarship for the Real World: Building Strategic Insights through Policy Learning: Issues and Options Briefs on Forest Policy*, IUFRO Occasional Paper No. 26, Vienna (coauthors: I. J. Visseren-Hamakers, M. Wang, B. Cashore).

[レフリー付論文]

- 2013 "Livelihood Strategies and Forest Dependency: New Insights from Bolivian Forest Communities," *Forest Policy and Economics* 26, pp. 12-21 (doi: 10.1016/j.forpol.2012.09.011), (coauthors: M. Zenteno, P. Zuidema, R. Boot).
- 2013 "REDD+ for the Poor or the Poor for REDD+? About the Limitations of Environmental Policies in the Amazon and the Potential of Achieving Environmental Goals through Pro-Poor Policies," *Ecology and Society* 18:2, Art. 3 (doi: 10.5751/ES-05458-180203), (coauthors: B. Pokorny, I. Scholz).
- 2013 "From Big to Small: Reorienting Development Policies in Response to Climate Change, Food Security and Poverty," *Forest Policy and Economics* 36, pp. 52-59 (doi: 10.1016/j.forpol.2013.02.009), (coauthors: B. Pokorny, J. Godar, P. Pacheco, J. Johnson).
- 2014 "Climate Change and Deforestation: The Evolution of an Intersecting Policy Domain," *Environmental Science and Policy* 35, pp. 1-11 (doi: 10.1016/j.envsci.2013.06.001), (coauthors: M. Buizer, D. Humphreys).
- 2014 "Exploring the Dynamics of REDD in Forest Communities," *Environmental Science and Policy* 35, pp. 98-108 (doi: 10.1016/j.envsci.2012.12.013), (coauthors: K. Evans, L. Murphy).

⑦ 研究集会

[招待報告]

- 2013.6.12-14 "Carbon Cowboys and the Prospects of

Local REDD+ Governance,” 3rd IUFRO Latin American Congress, IUFRO, San José, Costa Rica (joint speakers: D. del Castillo, A. Salazar).

- 2013.10.4-5 “Carbon Grabbing and the Undermining of Indigenous Resource Rights,” workshop on “Natural Resources Grabbing: Erosion or Legitimate Exercise of State Sovereignty?” Università degli Studi di Cagliari, Cagliari, Italy (joint speakers: D. del Castillo, A. Salazar).

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (B) 「地域社会はいかにして国際的な環境制度の成功に貢献できるのか」(2012年度～2014年度)。

⑩海外調査活動

- 2013.4.3-23 Netherlands, Germany, Research meetings with partners (IUFRO WFSE; Freiburg University), Grants-in-Aid for Scientific Research, IUFRO-WFSE, Freiburg University.
- 2013.6.8-7.4 Costa Rica, Peru, IUFRO Latin America Congress, Field work Peru: How can local communities contribute to International Environmental Regimes, Grants-in-Aid for Scientific Research, IUFRO-WFSE.
- 2013.9.22-10.6 Finland, Italy, Research meetings with partners (IUFRO-WFSE; University of Milan), Grants-in-Aid for Scientific Research, IUFRO-WFSE.
- 2013.11.27-12.15 Peru, CIAS-CIFOR collaboration: Legality of timber financing and trade, Grants-in-Aid for Scientific Research.
- 2013.12.22-2014.2.20 Peru, France, Germany, Field work: How can local communities contribute to International Environmental Regimes; Research meetings with partners (IUFRO-WFSE, Freiburg University), Grants-in-Aid for Scientific Research.

⑫社会活動・センター外活動

- 2013 Member of the Editorial Board Forest Policy and Economics, Forest Trees and Livelihoods, Tropics
- 2013 Member of the steering committee of the IUFRO Special Project World Forests Society and the Environment

地域相関研究部門 准教授

帯谷 知可 (おびや ちか)

①専門分野

中央アジア地域研究、中央アジア近現代史

②経歴

- 1991年 東京大学教養学部助手
- 1994年 在ウズベキスタン共和国日本国大使館専門調査員
- 1996年 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手
- 2002年 同助教授
- 2006年 京都大学地域研究統合情報センター助教授
- 2007年 同准教授

③研究課題

- (1) 中央アジア地域研究希少資料のデジタル化と有効利用の諸方策
- (2) 帝政ロシアの構築した中央アジアに関する植民地的知の諸相
- (3) ロシア革命期・ソ連期中央アジアの政治と社会
- (4) 現代中央アジア (特にウズベキスタン) のナショナリズム

④主要業績

- 2012 『朝倉世界地理講座 大地と人間の物語5 中央アジア』朝倉書店 (北川誠一・相馬秀廣と共編)。
- 2011 『『フジウム』への視線：1920年代ソ連中央アジアにおける女性解放運動と現代』小長谷有紀ほか編『社会主義的近代化の経験：幸せの実現と疎外』明石書店、pp.98-122。
- 2005 「英雄の復活：現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子ほか編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』(イスラーム地域研究叢書5) 東京大学出版会、pp.185-212。
- 2005 『中央ユーラシアを知る事典』平凡社 (小松久男ほかと共編)。
- 2002 「ウズベキスタン：民族と国家の現在・過去・未来」松原正毅編『地鳴りする世界：9.11事件をどうとらえるか』恒星出版、pp.97-141。

⑤出版業績

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2014 『トルキスタン集成』が拓く社会Ⅲ「トルキス

タン集成』全594巻 巻別インデクス／Туркестанский сборник. Индекс по томам. Томы 1-594』(CIAS Discussion Paper, No. 44, CD) 地域研。

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014 「トルキスタン集成について／Туркестанский сборник」『トルキスタン集成』が拓く社会Ⅲ 「トルキスタン集成」全594巻 巻別インデクス／Туркестанский сборник. Индекс по томам. Томы 1-594』(CIAS Discussion Paper, No. 44, CD) 地域研。

[短文・記事]

- 2013.6 “Database-Building for Turkestanskii Sbornik: Exploring Imperial Russia’s colonial knowledge of Central Asia,” *Research Activities* 3:1, p. 29, Kyoto University.

⑥情報共有化の業績

- 2013 「トルキスタン集成」のデータベース化につき、書誌情報と資料画像の照合作業を終了し、コレクション全巻を対象としたものとしては初めての巻別索引 (CD) を作成した (データベース試行版は公開中、リニューアル準備中)。

⑦研究集会

[企画・実施]

- 2013.9.6 「境界を越えて撮られる日本と日本人：短編映画に見る3人のグローバル映像作家の世界」主催：地域研、共催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」、マレーシア映画文化研究会、京都大学芝蘭会館山内ホール (共同企画・総合司会)。
- 2014.1.10 Lecture on “Neoliberalism: Its Economic and Social Impacts on Central Asian States in Comparative Context,” by Prof. Bakhtiyor Islamov, Uzbekistan, 主催：科研費・基盤 (B) 「中央アジアのイスラーム・ジェンダー・家族：『近代化』再考のための視座の構築」(代表：帯谷知可)、京都大学稲盛財団記念館 (企画・組織・司会)。
- 2014.2.3 ドキュメンタリー映画「空色の故郷」上映会、主催：科研費・基盤 (B) 「中央アジアのイスラーム・ジェンダー・家族」、京都大学稲盛財団記念館 (企画・組織・司会)。

[参加報告]

- 2013.12.9 “Turkistan Collection Database” (ポスター発表)、CIAS Session, PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities

Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百周年時計台記念館。

[その他の役割]

- 2013.12.10 PNC/ ECAI Opening & Keynote, PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings, 主催：PNC, ECAI, SIG CH, CSEAS, 地域研、京都大学百周年時計台記念館 (司会)。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (B) 「中央アジアのイスラーム・ジェンダー・家族：『近代化』再考のための視座の構築」(2012年度～2015年度)。

⑩海外調査活動

- 2013.8.2-24 ウズベキスタン共和国タシュケント市・サマルカンド市、中央アジアの社会主義的近代化に関し、海外研究協力者と打ち合わせならびに歴史映像・写真資料調査、科研費。

⑩教育

- 2009.4.1- 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 (グローバル地域研究専攻イスラーム世界論講座)、協力教員 (准教授)。
- 2013.4.1-9.30 立命館大学国際関係学部、非常勤講師、「ロシア・ユーラシア研究I」担当。
- 2013.7.9 京都大学男女共同参画推進センター、ポケットゼミ「ジェンダーと科学」1回分を担当。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 京都大学イスラーム地域研究センター運営委員、拠点構成員。
- 2013.4.1-2014.3.31 国立民族学博物館文化資源共同研究員。
- 2011.4.1- 日本中央アジア学会編集委員。

地域関連研究部門 准教授

村上 勇介 (むらかみ ゆうすけ)

①専門分野

ラテンアメリカ地域研究、政治学

②経歴

- 1991年 在ペルー日本国大使館専門調査員
 1995年 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助手
 2002年 同助教授
 2006年 京都大学地域研究統合情報センター助教授
 2007年 同准教授

③研究課題

- (1) ラテンアメリカ政治研究
 (2) 政治体制比較研究
 (3) ラテンアメリカの国際関係

④主要業績

- 2012 *Perú en la era del Chino: la política no institucionalizada y el pueblo en busca de un Salvador* [フジモリ時代のペルー：制度化しない政治、救世主を求める人々], 2ª. edición, (Ideología y política 27), Lima: Instituto de Estudios Peruanos y Center for Integrated Area Studies, Kyoto University.
- 2004 『フジモリ時代のペルー：救世主を求める人々、制度化しない政治』平凡社。
- 2004 *Sueños distintos en un mismo lecho: una historia de desencuentros en las relaciones Perú-Japón durante la década de Fujimori* [同床異夢のペルー・日本関係：フジモリ期におけるすれ違いの軌跡] (Ideología y política 20), Instituto de Estudios Peruanos y Japan Center for Area Studies, National Museum of Ethnology.
- 2000 *La democracia según C y D: un estudio de la conciencia y el comportamiento político de los sectores populares de Lima* [下層の人々が語る民主主義：リマ貧困層の政治意識と行動に関する一考察] (Urbanización, migraciones y cambios en la sociedad peruana 15), Instituto de Estudios Peruanos y Japan Center for Area Studies.
- 1999 *El espejo del otro: el Japón ante la crisis de los rehenes en el Perú* [他者の鏡：在ペルー日本国大使公邸占拠事件と日本] (Ideología y política 12), Instituto de Estudios Peruanos y Japan Center for Area Studies.

⑤出版業績

[編書]

- 2014 *La actualidad política de los países andinos*

centrales, Instituto de Estudios Peruanos.

[分担執筆]

- 2014 “Perú: dinámica política de ‘entrar por izquierda y salir por izquierda,’” in: Y. Murakami, ed., *La actualidad política de los países andinos centrales*, Instituto de Estudios Peruanos, pp. 118-141.

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2013.9.23 “Análisis de las relaciones entre Japón y América Latina: trayectoria y perspectivas,” Simposio internacional “Desarrollo e incertidumbre en la Cuenca del Pacífico,” Pontificia Universidad Javeriana Cali, pp. 22-43.
- 2013.10.27 「ペルーの政党政治：民主化以降の展開」日本国際政治学会2013年度研究大会分科会セッションE-3 ラテンアメリカ「ラテンアメリカにおける政党政治：ペルーとメキシコを中心に」一般財団法人日本国際政治学会。

[短文・記事]

- 2013.7.31 「国際シンポジウム『ラテンアメリカの新しい地域動態：経済統合と安全保障』の開催」『日本ラテンアメリカ学会会報』No.111, pp.34-35。
- 2013.7.31 「CELAO第6回大会（京都）の準備状況Ⅱ」『日本ラテンアメリカ学会会報』No.111, pp.35-36。
- 2013.11.30 「CELAO第6回大会（京都）の準備状況Ⅲ」『日本ラテンアメリカ学会会報』No.112, p.6。

⑥情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013 「ペルーの社会紛争データベース」ペルーの護民官局が作成している社会紛争報告(月刊)をデータベース化し、それを視覚化して見やすい形で提供するとともに、社会紛争の原因とプロセスを分析(2015年度に本格的な公開の予定)。
- 2013 「センドロルミノソ関連資料データベース」マイクロフィルムのPDF化を終了し、公開にむけて、ペルー問題研究所、プリンストン大学図書館と協議中(2016年度以降公開予定)。
- 2013 「ペルー選挙データベース」2012年度に引き続き、データを電子化する作業を行った(2016年度以降公開予定)。

⑦研究集会

[企画・実施]

- 2013.5.31 Conferencia “Nuevas dinámicas regionales de América Latina: integración económica y seguridad

regional,” 主催：Instituto Iberoamericano de la Universidad Sofia, CIAS, Sala 921, Biblioteca Central, Universidad Sofia（コーディネーター・司会・趣旨説明）。

- 2013.6.24 Conferencia/ Taller “La historia de dos japoneses, Juan de Páez y Luis de Encío, en la Guadalajara del siglo 17,” 主催：Instituto de Estudios Latinoamericanos de Kyoto, Universidad de Estudios Extranjeros de Kyoto, CIAS, Sala 171, Edificio #1, Universidad de Estudios Extranjeros de Kyoto（コーディネーター）。
- 2013.6.27 Workshop “The Role of Japanese Foreign Direct Investment in Production Networks in Mexico and Thailand,” 主催：CIAS, Inamori Center, Kyoto University（コーディネーター・司会）。
- 2013.6.28 Taller “La Cuba actual,” 主催：Center for Integrated Area Studies, Kyoto University, Inamori Center, Kyoto University（コーディネーター・司会・趣旨説明）。
- 2013.12.13 Taller “Venezuela después de Chávez: el gobierno de Maduro y su futuro,” 主催：CIAS, Inamori Center, Kyoto University（コーディネーター・司会・趣旨説明）。

[招待報告]

- 2013.9.23 “Análisis de las relaciones entre Japón y América Latina: trayectoria y perspectivas,” Simposio internacional “Desarrollo e incertidumbre en la Cuenca del Pacífico,” 主催：Pontificia Universidad Javeriana Cali, Pontificia Universidad Javeriana Cali, Colombia.
- 2013.11.27 “América Latina en la era posneoliberal,” Conferencia de Mesa Verde, 主催：Instituto de Estudios Peruanos, Instituto de Estudios Peruanos, Lima, Perú.

[参加報告]

- 2013.4.27 「パチャママの涙と夢：ペルー社会の亀裂克服の試み」 CIAS共同研究ワークショップ「世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」 主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.7.13 「体制転換における軍の役割：ラテンアメリカ諸国に関する研究動向」 科研費・基盤 (B) 「中東と中南米における体制転換の実証的比較研究：政党・軍・市民社会」 研究会、主催：立命館大学国際関係学部・地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.10.27 「ペルーの政党政治：民主化以降の展開」 日本国際政治学会2013年度研究大会分科会セッ

ションE-3 ラテンアメリカ「ラテンアメリカにおける政党政治：ペルーとメキシコを中心に」、新潟朱鷺メッセ。

[その他の役割]

- 2013.9.27 Panel: Relaciones entre Asia-Pacífico y América Latina en las perspectivas económicas y políticas, 7o. Congreso Latinoamericano de Ciencia Política, 主催：Asociación Latinoamericana de Ciencia Política, Universidad de los Andes, Bogotá, Colombia（comentarista/討論者）。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (A) 「新自由主義改革後の国家社会関係：中南米における社会支出予算決定過程の比較研究」(2012年度～2014年度)。

⑨受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013.6.20 『ラテンアメリカレポート』(村上勇介・仙石学編著『ネオリベラリズムの実践現場：中東欧・ロシアとラテンアメリカ』書評、評者：上谷直克)、p.88。
- 2013.6.25 “En Japón ni siquiera informaron sobre el rechazo de indulto a Fujimori,” *La Prensa.pe*, Lima, Perú（編著書*América Latina en la era posneoliberal*に関連したインタビュー）。
- 2013.11.25 “Rumbo económico,” Canal N, Perú（編著書*América Latina en la era posneoliberal*に関連したインタビュー）。
- 2013.11.30 *Politai: revista de ciencia politica*, No. 5, Lima Perú（編著書*Dinámica político-económica de los países andinos*書評）、p.226。
- 2013.12.2 “Ampliación de noticias,” Radio Programas del Perú (RPP), Perú（編著書*América Latina en la era posneoliberal*に関するインタビュー）。
- 2013.12.5 “El arriero con Javier Torres Seoane,” *Lamula TV-Red Científica Peruana*, Perú（編著書*América Latina en la era posneoliberal*に関するインタビュー）。
- 2013.12 『ラテン・アメリカ論集』47号(村上勇介・仙石学編著『ネオリベラリズムの実践現場』書評、評者：道下仁朗)、pp.85-89。
- 2014.1.14 “El Perú necesita consenso partidario y planes de largo plazo para su desarrollo,” *El peruano*, Lima, Perú（編著書*América Latina en la era posneoliberal*に関するインタビュー記事）。

⑩海外調査活動

- 2013.8.9-31 ペルー、アマゾン地域のコミュニティにおけるREDD+プロジェクト実施のための社会・制度・文化的状況評価、独立行政法人国際協力機構（JICA）専門家業務委託事業。
- 2013.9.17-10.12 ペルー、新自由主義改革後の国家社会関係に関する現地調査、科研費。
- 2013.11.24-12.11 ペルー、新自由主義改革後の国家社会関係に関する現地調査、科研費。
- 2013.12.17-2014.1.7 ペルー、アマゾン地域のコミュニティにおけるREDD+プロジェクト実施のための社会・制度・文化的状況評価、JICA専門家業務委託事業。
- 2014.1.21-2.09 ペルー、新自由主義改革後の国家社会関係に関する現地調査、科研費。
- 2014.2.21-3.12 ペルー、新自由主義改革後の国家社会関係に関する現地調査、科研費。
- 2014.3.15-4.6 ペルー、アマゾン地域のコミュニティにおけるREDD+プロジェクト実施のための社会・制度・文化的状況評価、JICA専門家業務委託事業。

⑪教育

- 2013.4.1-9.30 京都大学全学共通科目「ラテン・アメリカ現代社会論A」担当。
- 2013.10.1-2014.3.31 京都大学全学共通科目「ラテン・アメリカ現代社会論B」担当。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員。
- 2013 学術誌 *México y la Cuenca del Pacífico* 編集委員会国際委員。
- 2013.4-7 兵庫県阪神シニアカレッジ講師。
- 2013.7- JICAプロジェクト「アマゾン地域のコミュニティにおけるREDD+プロジェクト実施のための社会・制度・文化的状況評価」科学技術研究員。
- 2013.11- ラテンアメリカ政経学会理事（『ラテン・アメリカ論集』編集担当）。
- アジア太平洋ラテンアメリカ研究協議会第6回京都大会実行委員会副委員長兼事務局長。

地域関連研究部門 助教

谷川 竜一（たにかわりゆういち）**①専門分野**

アジア近現代都市・地域空間論、建築史・都市史

②経歴

- 2004年 東京大学生産技術研究所技術職員
- 2009年 東京大学生産技術研究所助教
- 2012年 京都大学地域研究統合情報センター助教

③研究課題

- (1) アジア近現代都市・建築に関する情報プラットフォームの構築
- (2) 建造物を通じた日本・アジア近現代関係史の解明
- (3) 記憶の収蔵庫としてのミュージアム建設やポピュラーカルチャーによるまちづくりの手法分析

④主要業績

- 2011 「東アジア近現代の都市と建築：建築・都市に織り込まれた帝国・国・社会」和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史別巻 アジア研究の来歴と展望』岩波書店、pp.177-202。
- 2011 “Colonial Structures Veiled in Publicity: Lighthouses, Bridges, and Dams Built by the Japanese Empire in Colonial Korea,” *Our Living Heritage: Industrial Buildings and Sites of Asia*, mAAN (modern Asian Architecture Network) 8th International Conference, Seoul, August 25-27, 2011, pp. 77-87.
- 2010 「京都国際マンガミュージアムにおける来館者調査：ポピュラー文化ミュージアムに関する基礎研究」『京都精華大学紀要』37号、pp. 77-92（村田麻里子らと共著）。
- 2008 「一九三九年、烏口の記憶：京城高等工業学校建築科のある同窓生たちの生涯」『Mobile Society Review』（NTTドコモ／モバイル社会研究所）14号、pp.30-41。
- 2008 「流転する人々、転生する建造物：朝鮮半島北部における水豊ダムの建設とその再生」『思想』1005号、岩波書店、pp.61-81。

⑤出版業績

[共著]

- 2014 『マンガミュージアムへ行こう』（岩波ジュニア新書）、岩波書店（伊藤遊・村田麻里子・山中千

恵と共著)。

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2014『世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す』(CIAS Discussion Paper, No. 38) 地域研。

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014「 $\Delta 3.75$ 度の近代：韓国・景福宮前の建築交代を読む」谷川竜一編『世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す』(CIAS Discussion Paper, No. 38) 地域研, pp. 11-16。
- 2013「場所は時に物語を紡ぐ：『イスタンブールに来ちゃったの』の建築・都市的読解」『マレーシア映画の現在★2013』マレーシア映画文化研究会, pp. 21-24。

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2014.3.29「平壤の都市建設と首都としての再編：近現代建築の歴史的な読み解きを中心に」漢陽大学東アジア文化研究所国際シンポジウム「グローバル時代と東アジアの文化表象(Ⅲ)」主催：漢陽大学東アジア文化研究所。

[短文・記事]

- 2013.5.31「イベントレポート 京都大学地域研究統合情報センターワークショップ『世界のエスキス』」人文情報学研究所 & ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG) 編『人文情報学月報』No. 22、人文情報学月報編集室 (<http://www.dhii.jp/DHM/dhm22-2>)。
- 2013.10.1「過去は未来の手がかりでもある」『広報斑鳩』(斑鳩町総務部企画財政課) No. 577、p. 2。

⑥ 情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013「チエノワ・イカル」斑鳩町立図書館聖徳太子歴史資料室、地域研、RAD (Research for Architectural Domain) による「斑鳩の記憶」アーカイブ化事業、パスワード付き公開 (<http://archive-ikaruga.org/>)。
- 2013「アジア近現代建築・都市環境文化資源データベース」アジア諸都市の近代建築データベース、中国各都市などを追加 (http://app.cias.kyoto-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000204UECR)。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2013.4.27 CIAS共同研究ワークショップ「世界のエ

スキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館 (企画・運営・趣旨説明)。

- 2013.6.15 mAAN Studies第5回研究会、主催：mAAN、京都大学稲盛財団記念館 (企画・運営)。
- 2013.6.30「写真でたどろう斑鳩の道：『斑鳩の記憶』アーカイブ化ワークショップ」主催：地域研、斑鳩町立図書館、RAD、いかるがホール (企画・運営)。
- 2013.7.19 mAAN Studies第6回研究会、主催：mAAN、京都大学稲盛財団記念館 (企画・運営)。
- 2013.10.27 mAAN Studies第7回研究会、主催：mAAN、広島大学大学院工学研究科 (企画・運営)。
- 2013.11.30「東北のマンガミュージアム：地域におけるポピュラー文化の役割」主催：マンガミュージアム研究会、ポピュラー文化ミュージアム研究会、CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「建築を通じたポピュラー文化の記憶の場の構築力の解明」、仁愛大学、石ノ森萬画館 (企画・運営・コメント)。
- 2013.12.8-14 PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百年時計台記念館 (実行委員会)。
- 2014.2.5朝鮮史×建築・都市史ワークショップ「北朝鮮ハムフンの歴史都市空間」主催：地域研、京都大学人文科学研究所、mAAN、京都大学稲盛財団記念館 (企画・運営・趣旨説明)。
- 2014.3.9「龍田川の風景・龍田の暮らし：『斑鳩の記憶』アーカイブ化ワークショップ」主催：地域研、斑鳩町立図書館、RAD、いかるがホール (企画・運営)。

[招待報告]

- 2014.3.29「平壤の都市建設と首都としての再編：近現代建築の歴史的な読み解きを中心に」漢陽大学東アジア文化研究所国際シンポジウム「グローバル時代と東アジアの文化表象(Ⅲ)」主催：漢陽大学東アジア文化研究所、ソウル。

[参加報告]

- 2013.4.27「 $\Delta 3.75$ 度の近代：韓国・景福宮前の建築交代を読む」CIAS共同研究ワークショップ「世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。

- 2013.7.13 「日本の植民地都市から社会主義の都へ：2013年4月平壤探訪レポート」 第13回都市基盤史研究会、主催：京都工芸繊維大学、京都工芸繊維大学。
- 2013.9.14 「平壤の20世紀都市形成史構築に向けて」、第14回「戦時期朝鮮社会の諸相」研究会、主催：京都大学人文科学研究所、京都大学人文科学研究所。
- 2013.9.18 「ミュージアムに託されたマンガと記憶」第5回京都＝アチュ「災害と社会」国際ワークショップ「災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム」主催：インドネシア共和国シアクアラ大学津波防災研究センター、地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.10.19 「東アジアと東南アジアにおける1849年から1919年までの灯台建設と日本」地球研メカ都市プロジェクト歴史班研究会、主催：総合地球環境学研究所「メガシティが地球環境に及ぼすインパクト：そのメカニズム解明と未来可能性に向けた都市圏モデルの提案」歴史班、京都大学人文科学研究所。
- 2014.1.9-10 “Lighthouse Construction in the Early 20th Century on the Korean Peninsula: Role of Japan and Britain,” 第2回京都大学－ブリストル大学国際シンポジウム、主催：京都大学、京都大学人文科学研究所。
- 2014.2.5 「北朝鮮の近代建築と咸興・興南：2013年9月の訪朝報告を中心に」朝鮮史×建築・都市史ワークショップ「北朝鮮ハムフンの歴史都市空間」主催：地域研、京都大学人文科学研究所、mAAN、京都大学稲盛財団記念館。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・挑戦的萌芽研究「博物館建築がポピュラー文化受容に果たす空間的機能の解明とその設計還元に向けた研究」（2012年度～2014年度）。

⑨受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013.10.1 「アーカイブ化しよう『斑鳩の記憶』」『広報斑鳩』No.577、斑鳩町総務部企画財政課。
- 2013.12.5 「漫画関連施設連携シンポジウム 研究者、関係者ら集結石ノ森萬画館」『河北新報』。

⑩海外調査活動

- 2013.8.25-9.5 朝鮮民主主義人民共和国・平壤ほか、日本人埋葬地調査、私費。
- 2014.2.14-16 韓国・富川、韓国漫画振興院事前調査、科研費。
- 2014.2.21-26 韓国・富川、韓国漫画振興院来館者調

査、科研費。

⑪教育

- 2013.10.1-2014.3.31 京都外国語大学、非常勤講師、「現代アジア地域事情Ⅱ」担当。
- 2013.10.1-2014.3.31 京都造形芸術大学、非常勤講師、「西洋建築史」「図学」担当。
- 2013.7.24-25 奈良学園高校スーパーサイエンスハイスクール課題研究講師。
- 2013.12.17 奈良学園高校・中学校講演。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 日本建築学会近代建築史小委員会委員。
- 2013.4.1-2014.3.31 NPOモダンアジアンアーキテクチュアルネットワーク東京（mAAN東京）理事。

情報資源研究部門 教授

押川 文子（おしかわ ふみこ）

①専門分野

南アジア現代社会研究

②経歴

- 1977年 アジア経済研究所職員
- 1995年 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授
- 2000年 同教授
- 2006年 京都大学地域研究統合情報センター教授

③研究課題

- (1) インドにおける教育と不平等
- (2) インドにおける家族の変容

④主要業績

- 2012 「インド都市中間層における『主婦』と家事」落合恵美子ほか編『アジア女性と親密性の労働』京都大学学術出版会、pp.81-110。
- 2010 「『教育の時代』の学校改革：能力主義と序列化」『南アジア研究』（南アジア学会）22号、pp.394-404。
- 2000 「インド英字女性雑誌を読む：90年代都市ミドル・クラスの女性言説」『地域研究論集』3巻2号、pp.63-93。

- 1998 「『学校』と階層形成：デリーを事例に」古賀正則ほか編『現代インドの展望』岩波書店、pp. 125-148。

⑤ 出版業績

[分担執筆]

- 2013 「教育の現在」水島司編『激動のインド1 変動のゆくえ』日本経済評論社、pp. 59-94。
- 2014 “The ‘Housewife’ and Housework in the Indian Urban Middle Classes” (再録), in: E. Ochiai and K. Aoyama, eds., *Asian Women and Intimate Work*, Brill, pp. 63-92.

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2013.12.21-22 International Conference on Patterns of Social and Economic Change in Colonial and Independent India, 主催：東京大学、ジャワハルラー・ネルー大学、インド・ニューデリー (Academic Staff College, JNU組織委員)。

[参加報告]

- 2013.12.21-22 “Path Dependency in Indian Educational Development: From Japanese Experiences,” International Conference on Patterns of Social and Economic Change in Colonial and Independent India, 主催：東京大学、ジャワハルラー・ネルー大学、インド・ニューデリー。

⑧ 競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (B) 「生活世界の変容とジェンダー：インド高齢女性のライフヒストリーを通して」(2013～2015年度)。

⑩ 海外調査活動

- 2013.8.23-9.2 インド (デリー)、科研費・基盤 (B) 「生活世界の変容とジェンダー」についての調査打ち合わせ、およびインタビュー調査、科研費。
- 2013.12.17-12.28 インド (デリー)、科研費・基盤 (B) 「生活世界の変容とジェンダー」についての調査打ち合わせ、およびインタビュー調査、科研費。

⑫ 社会活動・センター外活動

- 日本南アジア学会理事長。
- 親密圏／公共圏研究コンソーシアム事務局メンバー。

情報資源研究部門 教授

林 行夫 (はやし ゆきお)

① 専門分野

東南アジア仏教徒社会の地域研究、文化人類学

② 経歴

- 1988年 国立民族学博物館研究部助手
- 1993年 京都大学東南アジア研究センター (現東南アジア研究所) 助教授
- 1996年 京都大学大学院人間・環境学研究科併任助教授
- 1998年 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科併任助教授
- 2001年 京都大学博士 (人間・環境学)
- 2002年 京都大学東南アジア研究所教授
- 2002年 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科併任教授
- 2006年 京都大学地域研究統合情報センター教授

③ 研究課題

- (1) 大陸部東南アジア仏教徒社会の動態をめぐる地域間比較研究
- (2) 宗教活動と生活空間の編制に関する歴史・地域情報学的研究
- (3) 文化表象の地域人類学的研究

④ 主要業績

- 2011 『新アジア仏教史4 スリランカ・東南アジア：静と動の仏教』佼成出版社 (奈良康明ほか監修、編集協力／共著)。
- 2009 『(境域) の実践宗教：大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』京都大学学術出版会 (編著)。
- 2003 *Practical Buddhism among the Thai-Lao: Religion in the Making of Region*, Kyoto/ Melbourne: Kyoto University Press & Trans Pacific Press.
- 2002 *Inter-Ethnic Relations in the Making of Mainland Southeast Asia and Southwestern China*, Bangkok: Amarin Printing and Publishing (coeditor: Aroonrut Wichiankeo).
- 2000 『ラオ人社会の宗教と文化変容：東北タイの地域・宗教社会誌』京都大学学術出版会。

⑤ 出版業績

[編書]

- 2014 *Kanprachum sing patibat kan radap nanachat* [Mapping Practices among Theravadins of Southeast Asia in Time and Space], ed. by CIAS and CUSRI (Chulalongkorn University Social Research Institute), Sathaban Wichai Sangkhom Chulalongkorn Mahawithayalai (CUSRI).

[分担執筆]

- 2014 “What the Mapping Tells Us (in Thai),” in: CIAS and CUSRI, eds., *Kanprachum sing patibat kan radap nanachat*, CUSRI, pp. 14-20.
- 2014 “Some Observations from Khong Chiam, Ubon (in Thai),” in: *Kanprachum sing patibat kan radap nanachat*, pp. 51-58.

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2014 『宗教実践を可視化する：大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動』（CIAS Discussion Paper, No. 42）地域研（柴山守・Julian Bourdon-Miyamoto・長谷川清・小島敬裕・小林知・高橋美和・笹川秀夫・土佐桂子・須羽新二と共著）。

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014 「序論：『寺院マッピング』プロジェクトの目的と経過」林行夫ほか著『宗教実践を可視化する』pp. 1-3。
- 2014 『『生きている仏教』の可視化：東南アジア上座仏教徒が紡ぐ『地域』』林行夫ほか著『宗教実践を可視化する』pp. 5-28。
- 2014 「あとがき：今後の課題にむけて」林行夫ほか著『宗教実践を可視化する』p. 143。

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2013.5.21-23 “Why Theravada Buddhism is a Living Religion: Some Observations from Mapping the Practices of Theravadins of Southeast Asia,” The 5th International Buddhist Research Seminar, The Buddhist Research Institute, Mahachulalongkornrajavidyalaya University, Thailand (joint speaker: Shibayama Mamoru).
- 2013.9.21 「東南アジア仏教徒にみる食と宗教」2013年度食の文化フォーラム「食と宗教」味の素食の文化センター。

[短文・記事]

- 2013.4 「東南アジア仏教徒社会の実践マッピングへの道程：徒然図（4）」『宗教と地域の時空間マッピング・ニューズレター』6号、地域研、pp. 23-26。

- 2013.11 「東南アジア仏教徒社会の実践マッピングへの道程：徒然図（5）」『宗教と地域の時空間マッピング・ニューズレター』7号、地域研、pp. 21-24。

⑥ 情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013 「Mapping Practice of Theravadins」（柴山守ほかと共同開発）、東南アジア大陸部寺院と移動の時空間マッピングデータベース、プロトタイプの一部を内部公開。
- 2013 「タイ映像資料データベース」（原正一郎ほかと共同開発）、1960年代から現在までの大衆映画および王室映像、地域研HPにて一部を公開。
- 2013 「北タイ古文獻（貝葉資料）にみる民族間関係」（Aroonrut Wichiankeeoらと共同開発）、北タイ・西南中国境域で流通していた古文獻を現代タイ語字に翻字化、民族、環境、生業、交易などに関わる項目と関連記載の統合型イッデックス、試用ヴァージョンを地域研HPに移動（更新中）。

[その他電子媒体などでの発表・掲載]

- 2014 「石井米雄コレクション」（柴山守と共同開発）、検索システム付資料DVD、コレクション概要解説リーフレット作成。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2014.3.8 ワークショップ「地域研究スピリッツの継承：石井米雄を語る」、主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館（企画・立案・挨拶と報告）。

[招待報告]

- 2013.9.21 「東南アジア仏教徒にみる食と宗教」、2013年度食の文化フォーラム「食と宗教」、主催：味の素食の文化センター、味の素食の文化センター。
- 2013.10.27 「コメントにかえて：東南アジアの視点から」定例シンポジウム「アジア仏教の現在」、主催：龍谷大学仏教文化研究センター、龍谷大学。

[参加報告]

- 2013.3.7 「データの可視化について」CIAS地域情報学プロジェクト「寺院マッピングデータベース」研究会、主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.7.13 「寺院マッピングの構想と展望」CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「宗教実践の時空間と地域」研究会、主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.9.28 「功德を食べる人びと：食施から上座仏

教徒社会の功德と身体」CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「『功德』をめぐる宗教実践と社会文化動態に関する地域間比較研究：東アジア・大陸東南アジア仏教文化圏を対象として」研究会、主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。

- 2013.12.2-7 “Mapping Practices among Theravadins of Southeast Asia for the Round Table Session: Area Informatics at CIAS,” PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百周年時計台記念館。
- 2014.3.8 「『バイドロス』と地域研究」ワークショップ「地域研究スピリッツの継承：石井米雄を語る」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。

[その他の役割]

- 2013.4.27 CIAS共同研究ワークショップ「世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館（挨拶）。
- 2013.9.11 “From Tradition to Vision,” 主催：地域研、クラシカメディア、プトラホテル（クアラルンプール）（Opening Address）。
- 2013.10.4「比較研究の愉しみ」国立大学附置研究所・センター長会議第3部会、北海道大学（コメンテーター）。
- 2013.12.2-7 PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings、主催：PNC、ECAI、SIG CH、CSEAS、地域研、京都大学百周年時計台記念館（Opening Address, Closing Remarks）。

⑨受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013.12.1 「宗教の時間」NHKラジオ第2（東南アジアの上座仏教徒について、聞き手：金光寿郎）、全国放送。

⑩海外調査活動

- 2013.9.10-9.12 マレーシア（クアラルンプール）、『カラム』データベース公開シンポおよび資料収集、CIAS地域情報学プロジェクト。
- 2014.3.25-3.29 タイ（バンコク）、タイの社会変動と仏教徒の活動、龍谷大学仏教文化研究センター。

⑪教育

- 2013.4.1-2014.3.31 龍谷大学文学部史学科、非常勤講師、「仏教史学特殊研究」担当。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 国立大学附置研究所・センター長会議・会計監査委員。
- 2010.4.1-2014.3.31 全国共同利用・共同研究拠点協議委員会委員。
- 2010.4.1-2014.3.31 地域研究コンソーシアム副会長・理事。

情報資源研究部門 准教授

西芳実（にしよしみ）

①専門分野

インドネシア地域研究／アチェ近現代史

②経歴

- 2006年 東京大学大学院総合文化研究科特任助手
- 2007年 東京大学大学院総合文化研究科助教
- 2010年 立教大学AIIC助教
- 2011年 京都大学地域研究統合情報センター准教授

③研究課題

- (1) 多言語・多宗教地域の紛争・災害対応過程
- (2) 社会秩序の再編過程における外来者の役割
- (3) 国際協力事業分野における地域研究の知見の活用

④主要業績

- 2014 『災害復興で内戦を乗り越える：2004年スマトラ島沖地震・津波とアチェ紛争』（叢書 災害対応の地域研究2）京都大学学術出版会。
- 2013 「信仰と共生：バリ島爆発テロ事件以降のインドネシアの自画像」『地域研究』13巻2号、pp. 176-200。
- 2012 「災害・紛争と地域研究：スマトラ沖地震・津波における現場で伝わる知」『地域研究』12巻2号、pp. 181-197。
- 2011 “Among Bangsa, Keturunan, and Daerah: Peace-Building and Group Identity in the law on Governing Aceh, 2006,” Hiroyuki Yamamoto, *et al.*, eds., *Bangsa and Umma: Development of People-Grouping Concepts in Islamized Southeast Asia*, Kyoto

University Press, pp. 166-182.

- 2010 「インドネシアのアチェ紛争とディアスポラ」
首藤もと子編『東南・南アジアのディアスポラ』（叢書グローバル・ディアスポラ2）明石書店、pp. 67-86。

⑤ 出版業績

[単著]

- 2014 『災害復興で内戦を乗り越える：2004年スマトラ島沖地震津波とアチェ紛争』（叢書 災害対応の地域研究2）京都大学学術出版会。

⑥ 情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013 「アチェ津波アーカイブ」（山本博之、渡邊英徳と共同開発）を公開（<http://aceh.mapping.jp/>）。
- 2013 「アチェ津波モバイル博物館」（山本博之と共同開発）、インドネシア語版改訂版を公開（<http://disaster.net.cias.kyoto-u.ac.jp/Aceh/>）。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2013.8.27-28 第4回京都=アチェ国際ワークショップ「情報遺産を活用した災害後社会の創造的復興：津波モバイル博物館と科学的知見にもとづく津波との共生」主催：地域研、シアクアラ大学津波防災研究センター（TDMRC）、TDMRC（企画・主催・報告）。
- 2013.8.27-28 Myデータベース講習会、主催：地域研、TDMRC、インドネシア・アチェ州、シアクアラ大学（企画・主催・講師）。
- 2013.9.6 「境界を越えて撮られる日本と日本人：短編映画に見る3人のグローバル映像作家の世界」主催：地域研、共催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」、マレーシア映画文化研究会、京都大学芝蘭会館山内ホール（企画・主催）。
- 2013.9.17 「『シンガポール・ドリーム』は誰のもの？：グローバル・ハブシティが模索するアイデンティティ」主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」、マレーシア映画文化研究会、チャンネルシティ博多貸会議室（企画・主催）。
- 2013.9.18 第5回京都=アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージア

ム」主催：地域研、TDMRC、京都大学稲盛財団記念館（企画・主催・司会・趣旨説明）。

- 2013.12.11 “Disaster Management”（パネル）、PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium（PNC）、Electronic Cultural Atlas Initiative（ECAI）、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会（SIG CH）、京都大学東南アジア研究所（CSEAS）、地域研、京都大学百年時計台記念館（企画・主催・司会）。
- 2013.12.13 シンポジウム「混成アジア映画がつなぐ東アジア世界：『Fly Me to Minami～恋するミナミ』が照らす世界」主催：地域研、マレーシア映画文化研究会、大阪大学中之島センター（企画・主催）。
- 2014.1.27 第8回京都=アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「映像制作を通じた災害後社会の復興」主催：地域研ほか、京都大学稲盛財団記念館（企画・主催・司会・趣旨説明）。
- 2014.3.15 シンポジウム「高層化するアジアの想像力：『生きる』と『死ぬ』のほとり」主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」、マレーシア映画文化研究会、大阪歴史博物館、大阪アジア映画祭、大阪歴史博物館（企画・主催・司会）。

[招待報告]

- 2013.6.24 “Social Response to Post-Tsunami/ Post-Conflict Aceh: Mourning for the Dead and Healing the Rift”, Panel 1, 8th International Convention of Asia Scholars, 第8回国際アジア研究者会議（ICAS8）、マカオ。

[講演]

- 2013.4.5 「痛みと再生の諸相：インド洋津波から2年を迎えたスマトラの経験を振り返る」第35回京都大学附置研究所・センター品川セミナー、主催：京都大学、京都大学品川オフィス（山本博之と共同報告）。

⑧ 競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤（C）「移民コミュニティの動態に関する研究：マレーシアのインドネシア人学校の変遷を中心に」（2011年度～2013年度）。

⑨ 受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013.4.29 「『個人の物語』 ネット上に修復」『読売

新聞』（京大品川セミナーでの西芳実・山本博之報告の紹介）。

- 2013.6.22 「『痛みと再生の諸相：インド洋津波から2年を迎えたスマトラの経験を振り返る』：インドネシア・スマトラ島沖地震の被災地で行った調査」『YOMIURI ONLINE（読売新聞）』。
- 2013.8.28 “CIAS Buatkan Museum Digital Tsunami Aceh” [アチェ津波デジタル博物館をCIASが製作], *Serambi Indonesia*.
- 2013.8.28 “Hibuna dan Prodi S2 Kebencanaan Unsyiha Gelar International Conference” [シアクアラ大学大学院防災学研究所が国際会議を開催], *Lintas Gayo*.
- 2013.8.28 “Hibeuna dan Prodi S2 Kebencanaan Unsyiah Laksanakan International Conference dan Workshop Aceh Tsunami Mobile Museum” [シアクアラ大学大学院防災学研究所が国際会議を開催、アチェ津波モバイル博物館], *Aceh National Post*.
- 2013.8.29 “Hebat, CIAS Ciptakan Digital Tsunami Aceh” [CIASがアチェ津波デジタルアーカイブを製作], *Serambi Indonesia*.
- 2013.8.29 “Hibeuna gelar Workshop Aceh Tsunami Mobile Museum” [アチェ津波モバイル博物館のワークショップが開催される], *Atjeh Post*.
- 2013.8.30 “Hibeuna Gelar Workshop Kebencanaan” [ヒブナ、災害ワークショップを開催], *Waspada*.
- 2013.9.26 「インドネシア・アチェ津波の体験を継承 京大、ウェブ上の博物館開く」『朝日新聞』（山本博之とともに、アチェ津波モバイル博物館の紹介）。
- 2013.9.27 「災害の経験 復興に生かそう：京大スマトラ地震・津波の研究会」朝日新聞。

⑩海外調査活動

- 2013.8.20-9.4 インドネシア、災害地域情報マッピングシステムの運用調査ならびに資料収集、科研費。
- 2013.9.10-15マレーシア、インドネシア人出稼ぎ労働者についての資料収集、科研費。
- 2013.12.22-12.31 インドネシア、アチェ津波アーカイブの運用調査ならびにアチェ＝京都国際ワークショップの実施、科研費。
- 2013.2.25-3.4 インドネシア、海外出稼ぎ労働者に関する現地調査、科研費。

⑫社会活動・センター外活動

- 2010.4.1-2014.3.31 地域研究コンソーシアム運営委員
- 2010.4.1-2014.3.31 日本マレーシア学会運営委員

情報資源研究部門 准教授

山本 博之 (やまもと ひろゆき)

①専門分野

マレーシア地域研究／現代史

②経歴

- 1998年 マレーシア・サバ大学講師
- 2001年 東京大学大学院総合文化研究科助手
- 2003年 在メダン総領事館委嘱調査員
- 2004年 国立民族学博物館地域研究企画交流センター助教授
- 2006年 京都大学地域研究統合情報センター助教授
- 2007年 同准教授

③研究課題

- (1) イスラム教圏東南アジアにおける民族と混血概念
- (2) 災害対応と情報
- (3) 地域研究の方法論
- (4) 劇映画に見られる集合的記憶の形成・再編

④主要業績

- 2014 『復興の文化空間学：ビッグデータと人道支援の時代』（叢書 災害対応の地域研究1）京都大学学術出版会。
- 2011 *Film in Contemporary Southeast Asia: Cultural Interpretation and Social Intervention*, Routledge (coeditor: David Lim).
- 2011 *Bangsa and Umma: Development of People-grouping Concepts in Islamized Southeast Asia*, Kyoto University Press (coeditors: Anthony Milner, et al.).
- 2006 『脱植民地化とナショナリズム：英領北ボルネオにおける民族形成』東京大学出版会。

⑤出版業績

[単著]

- 2014 『復興の文化空間学：ビッグデータと人道支援の時代』（叢書 災害対応の地域研究1）京都大学学術出版会。

[編書]

- 2013 『マレーシア映画の現在★2013』 マレーシア映画文化研究会（篠崎香織と共編）。

[分担執筆]

- 2014 『『マレーシア華人』とは誰か？：マレーシアの映画人に見る華人性と混血性』 谷垣真理子・塩出浩和・容應英編『変容する華南と華人ネットワークの現在』 風響社、pp.389-410。

[レフリー付論文]

- 2013 “Muslim Brotherhood among Malay-Speaking Muslims: An Introduction to Qalam,” *Dari Warisan ke Wawasan* (From Tradition to Vision) 1, *Klasika Media-Akademi Jawi Malaysia*, pp. 10-28.
- 2014 『『スルー王国軍』兵士侵入事件』『地域研究』14巻1号、pp.214-237。

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2013 『二大政党制は定着するのか：2013年マレーシア総選挙の現地報告と分析』（JAMS Discussion Paper, No.3）日本マレーシア学会。
- 2014 『『カラム』の時代V：近代マレー・ムスリムの日常生活』（CIAS Discussion Paper, No.40）地域研（坪井祐司と共編）。

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2013 「民族・宗教・言語混成社会マレーシアのゆくえ：2013年総選挙結果から展望する」 山本博之編『二大政党制は定着するのか』 pp.3-9。
- 2013 「マレーシアの選挙制度および政治状況と2013年総選挙の結果」 山本博之編『二大政党制は定着するのか』 pp.10-17。
- 2013 『『サバ人のサバ』は消えたのか：地方自治、メディア、外国人から見るサバの選挙結果』 山本博之編『二大政党制は定着するのか』 pp.44-49。

[短文・記事]

- 2013 「フセイン・オン」「タン・チェンロック」「オン・ジャアファル」等51項目、岩波書店辞書編集部『岩波世界人名大辞典』 岩波書店。
- 2014 「渦中の声、物語のフレーム：ほとりから解く世界の謎」 杉野希妃編『ほとりの朔子』 和エンタテインメント、pp.18-19。

⑥ 情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013 「2004acehjp」 2004年スマトラ沖地震・津波の一般報道記事データベース（2018件）、Myデータベースに登録済み。

- 2013 「disasterin」 2009年以降のインドネシアにおける災害に関する一般報道記事データベース（8117件）、Myデータベースに登録済み。
- 2013 「disasterjp」 2011年3月以降の日本の地震・津波と原発事故に関するインドネシアの一般報道記事データベース（620件）、Myデータベースに登録済み。
- 2013 「myessay」 マレーシア事情コラムの記事データベース（66件）、Myデータベースに登録済み。

[ソフトウェア、システム開発]

- 2014 『カラム』 雑誌記事データベース、『カラム』のジャウイ記事とローマ字記事の並列表示、2014年3月公開。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2013.5.19 「二大政党制は定着するのか：2013年マレーシア総選挙の現地報告と分析」主催：日本マレーシア学会、京都大学稲盛財団記念館（主催・司会・趣旨説明）。
- 2013.5.24-31 シネ・マレーシア2013 「マレーシア映画の現在」主催：マレーシア映画文化研究会、オーデトリウム渋谷（共催・パネリスト）。
- 2013.8.27-28 第4回京都=アチェ国際ワークショップ「情報遺産を活用した災害後社会の創造的復興：津波モバイル博物館と科学的知見にもとづく津波との共生」主催：地域研、シアクアラ大学津波防災研究センター（TDMRC）、TDMRC（共催）。
- 2013.9.6 「境界を越えて撮られる日本と日本人：短編映画に見る3人のグローバル映像作家の世界」主催：地域研、共催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」、マレーシア映画文化研究会、京都大学芝蘭会館山内ホール（主催）。
- 2013.9.11 “From Tradition to Vision,” 主催：地域研、クラシカメディア、プトラホテル（クアラルンプール）（主催・Introduction）。
- 2013.9.18 第5回京都=アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム」主催：地域研、TDMRC、京都大学稲盛財団記念館（主催・司会）。
- 2013.10.13-14 ジャウイ文献講読講習会、主催：日本マレーシア学会、東京外国語大学（主催）。
- 2013.12.4 フィリピンの台風被害に関する緊急研究集会、主催：東南アジア学会、地域研究コンソーシ

アム、地域研、京都大学稲盛財団記念館（主催・司会・趣旨説明）。

- 2014.1.27 第8回京都=アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「映像制作を通じた災害後社会の復興」主催：地域研ほか、京都大学稲盛財団記念館（主催）。
- 2014.2.26 Bengkel Perumian Jawi 2014, 主催：Klasika Media-Akademi Jawi Malaysia, Klasika Media（共催）。
- 2014.3.15 「高層化するアジアの想像力：『生きる』と『死ぬ』のほとり」主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」、マレーシア映画文化研究会、大阪歴史博物館、大阪アジア映画祭、大阪歴史博物館（主催・パネリスト）。

[招待報告]

- 2013.4.5 「痛みと再生の諸相：インド洋津波から2年を迎えたスマトラの経験を振り返る」第35回京都大学附置研究所・センター品川セミナー、主催：京都大学、京都大学品川オフィス（西芳実と共同報告）。
- 2013.4.27 「ヤスミンの物語：マレーシア映画に表われる秩序と反抗」CIAS共同研究ワークショップ「世界のエキシス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.11.12-13 “Blessing from Heaven: Repositioning K. Bali and His Concept of Sabah Nationhood,” 3rd Nicholas Tarling Conference on Southeast Asian Studies, 主催：Universiti Malaya, Universiti Malaya.
- 2013.12.11 “The Aceh Tsunami Mobile Museum: Archiving Disaster Experience and Knowledge,” PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百周年時計台記念館。
- 2014.1.10 「ボルネオから見る『スルー王国軍兵士』侵入事件」GCOE-UBRJセミナー「東南アジアの境界」主催：北海道大学GCOEプログラム「境界研究の拠点形成」、境界研究ユニット、北海道大学スラブ研究センター。

[その他の役割]

- 2013.4.13 JAMS関東地区研究会「『スルー王国軍』

サバ侵入事件：その背景と影響」主催：日本マレーシア学会、立教大学（討論者）。

- 2013.5.4 マレーシア映画『タレントタイム』上映会、主催：コタキナバル日本人会、コタキナバル日本人学校集会室（講師）。
- 2013.5.21 マレーシア修学旅行の事前講習、主催：大阪教育大学附属高等学校池田校舎、大阪教育大学附属高等学校池田校舎（講師）。
- 2013.6.27 ワークショップ“Construction of Digital Archives of Jawi Periodicals for Contemporary Usage,” 主催：CIAS地域情報学プロジェクト、京都大学稲盛財団記念館（司会・趣旨説明）。
- 2013.10.3 マレーシア国立博物館日本語ボランティアガイド講習、主催：マレーシア国立博物館、マレーシア国立博物館（講師）。
- 2013.10.7 マレーシア映画『ムクシン』上映会、主催：クアラルンプール日本人学校、クアラルンプール日本人学校（講師）。
- 2013.12.20-21 “From Tradition to Vision: Construction of Digital Archives of Jawi Periodicals for Contemporary Usage,” 国際会議「イスラームと多元文化主義」主催：早稲田大学イスラーム地域研究機構、早稲田大学総合学術情報センター（Convener）。
- 2013.12.23 マレーシア映画『タレントタイム』上映会、主催：マレーシア国立博物館、マレーシア国立博物館（講師）。
- 2014.1.22 マレーシア修学旅行の事前講習、主催：春日丘高等学校、春日丘高等学校（講師）。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤（A）「災害対応の地域研究の創出：『防災スマトラ・モデル』の構築とその実践的活用」（2011年度～2014年度）。

⑨受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013 “Book Review: *Film in Contemporary Southeast Asia: Cultural Interpretation and Social Intervention*,” *Journal of Contemporary Asia* 43:1, pp. 197-199 (doi: 10.1080/00472336.2012.722813).
- 2013.4.29 「『個人の物語』 ネット上に修復」『読売新聞』（京大品川セミナーでの西芳実・山本博之報告の紹介）。
- 2013.6.6 “Orang Jepun Pandai Baca Tulisan Jawi,” *Kosmo!*, Malaysia（日本人ジャウィ研究者の紹介）。
- 2013.8.28 “CIAS Buatkan Museum Digital Tsunami

- Aceh,” *Serambi Indonesia* (アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
- 2013.8.28 “Hibuena dan Prodi S2 Kebencanaan Unsyiha Gelar International Conference,” *Lintas Gayo, Indonesia* (アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
 - 2013.8.28 “Hibeuna dan Prodi S2 Kebencanaan Unsyiah Laksanakan International Conference dan Workshop Aceh Tsunami Mobile Museum,” *Aceh National Post, Indonesia* (アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
 - 2013.8.29 “Hibeuna gelar Workshop Aceh Tsunami Mobile Museum,” *Atjeh Post, Indonesia* (アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
 - 2013.8.29 “Hebat, CIAS Ciptakan Digital Tsunami Aceh,” *Serambi Indonesia* (アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
 - 2013.8.30 “Hiebuna Gelar Workshop Kebencanaan,” *Waspada, Insonesia* (アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
 - 2013.9.26 「インドネシア・アチェ津波の体験を継承 京大、ウェブ上の博物館開く」『朝日新聞』(西芳実とともに、アチェ津波モバイル博物館の紹介)。
 - 2013.10.1 “Tidak Ramai sedar kewujudan Qalam,” *Berita Harian, Malaysia* (『カラム』デジタル化ワークショップの紹介)。
 - 2013.11.26 “Transformasi Qalam dalam dunia moden,” *Kosmo!, Malaysia* (『カラム』のデジタル版刊行)。
 - 2013.12.27 「首都大学生らサイト公開 津波被害と復興デジタル地図で」『毎日新聞』(アチェ津波アーカイブの紹介)。
 - 2013.12.30 「京大と首都大東京、04年のインド洋津波のデジタル記録公開」『日刊工業新聞』(アチェ津波アーカイブの紹介)。
 - 2014.1.7 「スマトラ沖地震津波画像を保存」『日本経済新聞』(アチェ津波アーカイブの紹介)。
 - 2014.2.19 「Kyoto University Academic Talk」エフエム京都(「地域研究とは?」「地域研究と災害」について話題提供)。

⑩海外調査活動

- 2013.4.23-26 マレーシア、学術論文のマッピングに関する資料収集、科研費。
- 2013.8.20-9.5 インドネシア、アチェ津波モバイル博物館の構築のための現地調査、科研費。
- 2013.9.9-18 マレーシア、『カラム』データベース公

開とデジタル版刊行のセミナー開催、地域情報学プロジェクト。

- 2013.9.30-10.8 マレーシア、マレーシアの災害対応に関する現地調査、科研費。
- 2013.11.11-15 マレーシア、国際学会での研究発表、科研費。
- 2013.12.20-30 インドネシア、アチェ津波アーカイブの公開および現地調査、科研費。
- 2014.2.25-3.6 マレーシア、マレーシアの災害対応に関する現地調査、科研費。
- 2014.3.7-13 フィリピン、台風被害に関する現地調査、科研費。

⑫社会活動・センター外活動

- 2010.4.1-2014.3.31 地域研究コンソーシアム運営委員
- 2010.4.1-2014.3.31 日本マレーシア学会運営委員
- 2011.1.1-2014.3.31 東南アジア学会理事

情報資源研究部門 助教

福田 宏 (ふくだひろし)

①専門分野

中央ヨーロッパ地域研究／チェコとスロヴァキアの近現代史

②経歴

- 1999年 北海道大学大学院法学研究科 (助手→専任講師)
- 2005年 北海道大学スラブ研究センター (21世紀COE研究員→助手)
- 2007年 在スロヴァキア大使館専門調査員
- 2010年 北海道大学スラブ研究センター (学術研究員→助教)
- 2012年 京都大学地域研究統合情報センター助教

③研究課題

- (1) 中央ヨーロッパにおける広域論・統合論の歴史
- (2) 中央ヨーロッパにおける音楽の比較研究
- (3) 身体文化とナショナリズム

④主要業績

- 2014 「ポスト・ハブスブルク期における国民国家と広域論」池田嘉郎編『第一次世界大戦と帝国の遺産』山川出版社、2014年、pp.106-134。

- 2012 「ミラン・ホジャの中欧連邦構想：地域再編の試みと農民民主主義の思想」『境界研究』3号、pp.45-77。
- 2012 「中央ヨーロッパの小さな原発大国：チェコとスロヴァキア」若尾祐司、本田宏編『反核から脱原発へ：ドイツとヨーロッパ諸国の選択』昭和堂、pp.375-381。
- 2010 「進化と退化のはざまで：ドヴォルザークの『親しみやすさ』と苦悩」『フィルハーモニー』（NHK交響楽団機関誌）82巻5号、pp.40-45。
- 2006 『身体の国民化：多極化するチェコ社会と体操運動』北海道大学出版会。

⑤ 出版業績

[分担執筆]

- 2014 「ポスト・ハプスブルク期における国民国家と広域論」池田嘉郎編『第一次世界大戦と帝国の遺産』山川出版社、2014年、pp.106-134。

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014 「ビールと鉄棒：ナチス・ドイツのオリンピックとチェコのマスゲーム」谷川竜一編『世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す』（CIAS Discussion Paper, No. 38）地域研、pp.25-30。

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2013.8.9 “Is Trianon Still Alive?: Border Issues between Slovakia and Hungary after WWI,” Panel III-4: Concept of Region and Demarcation Process in Central and Eastern Europe after World War I, 5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, Osaka University of Economics and Law, Yao Campus.

[短文・記事]

- 2013.4.5 「デジタル化とフランツ・カフカ：変わりゆく歴史研究の姿」地域研図書室HPエッセイ～地域研究資料へのいざない、<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/library/essay/>
- 2014.2.8 「幻のウィルソン・シティー：スロヴァキアの首都ブラチスラヴァと民族自決」『図書新聞』3145号、p.8。
- 2014 「言語の境界に生きた作家：フランツ・カフカ」岩下明裕・木山克彦編『図説 ユーラシアと日本の国境：ボーダー・ミュージアム』北海道大学出版会、pp.69-70。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2013.9.23 合同ワークショップ「中央ヨーロッパ音楽の比較研究に向けて：集合的記憶としての国民音楽」主催：CIAS共同研究・共同利用プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」「集合的記憶と中東欧地域の音楽：比較研究に向けてのデータベース構築」、共催：音楽と社会フォーラム、京都大学稲盛財団記念館（企画・報告）。
- 2013.9.29 合同ワークショップ「地域情報学と境界研究が会おうとき：国境問題・宗教・環境」主催：地域研、北海道大学スラブ研究センター、共催：北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」、京都大学稲盛財団記念館（企画）。

[参加報告]

- 2013.4.27 「ビールと鉄棒：ナチス・ドイツのオリンピックとチェコのマスゲーム」CIAS共同研究ワークショップ「世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.7.20 「ハプスブルク帝国後における広域論の興隆：汎ヨーロッパから東方シューマン・プランまで」科研研究会「労働の国際移動が福祉国家政策および政治に与える影響に関する比較研究」（代表：新川敏光）、京都大学法学部。
- 2013.8.9 “Is Trianon Still Alive?: Border Issues between Slovakia and Hungary after WWI,” Panel III-4: Concept of Region and Demarcation Process in Central and Eastern Europe after World War I, 5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, Osaka University of Economics and Law, Yao Campus (Presenter & Panel Organizer).
- 2013.10.19 「中・東欧における国民音楽の比較：音楽データベース活用の可能性」パネル・ディスカッション「中・東欧における想像と創造の国民音楽を比較する」政治経済学・経済史学会、下関市立大学（報告・パネル組織）。

[その他の役割]

- 2013.8.9 Panel II-1: Representation of War Victims in the Twentieth Century: From Heroism to Atrocities, 5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, Osaka University of Economics and Law, Yao Campus (Chair).
- 2013.8.10 Panel IV-4: Politics came before Everything?: The Russo-Japanese Economic Relations

in the First Half of the Twentieth Century, 5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, Osaka University of Economics and Law, Yao Campus (Chair).

- 2013.8.12 「2013年度京都大学南京大学社会学人類学若手ワークショップ：〈京都エラスムス計画〉から生まれたもの」京都大学アジア研究教育ユニット〈KUASU〉、京都大学文学部（コメント）。
- 2013.10.6 Lucia Kováčová, “The Comparison of Refugee Resettlement Policy in Japan and Europe” 分科会1、ロシア東欧学会、津田塾大学（コメント）。

⑩海外調査活動

- 2013.8.26-9.6 スロヴァキア・チェコ、東中欧・ロシアにおける歴史と記憶の政治とその紛争に関する聞き取り調査と資料収集、科研費。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 北海道大学スラブ研究センター共同研究員
- 2010.4.1- 学術雑誌『境界研究』編集委員。

高次情報処理研究部門 教授

原 正 一 郎 (はら しょういちろう)

①専門分野

情報学

②経歴

- 1989年 学術情報センター助手
- 1991年 国文学研究資料館助教授
- 2006年 京都大学地域研究統合情報センター教授

③研究課題

- (1) 地域情報学 (Area Informatics) の創出
- (2) Humanities GISに関する研究
- (3) デジタルアーカイブに関する研究
- (4) 画像処理、古文書文字認識に関する研究
- (5) 医療情報学 (地域看護における情報処理) に関する研究

④主要業績

- 2012 「歴史GISの地平 景観・環境・地域構造の復原に向けて」HGIS研究協議会編 (川口洋 (代表)・

石崎研二・後藤真・関野樹・原正一郎)、勉誠出版、288Pp.

- 2010 “Area Informatics: Concept and Status,” in Toru Ishida, ed., *Culture and Computing: Computing and Communication for Crosscultural Interaction* (Lecture Notes in Computer Science 6259), Springer, pp. 214-288.
- 2009 「地域研究のための資源共有化システムとメタデータに関する研究」『東南アジア研究』46巻4号、pp. 608-645。
- 2003 「健診情報ための電子的交換規約」『情報知識学会誌』12巻4号、pp. 32-52 (杉森裕樹ほかと共著)。
- 2002 「国文学支援のためのSGML/XMLデータシステム」『情報知識学会誌』11巻4号、pp. 17-35 (安永尚志と共著)。
- 1997 “Markup and Conversion of Japanese Classical Texts Using SGML in the National Institute of Japanese Literature,” *D-lib Magazine*, July/ August 1997 (<http://www.dlib.org/dlib/july97/japan/07hara.html>) (coauthor: Hisashi Yasunaga).

⑤出版業績

[レフリー付論文]

- 2013 “Applying Topic Maps to SNA for Thailand Healthcare Activities,” *PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings: Abstract and Program Book*, p. 107 (coauthor: Motomu Naito).

[雑誌論文]

- 2014 「TOPIC MAPSを利用したマンガ情報の組織化」『情報処理学会人文科学とコンピュータ (CH) 研究報告』(2014-CH-101) 情報処理学会、pp. 1-8 (内藤求と共著)。

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2013.12.9-14 「『地域の知』の情報技術」『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』(vol. 2013、no. 4)、pp.87-88 (関野樹・山田太造・大向一輝と共著)。

⑥情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013 「地名データベース」日本およびタイ地名に関するRDFストアとSPARQLエンドポイントを構築 (IDとパスワードによるアクセス制限を設定)。
- 2013 「地図データベース」(星川圭介と共同開発) 地域研および東南研の地図データのデータベース化

と共有化を実現（メタデータは一般公開、画像データはIPアドレスによる制限付）。

- 2013「マンガデータベース」(内藤求と共同開発) マルチメディア史資料の高度利用を実現する手法としてTopic Mapsの利用を試みた (IDとパスワードによるアクセス制限)。

[ソフトウェア・システム開発]

- 2013「Myデータベース」個人用データベース構築・公開システムであるMyデータベースの機能拡張(試験運用中)。
- 2013「空間情報処理ツール」GISツールの一種であるHuMapの機能拡張 (公開)。

[その他電子媒体などでの発表・掲載]

- 2013『カラム』雑誌記事データベース、データ項目の追加によるデータベース再構築支援 (公開予定)。
- 2013『国教と仏教実践』の動画データベース (小島敬裕)、動画データベースの構築支援。
- 2013「世界の森」データベース (柳澤雅之)、Myデータベースによる構築支援 (公開予定)。

⑦研究集会

[企画・実施]

- 2013.9.19-21 JADH2013、主催：The Japanese Association for Digital Humanities、立命館大学創生館 (プログラム委員会委員長)。
- 2013.12.9-14 PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百周年時計台記念館 (大会長)。
- 2013.12.9-14 人文科学とコンピュータシンポジウム (上記同時開催)、主催：PNC、ECAI、SIG CH、CSEAS、地域研、京都大学百周年時計台記念館 (大会長)。

[招待報告]

- 2013.8.25-29 “Selected Databases Systems that Indicate Community-wide Data of Diverse Aspects of the Life and Human Conditions that Affect Health: Data Integration of RECAP and TCNAP and their Applications Using GIS and Topic Maps,” Workshop on “Community data Base System Enhancing Policy

Making for Community-based Initiatives in Health Promotion,” in IUHPE 21st World Congress on Health Promotion, IUHPE ThaiHealth, Pattaya, Thailand.

- 2013.9.11 “How Do We Organize Classical Resources into Contemporary Digital Materials?” “From Tradition to Vision,” 主催：地域研、クラシカメディア、プトラホテル (クアラルンプール)。
- 2013.12.28-29 “Importance of Daily Monitoring: NCDs’ Preventive Activities for Disasters,” Regional Meeting “Disaster Preparedness,” 主催：インドネシア医師連合会、共催：シアクアラ大学、Banda Aceh, Indonesia.

[その他の役割]

- 2013.9.4-6 第12回情報科学技術フォーラム (有川正敏・関野樹・Bourdon Julien・渡邊英徳による発表) 主催：情報処理学会、電子情報通信学会、鳥取大学 (司会)。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (A) 「地域保健活動を指標とした『地域の知』の計量的分析手法の開発：東北タイを事例に」 (2011年度～2013年度)。
- 人間文化研究機構総合地球環境学研究所・大学間連携を通じた広域アジアにおける地球環境学リポジトリの構築「セマンティックWebを利用した地球環境学リポジトリ情報基盤の構築」 (2012年度～2013年度)。

⑩海外調査活動

- 2013.6.8-15 アメリカ (カリフォルニア大学バークレイ校)、「地域の『知』」の計量的分析手法の開発に関する研究打ち合わせ、科研費。
- 2013.7.31-8.5 タイ、「地域の『知』」の計量的分析手法の開発に関する研究打ち合わせ、科研費。
- 2013.8.18-25 ベルギー (コペンハーゲン)、タイ (パタヤ、コンケン)、GPS機能付きカメラを利用したタイ地域保健データの時空間データベース化の検討、およびタイの地域保健活動に関わるデータ分析、科研費 (名古屋大学・太田、原)。
- 2013.10.13-15 台湾 (中央研究院)、「地域の『知』」の計量的分析手法の開発に関する研究打ち合わせ、科研費。
- 2013.12.24-29 インドネシア (バンダアチェ)、「地域の『知』」の計量的分析手法の開発に関する研究打ち合わせ、科研費。

- 2014.2.23-3.7 アメリカ (カリフォルニア大学バークレイ校およびサンディエゴ校)、「地域の『知』」の計量的分析手法の開発に関する研究打ち合わせ、京大プロジェクトラホヤ、科研費、SPIRITS。
- 2014.3.10-16 タイ (バンコク、コンケン)、「地域の『知』」の計量的分析手法の開発に関する研究打ち合わせ、科研費。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 人間文化研究機構研究資源共有化事業委員会委員
- 2013.4.1-2014.3.31 人間文化研究機構人間文化研究情報資源共有化連携企画部会委員
- 2013.4.1-2014.3.31 人間文化研究機構国文学研究資料館電子情報委員会委員
- 2013.4.1-2014.3.31 情報知識学会編集委員会委員
- 2013.4.1-2014.3.31 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会連絡員
- 2013.4.1-2014.3.31 ECAI (Electronic Cultural Atlas Initiative), Executive Committee Member
- 2013.4.1-2014.3.31 PNC (The Pacific Neighborhood Consortium), Steering Committee Member
- 2013.4.1-2014.3.31 JADH (Japanese Association for Digital Humanities), Executive Board Member

高次情報処理研究部門 准教授

柳澤 雅之 (やなぎさわ まさゆき)

①専門分野

農業生態学、ベトナム地域研究

②経歴

- 1999年 京都大学東南アジア研究センター (現東南アジア研究所) 助手
- 2006年 同助教授
- 2006年 京都大学地域研究統合情報センター助教授
- 2007年 同准教授

③研究課題

- (1) ベトナム紅河デルタ村落研究
- (2) 東南アジアの土地利用変化に関する研究

④主要業績

- 2012 「自然科学分野の地域研究：地域情報の限定

性を克服するために」『地域研究』12巻2号、pp. 116-130。

- 2009 「東南アジア生態史」東南アジア学会監修・東南アジア史学会40周年記念事業委員会編集『東南アジア史研究の展開』山川出版社、pp. 156-171。
- 2006 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・東南アジア研究所編『京大式フィールドワーク入門』NTT出版。
- 2004 “Development Process of Cash Crops in the Northern Mountains Region of Vietnam: A Case Study in Moc Chau District of Son la Province, Vietnam,” in Hisao Furukawa, *et al.*, eds., *Ecological Destruction, Health, and Development: Advancing Asian Paradigm*, Kyoto University Press, pp. 467-479.
- 2004 「ベトナム紅河デルタにおける農業生産システムの変化と合作社の役割」『年報村落社会研究 東アジア農村の兼業化: その持続性への展望』40号、pp. 247-268。

⑤出版業績

[雑誌論文]

- 2014 「市場経済移行下ヴェトナム紅河デルタの行政と農村社会：2011～12年現地調査に基づく試論」『青山国際政経論集』92号、pp. 53-95 (藤田幸一・大野昭彦と共著)。

[分担執筆]

- 2014 「ベトナム国境域」[ベトナム：国家の力、国境の力][ベトナム・雲南省][ミャンマー・雲南省側徳宏州の状況] 落合雪野編『国境と少数民族』めこん、pp. 105-133。
- 2014 「変化する土地利用：プラント・マテリアルを生みだす基盤」落合雪野・白川千尋編『ものどくらしの植物誌：東南アジア大陸部から』臨川書店、pp. 56-70。

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2014 *Lịch Sử Hình Thành Cư Dân Đô Thị Hà Nội* (ハノイ都市形成史) (CIAS Discussion Paper, No. 43) 地域研 (桜井由躬雄・Nguyen Thi Phuong Anhと共編著)。

[ワーキングペーパー・報告書]

- 2014 「地域のコンパス：ベトナム紅河デルタの自然を読む」谷川竜一編『世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す』(CIAS Discussion Paper, No. 38) 地域研、pp. 5-9。

⑥情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013「世界の森」データベース（山田勇と共同開発）世界の森の景観に関するデータベース（公開予定）。

[その他電子媒体などでの発表・掲載]

- 2013「高谷好一フィールドデータベース」高谷好一氏のフィールドノートのデータベース（公開予定）。
- 2013「吉良竜夫コレクション」吉良竜夫氏のフィールド資料（公開予定）。

⑦研究集会

[企画・実施]

- 2013.4.13 桜井由躬雄追悼会、主催：日本ベトナム研究者会議、学士会館（主たる組織者、発表）。
- 2013.4.19 桜井由躬雄先生を偲ぶ会（研究会）、主催：東南アジア学会開催例会、地域研、京都大学稲盛財団記念館（主たる組織者、発表）。
- 2013.4.19 東南アジアの自然と農業研究会第160回例会「東南アジア大陸部の焼畑村落における家畜飼育」主催：東南アジアの自然と農業研究会、京都大学総合研究2号館（組織委員）。
- 2013.4.27 CIAS共同研究ワークショップ「世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館（組織委員、発表）。
- 2013.6.28 東南アジアの自然と農業研究会第161回例会「住居環境とマラリア感染リスク：ラオス中南部少数民族地域における事例研究」主催：東南アジアの自然と農業研究会、京都大学総合研究2号館（組織委員）。
- 2013.10.11 東南アジアの自然と農業研究会第162回例会「静脈：流れる物質、生成する関係、バンコク拡大首都圏におけるマテリアリティと景観の形成」主催：東南アジアの自然と農業研究会、京都大学稲盛財団記念館（組織委員）。
- 2013.12.9 PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百周年時計台記念館（主たる組織者、発表）。
- 2013.12.13 東南アジアの自然と農業研究会第163回

例会「日本先史時代の栽培植物とその起源：最近の古民族植物学の研究成果から」主催：東南アジアの自然と農業研究会、地域研、京都大学総合研究2号館（組織委員）。

- 2014.1.17 CIAS地域情報学プロジェクト研究会「地域研究におけるデータの可視化と分析」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館（主たる組織者、発表）。
- 2014.1.20 アジア農村研究会「Tien Giang調査」主催：アジア農村研究会、京都大学品川オフィス（主たる組織者）。
- 2014.1.23 「熱帯多雨林における集約的森林管理と森林資源の高度利用による持続的利用パラダイムの創出」研究会、主催：科研費・基盤（A）「東南アジアにおける包括的森林利用」（代表：柳澤雅之）、地域研（主たる組織者、趣旨説明）。
- 2014.2.19 「フィールドノートのテキスト分析」主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「CIAS所蔵資料の活用」、地域研（主たる組織者）。
- 2014.2.24 東南アジアの自然と農業研究会第164回例会「日本・石西礁湖とインドネシア・マナドにおけるサンゴ群集の変遷・現状と再生について」主催：東南アジアの自然と農業研究会、京都大学総合研究2号館（組織委員）。
- 2014.2.25-26 “Transition to Sustainable Forest Management and Forest Rehabilitation: Case Studies and Comparative Analyses,” 主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦」、地域研（主たる組織者）。
- 2014.3.10-11 「フィールドノートのテキスト分析と可視化」研究会、主催：CIAS共同利用・共同研究プロジェクト「CIAS所蔵資料の活用」、東京大学史料編纂所（主たる組織者）。

[招待報告]

- 2013.10.21 “Changes in Farmers’ Incentive for Rural Development: A Lesson Learned from Japanese Agricultural Cooperative,” International Workshop “An Innovative Integrated Rural Development Approach for Viet Nam,” 主催：Department of Cooperatives and Rural Development (DCRD), Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) and Vietnam Rural Development Science Association (PHANO), Trade Union Hotel, Ha Noi.
- 2014.1.10 「大国を利用して生きる：中越国境地域のモン族とベトナム」GCOE-UBRJセミナー「東南アジアの境界」主催：北海道大学GCOEプログラム

「境界研究の拠点形成」、境界研究ユニット、北海道大学スラブ研究センター。

- 2014.2.27「中越国境地域のモンの生活世界」国立フランス極東学院 (EFEO) 京都支部開設記念ワークショップ、主催: EFEO京都支部、EFEO京都支部。

[参加報告]

- 2013.4.19「バックック研究」桜井由躬雄先生を偲ぶ会、主催: 東南アジア学会関西例会、地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.4.27「地域のコンパス: ベトナム紅河デルタの『自然』を読む」CIAS共同研究ワークショップ「世界のエスキス」主催: 地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.4.28「自然と人の相互作用からみた歴史的地域の生成」CIAS共同利用・共同研究報告会、主催: 地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.7.7「フィールド調査の経験と方法論および調査実習の意義」、「フィールド調査の経験と方法論および調査実習の意義について」主催: アジア農村研究会、東京外国語大学サテライトオフィス。
- 2013.9.7 “Kinh doanh và dịch vụ: Vai trò của một tổ chức xã hội ở nông thôn của đồng bằng sông Hồng,” TQA ĐÀM NGHIÊN CỨU LÀNG XÃ VIỆT NAM: “Kỷ niệm 20 năm dự án nghiên cứu Bách Cốc” (ベトナム村落研究国際会議: バックック研究の20年) 主催: ハノイ大学、ハノイ大学。
- 2013.9.11 “Area Informatics Project: Toward Creation of Knowledge for Area Studies,” “From Tradition to Vision,” 主催: 地域研、クラシカメディア、プトラホテル (クアラルンプール)。
- 2013.12.9 “Area Informatics: Toward a Creation of Knowledge,” PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings, 主催: PNC、ECAI、SIG CH、CSEAS、地域研、京都大学百周年時計台記念館。
- 2014.1.17「地域研究におけるデータの可視化と分析」CIAS地域情報学プロジェクト研究会「地域研究におけるデータの可視化と分析」主催: 地域研、京都大学稲盛財団記念館。
- 2014.1.17「フィールドノートの記録の可視化とテキスト分析」CIAS地域情報学プロジェクト研究会「地域研究におけるデータの可視化と分析」主催: 地域研、京都大学稲盛財団記念館 (山田太造・高田百合奈と共同報告)。
- 2014.1.18「ベトナムの『時空間の知』」HGIS研究会「地域の『時空間の知』」主催: 地域研、地域研。

- 2014.1.23「コンセション内に居住するダヤックの生業体系と森林利用の変化」「熱帯多雨林における集約的森林管理と森林資源の高度利用による持続的利用パラダイムの創出」研究会、主催: 科研費・基盤 (A)「東南アジアにおける包括的森林利用」(代表: 柳澤雅之)、地域研。

- 2014.2.4「地域住民と協力した森林の持続的利用: SBKでの経験から」日本・インドネシアREDD+実施メカニズム構築プロジェクト (IJ-REDD+)、主催: JICA、京都大学稲盛財団記念館。

- 2014.2.14「フィールドノート・プロジェクト」2013年度地球環境学リポジトリ事業全体集会、主催: 総合地球環境学研究所、国立京都国際会館。

[その他の役割]

- 2013.9.29 合同ワークショップ「地域情報学と境界研究が会うとき: 国境問題・宗教・環境」主催: 北海道大学スラブ研究センター、地域研、京都大学稲盛財団記念館 (司会)。

- 2013.12.13人文科学とコンピュータシンポジウム、主催: PNC、ECAI、SIG CH、CSEAS、地域研、京都大学百周年時計台記念館 (司会)。

- 2014.2.4 日本・インドネシアREDD+実施メカニズム構築プロジェクト (IJ-REDD+)、主催: JICA、京都大学稲盛財団記念館 (司会)。

- 2014.3.8 ワorkshop「地域研究スピリッツの継承: 石井米雄を語る」主催: 地域研、京都大学稲盛財団記念館 (司会)。

⑧競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (A)「森林の包括的利用システムの地域間比較研究」(2010年度~2014年度)。

⑨受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2013.9.18「古代・中世の東西回廊: ミャンマーからタイ・カンボジアに至る歴史街道について」『読売新聞』『朝日新聞』ほか。古代以降のアンコール王朝につながる街道が、衛星画像の解析と現地調査によって明らかになった (京都大学における記者レク、柴山守、エリザベス・モアと共同)。

⑩海外調査活動

- 2013.6.24-29 ベトナム・メコンデルタ、ハノイ: ハノイ大学主催の桜井追悼会打ち合わせ、メコンデルタ: Tien Giang省の園芸作地帯における農村経済の変化に関する調査、科研費。

- 2013.7.29-8.3 ベトナム・ハノイおよびナムディン、ハノイ：ハノイ大学主催の桜井追悼会参加、ナムディン：村落の生業体系変化に関する調査、科研費。
- 2013.9.6-13 ベトナム・ハノイおよびマレーシア・クアラルンプール、ハノイ：ハノイ大学主催のベトナム村落に関する国際会議に出席し報告、クアラルンプール：地域研のAIプロジェクトによる『カラム』国際ワークショップにて報告、CIAS地域情報学プロジェクト。
- 2013.10.20-30 ベトナム・紅河デルタ村落調査、紅河デルタ村落（ハイズオン、フースイエンにて、金融と生業の変化に関する現地調査）、科研費。
- 2013.3.12-22 ベトナム・紅河デルタ村落調査、紅河デルタ村落（ハイズオン、フースイエンにて、金融と生業の変化に関する現地調査）、科研費。

⑩教育

- 2013.4.1-9.30 京都大学全学共通科目、講師、「フィールドから考える：地域研究への招待」担当。
- 2013年度 京都芸術大学集中講義、「世界単位論」担当。

⑪社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 地域研究コンソーシアム運営委員。

高次情報処理研究部門 助教

星川 圭介 (ほしかわ けいすけ)

①専門分野

地域情報学、農業土木学

②経歴

- 2003年 総合地球環境学研究所産学官連携研究員
- 2007年 京都大学東南アジア研究所非常勤研究員
- 2007年 京都大学地域研究統合情報センター助教

③研究課題

- (1) 東南アジアにおける樹木性換金作物の拡大と生存基盤の変化
- (2) カンボジアにおける土地利用・生業変化と人の移動
- (3) 東南アジアにおける土地利用と水資源利用の変化

④主要業績

- 2013「東北タイにおける河川の流出特性と伝統的灌漑の技術様式」『東南アジア研究』50巻2号、pp.

211-223。

- 2009『タムノップ：タイ・カンボジアの消えつつある堰灌漑』めこん（福井捷朗と共著）。
- 2009“Effects of Topography on the Construction and Efficiency of Earthen Weirs for Rice Irrigation in Northeast Thailand,” *Paddy and Water Environment* 7:1, pp. 17-25 (coauthor: Shintaro Kobayashi).
- 2009「フィールドで見る・情報学的手法で解く：東北タイにおける稲作変化の軌跡」『東南アジア研究』46巻4号、pp.564-577。
- 2004“Study on Structure and Function of an Ear then Bund Irrigation System in Northeast Thailand,” *Paddy and Water Environment* 1:4, pp. 165-171 (coauthor: Shintaro Kobayashi).

⑤出版業績

[編書]

- 2013『タイ2011年大洪水：その記録と教訓』（アジア経済研究所情報分析レポート22）アジア経済研究所（玉田芳史・船津鶴代と共編）。

[レフリー付論文]

- 2014“Classification of Crop Fields in Northeast Thailand Based on Hydrological Characteristics Detected by L-band SAR Backscatter Data,” *Remote Seinsing Letters* 5:4, pp. 323-331 (coauthors: T. Nagano, A. Kotera, K. Watanabe, Y. Fujihara, O. Kozaan).
- 2014“Effect of Terrain-induced Shade Removal Using Global DEM Datasets on Land-cover Classification,” *International Journal of Remote Sensing* 35:4, pp. 1331-1355 (coauthor: M. Umezaki).
- 2014「人口転換期のタイにおける人口変化と国内人口移動」『民族衛生』80巻1号、pp.43-47。
- 2013「2011年タイ国チャオプラヤー河大洪水時のプーミボン・ダム操作」『タイ2011年大洪水：その記録と教訓』（アジア経済研究所情報分析レポート22）、pp.43-72。
- 2013「メコンデルタ洪水常襲稲作地域におけるフルダイク化の進展とその影響」『農業農村工学会論文集』285号、pp. 271-277（藤井秀人・藤原洋一と共著）。

⑥情報共有化の業績

[データベース公開]

- 2013「東北タイ南部貝葉データベース」(Cheymongkol

Chalermasukjitsri と共同開発) 現地在野研究者との共同により、現地で失われつつある歴史・地域研究資料の保全と公開に取り組む事業である (公開中)。

⑦ 研究集会

[招待報告]

- 2013.8.2 「ダム放流ルールの変更と短期洪水対策・組織」2013年アジア経済研究所夏期公開講座 コース7「タイ2011年大洪水:経験から何を学ぶか」主催:アジア経済研究所、ジェトロ本部 (船津鶴代と共同報告)。
- 2013.9.29 「ベトナム・カンボジア:国境地域の水問題」合同ワークショップ「地域情報学と境界研究が会合するとき:国境問題・宗教・環境」主催:北海道大学スラブ研究センター、地域研、京都大学稲盛財団記念館。

[参加報告]

- 2013.9.4-6 「多時期ALOS-PALSARデータを用いた東北タイ水田分類」平成25年度農業農村工学会大会講演会、主催:農業農村工学会、東京農業大学世田谷キャンパス (渡辺一生・長野宇規と共同報告)。
- 2013.9.25-27 「メコンデルタにおける3期作化が農地および周辺水文環境へ及ぼす影響」水文・水資源学会2013年度研究発表会、主催:水文・水資源学会、神戸大学 (藤原洋一・藤井秀人・柏木淳一と共同報告)。
- 2013.9.25-27 「準平原における河川流出特性と河川灌漑」水文・水資源学会2013年度研究発表会、主催:水文・水資源学会、神戸大学。

[その他の役割]

- 2013.9.4-6 「2013年度農業農村工学会大会講演会」主催:農業農村工学会、東京農業大学世田谷キャンパス (座長)。

⑧ 競争的資金獲得状況

- 科研費・若手 (B) 「タイ国チャオプラヤデルタ治水対策の検討:農村社会の利害調整経験を踏まえて」(2013年度~2016年度)。

⑩ 海外調査活動

- 2013.8.18-26 ベトナム・メコンデルタ、メコンデルタにおける3期作拡大の影響に関する調査、科研費。
- 2013.8.27-9.2 カンボジア・ポーサット州、ポーサット周辺農村部における土地利用・生業変化に関する調査、科研費。

- 2014.2.10-15 東北タイ、地域保健活動を指標とした「地域の知」の計量的分析手法開発のための農村生活データ収集、科研費。
- 2014.2.16-3.2 中部タイ、2011年後洪水後の治水対策と農村変化に関する調査、科研費。

⑫ 社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 地域研究コンソーシアム運営委員。

特任教授/研究員 (特別教育研究 (一般))

柴山 守 (しばやま まする)

① 専門分野

地域情報学

② 経歴

- 1982年 京都大学東南アジア研究センター助手
- 1988年 大阪国際大学経営情報学部助教授
- 1993年 同教授
- 1996年 大阪市立大学学術情報総合センター教授
- 2003年 大阪市立大学大学院創造都市研究科教授
- 2003年 京都大学東南アジア研究センター教授
- 2004年 京都大学東南アジア研究所教授
- 2012年 京都大学地域研究統合情報センター特任教授/研究員

③ 研究課題

- (1) 地域情報学の創出とHumanities GISに関する研究
- (2) 東南アジア上座仏教徒社会における寺院マッピングと僧侶の移動遍歴
- (3) 大陸部東南アジアの東西回廊とアジア文明に関する情報学的研究
- (4) ハノイ都市形成過程に関する情報学的研究

④ 主要業績

- 2012 『地域情報マッピングからみる東南アジア:陸域・海域アジアを越えて地域全体像を解明する研究モデル』 勉誠出版。
- 2010 「時空間概念に基づく地域・歴史事象の写像と知識獲得:地域情報学の視点から見る歴史知識学」『人工知能学会誌』25巻1号、pp.42-49。
- 2009 『地域研究のためのGIS』古今書院 (水島司と共編著)。
- 2009 「地域情報学:地域研究と情報学の新たな地

平 序論』『東南アジア研究』46巻4号、pp. 481-491。

- 1990 *The Computer Concordance to the Law of the Three Seals*, Tahiland: Amarin Publications (coauthor: Yoneo Ishii, Aroonrut Wichenkeeo).

⑤ 出版業績

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014 「地域情報学と仏教実践の時空間マッピング」林行夫ほか著『宗教実践を可視化する：大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動』(CIAS Discussion Paper, No. 42) 地域研、pp. 29-40。

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2013.5 “An Examination of the East-West Cultural Corridor, Paper presented at the First SEAMEO SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology, Burapha University, Chonburi, Thailand.
- 2013.12 “The East-West Cultural Corridor Project: planning for the future,” Proceedings of PNC 2013 Annual Conference and Joint Meetings “New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activities,” 主催：Pacific Neighborhood Consortium (PNC), Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI), 情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIG CH)、京都大学東南アジア研究所 (CSEAS)、地域研、京都大学百周年時計台記念館。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2014.3.8 ワークショップ「地域研究スピリッツの継承：石井米雄を語る」主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館 (企画・実施)。

⑧ 競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (B) 「オントロジー指向による考古遺跡情報の知識体系化：東南アジア大陸部を事例に」(2014年度～2017年度)。
- 科研費・基盤 (B) (海外学術) 「古代・中世東西回廊：ミャンマー・タイ跨境における文化交流・交易網の歴史的動態」(2014年度～2016年度)。

⑩ 海外調査活動

- 2013.9.8-11 タンロンーハノイ世界遺産保存・継承協力・ベトナム、Heritage Management using GIS -

For the Central Sector of the Imperial Citadel of Thang Long – Hanoi.

- 2013.10.21-24 東西回廊研究交流、SOAS、ロンドン大学、UK、GIS Analysis for the East-West Cultural Corridor.

⑫ 社会活動・センター外活動

- 2005.5.1- 公益財団法人アジア研究協会評議員。
- 2006.4.1- 文化遺産国際協力コンソーシアム・東南アジア部会委員。
- 2008.7.1- 日本学術会議第21期～第23期連携会員。

白眉センター特定准教授

王柳蘭 (おうりゅうらん)

① 専門分野

文化人類学、東アジア、東南アジア地域研究

② 経歴

- 1994年3月 神戸女学院大学文学部英文学科卒業
- 1996年3月 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了
- 1996年4月 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程進学
- 1997年～2000年 タイ国チェンマイ大学留学
- 2003年11月 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程退学
- 2003年12月 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科助手
- 2007年4月 同助教 (～2009年)
- 2009年4月～2012年11月 日本学術振興会特別研究員RPD
- 2013年4月 白眉センター特定准教授

③ 研究課題

移民と宗教、医食文化、華人 (中国、タイ、台湾、日本)

④ 主要業績

- 2014 『下からの共生を問う：複相化する地域への視座』(CIAS Discussion Paper, No. 39) (編著)。
- 2011 『越境を生きる雲南系ムスリム：北タイにおける共生とネットワーク』昭和堂。
- 2011 「民族関係から『華』を考える：北タイ国境における雲南系回民を事例に」『中国研究月報』65

巻2号、pp.42-54。

- 2010 [特集企画代表]「越境と地域空間:マイクロ・リージョンをとらえる」『地域研究』10巻1号。
- 2009「北タイにおけるイスラーム環境の形成過程:中国雲南系ムスリム移民の事例から」林行夫編『〈境域〉の実践宗教:大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』京都大学学術出版会、pp.729-781。

⑤ 出版業績

[ワーキングペーパー・報告書の編集]

- 2014『下からの共生を問う:複相化する地域への視座』(CIAS Discussion Paper, No. 39) 地域研。

[分担執筆]

- 2014「北タイと中国の関係:移民が生み出す関係性」塩谷昌史・高橋五郎・貴志俊彦編『日中関係の質的変容をどう理解するか:他地域の視点から捉え直す』(JCAS Collaboration Series, No. 8)、pp.29-34。
- 2014「多元的結合から共生を考える」王柳蘭編『下からの共生を問う』pp.3-6。
- 2014「越境過程における漢人・ムスリム関係の変遷と展開:北タイ国境における共生」王柳蘭編『下からの共生を問う』pp.52-60。

⑦ 研究集会

[企画・実施]

- 2013.9-2014.3 2013年度地域研究コンソーシアム次世代ワークショップ(異文化・環境教育枠)「文化多様性に学ぶ環境教育」(代表:飯塚宣子・同志社大学大学院生)(企画協力)。
- 2013.11.15 Panel: "Border-crossing and Redefining Selves: Inter-ethnic relations, Ethnicity and Searching for Commonality in Transnational Asia (Organizer: Wang Liulan), 6th East Asian Anthropological Association, Xiamen, China (Organizer)."。

[参加報告]

- 2013.11.9「北タイと中国の関係:移民の視点から」+総合討論、地域研究コンソーシアム年次集会シンポジウム「日中関係の質的変化をどう理解するか:他地域の視点から捉えなおす」、愛知大学。
- 2013.11.15 "Han/ Hui Ethnic Relations and Searching for the Commonality of being 'Chinese' and 'Muslim' on the Thai/ Myanmar Borderland," Panel: "Border-crossing and Redefining Selves: Inter-ethnic relations, Ethnicity and Searching for Commonality in Transnational Asia (Organizer: Wang Liulan), 6th

East Asian Anthropological Association, Xiamen, China.

- 2013.12「ふるさとから切り離された人びとの生き方とコミュニティの再生とは?」京都大学アカデミックデイ、京都大学、ポスター発表。

⑧ 競争的資金獲得状況

- 科研費・研究活動スタート支援「アジアにおける中国系ディアスポラの宗教と越境空間の再構築に関する比較研究」(2013年度~2014年度)。

⑨ 受賞、書評、新聞・テレビ・ネットでの報道・出演など

- 2014.3.3第6回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)受賞。
- 2014.3.4たちばな賞受賞関連記事『京都新聞』朝刊。

日本学術振興会特別研究員

岡田 勇 (おかだ いさむ)

① 専門分野

ラテンアメリカ地域研究、比較政治学

② 経歴

- 2010年 筑波大学大学院人文社会科学研究所修士
- 2010年 筑波大学博士特別研究員
- 2010年 在ボリビア日本大使館専門調査員
- 2012年 筑波大学特任研究員
- 2013年 日本学術振興会特別研究員PD

③ 研究課題

- (1)「現代ラテンアメリカ諸国における資源政策の安定性に関する比較分析」(2013~2015年度・学振PD課題)
- (2) ラテンアメリカ政治研究
- (3) 比較政治学方法論(量的・質的分析)

④ 主要業績

- 2012 "Conflictos recientes de recursos naturales y dinámicos intrínsecos en Perú y Bolivia," *Decursos* 26 (Cochabamba: CESU-UMSS), pp. 87-114.
- 2012「2012年ボリビアの政策課題:TIPNIS道路建設問題の事例」『ラテンアメリカ・レポート』29巻1号、pp.83-92。
- 2011「『ガソリナツ』以降のボリビア政治・経済

- 情勢』『ラテンアメリカ時報』1396号、pp.41-43。
- 2010「抗議運動から制度的対話へ：ペルーにおける『バグア事件』と先住民包摂の困難な過程』『ラテンアメリカ・レポート』27巻2号、pp.29-37。
 - 2009「中央アンデス諸国の先住民運動：アイデンティティによる組織化の比較」村上勇介・遅野井茂雄編著『中央アンデス諸国の政治変動：ガバナビリティの模索』明石書店、pp.137-160。

⑤ 出版業績

[レフリー付論文]

- 2013「モラレス政権下におけるボリビア鉱業のアクターと政策過程：強力な利益団体と政府の影響力関係についての試論』『イベロアメリカ研究』35巻1号、pp.23-42。

[雑誌論文]

- 2013「ボリビアの政策過程の不確実性：モラレス政権の経済政策の残された課題』『ラテンアメリカ・レポート』30巻1号、pp.32-42。

⑦ 研究集会

[学会発表]

- 2013.6.2「ペルーとボリビアにおける天然資源にまつわる最近の社会紛争と各国固有の過程」、日本ラテンアメリカ学会第34回定期大会、獨協大学。

[研究会報告]

- 2013.11.18「ペルーの社会紛争研究：データと先行研究の概要」地域研共同研究「社会紛争の総合分析に基づく解決・予防の研究：ラテンアメリカの事例から」主催：地域研、上智大学。
- 2013.11.19「ペルーとボリビアの先住民層の政治参加比較：過去と今日の様相」地域研談話会、京都大学稲盛財団記念館。
- 2014.3.22「1990～2012年のラテンアメリカにおける炭化水素部門の政策比較」「中東欧とラテンアメリカのいまを比較する」第12回研究会、主催：地域研共同研究「中東とラテンアメリカにおける体制転換の比較研究」、同「地域内多様性と地域間共通性の比較政治経済分析：ポスト社会主義国を軸として」、早稲田大学。

⑩ 海外調査活動

- 2013.8.24-9.13 ペルー、チリ、ボリビア、日本貿易振興機構アジア経済研究所共同研究「『ポスト新自由主義期』のラテンアメリカにおける政治参加」に

関する現地調査、アジア経済研究所。

- 2014.2.22-3.18 アメリカ合衆国、ペルー、ボリビア、学振PD課題「現代ラテンアメリカ諸国における資源政策の安定性に関する比較分析」に関する現地調査、科研費。

⑫ 社会活動・センター外活動

- 2013.4.1-2014.3.31 日本貿易振興機構アジア経済研究所共同研究「『ポスト新自由主義期』のラテンアメリカにおける政治参加」外部委員。

研究員 (科学研究)

FLORES URUSHIMA Andrea

(フロレス・ウルシマ・アンドレア)

① 専門分野

建築・都市計画史論、地域空間論

② 経歴

- 2000年3月 Laboratory of Metropolitan Urbanism FAUUSP サンパウロ大学大都市計画研究所研究員
- 2001年3月 Architecture and Urbanism Office, ARBRE 建築と都市計画事務所建築家
- 2009年11月 京都大学地域研究統合情報センター研究員

③ 研究課題

- (1) 日本の近現代都市計画史
- (2) 都市化を通じた人間環境空間の変化
- (3) 空間モデルの世界各地域への伝播

④ 主要業績

- 2012 “Re-évaluation des modes de vie rural et citadin face à la dégradation de l’environnement: un débat national au Japon, de 1967 à 1972,” *Revue des Sciences Sociales* 47, Université de Strasbourg, pp. 130-138.
- 2011 “A arquitetura moderna «latino-americana» pelo olhar japonês,” *Desígnio: Revista de História da Arquitetura e do Urbanismo* 11/12, São Paulo: Annablume/FAUUSP, pp. 89-96.
- 2011 “The 1970 Osaka Expo: Local Planners, National Planning Processes and Mega Events,” *Planning Perspectives* 26:4, London: Routledge, pp. 635-647.

- 2009 “NishiyamaUzo’s View on the Postwar Modern Way of Living: The Case of Hashima Island,” International Conference on East-Asian Architectural Culture, EAAC 2009, “The East Asian Architecture and Urbanism under Occidentalism,” Sub-theme II: Presentation and Representation of Modern Architecture, April 10-13th, Tainan, Taiwan [Proc. in digital form, B1-5].
- 2008 “The Celebration of the 100 Years of the Meiji Revolution (1968) and the Dissemination of an Urban Design from Japan into a Global Scale,” International Symposium Brazil-Japan: Urban Modernization and Contemporary Culture, Session 6: Cities of Mixed Cultures, Sao Paulo, Brazil, October 10-11th.

⑤ 出版業績

[シンポジウム等での発表原稿]

- 2013.10.24 “Visions urbanistiques pour la transformation du territoire au Japon des années 1960,” Les Mutations paysagères et patrimoniales de la ville japonaise, 主催：CRCAO/EPHE/EFEO, Paris.

[短文・記事]

- 2014 “Sakariba,” in Philippe Bonnin, ed., *Vocabulaire Encyclopédique de la Spatialité Japonaise*, Paris: Éditions CNRS, pp. 391-392.
- 2014.2 “Documentation photographiquesur le paysage japonais et la construction du nouveau bâtiment du Centre EFEO de Kyoto,” *Un siècle d’histoire de l’école française d’extrême orient au Japon* [百年の歴史：日本におけるフランス国立極東学], Paris: EFEO, pp. 8-10, 18-19, 24, 52-54, 57-58.
- 2014.2 “Série photographique sur la spatialité japonaise,” Benoit Jacquet, Philippe Bonnin et Nishida Masatsugu, eds., *Dispositifs et notions de la spatialité japonaise*, Lausanne: Presses polytechniques et universitaires romandes, pp. 16, 28, 52, 80, 104, 120, 150, 168, 190, 204, 234, 254, 276, 302, 314, 330.

⑫ 社会活動・センター外活動

- 2009- フランス国立科学研究センター東アジア文化研究所附属研究員。
- 2006- 国際都市計画史学会IPHS。

研究員 (科学研究)

山口 哲由 (やまぐち たかよし)

① 専門分野

山地社会のポリティカルエコロジー、生態人類学

② 経歴

- 2006年 京大大学生存基盤科学研究ユニット研究員
- 2007年 日本学術振興会特別研究員PD
- 2010年 京都大学東南アジア研究所研究員
- 2011年 愛知大学国際中国学研究センター研究員
- 2013年 京都大学地域研究統合情報センター研究員

③ 研究課題

- (1) 山地社会における持続的環境利用をめぐる諸課題の研究
- (2) インドと中国における環境政策の比較研究

④ 主要業績

- 2013 「ラダーク山地社会における農林牧複合の農業形態と土地利用の変容」『ヒマラヤ学誌』14号、pp. 102-113 (Sonam Ngodup、野瀬光弘、竹田晋也との共著)。
- 2011 「移動牧畜が放牧地に及ぼす負荷の分布状況の推定:中国雲南省北西部のチベット族村落の事例」『地理学評論』84巻3号、pp. 199-219。
- 2011 “Transition of Mountain Pastoralism: An Agrodiversity Analysis of the Livestock Population and Herding Strategies in Southeast Tibet, China,” *Human Ecology* 39:2, pp. 141-154.
- 2011 「中国雲南省のチベット族村落における移動牧畜の現代的意義:その乳生産量からの検討」『人文地理』63巻1号、pp. 1-21。
- 2010 「ラダーク地域における村落の変容:山地における人と環境の結びつきに関する考察」『ヒマラヤ学誌』11号、pp. 78-89。

⑤ 出版業績

[レフリー付論文]

- 2013 「ラダーク山地社会における農林牧複合の農業形態と土地利用の変容」『ヒマラヤ学誌』14号、pp. 102-113 (Sonam Ngodup、野瀬光弘、竹田晋也との共著)。
- 2013 「チベットの村落を考察する比較対照としてのインド北部村落における調査報告」『ICCS現代中

国学ジャーナル』5巻2号、pp.56-67（野瀬光弘、竹田晋也との共著）。

研究員（科学研究）

和崎 聖日（わざき せいひ）

①専門分野

中央アジア地域研究、人類学

②経歴

- 2001年 京都大学大学院人間・環境学研究科TA
- 2009年 日本学術振興会特別研究員PD
- 2012年 京都大学地域研究統合情報センター研究員
立命館大学国際関係学部非常勤講師
- 2013年 桂看護専門学校非常勤講師
追手門学院大学国際教養学部非常勤講師
立命館大学国際関係学部非常勤講師

③研究課題

- (1) ウズベキスタンのイスラーム、スーフィズム、ジェンダー
- (2) 対面的相互行為論からのウズベキスタンの社会=文化の探求
- (3) 会話分析からのウズベキスタンの社会=文化の探求

④主要業績

- 2012 『ソ連解体以後のウズベキスタンにおける家族と相互扶助に関する人類学的研究』京都大学博士学位論文（人間・環境学）。
- 2008 「人々はなぜ『乞食』に施しをするのか？：体制転換後のウズベキスタンにおける〈物乞い-施し〉交渉の分析」『三田社会学』13号、pp.93-113。
- 2008 「多民族都市タシュケントの欲動：ポスト・ソヴィエト・ウズベキスタンにおける物乞い生活者像が照らすもの」『生活学論叢』13号、pp.3-14（2008年度日本生活学会研究論文賞受賞）。
- 2007 「『転落』のセルフ・ストーリー：ウズベキスタンにおける女性『乞食』の事例から」『文化人類学研究』（早稲田文化人類学会）8巻、pp.72-92。
- 2007 「ポスト・ソヴィエト時代のウズベキスタンの『乞食』：都市下位文化におけるイスラームと共同性」『文化人類学』71巻4号、pp.458-482。

⑤出版業績

[短文・記事]

- 2013.12.16 「地域研究とコミュニケーション：『日常行動』の観察・記録資料」地域研究資料へのいざない：地域研図書室HP、地域研。

⑦研究集会

[参加報告]

- 2013.12.22 「ソ連解体とジェンダー：ウズベキスタンにおける『名誉に基づく暴力』の実像」名誉の暴力合同研究会、主催：科研「地中海から西・南アジア地域の人々に関わる『名誉に基づく暴力』の文化人類学的研究」（代表：田中雅一）、京都大学人文科学研究所。
- 2014.3.26 「ウズベキスタンにおけるマフルとタラクをめぐる『再イスラーム化』の実相：海外出稼ぎ労働とその村落社会への影響」、主催：科研「中央アジアのイスラーム・ジェンダー・家族：『近代化』再考のための視座の構築」（代表：帯谷知可）、京都大学稲盛財団記念館。

⑩海外調査活動

- 2013.8.2-9.17 ウズベキスタン、名誉に基づく暴力の実態、スーフィズムと聖者信仰、科研費。
- 2014.2.14-3.22 ウズベキスタン、一夫多妻婚の実態、ウズベキスタンのアフリカ人の歴史と現在、科研費。

⑪教育

- 2013.4.1-9.30 桂看護専門学校、非常勤講師、「文化人類学」担当。
- 2013.9.17-2014.3.31 追手門学院大学国際教養学部、非常勤講師、「南・西南アジアの社会Ⅱ」担当。
- 2013.9.26-2014.3.31 立命館大学国際関係学部、非常勤講師、「ロシア・ユーラシア研究Ⅱ（R）」担当。

研究員（学術支援）

小島 敬裕（こじまたかひろ）

①専門分野

ミャンマー・中国雲南省の地域研究、文化人類学

②経歴

- 1994年 札幌北斗高等学校教諭
- 1999年 ミャンマー連邦WIN日本語学校教員

- 2010年 京都大学地域研究統合情報センター研究員
京都精華大学非常勤講師
- 2011年 滋賀大学非常勤講師
- 2012年 大阪大学非常勤講師
国立国会図書館非常勤職員

③ 研究課題

- (1) ミャンマー、中国雲南省徳宏州における宗教実践の動態
- (2) 東南アジア大陸部の上座仏教徒社会に関する地域間比較研究
- (3) 上座仏教と地域の時空間マッピング

④ 主要業績

- 2014 『国境と仏教実践：中国・ミャンマー境域における上座仏教徒社会の民族誌』 京都大学学術出版会。
- 2012 “Tai Buddhist Practices in Dehong Prefecture, Yunnan, China,” *Southeast Asian Studies* 1:3, pp. 395-430.
- 2011 『中国・ミャンマー国境地域の仏教実践：徳宏タイ族の上座仏教と地域社会』 風響社。
- 2009 「現代ミャンマーにおける仏教の制度化と<境域>の実践」 林行夫編 『<境域>の実践宗教：大陸部東南アジア地域と宗教のトポロジー』 京都大学学術出版会、pp.67-130。
- 2009 「中国雲南省徳宏州における上座仏教：戒律の解釈と実践をめぐって」 『パーリ学仏教文化学』 23号、pp.21-39。

⑤ 出版業績

[単著]

- 2014 『国境と仏教実践：中国・ミャンマー境域における上座仏教徒社会の民族誌』 京都大学学術出版会。

[分担執筆]

- 2013 「僧伽と僧院：在家と密接にかかわる『出家』」 田村克己・松田正彦編 『ミャンマーを知るための60章』 明石書店、pp.188-192。

[レフリー付論文]

- 2013 “From Tea to Temples and Texts: Transformation of the Interfaces of Upland-Lowland Interaction on the China-Myanmar Border,” *Southeast Asian Studies* 2:1, pp.95-131 (Nathan Badenochとの共著)。

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014 「中国雲南省徳宏州における仏教徒社会のマッピング」 林行夫ほか著 『宗教実践を可視化する：大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動』 (CIAS Discussion Paper, No.42) 地域研、pp.59-68。

[短文・記事]

- 2014 「仏教実践に見られる平地民と山地民の民族間関係：中国・ミャンマー国境地域におけるタイ族とタアーン族の事例から」 『フィールドプラス』 11号、pp.8-9。

⑦ 研究集会

[招待報告]

- 2013.7.20 「中国・ミャンマー国境の地域社会と徳宏タイ族の仏教実践」 東方学会ワークショップ 『多様な境界線とマイノリティ：中国語圏の事例の検証』 東方学会。
- 2013.9.29 「中国・ミャンマー国境地域における仏教徒の移動と地域社会」 合同ワークショップ 『地域情報学と境界研究が会うとき：国境問題・宗教・環境』、京都大学稲盛財団記念館。
- 2013.11.14 “Tāi Buddhist Practices on the China-Myanmar Border,” *Myanmar from the Margins*, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore.
- 2014.2.11 “Tai Buddhist Practices and Cross-boundary Dynamics on the China-Myanmar Border,” JSPS Asian Core Program Final Workshop: *Interface, Interaction and Negotiation*, Inamori Hall, Kyoto University.
- 2014.3.9 “Movement of Buddhists between China and Myanmar,” International Workshop on *Reconsideration of the Historical and Contemporary Land-route Connection between South Asia and South East Asia*, Inamori Hall, Kyoto university.

[参加報告]

- 2013.6.25 “Theravada Buddhism and Interethnic Relations: Local Practices of the Shan and Palaung of Northern Myanmar,” *8th International Convention of Asia Scholars*, The Venetian Macau Resort, China.

⑧ 競争的資金獲得状況

- 科研費・基盤 (C) 「上座仏教徒社会の国家と地域の実践に関する研究：現代ミャンマーを中心に」 (2011年度～2014年度)。

⑩海外調査活動

- 2013.2.11-2.17 ミャンマー・カチン州モーフニン郡、「上座仏教徒社会の国家と地域の実践に関する研究：現代ミャンマーを中心に」のための調査、科研費。
- 2013.3.10-23 ミャンマー・モン州タンビュザヤ郡、マンダレー管区ワンドゥイン郡、シャン州タウンジー郡、「上座仏教徒社会の国家と地域の実践に関する研究：現代ミャンマーを中心に」のための調査、科研費。

⑪教育

- 2013.4.1-2014.3.31 滋賀大学経済学部、非常勤講師、「中国語 I a」「中国語 I b」「中国語演習」担当。
- 2013.4.1-2014.3.31 大阪大学外国語学部、非常勤講師、「ビルマ文化講義 II」担当。
- 2013.9.19-2014.3.31 京都精華大学人文学部、非常勤講師、「アジア交流史」担当。

⑫社会活動・センター外活動

- 2013.12.21 「地域を読み解く地域情報学」『京都大学アカデミックデイ2013』京都大学百周年時計台記念館。

研究員（特別教育研究（一般））

BOURDON Julien (ブルドン ジュリアン)**①専門分野**

情報学、コンピュータと人間の相互作用

②経歴

- | | |
|----------|--|
| 2004年6月 | Institute of Technology of the University of Caen 卒業 |
| 2006年6月 | Sheffield 大学情報学大学院留学 |
| 2007年6月 | Saint-Etienne 大学情報学大学院 Web Intelligence 専攻修士学位取得 |
| 2007年10月 | 京都大学大学院情報学研究科情報学専攻（研究生） |
| 2008年10月 | 同博士課程進学 |
| 2011年6月 | 京都大学地域研究統合情報センター教務補佐員 |
| 2012年5月 | 京都大学地域研究統合情報センター研究員 |

③研究課題

パターン分析および多言語資料群の可視化、地域研究に関するデータの空間時間解析に関する研究

④主要業績

- 2011 “A Graph Based Model for Understanding Localisation Patterns in Multilingual Websites,” *CULTURE-COMPUTING '11: Proceedings of the 2011 Second International Conference on Culture and Computing*, IEEE, pp. 119-120 (coauthor: T. Ishida).
- 2010 “Trust in Complex Actions,” *Proceeding of the 2010 Conference on ECAI 2010: 19th European Conference on Artificial Intelligence*, IOS Press, pp. 1037-1038 (coauthor: G. Feuillade, A. Herzig, E. Lorini).
- 2009 “Trust Chaining for Provider Autonomy in Composite Services,” *JAWS* (coauthor: T. Ishida), Best Student Paper Award.
- 2009 “A Multiagent Model for Provider-Centered Trust in Composite Web Services,” *PRIMA '09: Proceedings of the 12th International Conference on Principles of Practice in Multi-Agent Systems*, Springer, pp. 216-228 (coauthor: L. Vercouter, T. Ishida).
- 2008 “Speech Act Annotation for Domain Specific Multilingual Expression Services,” *ISUC '08: Proceedings of the 2008 Second International Symposium on Universal Communication*, IEEE Computer Society, pp. 243-250 (coauthor: T. Ishida).

⑤出版業績

[レフリー付論文]

- 2013 “An Ontology of the Worldview of Islam to Annotate Islamic Texts Digital Archives,” *Proceedings of the International Conference on Culture and Computing*, IEEE, pp. 216-217 (coauthor: Muhammad Syukri Bin Rosli).

[ワーキングペーパー・報告書等]

- 2014 “Theravadins in Khong Chiam: Visualizations for Movement Tracking,” 林行夫ほか著『宗教実践を可視化する：大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動』（CIAS Discussion Paper, No. 42）地域研、pp. 41-50。

⑦研究集会

[招待報告]

- 2013.9.4 「ウェブGISを用いた空間時間データ可視化分析共同研究環境」第12回情報科学技術フォーラム、主催：情報処理学会ほか、鳥取大学鳥取キャンパス。
- 2013.9.11 “A Digital Archive for Jawi Documents,” “From Tradition to Vision,” 主催：地域研、クラシカメディア、プトラホテル（クアラルンプール）。

[参加報告]

- 2013.12.21 “A Digital Archive for Jawi Documents,” 国際会議「イスラームと多元文化主義」主催：早稲田大学イスラーム地域研究機構、早稲田大学総合学術情報センター。
- 2014.1.17 「僧侶の移動と地域社会東南アジア大陸部上座仏教徒の社会距離の可視化」CIAS地域情報学プロジェクト研究会「地域研究におけるデータの可視化と分析」、主催：地域研、京都大学稲盛財団記念館（小島敬裕・原田真喜子と共同報告）。

2 外部資金による研究活動

科学研究費補助金による研究

森林の包括的利用システムの地域間比較研究

研究代表者 柳澤 雅之
研究種目 基盤研究 (A)
研究期間 2010年度～2014年度

●研究目的と内容

東南アジアにおける森林の多面的機能を最大限発揮できるための新しい森林の包括的利用システムを提案する。そのためにまず、多様な樹種で構成される森林の保護とその利用を歴史的に両立させ、森林面積を維持あるいは増加させてきた事例のインベントリーを作成する。その中から、地方政府・企業・ローカルコミュニティという、異なる主体によって保護と利用が達成されている事例を取り上げ、森林が生み出す社会的・経済的・文化的利益の配分と維持管理コストの分担について比較検討する。これにより、地域の自然環境条件に応じた森林育成方法とそれをサポートする制度的枠組みについて通地域的に適用可能な知見をえて、森林を長期に利用する上で地方政府・企業・ローカルコミュニティの全体にとって利益のあるような役割分担を明らかにする。

科学研究費補助金による研究

地域保健活動を指標とした『地域の知』の計量的分析手法の開発

東北タイを事例に

研究代表者 原 正一郎
研究種目 基盤研究 (A)
研究期間 2011年度～2013年度

●研究目的と内容

地域保健活動の視点から『地域の知』を体系化・分析する計量的手法の確立をめざした。本研究では、①個人およびコミュニティの健康データ、自然および社会の環境データ、地域看護活動データなど、健康に関わる多様な地域研究資料を収集し、②情報学的手法を駆使して計量化・統合・分析を試み、③地域の健康像を解明した。

これにより健康に関わる要因の抽出、要因の関連性の同定、さらに可能であれば健康状態の将来予測や健康サービスの評価などを計量的に試みた。

本研究モデルは地域研究全般に適用可能であり、①多様な地域研究資料を保存・公開・共有化する手法、②定性データを計量化する手法、③多様なデータを統合して『地域の知』を体系化する手法、④これらを支援する情報基盤の実現、などが期待される。これにより地域を計量的に「読み・解き・語る」地域情報学の展開を図った。

科学研究費補助金による研究

災害対応の地域研究の創出

『防災スマトラ・モデル』の構築とその実践的活用

研究代表者 山本 博之
研究種目 基盤研究 (A)
研究期間 2011年度～2014年度

●研究目的と内容

2004年のスマトラ沖地震津波（インド洋津波）と2009年の西スマトラ地震を主な事例として、地域研究と防災・人道支援が共同で復興過程を調査研究することで、(1)「被災前に戻す」ではなく「被災を契機によりよい社会をつくる」という観点からスマトラの復興過程を明らかにする、(2)スマトラの事例をもとに防災・人道支援の技術や経験を他地域の悲哀地に適用するためのスマトラ・モデルを提示する、(3)災害発生時に現地語のオンライン情報を自動で収集・整理して地図上で提示する災害地域情報マッピング・システムを構築する。これらにより、スマトラの復興過程を明らかにするとともに、防災・人道支援の実務者にも活用可能な「災害対応の地域研究」の方法論を提示する。また、東日本大震災の復興過程の調査を行い、スマトラで得られた知見と経験に照らして日本における復興過程を検証し、状況に応じて創造的復興のあり方を提案する。

科学研究費補助金による研究

実データ（史資料）に基づく海域アジア交流ネットワークの時空間分析

研究代表者 柴山 守
研究種目 基盤研究 (B)
研究期間 2011年度～2013年度

●研究目的と内容

主に17世紀～20世紀に至る唐船記録と交易品資料、琉球外交文書、満州国表象関係資料、陶磁器発掘考古資料、近世貿易関係係数資料、華人・華商ネットワークなどの史資料や研究成果から提示される中国、日本、朝鮮、台湾、トンキン、暹羅など東・東南アジアを対象にした実データを「歴史GIS」研究手法により時空間の視点で重層化して、「海域アジア」という視座から俯瞰し、海域交流ネットワークのダイナミズムを探った。実データのマッピング及び分析では、歴史観など計量不可能な記述・論述的情報ともリンクして可視化を試み、GIS空間分析や時空間ネットワーク分析を行った。これらの通時分析によって、従来の通説や仮説の比較・検証と比較・検討の可能性を探ることを目的とした。

特に交易品と輸送貿易船、港町、貿易都市地域、住民居住地域、関連国などの位置や領域をGISによりマッピングした。また、海域ネットワークを俯瞰しながら、歴史的な大陸部東南アジアの陸域交易ネットワークの分析に展開させた。そして、計量分析、空間分析、ネットワーク分析を行い、時空間による通時分析を行って、交易ネットワークのダイナミズムを解明した。

科学研究費補助金による研究

ハノイ都市基盤の形成：歴史的推移と環境多様化のダイナミズム

研究代表者 柴山 宇
研究種目 基盤研究 (B)
研究期間 2011年度～2013年度

●研究目的と内容

ベトナム国首都ハノイの19世紀から21世紀に至る都市形成過程について、伝統的都市形態から現在の「近代」都市形成への推移、自然地形・環境、地下構造、紅河デルタの役割などと社会・住民組織の営みを重層的に俯瞰し、4次元時空間分析を中心とした地域情報学的手法により都市ハノイ像を総合的に解明した。具体的には、第一に1831年以降の都市基盤共同体変遷、都市歴史空間の分析を行い、第二に、20世紀後半から現在に至る微地形分析、水文環境、紅河堤防などの自然環境・現象と〈ひと〉の営みの関係を地下・地表・地上を統合し、解明した。第三に、ハノイ中心部の都市基盤形成を広域ハノイ圏の人間・自然生態との関連

で解明し、総合的な都市基盤形成過程のダイナミズムを明らかにした。

研究内容は以下の3つの側面から構成され、(1)都市基盤共同体研究であり、住民組織と住民意識の変容を把握。ハノイ中心部フランス新興開発地の宗教寺院(Den, Dinh, Chua)・住民共同体施設旧村落の調査。ハノイ圏の19世紀から現在に至る建築様式、フランス建築の現況と住民の生活・文化空間の調査、(2)都市基盤環境研究であり、ハノイ圏の地下構造情報の収集と紅河西岸におけるボーリング調査、紅河デルタ地層との比較検討、地質3次元構造化の共同研究及び3次元景観モデリングとGIS分析、(3)都市周縁研究であり、ハノイ圏周縁地区における農業生産(第一次産品)、生業実態などをおこない、地域情報学的手法による解明を行った。

科学研究費補助金による研究

上座仏教徒社会の国家と地域の実践に関する研究

現代ミャンマーを中心に

研究代表者 小島 敬裕
研究種目 基盤研究 (C)
研究期間 2011年度～2013年度

●研究目的と内容

本研究では、現代ミャンマーにおける上座仏教の管理体制と地域の仏教実践に注目することにより、キリスト教の教会と国家に関するモデルや、仏典、仏教関係の法制度などを参照して導き出された従来の上座仏教徒社会モデルに再検討を迫るとともに、上座仏教徒社会に関する新たなパラダイムを構築することを目的とした。そのために、まず2007年の僧侶による民主化運動以降の宗教政策に関わる諸資料を分析し、近年のミャンマー政府の仏教への関わり方を解明した。次に、国家の管理体制下における地域に根ざした実践、中でも国家の築く制度に包摂されない実践の動態を、フィールドワークによって明らかにした。

科学研究費補助金による研究

**移民コミュニティの動態に関する研究
マレーシアのインドネシア人学校の変遷を中心に**

研究代表者 西 芳実
研究種目 基盤研究 (C)
研究期間 2011年度～2013年度

●研究目的と内容

一人の人にとって拠り所となる故郷は一つであるという前提のもとで「移民」を居留国・出身国の双方にとって問題とする従来の見方に対し、マレーシアにおけるインドネシア人コミュニティの形成・再編過程の検討を通じて、「移民」が出身国と居留国の双方の社会秩序再編に積極的な役割を担いうる存在として評価する捉え方を提示した。

具体的には、(1) 東マレーシア (サバ州) におけるインドネシア人コミュニティの形成・再編過程、(2) 半島部マレーシアにおけるインドネシア人コミュニティの形成・再編過程、(3) インドネシア政府による在マレーシア・インドネシア人子弟の教育政策の変遷に着目し、地理的・文化的な近接性のある二国間での移民の送り出し／受け入れをめぐる諸問題について、移民の子弟の教育に焦点をあて、特に移民受け入れ社会における移民の社会統合過程について検討した。

科学研究費補助金による研究

**新自由主義改革後の国家社会関係
中南米における社会支出予算決定過程の比較研究**

研究代表者 村上 勇介
研究種目 基盤研究 (A)
研究期間 2012年度～2014年度

●研究目的と内容

本研究の目的は、これまでおこなってきた政党に関する研究をふまえ、社会支出予算の決定過程を事例とする比較分析を行い、新自由主義改革以降の国家社会関係の形態とその分析枠組みを考察することである。対象地域は、発展途上地域で最も早く新自由主義経済改革を経験し、現在、ポスト新自由主義の新たな国家社会関係を模索する中南米 (ラテンアメリカ) である。最終目標は、新自由主義改革を経た世界各地の国家社会関係を分析し、その将来のあり方を検討するとともに、その分析枠組みを一般化することにある。それにむけ、本研究では、まず、歴史的背景や構造問題を含め多角的な観点から、中南米諸国を対象に綿密な調査

分析と比較研究を実施する。そして、他地域と比較する予備的作業を行い、事例分析の結果と枠組みを検証し理論化への方向性を探る。

科学研究費補助金による研究

**中央アジアのイスラーム・ジェンダー・家族
「近代化」再考のための視座の構築**

研究代表者 帯谷 知可
研究種目 基盤研究 (B)
研究期間 2012年度～2015年度

●研究目的と内容

本研究は、旧ソ連中央アジアで、ソ連解体から20年以上を経た今再び「近代」とは何かが問われ、深刻な社会的混乱を招きかねない状況が生じていることを念頭に置きつつ、旧ソ連中央アジア、特に現在のウズベキスタンの領域を研究対象地域として、ソ連期に重点を置きながら、ソ連的=社会主義的「近代化」の過程におけるイスラーム、ジェンダー関係、家族関係の複合的な変容、そのための装置や内的論理の転換過程の多角的検討を通じて、ソ連型社会主義における中央アジアの「近代化」の特質を明らかにし、その上で、ソ連解体後の「近代」からの後退とも受け取れる状況を視野に入れながら、ソ連解体後の激動、市場経済化と民主化という課題、権威主義体制、伝統回帰、イスラーム復興などに揺れるこの地域の「近代化」を今なおアクチュアルな問題群としてとらえなし、現在の中央アジアを見渡す視座を構築することを目的とする。

本研究は、海外共同研究者として同意を得ているB. ババジャノフ氏 (ウズベキスタン、東洋学研究所) との国際共同研究として展開する。日本側では研究代表者、2名の研究協力者 (いずれもウズベキスタンで調査を行った経験のある若手研究者) ならびに科研研究員1名から成る研究グループを形成し、イスラーム・ジェンダー・家族に関連する「伝統」と「近代」をめぐる、ロシア帝政期ならびにソ連期の民族誌的記述と現代のフィールドワークの成果とを批判的に照合する。ウズベキスタン側では図書館等資料研究とソ連時代を生きた人々へのインタビュー調査を有機的に結合させて、ソ連期に中央アジアに設置されイスラームを統括する役割を担ったムスリム宗務局の活動とそれらにまつわる人々の記憶について研究を進める。それらを総合することによって中央アジアの「近代化」を現在の視点から考える分析枠組みを検討する。また、社会

主義のもとでの「近代化」を表象する資料を幅広く収集する。

科学研究費補助金による研究

地域社会はいかにして国際的な環境制度の成功に貢献できるのか (How can local communities contribute to the success of international environmental regimes?)

研究代表者 Wil de Jong
研究種目 基盤研究 (B)
研究期間 2012年度～2014年度

●研究目的と内容

Countries implement international environmental regimes (CBD, FCCC, UNFF, CITES) through legislation, policies, and multiple projects, reaching all the way until lower levels of government. In known cases these regimes negatively affect smallholder community natural resource use without offering appropriate alternatives. This study compares five cases in three tropical regions how IERs affect communal resource management and how communities respond to their impact. The study contributes to the academic understanding of international regimes and identifies options for community friendly implementation to increase their intended outcomes.

科学研究費補助金による研究

博物館建築がポピュラー文化受容に果たす空間的機能の解明とその設計還元に向けた研究

研究代表者 谷川 竜一
研究種目 挑戦的萌芽研究
研究期間 2012年度～2014年度

●研究目的と内容

異なる意図、異なる文化同士の邂逅によって、建築空間は歴史的にダイナミックに変容してきた。本研究では博物館を対象とし、そこで起る現在の変容を明らかにすることで、文化受容のための建築設計に貢献することを目的としている。

具体的にはフランス及び韓国のマンガ・ミュージアムを対象に、各建築内の展示空間がどのように構成さ

れ、来館者がどのように展示を見ているかという、建築空間と来館者の観覧体験の相互関係の分析を行う。博物館建築は、歴史的には西洋で完成し、見習うべき手本＝確立された建築類型としてアジアに入ってきた。そこに、アジア（主に日本）で洗練された大衆文化かつメディア・アートでもあるマンガが展示される時、博物館が建築空間としていかに対応し（時に齟齬をともなって）、それぞれの場で成立しているのかを明らかにしたい。クールジャパンなどの威勢のよいかげ声とは裏腹に、マンガとの向き合い方を空間的に議論した研究は少ない。建築学、博物館学、社会学、民俗学の領域から総合的に考察することで、建築単体の議論にとどまらず、マンガを用いた地域振興やマンガ文化そのものへの貢献へつなげることを目的とする。

科学研究費補助金による研究

東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く

研究代表者 貴志 俊彦
研究種目 基盤研究 (A)
研究期間 2013年度～2016年度

●研究目的と内容

東アジア域内では、歴史認識問題や領土問題を契機として、相互イメージが悪化し、さまざまな面で緊張した局面が発生している。この種の政治的、社会的な対立が激化する一方で、各地では協調、融和的な社会を築こうとする意識が働きつつあることも忘れてはならない。本共同研究では、近100年間に東アジアで起こった歴史的な事件、あるいは時代の画期となるトピックをとりあげ、それぞれの局面で登場した非文字史料が果たした役割とその受容者の解釈を検討することを目的とする。具体的な方法としては、複数の地域で製作された非文字史料を比較対照するとともに、(a) 画像解釈学的分析、(b) 語彙分析による情報処理、(c) コミュニケーション・パターン分析等を導入して、紛争・協調の時代イメージと非文字史料との因果関係を明らかにする。むろん非文字史料を表象論的にとりあげるだけでなく、とりわけコミュニケーションの“ねじれ”現象の基幹的要因と考えられる個人のメンタリティや集合的記憶（コメモレーション）について検証することに留意している。

科学研究費補助金による研究

生活世界の変容とジェンダー：インド高齢女性のライフヒストリーを通して

研究代表者 押川 文子
研究種目 基盤研究 (B)
研究期間 2013年度～2015年度

●研究目的と内容

2000年代に入って加速した経済成長のもとで、消費社会化などインド社会の変化に注目が集まっている。その背景には、すでに1970年前後から、家族のなかの世代やジェンダーの関係、子育てと教育、そして高齢者のあり方など人々の「生活世界」が、地域社会や国全体の動きと呼応しながら少しずつ変化してきたことがある。本研究は、インドの「生活世界」の過去数十年の変化を、女性の視点から記録し、分析しようとするものである。

生活世界の変化については、全国標本調査 (NSS) や全国家族保健調査 (NFHS) など大型統計による全体的な傾向分析と特定地域やコミュニティを対象とした人類学的研究が蓄積されてきた。本研究では、その「中間の領域」、すなわち生活の直接の基盤である村や都市レベルで社会経済や生活環境の変化と個人の生活世界との関わりに注目する。そのために、経済発展の異なる3地域の農村・都市を取り上げ、60歳代以上の女性、すなわち1950年前後に生まれ70年代から80年代にかけて家族形成した女性を対象に詳細な聞き取り調査を行い、衣食住、結婚と出産、子育てや教育、家族関係などについて記録を残すとともに、生活世界の変化を地域の社会経済の変化の中に位置付ける分析を予定している。

科学研究費補助金による研究

学術論文のマッピング・システムを通じた地域情報の統合と共有化

研究代表者 山本 博之
研究種目 挑戦的萌芽研究
研究期間 2013年度～2015年度

●研究目的と内容

地域研究の学術論文 (地域誌) を、本文中で言及される地名等をもとに地図上に表示し、これにより地名から学術研究の動向 (どのような研究が行われているか) や研究者情報 (誰がどのような研究を行っているか) を検索できるようにし、特定地域に関する地域研

究の知見の蓄積 (= 「地域の知」) を統合的に可視化するシステムについて、対象地域をマレーシアに絞ってプロトタイプを開発する。細分化された分野ごとになされる傾向がある学術研究の蓄積を、地理情報を活用して研究対象地域ごとに分類することで、特定地域に関する情報の全体像を把握することを可能にする。これにより、研究者どうしでの研究成果の相互参照を助けるだけでなく、研究者以外で特定地域の情報を必要とする人々 (たとえば報道、外交、行政、企業などの各分野の実務者) が地域研究の知見を活用しやすくなることが期待される。萌芽研究である本研究では、特定地域に関する情報が網羅的に収容されたデータベースの作成そのものを目的にするのではなく、情報技術にそれほど通じていない (ワード、エクセル、メール、ウェブ閲覧等ができる程度) の研究者でも比較的簡便な操作により自身の研究対象地域に関する地域情報を収集・整理し共有できるような仕組みを作成・公開することを目標とする。

科学研究費補助金による研究

タイ国チャオプラヤデルタ治水対策の検討：農村社会の利害調整経験を踏まえて

研究代表者 星川 圭介
研究種目 若手研究 (B)
研究期間 2013年度～2015年度

●研究目的と内容

2011年のタイ国チャオプラヤ川大洪水の際には、日系企業が立地する工業団地やバンコクの被災状況が日本でも大きく報じられたが、その陰でバンコク周辺の農村部もまた、一か月以上の長期にわたって冠水状態に置かれた。チャオプラヤデルタは元来洪水常襲地域である。上流のダム建設や治水事業に伴って頻度や規模は減少しているものの、洪水年には本流や支流沿いで河川氾濫が生じるという状況は未だ変わっていない。そして氾濫水や氾濫を生じ得るような河川流出は、水門の操作や堤防・土嚢によって経済的重要度の低い農村部へと人為的に導かれる (あるいは留め置かれる) のである。2011年大洪水後の治水対策にも、バンコク上流の水田地帯を遊水地として活用する計画が盛り込まれた。これは地権者への補償を伴うもので、暗黙の了解のもとに農村部が氾濫水を受け入れてきた状況からの進歩とはいえるが、農村部でもまた生活様式や農業体系の変化により洪水に対する脆弱性は増加してい

る。本研究では、洪水頻発地域であるタイ国チャオプラヤデルタの水田地帯において農民たちがどのように洪水に対応しているかを明らかにした上で、現在タイ政府が進めているチャオプラヤデルタにおける治水対策が、農村部に負担を押し付けない形でどのように実施可能を示す。

科学研究費補助金による研究

アジアにおける中国系ディアスポラの宗教と越境空間の再構築に関する比較研究

研究代表者 王 柳蘭

研究種目 研究活動スタート支援

研究期間 2013年度～2014年度

●研究目的と内容

本研究は、東アジアと東南アジアをつなぐ中国系ディアスポラを対象に、国境を越えた人の移動、とくに宗教・文化のネットワークを通して生成されていく共同体の姿と地域のダイナミズムとそのメカニズムを解明することを目的としている。とりわけ、中国雲南省、タイ、台湾に跨る雲南系華人の相互作用に着目する。具体的には、①イスラームがローカルなコミュニティに果たす役割、②異なる宗教間の接触にともなう相互受容や多民族との共生関係、③それを通じて紡ぎだされるトランスナショナルな地域空間の生成の動態と国家との相互作用の事例をとりあげた。また、越境にともなう民族・宗教文化があらたな地域の創出や社会のあるべき共生に果たす役割を考究するため、日本における移民コミュニティや他地域の越境社会との地域間比較に関する共同研究や国際学会における共同発表を行った。

3 受賞

京都大学地域研究統合情報センター関係者で、学術賞を受賞した研究者を紹介する。

京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）

王 柳蘭



たちばな賞授賞式（右から二人目が王柳蘭氏）

京都大学たちばな賞は、同大学にて優れた研究成果を挙げた若手女性研究者を顕彰する制度である。2013年度の第6回たちばな賞では、研究者部門の受賞者として王柳蘭（地域研／白眉センター特定准教授）が選ばれた。応募者は、学生部門12名、研究者部門17名で、11名の選考委員による書類審査とインタビューを交えた二次選考が行われた。表彰式は2014年3月3日、京都大学医学部芝蘭会館・稲盛ホールにて開催された。松本総長より表彰状が、またワコール安原社長より副賞が贈呈された。表彰式では研究テーマである「アジアにおける中国系ディアスポラと多元的共生空間の生成」の発表が行われた。また王氏による女性地域研究者のライフ・キャリアネットワークプロジェクトの立ち上げにもとづく、女性研究者の課題の共有や次世代の子どもに向けた相互支援、また、異業種専門家との交流を含めたアウトリーチ活動も高い評価が与えられた。

4 シンポジウム・ワークショップ・研究会等

京都大学地域研究統合情報センターでは、研究や調査成果の公開や共有の場を設けるために、様々なシンポジウムやワークショップを積極的に開催し、研究交流の推進に努めている。以下では、2013年度に地域研が主催ないし、教員が主たる役割を担ったシンポジウムやワークショップ、研究会の情報を絞って掲載する。

京都大学附置研究所・センター品川セミナー

痛みと再生の諸相：インド洋津波から2年を迎えたスマトラの経験を振り返る

日時

2013年4月5日

場所

京都大学東京オフィス

主催

京都大学附置研究所・センター

趣旨・目的

大きな災厄に見舞われた社会では、物理的な復興・再建をどのように進めるかという課題と同時に、身近な人を失った痛みや、個人個人を支えてきた社会の記憶の断絶をどのように受け止めるかという課題に直面します。復興・再建で、地域経済、社会的インフラ、個々人の生業の立て直しが相互に作用しながら進められていくのと同じように、災厄によってもたらされた痛みの受け止め方も、身近な人の喪失をどのように受け止めるかという弔いから、社会全体で災厄をどう受け止め伝えていくかという記録・記憶まで、さまざまな問題が相互に作用しながら進んでいきます。

このセミナーでは、死者・行方不明者22万5000人という未曾有の犠牲を出した2004年12月のスマトラ島沖地震・インド洋津波の最大の被災地となったインドネシアのスマトラ島アチェ州の経験を振り返り、特に被災から2年目の時期に焦点をあてて、大規模な自然災害に見舞われた社会で人びとが個人として、そして社会として喪失の痛みをどのように向き合い、再生にどのように取り組んできたかを考えます。

●プログラム

講演者

西芳実（地域研）、山本博之（地域研）

共同研究ワークショップ

世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す

日時

2013年4月27日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

趣旨・目的

与条件の変化や現実に対応しながら、絶えず計画を練り直していく作業そのものを、建築分野ではエスキスと呼ぶ。そうだとすれば、地域の現場と学問の現場の往還を通して、地域像を練り上げていく地域研究者たちの姿勢は、まさしくエスキスである。本ワークショップでは、地域研究者たちの分析手法や思考の構築作業をエスキスという観点で捉え、そこから描き出される地域像を持ち寄る。それによって、より豊かで手応えのある地域の見方・あり方を議論し、導き出したい。

一般的には地域の来歴や現在の状態は、人々の語りや文書などを通して言葉として表現されてきたが、形態（カタチ）として記録されている情報も重要である。民具、建築、景観、植物、さらには表現された形態としてのしぐさ、体操、映画に描かれる情景など、枚挙に暇がない。それらは地域や社会の変化の中で様々なカタチとして生まれ、変化してきたが、見方を変えればそのカタチは、様々な地域や社会そのものを作り出す際の手立てでもあった。つまりそれは、今の私たちにとって、地域や社会の創造や再設計に関わる参照可能な経験と手法のリソースとしてもあるのだ。地域の状況を理解することは、そうした変化や創造の過程を読み解くことに他ならならず、その読み解きに長けた者たちが、地域研究者といえよう。

しかしながら、言葉の読み解きに比して、カタチの読み解きは、背景となるディシプリンや個々人の特殊能力に裏打ちされた技法の結果として、ブラックボックスのように見なされ、共通の議論の場にのぼることはほとんどなかった。そこに異分野間の架橋しがたい溝がありつづけてきたともいえよう。

本ワークショップでは、こうした形態を読み解く手法を地域研究者が持ち寄り、それぞれ具体的な事例を各自の手法で分析してみることで、異分野間を架橋する議論のプラットフォーム構築を目指す。その際、今ある世界を変化の結果として受動的に認識するのではなく、私たち自身もそこに介入する積極的な存在として捉え返してみたい。世界の変化にさらされながら、よりよい世界の創造に向けた終わりのなきエスキスを行うのは、他でもない、私たちであるからだ。

●プログラム

はじめに 林行夫（地域研）

趣旨説明 谷川竜一（地域研）

- ・柳澤雅之（地域研）「地域のコンパス：ベトナム紅河デルタの土地利用」
- ・谷川竜一（地域研）「43.75度の近代：韓国・景福宮前の建築交代を読む」
- ・山本博之（地域研）「ヤスミンの物語：マレーシア映画に表われる秩序と反抗」
- ・福田宏（地域研）「ビールと鉄棒：ナチス・ドイツのオリンピックとチェコのマスゲーム」
- ・村上勇介（地域研）「パチャママの涙と夢：ペルー社会の亀裂克服の試み」

コメント 川喜田敦子（中央大学）

石川初（（株）ランドスケープデザイン ランドスケープアーキテクト）

深田晃司（映画監督）

おわりに 原正一郎（地域研）

特別セミナー

二大政党制は定着するのか：2013年マレーシア総選挙の現地報告と分析

日時

2013年5月19日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

趣旨・目的

2013年5月5日に投開票が行われた第13回総選挙は、マレーシアの政治史において政権交代が現実味のあるシナリオと考えられた初めての選挙となった。与党連合は、国会（下院）の定数222のうち過半数の133議席を制して政権を維持した。ただし、与党連合と野党連合が政権を争って厳しく対立する半島部マレーシアでは、前回の選挙に引き続き、与野党の議席数が85対80でほぼ互角となった。

与党連合・国民戦線は、その前身を含め、1957年

のマラヤ連邦独立から今日まで一貫してマレーシアの政権を担ってきたが、国民戦線による統治を支えてきた「民族の政治」は前回の総選挙で大きく後退し、今回の総選挙ではその傾向がさらに進んだ。国民戦線内で少数派民族を代表する政党はほとんど名目上の存在となり、国内最大の少数派民族でありビジネス界の担い手でもある華人は中央政府における存在感をほとんど失うことになった。

これに対し、野党連合・人民同盟は、中央政権の奪取には手が届かなかったものの、構成政党のうち民主行動党（DAP）と人民公正党（PKR）はいずれも解散前と比べて議席数を増やし、ボルネオ二州にも勢力を拡大して全国的な支持基盤を築いた。これと対照的に、汎マレーシア・イスラム党（PAS）は全国的な支持の拡大に成功せず、解散前と比べて議席数を減らしている。

半島部で与野党の勢力が拮抗する状況で、歴史的にも文化的にも独自性が強く、半島部と異なる政治状況が見られるボルネオ二州は、国政の行方の鍵を握っている。今年3月に発生した「スルー王国軍」兵士の侵入事件は、ボルネオ二州だけでなく半島部にも影響を及ぼしている。

州議会選挙に目を向ければ、日系企業をはじめ外国企業の進出が目覚ましい半島部西海岸のスランゴール州やペナン州は、引き続き人民同盟が州政権を握る野党州となった。マレーシアの野党は、互いの路線の違いから連立が難しいと考えられてきたが、州政府ではあるが実績を評価され信任を得たことにより、野党連合としての実体を今後強めていくのか。

国民がマレー人、華人、インド人などの複数民族から構成され、民族別政党の連合によって政権を維持してきたマレーシアにおいて、政党連合どうしの「二大政党」制は定着するのか。

今回のマレーシアの総選挙は、フェイスブックなどを通じて各陣営がインターネット上で激しい批判合戦を繰り広げたことも大きな特徴となった。テレビや新聞などの主要メディアは政府寄りであるとして、都市部や若年層を中心に、もっぱらソーシャルネットワークを通じて情報を収集・交換する層が登場し、ときには政府・与党に対して公然と批判を行った。有権者の意識の変化の背景には、選挙制度改革運動である「ブルシ運動」をはじめとする近年のマレーシアにおける社会運動の影響がある。与党批判の動きはインターネット上に留まらず、華人をはじめとする多くの有権者が公然と政権交代を叫んで街頭に繰り出す姿も見ら

れた。この動きが政権交代に結びつかなかったことは、インターネット上の政治運動と現実社会の政治の断絶を意味するのか、それとも次の機会に向けた潜行を意味するのか。

選挙から日が浅いために情報は限られているが、それぞれの専門と関心に照らして今回の選挙結果とその意味を検討するとともに、この選挙を通じて見えてくるマレーシア社会の姿や変化の方向についても考えてみたい。

●プログラム

- 報告1「マレーシア史上もっとも注目された選挙：何が変わったのか？」(中村正志)
- 報告2「国家主導の『開発』と国民の『福祉』をめぐる政治から読み解く」(鈴木絢女)
- 報告3「なぜPASは『UMNOに取って代わる』ことができなかったのか？」(塩崎悠輝)
- 報告4「『スルー王国軍』侵入事件の総選挙への影響」(山本博之)
- 報告5「華人の政治意識の変化」(篠崎香織)
- 報告6「2013年総選挙と社会運動：ブルシはマレーシア社会の何を変えたのか」(伊賀司)

コメント 鳥居高／金子芳樹

国際シンポジウム

ラテンアメリカの新しい地域動態：経済統合と安全保障

日時

2013年5月31日

場所

上智大学中央図書館棟

主催

上智大学イベロアメリカ研究所

京都大学地域研究統合情報センター

趣旨・目的

この20年のあいだ、新自由主義への批判の高まりと並行し、アメリカ合衆国のラテンアメリカにおける覇権は顕著に低下した。アメリカ大陸において自由経済に基づく地域共同体を構築する方向性は、今世紀初めに力を失った。現在までのところ、新自由主義が優位である時代は過ぎ去り、ポスト新自由主義の段階にあるラテンアメリカの地域統合は、1990年代のように特定の方向に収斂する方向性を示してはおらず、複数の将来像が存在している。

本シンポジウムは、ポスト覇権段階にはいったラテンアメリカの地域主義を分析することを目的とする。経済統合をめぐる地域動態を、アジア太平洋地域にお

ける新動向をふまえて分析するとともに、安全保障の面でラテンアメリカが直面する課題について考察をくわえる。

●プログラム

開会の挨拶 幡谷則子(上智大学)

第1セッション：経済統合

司会 幡谷則子

- 桑山幹夫(法政大学)「アジア・太平洋における統合の新動向：日本とラテンアメリカへの含意」
- メルバ・ファルク・レイェス(地域研客員/グアダハラ大学)「メキシコのTPP参加：課題とチャンス」

コメント 谷洋之(上智大学)

第2セッション：政治動態と地域安全保障

司会 村上勇介(地域研)

- フレディ・リベラ・ベレス(FLACSOエクアドル校)「アンデス地域における発展、協力、安全保障」
- ホセ・ルイス・バイネ(チリ国防省分析官)「BacrimとMaras：ラテンアメリカにおける暴力と治安悪化の表象」

コメント イサミ・ロメロ=ホシノ(帯広畜産大学)

閉会の挨拶 村上勇介

国際ワークショップ

ジャウィ文献(アラビア文字表記のマレー語文献)の活用

日時

2013年6月27日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

●プログラム

- Dr. Mohd. Farid bin Mohd Shahrhan (International Islamic University Malaysia), Muhammad Syukri bin Rosli (Klasika Media - Akademi Jawi), "The Revitalization of Jawi in Malaysia: The Role of CIAS and KM-AJM"
- Muhammad Syukri bin Rosli, "Qalam and the Development of Bahasa Melayu: A Preliminary Analysis"
- Julien Bourdon-Miyamoto (CIAS) "An Ontology of the Worldview of Islam to Annotate Islamic Texts Digital Archives"

Discussant: Prof. Dr. HARA Shoichiro (CIAS)

国際セミナー

現代キューバの経済とナショナリズム

日時

2013年6月28日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

●プログラム

第1部 移行期のキューバ経済

- ・マウリシオ・デミランダ（ハベリアナ大学）「今日におけるキューバ経済の課題と必要な改革」
- ・バベル・ビダル（ハベリアナ大学）「チャベス亡き後のキューバ経済」

第2部 「キューバのナショナリズム」

- ・森口舞（中央大学）「ルサンチマンから見る二つのキューバ・ナショナリズムをめぐる比較考察」

ワークショップ

非文字資料研究の理論構築に向けての事例検討 I

日時

2013年6月30日

場所

北海道大学・人文社会科学総合教育研究棟

主催

地域研共同研究・共同利用プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」（代表：貴志俊彦）

地域研共同研究・共同利用プロジェクト「20世紀前半のサハリン島に関する歴史的記憶」（代表：兎内勇津流）

NIHU現代中国地域研究・東洋文庫拠点・図画像資料班

科研・基盤（A）「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」（代表：貴志俊彦）

●プログラム

趣旨説明および司会 貴志俊彦

- ・長谷川怜（学習院大学）「目で見る日本の大陸政策：戦前教育における満洲の教え方」
- ・高本康子（北海道大学）「大陸関連報道写真に見る『大東亜』の宗教」

コメントI 瀧下彩子（東洋文庫）

- ・竹内美帆（京都精華大学）「線から捉える『劇画』」
- ・田村容子（福井大学）「1950年代の連環画にみる女性像」
- ・兎内勇津流（北海道大学）「スラブ研究センターが所蔵する北樺太関係画像資料：どのように読み解くか」

コメントII 加部勇一郎（北海道大学）

総合討論司会 武田雅哉（北海道大学）

総合コメント 陳來幸（兵庫県立大学）

松本ますみ（敬和学園大学）他

合同ワークショップ

戦争とジェンダー表象

日時

2013年8月3～4日

場所

敬和学園大学尋真館および万代市民会館

主催

戦争とジェンダー表象研究会

科研・基盤（C）「大衆メディアに見る第二次世界大戦期と戦後秩序の中のジェンダー・エスニシティ」

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」（代表：貴志俊彦）

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」（代表：杉村使乃）

NIHU現代中国地域研究・東洋文庫拠点・図画像資料班

●プログラム

個別研究計画の紹介

- ・杉村使乃「第二次世界大戦下イギリスの雑誌におけるジェンダーと民族表象」
- ・松崎洋子「アメリカの女性誌と映画に見る第2次世界大戦下のアメリカ既婚女性のジェンダー・階級表象」
- ・平塚博子「第二次世界大戦下及び冷戦初期のアメリカの雑誌におけるジェンダーと民族表象」
- ・松本ますみ「近現代中国のエスニシティとジェンダー表象」
- ・桑原ヒサ子「女性雑誌『ナチ女性展望NS Frauen Warte』に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」
- ・加納実紀代「『写真週報』『日本婦人』など日本の戦時国策雑誌におけるジェンダーとエスニシティ」
- ・加納実紀代「占領期における原爆表象とジェンダー」
- ・神田より子「雑誌『青年』及び『アサヒグラフ』にみる第二次世界大戦期のジェンダー表象」
- ・池川玲子「映像にみる『戦い』と『平和』の女性像：満映プロバガンダから『甲子園のパンチラ』」

全体討論I 貴志俊彦「非文字資料をめぐる国際共同研究の試みとその課題」

全体討論II 金恵信「モガと遊女を語り、描くということ」

国際ワークショップ

境界を越えて撮られる日本と日本人：短編映画に見る3人のグローバル映像作家の世界

日時

2013年9月6日

場所

芝蘭会館山内ホール

主催

京都大学地域研究統合情報センター

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」(代表：篠崎香織)

マレーシア映画文化研究会

趣旨・目的

日本を拠点に映像制作活動を行っている3人のグローバル映像作家を迎えて、さまざまな「越境」の現場で生まれつつある新しい想像力や世界像の可能性を考えます。マレーシア、シンガポール、マケドニア出身の3監督が、国境を、民族を、時を超えてさすらいながら描く日本と日本人。その作品に触れ、そして監督自身の声をきいてください。

●プログラム**セッション1**

リム・カーワイ (Lim Kah Wai, 映画監督)

作品上映1『トライブ/Tribe』(2005年/23分)

作品上映2『Still Life in Mobile Town』(2008年/34分)

セッション2

エドモンド・ヨウ (Edmund Yeo, 映画監督)

作品上映1『金魚/Kingyo』(2009年/25分)

作品上映2『避けられる事/Exhalation』(2010年/21分)

作品上映3『冬の断片/Last Fragments of Winter』(2011年/24分)

セッション3

アンドリヤナ・ツヴェトコビッチ (Andrijana Cvetkovic, 地域研客員教員)

作品上映1『Time of the Wave』(2009年/25分)

作品上映2『紫と金/Purple and Gold』(2012年/15分)

作品上映3『Kyoto Mon Amour』(2012年/15分)

総合討論

司会 帯谷知可 (地域研)

国際シンポジウム

「シンガポール・ドリーム」は誰のもの？：グローバル・ハブシティが模索するアイデンティティ

日時

2013年9月17日

場所

キャナルシティ博多貸会議室

主催

マレーシア映画文化研究会

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」(代表：篠崎香織)

共催

日本マレーシア学会

東南アジア学会九州地区例会

科研費・基盤 (A)「広域アジアの市民社会構築とその国際政治的課題」(代表：竹中千春)

協力

アジアフォーカス・福岡国際映画祭

北九州市立大学

趣旨・目的

人材のみが唯一の資源として、国内の人材開発に力を入れつつ、国外からも広く人材を受け入れ、グローバル・ハブシティとして発展目覚ましいシンガポール。その成功と課題について、流動性を高めつつある日本を含めたアジアの国々が注目しています。

ミシェル・チョン監督作品のシンガポール映画『スター誕生』(Already Famous/一泡而紅, 2011年)は、それぞれに夢を抱いて世界中からやって来る人たちが交差するシンガポールならではのユーモアあふれたラブコメディです。

本シンポジウムでは、アジアフォーカス・福岡国際映画祭で来日中のポーリン・ユイ (Pauline Yu) 氏 (『スター誕生』プロデューサー) をお招きし、映画を通じて今日のシンガポールのアイデンティティに迫ります。

●プログラム**司会・趣旨説明**

篠崎香織 (北九州市立大学)

ゲストスピーカー

ポーリン・ユイ (『スター誕生』プロデューサー)

話題提供

田村慶子 (北九州市立大学)「シンガポールで働く外国人」

及川茜 (神田外国語大学)「ヨンピンからシンガポールへ」

カンボン・ガールの上京物語

閉会挨拶

深尾淳一 (映画専門大学院大学)

京都=アチェ「災害と社会」国際ワークショップ

災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム

日時

2013年9月18日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

インドネシア共和国シアクアラ大学津波防災研究セン

ター

共催

科研・基盤 (A) 「災害対応の地域研究の創出：『防災スマトラ・モデル』の構築とその実践的活用」(代表：山本博之)

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「『小さな災害』アプローチによる紛争・災害に強い社会づくり」(代表：西芳実)

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「建築を通じたポピュラー文化の記憶の場の構築力の解明」(代表：山中知恵)

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「災厄からの再生のための記録と記憶の〈場〉」(代表：寺田匡宏)

趣旨・目的

2004年スマトラ沖地震津波(インド洋津波)の最大の被災地となったアチェでは、死者・行方不明者17万3千人にのぼる被災とそこからの復興の経験を、どのように記録し、アチェ内外の人々の間で共有していくかという課題が取り組まれています。地域研は、現地の関係機関と協力して、被害と救援・復興の経年変化の様子を地図上で示すオンライン・デジタル・アーカイブ「アチェ津波モバイル博物館」をはじめ、地域情報を活用した地域再生の取り組みを行ってきました。また、学術交流協定にもとづき、これまでに京都とアチェで合計4回にわたり「災害と社会」国際ワークショップを行ってきました。

第一セッションでは、被災から9年目を迎えて物理的な復興が進み、「災害からの復興」が社会全体の共通の課題でなくなりつつあるという危機感のなかで、アチェ社会で記憶と記録という観点から災害後社会の中長期的な復興に取り組む活動を紹介しします。

アチェでは、未曾有の被災と復興の経験を人類史に記録すべき経験と捉え、次世代や世界の他地域の人々と共有するために様々な取り組みがなされてきました。2006年には国立シアクアラ大学に津波防災研究センターが設立され、インドネシア全国における災害対応研究の拠点となっています。2011年にはシアクアラ大学に大学院防災学研究専攻科が設立され、行政やNGOなど災害対応に深くかかわる関係諸機関の社会人学生を含む学生に防災の専門教育を行っています。

また、アチェでは復興の初期段階から州をあげて「津波ツーリズム」の振興に取り組んできました。2009年にはアチェ津波博物館が完成し、被災と復興の経験をインドネシア内外で共有するための博物館づくりが進められています。

アチェでは日本の阪神淡路大震災の経験がしばしば参照されてきました。被災から19年目を迎えようとしている阪神淡路大震災後の神戸では、被災後に生まれ育った世代が社会の担い手に成長しつつあります。第一セッションの後半では、世代を越えて記憶が継承される条件について、阪神淡路大震災後の神戸における実践例から検討します。

第二セッションでは、コミュニティの記憶や記録を共有する場としてのミュージアムの役割に注目しながら、グローバル化や情報化が進展する現代世界において記録・記憶を共有するうえでの課題について考えます。防災教育にとどまらず歴史教育やツーリズムといった多分野への活用をめざすドキュメンタリー映画制作の取り組みや、世代を繋ぐポピュラー文化の持つ機能に注目した取り組みを紹介します。

総合討論では、記録や記憶の共有を通じたコミュニティづくりが直面している課題について検討し、世代、地域、時代を越えてコミュニティを結び育てる場としてのミュージアムの役割と可能性について考えます。

●プログラム

開会挨拶 林行夫(地域研・センター長)

趣旨説明

- 西芳実(地域研)「地域研究と地域情報学を活用した災害に強い社会づくり：アチェ津波モバイル博物館がめざすもの」

第一セッション 地震・津波被災地における記憶と記録：アチェと神戸の取り組みから

- マフルザ・ムルダニ(シアクアラ大学津波防災研究センター研究員)「津波被災10周年を迎えるアチェの課題と挑戦：科学にもとづく津波スマイル構想」
- 寺田匡宏(総合地球環境学研究所)「記憶のネットワークにむけての試論」

第二セッション コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム

- アリフ・ラフマン(シアクアラ大学津波防災研究センター研究員)「ドキュメンタリー映画を通じた防災教育：アチェ津波博物館の新たな試み」
- 谷川竜一(地域研)「ミュージアムに託されたマンガと記憶」

総合討論

**合同ワークショップ
地域情報学と境界研究が会うとき：国境問題・宗教・環境**

日時

2013年9月29日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター
北海道大学スラブ研究センター

共催

北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」

趣旨・目的

このワークショップでは、京都大学地域研究統合情報センターが有する地域情報学、そして北海道大学スラブ研究センター（グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」）が有する境界研究という相互の持ち味を生かしつつ、人の移動や環境問題といった地域横断的な課題に取り組みたいと考えています。また、最近では、領土問題が注目される機会が増えて参りましたが、この企画では、第一に、境界研究の第一人者である岩下明裕氏（北海道大学スラブ研究センター、近著に『北方領土・竹島・尖閣、これが解決策』朝日新書）に講演をお願いし、領土問題の現状について語っていただく予定です。その後、越境的な諸課題についてより深く理解するために、巡礼と環境というキーワードを基にパネルを設定し、内外の研究者による議論を行いたいと考えております。

●プログラム**特別講演**

・岩下明裕（北海道大学スラブ研究センター）「境界研究の最前線：北方領土・尖閣・竹島」

第1パネル・巡礼

- ・長縄宣博（北海道大学スラブ研究センター）「メッカ巡礼とローカルな政治：タタルスタンとダゲスタンの事例から」
- ・佐々木直美（法政大学国際文化学部）「移民たちの巡礼：ペルー人を事例に」
- ・小島敬裕（地域研）「中国・ミャンマー国境地域における仏教徒の移動と地域社会」

司会 福田宏（地域研）

コメンテーター 赤尾光春（大阪大学大学院文学研究科）

第2パネル・環境

- ・平山陽洋（北海道大学スラブ研究センター）「ベトナムの市場経済化における森林管理制度」
- ・花松泰倫（北海道大学スラブ研究センター）「アムール川・オホーツク海の陸海統合管理の試み」
- ・星川圭介（地域研）「ベトナム・カンボジア：国境地域の水問題」

司会 柳澤雅之（地域研）

コメンテーター 甲山治（京都大学東南アジア研究所）

シンポジウム**「東北のマンガミュージアム」****日時**

2013年11月30日

場所

宮城県石巻市 石ノ森萬画館

主催

マンガミュージアム研究会
ポピュラー文化ミュージアム研究会
地域研共同利用・共同研究プロジェクト「建築を通じたポピュラー文化の記憶の場の構築力の解明」（代表：山中千恵）

仁愛大学

趣旨・目的

近年、マンガをテーマにした文化施設＝＜マンガミュージアム＞が全国各地に作られています。それぞれの地域におけるマンガミュージアムの役割とは何なののでしょうか。

本シンポジウムでは、東北を代表するマンガミュージアムの関係者から、各館の設立の経緯や現在の取り組みについて現場のお話を伺うことで、東北地方という場所性と地域の記憶をふまえたポピュラー文化ミュージアムのありように迫ります。

●プログラム

- ・木村仁（石ノ森萬画館（街づくりまんぼう））「石ノ森萬画館のとりくみ」
- ・熊谷義行（石ノ森章太郎ふるさと記念館）「石ノ森章太郎ふるさと館のとりくみ」
- ・大石卓（横手市まんが美術館）「増田まんが美術館のとりくみ」

討論者

- ・石田佐恵子（大阪市立大学）
- ・村田麻里子（関西大学）
- ・谷川竜一（地域研）
- ・イトウユウ（京都国際マンガミュージアム／京都精華大学国際マンガ研究センター）

司会

山中千恵（仁愛大学）

緊急研究集会**フィリピンの台風被害****日時**

2013年12月4日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

東南アジア学会
地域研究コンソーシアム
京都大学地域研究統合情報センター

共催

京都大学東南アジア研究所
 科研・基盤 (A) 「災害対応の地域研究の創出：『防災スマトラ・モデル』の構築とその実践的活用」(代表：山本博之)
 科研・基盤 (B) 「自然災害からの創造的な復興の支援を目指す統合的な民族誌的研究」(代表：清水展)
 地域研共同利用・共同研究プロジェクト『小さな災害』アプローチによる紛争・災害に強い社会づくり」(代表：西芳実)

趣旨・目的

2013年11月8日から9日、フィリピン中部を台風30号(フィリピン名ヨランダ)が襲いました。この台風による死者は4000人を越え、倒壊家屋は約65万棟、被災者は約1000万人に上ると伝えられています。

被害は広範囲におよび、その全体像がなかなか掴めない中で、貧困や物資の略奪といった側面に関心が集中してフィリピン社会に対するネガティブな見方が不当に強められているという声が聞かれる一方、この災害対応のあり方にフィリピン社会が抱える課題が集約されているという声も聞かれます。

地域研究を志す学徒として、あるいは隣人として、被災地域の人びとに何らかの救援をと思わざるをえません。ただし、被災直後の現場に身を置くことによってではなく、緊急対応から復興再建への移行を念頭に置いて、専門性を活かした関わり方として、研究集会を開催することにしました。研究会では、防災・人道支援の専門家による被災と救援の現場からの報告、支援や関心によって被災地の内と外をつなぐ試み、歴史や文化を踏まえた被災地や被災社会の捉え直しなどを通じて、今回の台風災害とそれへの対応に見られるフィリピン社会の特徴を明らかにし、地域社会に根ざした支援や復興の可能性を提案することを目指します。

●プログラム

趣旨説明 山本博之(地域研)

第1セッション

- ・奥村真知子(ピースウィンズ・ジャパン)「フィリピン台風災害緊急人道支援活動報告」
- ・渡辺正幸(東京大学生産技術研究所)「フィリピン台風災害：災害と復興の視点」

第2セッション

- ・青山和佳(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院)「フィリピンの台風被災を遠くから見る：備えるとは何か、届けるとは何か」
- ・細田高美(香川大学インターナショナルオフィス)「サマル島の政治社会状況：被災地支援の際に思うこと」
- ・石原バージ(フィリピン人移住者センター(FMC))「フィリピン台風災害への対応：在日フィリピン人コミュニティの視点から」

第3セッション

- ・荒哲(福島大学)「レイテ島の歴史から見た政治風土」
- ・宮脇聡史(大阪大学)「災害復興に向けてフィリピン社会を振り返る」

コメント

- ・寺田勇文(上智大学アジア文化研究所)
- ・清水展(京都大学東南アジア研究所)

総合討論

国際学会

PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013 人文科学とコンピュータの新たなパラダイム

日時

2013年12月9～14日

場所

京都大学百周年時計台記念館

主催

Pacific Neighborhood Consortium (PNC)
Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI)
情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (SIGCH)

京都大学地域研究統合情報センター

京都大学東南アジア研究所

共催

人間文化研究機構 (NIHU)

協賛

Asian Network for GIS-based Historical Studies (ANGIS)

趣旨・目的

資源の循環や人的交流のグローバル化、地球規模での環境変化や大規模災害など諸課題が多様化・複雑化している現代社会において、問題解決に対する「知」もまた、多様化・複雑化しています。こうした諸課題に対応し豊かな社会や環境、文化を育むためには、細分化された「知」は地域や人々の活動と結びついた「知識」として、再構築される必要があります。これに呼応し、情報学の分野においても、オントロジー、セマンティックWeb、LOD (Linked Open Data) といった

研究やデジタル化、データベース、時空間情報処理などの研究手法が活発に展開されています。その成果は、人文科学領域にも大きな影響を与え、歴史情報学や地域情報学などの新しい研究の潮流を生み出しつつあります。

本会議は人文学や情報学を中心としつつ、問題意識を共有するあらゆる分野の方々の学術研究や社会実践の発表と議論の場です。環境、健康、災害等の喫緊の社会的課題に対応するための知を、地域や地域の人々の活動と結びつけた「知」として再構築することを目指します。

プログラムについては<http://goo.gl/KGYLiu>参照

国際ワークショップ

ポストチャベス期のベネズエラ：マドゥロ政権の展望

日時

2013年12月13日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「ポストグローバル化期における国家社会関係」（代表：村上勇介）
 科研・基盤（A）「新自由主義改革後の国家社会関係：中南米における社会支出予算決定過程の比較研究」（代表：村上勇介）

●プログラム

Palabras inaugurales (Yusuke Murakami, CIAS)

- Thais Maingón (Centro de Estudios de Desarrollo, Universidad Central de Venezuela), "Tensiones de una democracia complicada: cambios en las relaciones de poder 1999-2012"
- Héctor Briceño (Centro de Estudios de Desarrollo, Universidad Central de Venezuela), "El chavismo en la encrucijada"
- Jorge Díaz Polanco (Centro de Estudios de Desarrollo, Universidad Central de Venezuela), "Las poéticas sociales: misiones y devociones"

Discusión

シンポジウム

混成アジア映画がつなぐ東アジア世界：『Fly Me to Minami～恋するミナミ』が照らす世界

日時

2013年12月13日

場所

大阪大学中之島センター

主催

マレーシア映画文化研究会

京都大学地域研究統合情報センター

共催

大阪大学グローバルコラボレーションセンター

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」（代表：篠崎香織）

地域研究コンソーシアム

趣旨・目的

グローバル化の進展に伴い、自己実現の手段として国境を越える人がますます増えています。共同体の境界線は緩やかになり、社会は混成化しつつあります。こうした混成性に積極的に目を向け、そこに新たな価値が創出される契機を見出そうとする「混成アジア映画」が、東南アジアや日本の映画人を中心に制作され、世界的な評価を得ています。

本シンポジウムでは、日本・大阪ミナミと韓国・ソウル、中国・香港とをつなぐ『Fly Me to Minami～恋するミナミ』を混成アジア映画と位置づけ、同作品の監督で東アジアと日本の関係を焦点に描くマレーシア出身のグローバル映像作家リム・カーワイ監督をお招きし、混成性を高めつつある東アジアの今日的な状況をとらえるとともに、同作品が混成性を通じて照らし出そうとする東アジア世界に迫ります。

●プログラム

ゲストスピーカー

- リム・カーワイ（『Fly Me to Minami～恋するミナミ』監督）
話題提供
- 西村正男（関西学院大学）「内なるアジア／外なるアジア：リム・カーワイ監督の無国籍映画から」
- 宮原暁（大阪大学）「『恋するミナミ』を読む地図：人の混成と心の混成」

ビジュアル・メディアとジェンダー

日時

2013年12月15日

場所

(財) 東洋文庫

主催

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」(代表: 貴志俊彦)

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「写真雑誌に見る第二次世界大戦期の記憶とジェンダー・エスニシティの表象分析」(代表: 杉村使乃)

NIHU現代中国地域研究・東洋文庫拠点・ジェンダー資料班&図画像資料班

共催

戦争とジェンダー表象研究会

科研・基盤 (A) 「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」(代表: 貴志俊彦)

科研・基盤 (C) 「歴史的視点による中国のジェンダー秩序に関する総合的研究」(代表: 小浜正子)

科研・基盤 (C) 「大衆メディアに見る第二次世界大戦期と戦後秩序の中のジェンダー・エスニシティ」(代表: 杉村使乃)

●プログラム

趣旨説明・司会

貴志俊彦 (地域研)

基調講演

加納実紀代 (元敬和学園大学) 「原爆表象とジェンダー」

第1部 「中国のビジュアル・メディアとジェンダー」

司会 江上幸子 (フェリス学院大学)

コメンテータ 松本ますみ (敬和学園大学)

・坂元ひろ子 (一橋大学) 「抗日戦争期の中国漫画におけるジェンダー表象」

・石田留美子 (中国現代美術研究者) 「中国現代アートにみるジェンダー表象」

第2部 「女性誌にみる戦争とジェンダー表象」

司会 杉村使乃 (敬和学園大学)

コメンテータ 小浜正子 (日本大学)

・神田より子 (敬和学園大学) 「第二次大戦下、『青年女子』の表象」

・桑原ヒサ子 (敬和学園大学) 「『ナチ女性展望』におけるジェンダー表象」

総合討論・司会 貴志俊彦

地域研究におけるデータの可視化と分析

日時

2014年1月17日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター地域情報学プロジェクト研究会

地域研共同研究・共同利用プロジェクト「CIAS所蔵資料の活用」(代表: 柳澤雅之)

趣旨・目的

ウェブ上でデータを可視化する技術は日進月歩である。データの複雑な可視化が可能となっただけでなく、多くの人々が利用できる汎用的ソフトを使った簡便な可視化が可能となった。地域研の地域情報学プロジェクトでは、ウェブデザインの第一人者である渡邊英徳氏(首都大学東京)と協力して、この可視化技術を応用した地域研究のためのデータ分析システムや、一般社会の人たちとデータを共有するための仕組みづくりを検討している。本研究では、これまでに地域研で構築したデータベースを題材に、地域研究のためのウェブデザインの応用について考える。

●プログラム

趣旨説明 柳澤雅之 (地域研)

基調講演 渡邊英徳 (首都大学東京システムデザイン研究科) 「データを紡いで社会をつなぐ」

・西芳実 (地域研)・荒木佑介 (首都大学東京システムデザイン研究科) 「インドネシア・アチェ大地震・津波被害からの復興: 記録と記憶の可視化」

・ジュリアン宮本ブルドン (地域研)・小島敬裕 (地域研)・原田真喜子 (首都大学東京システムデザイン研究科) 「僧侶の移動と地域社会: 東南アジア大陸部上座仏教徒の社会距離の可視化」

・柳澤雅之 (地域研)・山田太造 (東京大学史料編纂所)・高田百合奈 (首都大学東京システムデザイン研究科) 「フィールドノートの記録の可視化とテキスト分析」

コメント+総合討論

映像制作を通じた災害後社会の復興

日時

2014年1月27日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

趣旨・目的

今回のワークショップでは、映像を通じた復興の記録づくりに取り組んでいる若手の映像作家らを招き、被災から10年目を迎えようとしているアチェで映像制作にどのような期待が寄せられているか、また、そこでの課題について考えます。ゲストコメンテータには地域研究者を主人公にした映画「ほとりの朔子」を製作した深田晃司監督をお招きし、映像の持つ力の可能性についてお話を伺います。

●プログラム

趣旨説明 山本博之(地域研)

セッション1

- ・上映「海辺の先の物語」(Hikayat dari Ujung Pesisir, 21分、アチェ語・インドネシア語、英語字幕)

コメント 深田晃司(映画監督)

セッション2

- ・Nurjanah (Yayasan Kemaslahatan Ummat), "10th Years Eartquake: Tsunami Aceh: a Reflection Towards a Sparkling Aceh"
- ・参考上映「アチェ津波モバイル博物館」(3分、インドネシア語・英語、英語字幕)

コメント 亀山恵理子(奈良県立大学)

国際ワークショップ**ミツバチ・植生・人の暮らし：アジア・アフリカにおける持続的な昆虫利用****日時**

2014年2月1日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

地域研共同研究・共同利用プロジェクト「アフリカにおける地域植生と植物利用の持続可能性」(代表：山本佳奈)

●プログラム

Session 1: Honeybee and wasp management: Cases from Asia

- ・Nicolas Césard (ASAFAS, Kyoto University/ JSPS Fellow), "Bee Tending or Beekeeping? Harvesting the Giant honeybee in Indonesia"
- ・Charlotte LR Payne (Graduate School of Arts, Rikkyo University), "Celebrating the Wasp Harvest in Rural Japan"
- ・Comments by Hiromitsu Samejima (Center for Southeast Asian Studies, Kyoto University)

Session 2: Honey gathering in local context: Cases from Eastern Africa

- ・Yoshimasa Ito (CAAS, Kyoto University), "Honey

Gathering Activities and Their Local Significance: The case of a Mountain Forest Area in Southwestern Ethiopia"

- ・Haruna Yatsuka (National Museum of Ethnology/ JSPS Fellow), "Plant Use and Honey Collecting: A case Study among the Sandawe Honey Collectors in Rural Tanzania"
 - ・Comments by Kenichi Nonaka (Graduate School of Arts, Rikkyo University)
- General Discussion

国際ワークショップ：朝鮮史×建築・都市史**北朝鮮ハフムの歴史都市空間****日時**

2014年2月5日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

京都大学人文科学研究所共同研究班「日中戦争・アジア太平洋戦争期朝鮮社会の諸相」

mAAN Studies (アジア近現代建築・都市史研究会)

趣旨・目的

平壤に次ぐ北朝鮮第二の都市、それがハムフン(咸興)である。同都市は、1945年以前の日本植民地時代は、二つの都市・咸興と興南として知られていた。咸興は、朝鮮王朝時代より北東部の中心都市であり、興南は戦前の新興財閥・日窒によって1920年代に開発が始まった一大化学工業都市である。両都市は、第二次大戦を経て、日本人の収容・引き揚げ拠点都市となった後、朝鮮戦争において米軍に破壊された。しかし、東ドイツの援助のもとで復興し、現在は合体して北朝鮮を代表する都市の一つとなっている。

本ワークショップではこの都市地域を対象に、歴史・文化運動・建築・都市景観などを、朝鮮史・建築史専門の各研究者が、具体的な素材を持ち寄って議論する。蓄積の浅い北朝鮮都市・建築研究の前進に協働してつなげたい。

●プログラム

- ・水野直樹(京都大学)「咸興・興南に関する歴史研究」
- ・谷川竜一(地域研)「北朝鮮の近代建築と咸興・興南：2013年9月の訪朝報告を中心に」
- ・富田英夫(九州産業大学)「東独の建築家K.ピュシエルによる咸興戦災復興計画のための朝鮮の伝統的集落の調査」
- ・辻原万規彦(熊本県立大学)「朝鮮窒素肥料による興南の都市建設」
- ・板垣竜太(同志社大学)「咸興地域社会史の一端：ミッシェン関連史料を中心に」
- ・チャ・スンギ(韓国・聖公会大学)「工場=要塞、あるいは

は生産と死の場所：李北鳴と朝鮮窒素」

国際ワークショップ

Transition to Sustainable Forest Management and Forest Rehabilitation in Asian Countries

日時

2014年2月25～26日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

地域研共同研究・共同利用プロジェクト「地域環境とグローバルな持続可能性への挑戦」(代表:ウィル・デ・ヨン)

科研・基盤 (B)「地域社会はいかにして国際的な環境制度の成功に貢献できるのか」(代表:ウィル・デ・ヨン)

●プログラム

Opening: Wil de Jong

Session 1

- Jawaid Ashraf, "An econometric analysis of forest transition"
- Lingchao Li, "Trade, FDI and Forest Transition in Asia-Pacific Region"
- Liang Ming, "Diversification of pathways for Forest Transition in Asia-pacific Countries: based on Panel Data"

Session 2

- Misun Park, Yeo-Chang Youn, "Policy integration for forest restoration in South Korea"
- Wil de Jong, "Forest transition, forest restoration and sustainable forest management: Linkages, complementarities and overlaps"
- Junyeong Choi, Yeo-Chang Youn, "A Boolean algebraic analysis of factors explaining forest transition in Asian countries"
- Leni Camacho, "Transition to Sustainable Forest Management and Rehabilitation in the Philippines"

合同研究会

東アジアにおける近現代音楽文化の諸相

日時

2014年2月27日

場所

沖縄県立芸術大学附属研究所 (首里金城キャンパス)

主催

(財) 東洋文庫・超域アジア研究部門現代中国研究班・国際関係・文化グループ

地域研共同研究・共同利用プロジェクト「非文字資料の共有化と研究利用」(代表:貴志俊彦)

科研・基盤 (A)「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」(代表:貴志俊彦)

科研・挑戦的萌芽研究「戦前の沖縄本島・八重山諸島・台湾のラジオ音楽番組における洋楽受容と郷土意識の形成」(代表:三島わかな)

●プログラム

司会 三島わかな (沖縄県立芸術大学)

- 貴志俊彦 (地域研)「東アジア・ポピュラー音楽史の捉え方: 拙著『東アジア流行歌アワー:越境する音交錯する音楽人』をめぐって」
- 三島わかな (沖縄県立芸術大学)「近代沖縄・洋楽受容史の捉え方」: 拙著『近代沖縄の洋楽受容: 伝統・創作・アイデンティティ』をめぐって」
- 久万田晋 (沖縄県立芸術大学)「戦後沖縄の音楽芸能界の状況」

ワークショップ

地域研究スピリッツの継承：石井米雄を語る

日時

2014年3月8日

場所

京都大学稲盛財団記念館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

趣旨・目的

半世紀にわたってタイにはじまる東南アジア研究を推進された石井米雄先生 (1929-2010)。今回のワークショップと展示は、現地語と人を通してフィールドと向きあい、文献を渉猟し、多くの後進を育てられた多岐にわたる活動と、地域研に譲渡された「コレクション」をとおして、地域研究のありかた、地域研究者のスピリッツを浮き彫りにして継承しようとする試みです。

●プログラム

- 寺田勇文 (上智大学外国語学部)「上智大学の石井先生」
- 柴山守 (地域研)「データでみる石井米雄先生: <ひと>と<研究>」
- 伊東利勝 (愛知大学文学部)「千年王国運動と地域研究」
- 林行夫 (地域研)「『パイドロス』と地域研究」
- 特別展示企画「遺品の展示と写真でみる石井米雄先生」

高層化するアジアの想像力:「生きる」と「死ぬ」のほとりで

日時

2014年3月15日

場所

大阪歴史博物館

主催

京都大学地域研究統合情報センター

地域研共同利用・共同研究プロジェクト「映画に見る現代アジア社会の課題」(代表:篠崎香織)

マレーシア映画文化研究会

大阪歴史博物館

大阪映像文化振興事業実行委員会(大阪アジア映画祭)

趣旨・目的

高層化する社会では自分を殺すのも楽じゃあない。死ぬにも人の手を借りねばならない社会で、たまたま同じ場に居合わせたことを偶然にするのも必然にするのもあなた次第。経済発展著しいマレーシアの高層都市クアラルンプールを舞台に自殺願望を持つ青年を描いた映画『KIL』の世界に、あなたも一緒に飛び込んでみませんか。

このシンポジウムでは、マレーシアから2013年マレーシアの大ヒット映画『KIL』のニック・アミル監督、日本から『ほとりの朔子』でナント三大陸国際映画祭グランプリを受賞した深田晃司監督をゲストに招き、現代アジア社会の課題を映像制作と地域研究のそれぞれの現場から考えます。

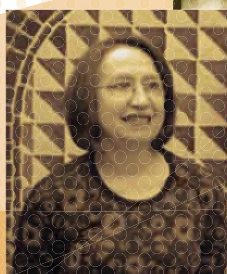
●プログラム

パネリスト

- ニック・アミル・ムスタファ (Nik Amir Mustapha) (マレーシア、OAFF2014コンペティション部門作品『KIL』監督)
- 深田晃司 (『歓待』(OAFF2011)、『ほとりの朔子』ほか監督)
- 山本博之 (地域研/マレーシア映画文化研究会)

III. 国際交流

- 1. 国外客員教員招へいプログラム
- 2. 学術交流協定
- 3. 国際ハブ形成



地域研究統合情報センター（地域研）は、地域研究の分野において国際的交流のセンターとしての役割を果たすため、国内のみならず、国際的な研究協力と交流を幅広くまた活発に実施している。近年では、地域研究に関する史資料の現地との共有化の要請が高まっており、この分野での交流や協力も期待されている。このような交流や協力を実現するためには、地域研の目的や関心を共有する世界各地の研究機関ならびに個々の研究者との間に地域研のスタッフが持つネットワークを制度化していくことが特に重要である。こう

した制度化の試みは、具体的には、学术交流協定の締結、国際共同研究の実施、成果公開のための国際研究集会の組織などによって進められている。並行して、国外客員教員招へいプログラム（CIAS International Visiting Scholars Program, CIAS IVSP）を定め、これによって国外客員教員の招へいが行われている。さらに、2009年度から、地域研究の国内外の結節点としての機能を強化する目的で国際ハブ形成の事業を始動した。

1 国外客員教員招へいプログラム

地域研究の分野での国際的研究交流の活性化を目的に、国外客員教員を招へいするための制度として、2008年度より国外客員招へいプログラムが開始された。このプログラムに従って、公募または推薦によって毎年1～2名程度の外国人研究者を選考し、3～6ヶ月の間、地域研に招いて研究を行う機会を提供している。

2013年度に招へいした国外客員教員は次の2名である。

- ・メルバ・ファルク（Melba Eugenia Maritza Falck Reyes de Ponce）
メキシコ・グアダハラハラ大学太平洋地域研究学部

研究テーマ：“Mexico and Japan: Trade Patterns, Production Networks and the Role of Japanese Foreign Direct Investment 2005-2011: A Comparison with Selected Asian Countries and Implications for Public Policy”

2013年4月1日～6月30日

- ・アンドリヤナ・ツヴェトコヴィッチ（Andrijana Cvetkovik）

マケドニア・ヨーロッパ演劇アカデミー

研究テーマ：“Postcolonial Identities in Asian Cinema: Asians in Japan, Japanese in Asia”

2013年7月1日～10月31日

2 学术交流協定

海外の研究機関との間で部局間の学术交流協定を締結することによって、共同研究の実施、国際研究集会の組織、研究者交流、史資料の共有化などの国際的学术交流活動を進めている。2014年3月末までに地域研の締結した協定は17件となった（締結機関の所在国・地域と件数は、インドネシア4、カンボジア2、タイ2、ペルー2、オランダ1、台湾1、ネパール1、フィンランド1、ブータン1、マレーシア1、ラオス1）。2013年度には、マレーシアのクラシカ・メディア（Klasika Media）およびペルーアマゾン研究（The Peruvian Institute of Amazon Research, El Instituto de Investigaciones de la Amazonía Peruana-IIAP）との協

定を締結した。今後も国際的な学術協力協定を拡充していく予定である。

クラシカ・メディアとの協力関係では、9月11日に、雑誌『カラム』の電子版出版発表ならびに同誌に関する公開セミナー「遺産から展望へ」をマレーシアのクアラランプールにて開催した。

また、シアクアラ大学津波防災研究センター（TDMRC）との学术交流協定の一環として、8月27～28日に、第4回京都＝アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「情報遺産を活用した災害後社会の創造的復興：津波モバイル博物館と科学的知見にもとづく津波との共生」をインドネシアのバンダアチェにて開催

した。さらに、9月18日に、第5回京都=アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム」を京都大学稲盛財団記念館において行った。

ペルー問題研究所との学術交流協定の成果として、1冊の研究書が刊行された。

• Yusuke Murakami, ed., *La actualidad política de los*

países andinos centrales en el gobierno de izquierda (Lima: Instituto de Estudios Peruanos, 2014), 186Pp.

他方、地域研が主催団体の一つとなり、12月9日から14日にわたり、Pacific Neighborhood Consortium-PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013が、New Paradigms on Humanities Computing: Linking Knowledge of Human Activitiesをメインテーマとして、京都大学百周年時計台記念館にて開催された。

3 国際ハブ形成

地域研は、その前身である国立民族学博物館地域研究企画交流センターが、ペルーで最も歴史のある人文社会系の研究機関であるペルー問題研究所 (Instituto de Estudios Peruanos) と学術交流協力協定を締結して実施してきた国際共同地域研究「現代ペルーの総合的地域研究」(通称ペルー・プロジェクト)を引き継ぎ、

ラテンアメリカ研究の国際ハブ形成を目指した「ペルー・プロジェクト」を2009年度まで実施してきた。2010年度からは、この事業を地域研究の国際ハブ形成と位置づけなおし、国際研究集会の組織を柱とする活動を開始している。

IV. 広報・出版

1. 出版
 - 1 CIAS 叢書《地域研究のフロンティア》
 - 2 CIAS 叢書サブシリーズ
 - 3 雑誌『地域研究』
 - 4 CIAS Discussion Paper Series
 - 5 JCAS Collaboration Series
 - 6 地域研究資料集
 - 7 スタッフの刊行物
2. 情報発信



1 出版

1 CIAS叢書《地域研究のフロンティア》

京都大学地域研究統合情報センター（地域研）では、2010年度から「地域研究のフロンティア（Frontiers of Area Studies）」というシリーズタイトルを冠した叢書の刊行をスタートした。本シリーズは、地域研の共同利用・共同研究拠点活動の一環として、国内外の優れた研究成果を募集し、学外有識者を含む編集委員会による審査、および査読を経て、京都大学学術出版会から商業出版として刊行するものである。とくに、地域間の比較や関係性に着目した研究、地域研究にかかわる情報の共有化や地域情報学など、新しい地域研究の開拓を視野にいれた意欲的な研究成果を刊行し、地域研究の「フロンティア」を模索する国際発信チャンネルとなることをめざしている。

地域研究のフロンティア3
国境と仏教実践：中国・ミャンマー境域における上座仏教徒社会の民族誌
小島敬裕著
京都大学学術出版会
菊上製338頁・税込4,968円
ISBN: 9784876983858
2014年2月



地域研究のフロンティア4
少数民族教育と学校選択：ベトナム-「民族」資源化のポリティクス
伊藤未帆著
京都大学学術出版会
菊上製400頁・税込5,184円
ISBN: 9784876983872
2014年2月



2 CIAS叢書サブシリーズ

地域研では、2013年度よりサブシリーズを発刊し、その第一弾として「災害対応の地域研究」（全5巻）の刊行を開始した。

災害は、平常時から切り離された特別な時間・空間ではなく、その社会が平常時に抱える潜在的な課題が極端な形であらわれている状態である。したがって、災害からの復興とは、被災前の状態に戻すことではなく、被災を契機に明らかになった社会の課題に働きかけ、よりよい社会をつくることである。そのような創造的復興を可能にするためには、災害による被害を物理的に抑え込みさえすればよいと考えるのではなく、災害が発生したときに社会が柔軟に対応するという社会の強靱性を高めることが大切となる。また、被災社会が被災前にどのような状況にあり、どのような課題を抱えていたかを知る必要がある。「災害対応の地域研究」の意義はここに存在する。

自然災害が起こると国境を越えて人道支援を行うことが一般的となった今日、災害対応の現場では地域の事情に根差した防災や復興が求められており、地域研究の知見はますます重要となっている。「災害対応の地域研究」シリーズでは、災害対応の現場での防災・人道支援の実務者との連携や、近年進展が著しい情報技術の利用などにより、異業種・異分野の専門家に開かれた「地域の知」をめざしている。

災害対応の地域研究1
復興の文化空間学：ビッグデータと人道支援の時代
山本博之著
A5並製281頁・定価3,400円（税別）
ISBN: 9784876984916
2014年3月



災害対応の地域研究2
災害復興で内戦を乗り越える：
スマトラ沖地震・津波とアチェ紛争
西芳実著
A5並製305頁・定価3,400円（税別）
ISBN: 9784876984923
2014年3月



3 雑誌『地域研究』

地域研では、地域研究コンソーシアム（JCAS）におかれた編集委員会が編集する『地域研究』を年2回刊行している。『地域研究』は、地域研究の視点から世界の課題を考える特集と、査読付き論文によって構成されている。なお、特集企画と論文は公募している。

14巻1号
〔総特集〕 グローバル・スタディーズ
〔第I部〕 グローバル・イシューと地域研究
〔第II部〕 東南アジアをめぐるグローバル・イシューと地域研究
A5判272頁・定価2,400円（税別）
ISBN: 9784812214084
2014年3月



14巻2号
〔特集1〕 紅い戦争の記憶：旧ソ連・中国・ベトナムを比較する
〔第I部〕 刻まれる記憶：紅い戦争のプロパガンダ
〔第II部〕 紡がれる物語：社会主義と戦争のもうひとつの記憶
〔特集2〕 「三つの祖国」に生きる越境者
〔第3回地域研究コンソーシアム賞〕 受賞者発表・講評
A5判278頁・定価2,400円（税別）
ISBN: 9784812214091
2014年3月



4 CIAS Discussion Paper Series

地域研の教員や研究員などの研究成果や共同研究の成果を、迅速に公開することを目的として刊行するシリーズである。論文のみならず、調査報告、資料、文献解題、ワークショップやシンポジウムの記録など多彩な研究成果を、執筆者（编者）の地域研究統合情報センター教員の責任のもとに随時公開している。

No. 38
世界のエスキス：地域のカタチを読み解き、地域像を描き出す
谷川竜一編著
A4判58頁
2014年3月



No. 39
下からの共生を問う：複相化する地域への視座
王柳蘭編著
A4判120頁
2014年3月



No. 40

『カラム』の時代V：近代マレー・ムスリムの日常生活
坪井 祐司・山本 博之 編著
A4判42頁
2014年3月



No. 41

The Role of Japanese Foreign Direct Investment in Production Networks in Mexico and Thailand: The Transport Equipment Sector
Melba Falck Reyes
A4判22頁
2014年3月



No. 42

宗教実践を可視化する：大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動
林行夫・柴山守・Julien Bourdon・Miyamoto・長谷川清・小島敬裕・小林知・高橋美和・笹川秀夫・土佐桂子・須羽新二著
A4判150頁
2014年3月



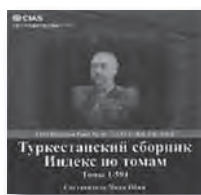
No. 43

Lịch Sử Hình Thành Cư Dân Đô Thị Hà Nội：ハノイ都市形成史
桜井由躬雄・Nguyen Thi Phuong Anh・柳澤雅之編著
A4判98頁
2014年3月



No. 44

「トルキスタン集成」が拓く世界III
帯谷知可編
巻別インデクスCD版
2014年3月



IV
1 広報・出版
2

5 JCAS Collaboration Series

地域研では、地域研究コンソーシアムと共同し、活動成果を2010年度より『JCAS Collaboration Series』として刊行している。

No. 8
日中関係の質的変容を導理解するか：他地域の視点から捉え直す
塩谷昌史・高橋五郎・貴志俊彦編
発行
地域研究コンソーシアム
京都大学地域研究統合情報センター
愛知大学国際中国学研究センター
愛知大学国際問題研究所
A4判76頁
2014年3月



6 地域研究資料集

地域研究を推進するにあたり、資料の記録・保全・共有は大変重要な課題でもある。地域研では、そのために『地域研究資料集』と題して様々な資料を収集・再編しながら刊行している。

QALAM No. 72-77
1956.07～1956.12
山本博之監修
A4判542頁
2013年4月



【資料集】 TRANSLITERASIJAWI-RUMI/ Majalah Qalam

TRANSLITERASIJAWI-
RUMI/ Majalah Qalam
KEMERDEKAAN &
PERJUANGANNYA
BILANGAN 86, SEPTEMBER 1957,
113p.
発行者
KLASIKA MEDIA-AKADEMI JAWI MALAYSIA
京都大学地域研究統合情報センター



TRANSLITERASIJAWI-
RUMI/ Majalah Qalam
BAHASA MELAYU & CABARAN
AGAMA
BILANGAN 87, OKTOBER 1957,
113p.
発行者
KLASIKA MEDIA-AKADEMI JAWI MALAYSIA
京都大学地域研究統合情報センター



TRANSLITERASIJAWI-
RUMI/ Majalah Qalam
PENDIDIKAN BANGSA MELAYU
BILANGAN 88, NOVEMBER 1957,
105p.
発行者
KLASIKA MEDIA-AKADEMI
JAWI MALAYSIA
京都大学地域研究統合情報センター



TRANSLITERASIJAWI-
RUMI/ Majalah Qalam
KONGRES KEBUDAYAAN
MELAYU
BILANGAN 89, DISEMBER 1957,
105p.
発行者
KLASIKA MEDIA-AKADEMI JAWI MALAYSIA
京都大学地域研究統合情報センター



TRANSLITERASIJAWI-
RUMI/ Majalah Qalam
MEMILIH PEMIMPIN DAN
KETUA
BILANGAN 90, JANUARI 1958,
113p.
発行者
KLASIKA MEDIA-AKADEMI JAWI MALAYSIA
京都大学地域研究統合情報センター



【資料集】 QALAM Klasika Media



**DARI WARISAN KE WAWASAN:
FROM TRADITION TO VISION**

By Qalam
Klasika Media, 80p.
Language: English
ISBN: 9789670627496
価格MYR 20.00

**MELAWAT INDONESIA
MERDEKA**

By Edrus
Klasika Media, 36p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627472
価格MYR 10.00

NADRAH

By Ahmad Lutfi
Klasika Media, 47p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627502
価格MYR 20.00

**PERJUANGAN KEBANGSAAN
DI MALAYA**

By Dr Burhanuddin Al-Helmy
Klasika Media, 20p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627489
価格MYR 8.00

**ABU DHAR AL-GHIFARI
KALAU IMAN SUDAH
MENDALAM**

By Abdullah Basmeh
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627113
価格MYR 4.00

**AL-AZHAR - KIBLAT
PENGAJARAN DUNYA ISLAM**

By M. S. Muhammad
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627106
価格MYR 1.50

**AWAS FIKIRAN YANG
MENYESATKAN**

By Qalam
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627021
価格MYR 2.00

AYD-AL-ADHA

By Qalam
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627038
価格MYR 2.00

**BERIMANLAH KAMU KEPADA
ALLAH**

By Abdul Jalil Has
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627069
価格MYR 2.00

**BIDASAN KEPADA FAHAM
TAK BERTUHAN -
MENYEKUTUKAN TUHAN**

By Qalam
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627076
価格MYR 2.00

**BIDASAN KEPADA FAHAM
TAK BERTUHAN - SEMPADAN
EBEBASAN BERFIKIR**

By Qalam
Klasika Media, 15p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627014
価格MYR 6.00

BULAN SAFAR

By Qalam
Klasika Media, 7p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627236
価格MYR 1.50

**DARI SEGI ILMU JIWA - AGAMA
DAN KESANNYA DI DALAM
JIWA MANUSIA**

By Abdullah Basmeh
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627007
価格MYR 2.50

GURINDAM SHURGA

By M. Asraf
Klasika Media, 6p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627199
価格MYR 1.00

**HAQQ DAN KEBEBASAN
PEREMPUAN - PEREMPUAN
SESUDAH BALIGH**

By Qalam
Klasika Media, 11p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627519
價格MYR 3.00

**HAQQ DAN KEBEBASAN
PEREMPUAN - SITI SARAH
MENUNJUKKAN TELADAN
DAN IKUTAN-IKUTAN**

By Ummu Muhsin
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627403
價格MYR 3.00

**HARI RAYA- ORANG-ORANG
ARAB DI DALAM JAHILIYYAH
DAN ISLAM**

By Mahar Affandi
Klasika Media, 11p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627083
價格MYR 5.00

**IBNU KHALDUN - AHLI
SEJARAH ISLAM YANG
KEBILANGAN**

By Qalam
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627397
價格MYR 2.50

INILAH MAKKAH

By Qalam
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627090
價格MYR 2.50

**KEJADIAN-KEJADIAN DI
DALAM DUNYA INI ADAKAH
KEKAL SELAMA-LAMANYA**

By Renung Shahba
Klasika Media, 7p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627175
價格MYR 1.00

**KEJADIAN-KEJADIAN YANG
DAHSHAT DI DALAM PERANG
DUNIA KEDUA**

By Qalam
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627144
價格MYR 6.00

**KORBAN CEMBURU ATAU FIR
MUHAMMAD-ZAHRAH
KHATUN**

By Ibn Batutah
Klasika Media, 13p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627182
價格MYR 3.50

**PENGETAHUAN UMUM-
UNIVERSITI ISLAM INDONESIA**

By Qalam
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627137
價格MYR 5.00

**KE MANA KITA HENDAK
DIBAWA**

By Ahmad Lutfi
Klasika Media, 7p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627052
價格MYR 2.00

**RIWAYAT YANG BERSEJARAH
- PEREMPUAN DIRASUK IBLIS**

By Abdullah Basmeh
Klasika Media, 16p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627373
價格MYR 5.00

**RUANGAN SEJARAH-
RINGKASAN SEJARAH
PERJUANGAN INDONESIA**

By Qalam
Klasika Media, 11p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627120
價格MYR 6.00

TUHANKU

By Ramlimah
Klasika Media, 6p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627229
價格MYR 1.00

**WASIAT YANG BERTERHARGA-
KHUTBAH WIDA**

By Qalam
Klasika Media, 6p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627045
價格MYR 1.50

**MAWLANA MALIK IBRAHIM
- PENYEBARAN ISLAM YANG
BERJASA DI KEPULAUAN
MELAYU**

By Tuan Haji Tamar Jaya
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627458
價格MYR 2.50

**SAYYID SHAYKH AL-HADI
- PUJANGGA DAN PELOPOR
KESEDARAN POLITIK**

By Abdullah Basmeh
Klasika Media, 12p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627465
価格MYR 2.50

**BAHASA MELAYU - ANCAMAN
TERHADAP BAHASA MELAYU**

By Qalam
Klasika Media, 9p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627250
価格MYR 6.00

**BAHASA MELAYU -
KEDUDUKAN BAHASA
MELAYU**

By Mushfa
Klasika Media, 9p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627267
価格MYR 4.00

**BAHASA MELAYU -
PERKEMBANGAN NAHU
BAHASA MELAYU**

By Mushfa
Klasika Media, 9p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627274
価格MYR 4.00

**HAL EHWAL TANAH AIR -
BANGSA MELAYU MARILAH
BERSATU**

By Edrus
Klasika Media, 9p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627281
価格MYR 4.00

**BAHASA MELAYU - LANGGAM
BAHASA ARAB DALAM
BAHASA MELAYU**

By Mushfa
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627298
価格MYR 3.00

**KEPADA SAHABAT-
SAHABATKU DI
SEMENANJUNG**

By Hamka
Klasika Media, 12p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627380
価格MYR 3.00

**MENTERI-MENTERI NEGARA
PERSATUAN INDONESIA**

By Qalam
Klasika Media, 12p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627342
価格MYR 3.00

**CERITA PENDEK - KHAYALKU
ATAU BERHARI RAYA DI
RANTAU ORANG**

By Ahmad Zulfi
Klasika Media, 13p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627168
価格MYR 3.00

**CERITA PENDEK - MANA SI
AWANG**

By Zulma
Klasika Media, 11p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627205
価格MYR 3.00

KASIH

By Siti Rafiah Hamdi
Klasika Media, 6p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627212
価格MYR 1.00

APA YANG TUAN SUSAHKAN

By Qalam
Klasika Media, 6p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627243
価格MYR 1.00

**RIWAYAT HIDUP ULAMA
ISLAM YANG KEBILANGAN
HAJI ABDUL MANAN
KELANTAN, TUAN GURU
YANG BERJASA**

By S. Othman
Klasika Media, 9p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627410
価格MYR 2.00

**JENERAL DOUGLAS
MCARTHUR**

By Qalam
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627359
価格MYR 1.50

**HAL EHWAL TANAH AIR -
ADAKAH MELAYU NEGERI
ANTARA BANGSA-BANGSA**

By Abham
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627427
価格MYR 2.50

**KOREA DAN RIWAYAT
SEKELILINGNYA**

By Qalam
Klasika Media, 9p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627304
價格MYR 6.00

**MASYUMI PERTUBUHAN
SIYASAH YANG KUAT DI
INDONESIA**

By Qalam
Klasika Media, 11p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627335
價格MYR 5.00

**MENGAMBIL PELUANG
DENGAN KEADAAN MALAYA
YANG BERCAMPUR QAWM**

By Abham
Klasika Media, 10p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627427
價格MYR 2.50

**NEHRU DIAJAK BERBUKU
LIMA**

By Qalam
Klasika Media, 5p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627311
價格MYR 1.00

PERTUBUHAN SIYASAH ISLAM

By Qalam
Klasika Media, 7p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627328
價格MYR 3.00

**ROHANA KUDUS - SRIKANDI
ISLAM YANG PERTAMA DI
INDONESIA**

By Abadi Jakarta
Klasika Media, 13p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627441
價格MYR 4.00

YAKOV MALIK

By Qalam
Klasika Media, 8p.
Language: Malay
ISBN: 9789670627366
價格MYR 1.00

7 スタッフの刊行物

地域研の教員や研究員などによる刊行物。センターの研究対象地域の拡がりに比例した広範なエリア、トピックを扱っている。専門書から一般書まで幅広い読者に向けて、研究成果を発信し、研究の社会還元を目指している。

東アジア流行歌アワー：越境する音 交錯する音楽人（岩波現代全書15）
貴志俊彦著
岩波書店
四六判並製288頁・定価2,300円（税別）
ISBN: 9784000291156
2013年10月



大陸部東南アジア上座仏教徒における実践の時空間マッピング
Mapping Practices among Theravadins of Southeast Asia in Time and Space
チュラロンコーン大学社会調査研究所発行
185頁・非売品
2014年1月



La actualidad política de los países andinos centrales en el gobierno de izquierda
Yusuke Murakami (ed.)
Instituto de Estudios Peruanos, Lima
186頁
2014年2月



マンガミュージアムへ行こう（岩波ジュニア新書）
伊藤遊・谷川竜一・村田麻里子・山中千恵著
岩波書店
新書256頁・定価860円（税別）
ISBN: 9784005007691
2014年3月



中国占領地の社会調査Ⅱ（政治・経済編）第28巻～第36巻（都市インフラ調査①～⑨）
貴志俊彦監修
近現代資料刊行会
A5判上製・全5,700頁・定価170,000円（税別）
ISBN: 9784863641655
2014年2月

2 情報発信

地域研究統合情報センター（地域研）は、ウェブサイト（<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/>）やニューズレター等を通じて、同センターが主催・共催するシンポジウムや各種研究会等の活動、また図書ならびに映像資料等の所蔵、データベース公開に関する情報提供を行っている。地域研の各種出版物については、デジタル・アーカイブ化により、ウェブサイト上で公開を行っている。

また、新聞・雑誌に掲載されたり、テレビ・ラジオ等に出演したりした地域研の教員や研究員等の記事（カッコ内に名前を記載）は以下のとおり。

2013年4月3日

「書籍QR→画像資料」『朝日新聞』（柳澤）。

2013年4月5日

「フィールドワークの成果:研究資料200点ネット公開」『産経新聞』（柳澤）。

2013年4月29日

「痛みと再生の諸相：インド洋津波から2年を迎えたスマトラの経験を振り返る」『読売新聞』（西・山本）。

2013年6月13日

“Yamamoto Pencinta Sastera Melayu,” *Kosmo*（マレーシア）（山本）

2013年6月13日

「知の蓄積 社会に還元：収集保存から一般利用促進へ」『京都新聞』（柳澤）

2013年6月25日

“En Japon ni siquiera informaron sobre el rechazo de indulto a Fujimori,” *La Prensa*（ペルー）（村上）

2013年8月28日

“CIAS Buatkan Museum Digital Tsunami Aceh,” *Serambi*（インドネシア）（西）

2013年8月28日

“Hibuna dan Prodi S2 Kebencanaan Unsyiha Gelar International Conference,” *Lintas Gayo*（インドネシア）（西）

2013年8月28日

“Hibeuna dan Prodi S2 Kebencanaan Unsyiah Laksanakan International Conference dan Workshop Aceh Tsunami Mobile Museum,” *Aceh National Post*（インドネシア）（西）



CIASホームページ（<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/>）



地域研究統合情報センター ニューズレター

2013年8月29日
 “Hebat, CIAS Ciptakan Museum Digital Tsunami Aceh,”
Serambi (インドネシア) (西)

2013年8月29日
 “Hibeuna gelar Workshop Aceh Tsunami Mobile
 Museum,” *Atjeh Post* (インドネシア) (西)

2013年8月29日
 “BNPB Rayu 12 Universitas bangun Pusat Riset
 Bencana,” *Riau Pos* (インドネシア) (西)

2013年8月30日
 “Hiebuna Gelar Workshop Kebencanaan,” *Waspada* (イ
 ンドネシア) (西)

2013年9月19日
 「東南アジア歴史回廊：10～18世紀 交流の痕跡 GIS解
 析」『京都新聞』(柴山)

2013年9月19日
 「タイーミャンマー『歴史街道』確認」『朝日新聞』(柴
 山)

2013年9月26日
 「アチェ津波の体験を継承」『朝日新聞』(西)

2013年9月26日
 「京大が2千キロ解析：東南アジアに歴史街道」『毎日
 新聞』(柴山)

2013年9月27日
 「災害の経験復興に生かそう」『朝日新聞』(西)

2013年9月28日
 「国境問題テーマ ワークショップ」『毎日新聞』(福田)

2013年10月1日
 “Tirak ramai sedar kewujudan Qalam,” *Selasa* (マレーシ
 ア) (山本)

2013年10月13日
 「タイ、ミャンマー『歴史街道』：総延長は2000キロ
 京大グループ新たに『発見』」『中日新聞』(柴山)

2013年11月26日
 “Pendigitalan Naskhah Lama,” *Kosmo!* (山本)

2013年12月5日
 「漫画関連施設連携シンポジウム：取組課題を検討」『石
 巻かほく新聞』(谷川)

2013年12月5日
 「比台風深刻被害を報告」『読売新聞』(山本)

2013年12月8日
 細川周平「東アジア流行歌アワー：半世紀にわたる歌
 の往来」『日本経済新聞』

2013年12月20日
 塚原立志「謎に包まれていた華語歌謡の世界が明らか

に」『ミュージック・マガジン』2014年1月号 (貴志)

2013年12月27日
 「スマトラ沖大地震 津波被害と復興 デジタル地図
 で」『毎日新聞』(山本・西)

2014年1月3日
 諏訪淳一郎「東アジア流行歌アワー：野心的な組み合
 わせ」『週刊読書人』(貴志)

2014年1月7日
 「スマトラ沖地震 津波画像を保存」『日本経済新聞』
 (山本)

2014年1月9日
 “The Faces of Those Affected by the 2004 Indian Ocean
 Tsunami,” *Gloval Voices* (西)

2014年1月14日
 “El Perú necesita consenso partidario y planes de largo
 plazo para su desarrollo,” *El Peruano* (村上)



2013年度の記録

- 2013年 4月 1日 Melba Eugenia Martza Falck Reyes de Ponce客員教授の着任（～6月30日）
- 2013年 4月27日 共同研究ワークショップ開催
- 2013年 4月28日 共同利用・共同研究報告会開催
- 2013年 7月 1日 Andrijana Cvetkovik客員准教授の着任（～10月31日）
- 2013年 7月 8日 第1回運営委員会
- 2012年 7月21日 ワークショップ「南アジア教育の市場化・グローバル化:国際比較の視点から」開催（～22日）
- 2013年 7月22日 第1回協議員会
- 2013年 8月 3日 合同ワークショップ「戦争とジェンダー表象」開催（～4日）
- 2013年 9月11日 公開セミナー「遺産から展望へ」および電子版『カラム』出版発表（マレーシア）
- 2013年 9月18日 京都＝アチェ「災害と社会」国際ワークショップ「災害後社会の復興における記憶と記録：コミュニティを結び育てる場としてのミュージアム」
- 2013年 9月30日 合同ワークショップ「地域情報学と境界研究が出会うとき：国境問題・宗教・環境」開催
- 2013年10月26日 研究会「ポスト・グローバル化期の教育：高等教育の再編と教育の新しい役割」開催
- 2013年11月 9日 地域研究コンソーシアム 2013年度年次集会・シンポジウム開催（～10日）
- 2013年11月30日 シンポジウム「東北のマンガミュージアム：地域におけるポピュラー文化の役割」開催
- 2013年12月 2日 第2回運営委員会
- 2013年12月 4日 フィリピンの台風被害に関する緊急研究集会開催
- 2013年12月 9日 PNC Annual Conference and Joint Meetings 2013——人文科学とコンピュータの新たなパラダイム（～14日）
- 2013年12月13日 国際ワークショップ「ポストチャベス期のベネズエラ：マドゥロ政権の展望」開催
- 2013年12月16日 第2回協議員会
- 2014年 1月27日 京都＝アチェ国際ワークショップ「映像製作を通じた災害後社会の復興」開催
- 2014年 2月 1日 国際ワークショップ「ミツバチ・植生・人の暮らし：アジア・アフリカにおける持続的な昆虫利用」開催
- 2014年 2月 5日 朝鮮史×建築・都市史に関する国際ワークショップ「北朝鮮ハムフンの歴史都市空間」開催
- 2014年 2月17日 第3回運営委員会
- 2014年 2月25日 国際ワークショップ「Transition to Sustainable Forest Management and Forest Rehabilitation in Asian Countries」開催（～26日）
- 2014年 3月 8日 ワークショップ「地域研究スピリッツの継承：石井米雄を語る」開催
- 2014年 3月15日 シンポジウム「高層化するアジアの想像力：『生きる』と『死ぬ』のほとりで」（大阪アジア映画祭との共催）開催
- 2014年 3月17日 第3回協議員会
- 2014年 3月31日 星川圭介助教離任

京都大学
地域研究統合情報センター年報2014(第8号)

発行日 2014年9月30日
発行者 京都大学地域研究統合情報センター
〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46
TEL : 075-753-7302 (代表)
Fax : 075-753-9602
<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/>
印刷 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通藪屋町東入
TEL : 075-343-0006
Fax : 075-341-4476



Center for Integrated Area Studies, Kyoto University

京都大学地域研究統合情報センター年報2014(第8号)

発行日 2014年9月30日

発行者 京都大学地域研究統合情報センター

〒606-8501

京都市左京区吉田下阿達町 46

TEL:075-753-7302(代表)

Fax:075-753-9602

<http://www.cias.kyoto-u.ac.jp/>



Annual Report 2014

Center for Integrated Area Studies,
Kyoto University